

下野市  
だれもが輝く社会づくりに関する  
アンケート調査結果報告書

令和2年3月

下野市

## 目次

1	調査の概要.....	1
	（1）調査の目的.....	1
	（2）調査項目.....	1
	（3）調査設計.....	1
	（4）回収結果.....	1
	（5）報告書の見方.....	2
2	調査結果.....	3
	（1）あなたご自身やご家族のことについておたずねします.....	3
	（2）仕事についておたずねします.....	12
	（3）生活全般についておたずねします.....	70
	（4）地域・社会参加についておたずねします.....	89
	（5）老後・定年後についておたずねします.....	114
	（6）健康についておたずねします.....	120
	（7）結婚・出産・教育についておたずねします.....	124
	（8）男女の人権についておたずねします.....	135
	（9）男性も女性も共に輝く社会の形成についておたずねします.....	165
3	自由回答.....	216

# 1 調査の概要

---

## (1) 調査の目的

現行プランの計画期間が令和2年度で終了することから、社会情勢に対応した、男女が共に支え合い、個性と能力を十分に発揮して輝きながら心豊かに暮らすことができる地域づくりを目指した新たな第二次プランを令和2年度中に策定します。

そのため、現行プランの見直しと今後の施策に市民意識を反映させることを目的として、本調査を実施しました。

## (2) 調査項目

- ①回答者ご自身やご家族のことについて
- ②仕事について
- ③生活全般について
- ④地域・社会参加について
- ⑤老後・定年後について
- ⑥健康について
- ⑦結婚・出産・教育について
- ⑧男女の人権について
- ⑨男性も女性も輝く社会の形成について

## (3) 調査設計

- ①調査地域：下野市全域
- ②調査対象：下野市に居住している18歳以上の市民
- ③標本数：2,000人（男女各1,000人）
- ④抽出法：年齢、性別、地区を考慮し、住民基本台帳から対象者を無作為に抽出
- ⑤調査期間：令和元年9月20日～10月10日
- ⑥調査方法：調査票による本人記入方式  
郵送配布・郵送回収による郵送調査方法

## (4) 回収結果

発送数	有効回収数	有効回収率
2,000	610	30.5%

## (5) 報告書の見方

### ●集計について

本報告書内では、設問ごとに全体の集計結果を記載しています。

### ●「n」について

グラフ及び表の「n」とは、number of case の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。したがって、各選択肢の%に「n」を乗じることで、その選択肢の回答者が計算できます。

### ●「%」について

グラフ及び表の「%」は、小数点第2位以下で四捨五入しているため、単数回答（1つだけに○をつけるもの）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。また、複数回答（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

### ●「無回答」について

図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

### ●選択肢の記載について

グラフ及び表中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載しています。しかし、長い文は簡略化している場合があります。

### ●比較分析について

比較分析において使用した調査名は次のとおりです。

- ・下野市平成23年度実施「下野市男女共同参画プラン市民意識調査」
- ・下野市平成26年度実施「下野市男女共同参画プラン市民意識調査」
- ・栃木県平成26年度実施「男女共同参画社会に関する意識調査」
- ・内閣府平成26年度実施「女性の活躍推進に関する世論調査」
- ・内閣府令和元年度実施「男女共同参画社会に関する世論調査」

■有効回収数 ※全体のカッコ内の%は回収率、男性・女性のカッコ内の%は全体に対する構成比を表しています。

区分	下野市 平成23年度 実施	下野市 平成26年度 実施	栃木県 平成26年度 実施	内閣府 平成26年度 実施	内閣府 令和元年度 実施
全体	710(35.5%)	666(33.3%)	1,081(54.1%)	3,037(60.7%)	2,645(52.9%)
男性	304(42.8%)	298(44.7%)	458(42.4%)	1,345(44.3%)	1,238(45.9%)
女性	393(55.4%)	361(54.2%)	596(55.1%)	1,692(55.7%)	1,407(54.1%)

※下野市平成23年度実施の全体には、性別不詳の13件を含む。

※下野市平成26年度実施の全体には、性別不詳の7件を含む。

※栃木県平成26年度実施の全体には、性別不詳の27件を含む。

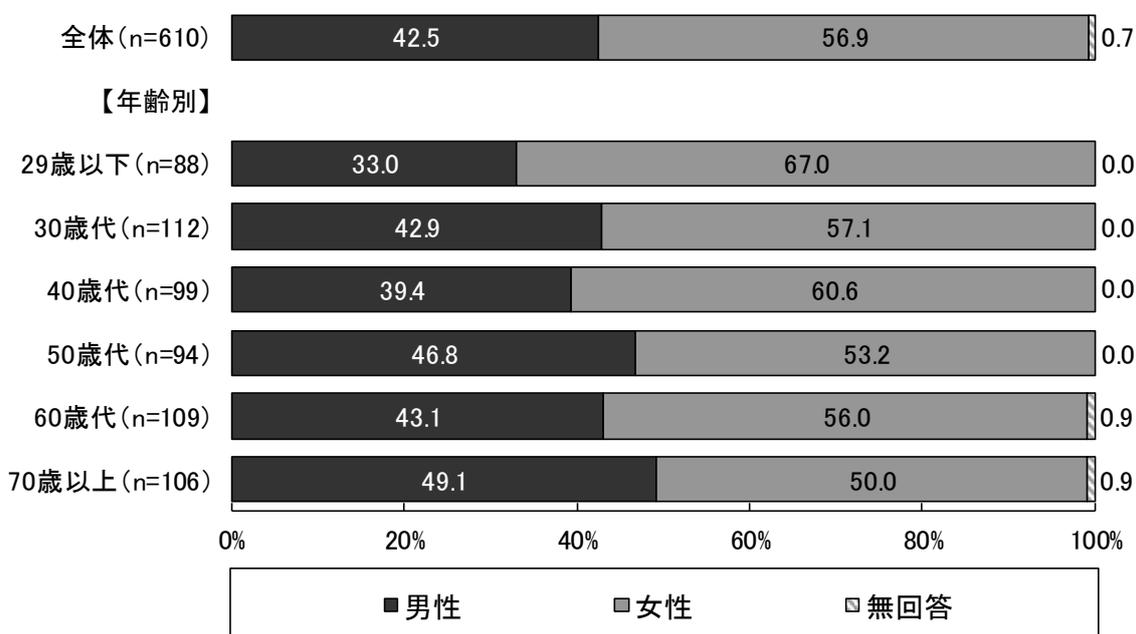
## 2 調査結果

### (1) あなたご自身やご家族のことについておたずねします

問1 あなたの自認する性別をお答えください。(当てはまる選択肢がない場合、より近い選択肢をお選びいただくか、次の設問にお進みください。)(○は1つ)

回答者の性別については、「男性」が42.5%、「女性」が56.9%と、「女性」が「男性」を14.4ポイント上回っています。

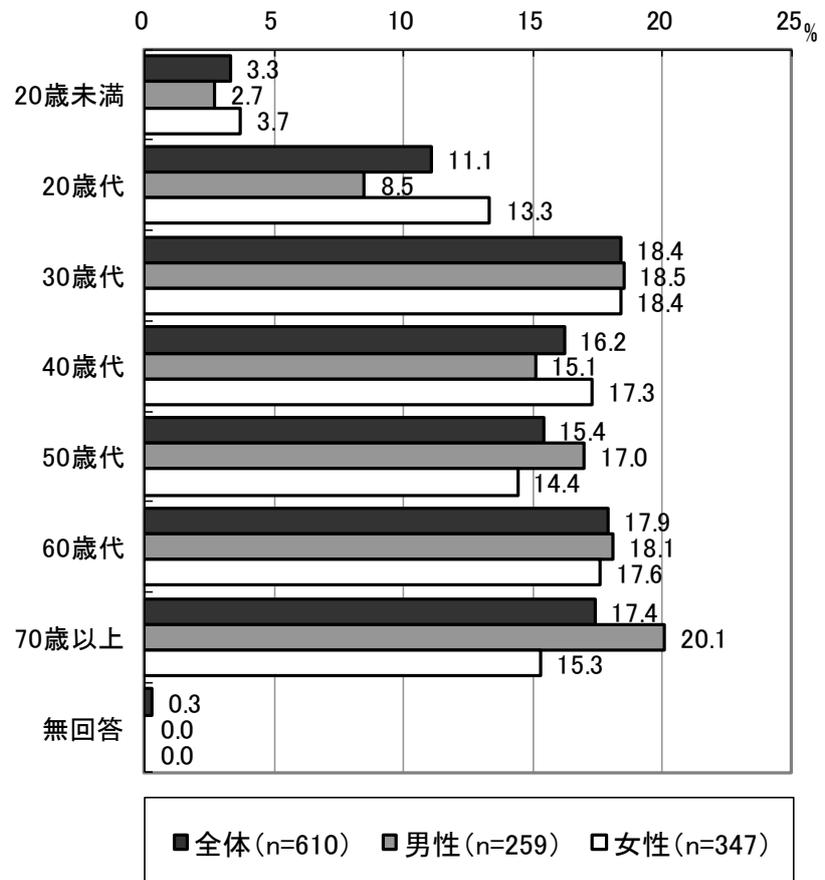
年齢別にみると、29歳以下で「男性」が33.0%と、他の年代に比べて割合がやや低くなっています。



問2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

回答者の年齢については、「30歳代」が18.4%と最も多くなっています。

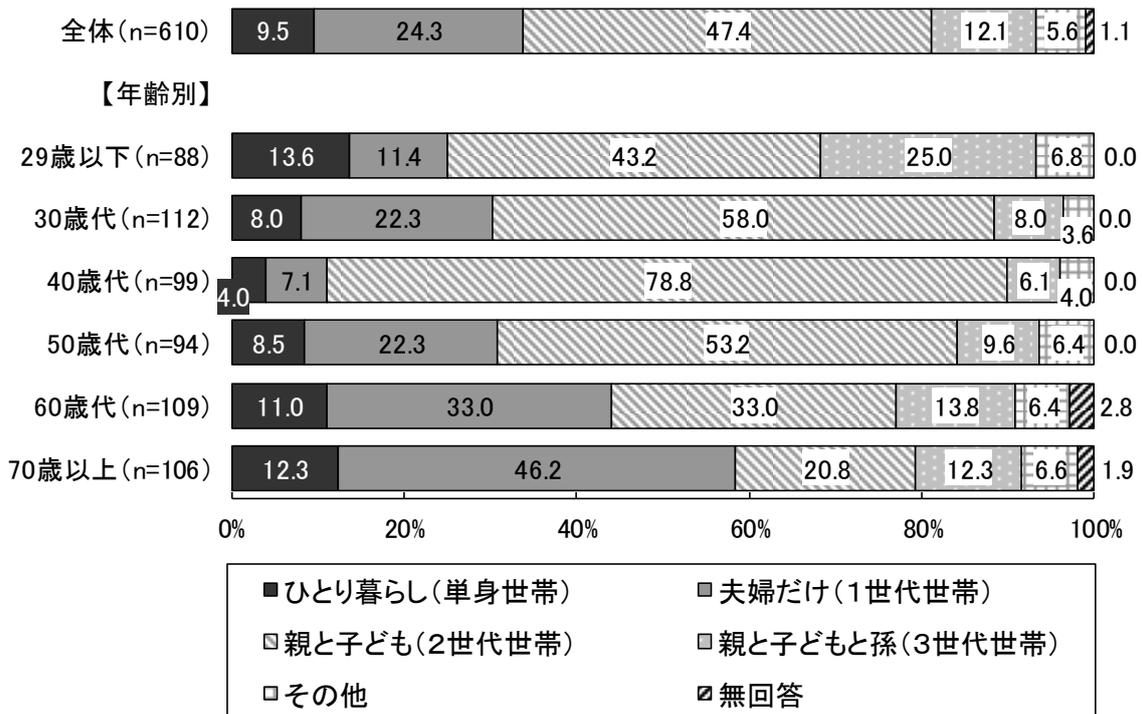
性別にみると、男性では「70歳以上」が20.1%、女性では「30歳代」が18.4%と、最も多くなっています。



問3 あなたの家族構成についてお答えください。(〇は1つ)

回答者の家族構成については、「親と子ども(2世代世帯)」が47.4%と最も多く、次いで「夫婦だけ(1世代世帯)」が24.3%、「親と子どもと孫(3世代世帯)」が12.1%となっています。

年齢別にみると、50歳代以下で「親と子ども(2世代世帯)」が、60歳代で「夫婦だけ(1世代世帯)」、「親と子ども(2世代世帯)」が、70歳以上では「夫婦だけ(1世代世帯)」が最も多くなっています。

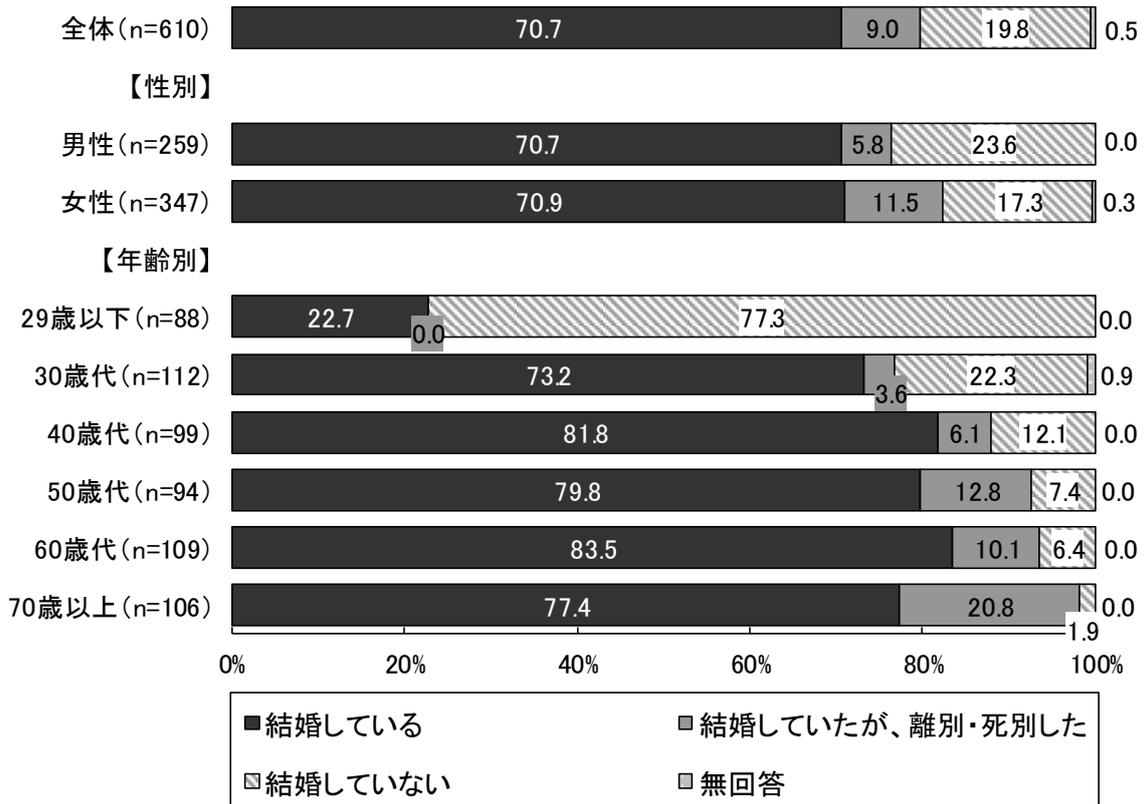


#### 問4 あなたは結婚していますか。(〇は1つ)

回答者の婚姻状況については、「結婚している」が70.7%と最も多く、次いで「結婚していない」が19.8%となっています。

性別にみると、男性で「結婚していない」が23.6%と、女性に比べて6.3ポイント、また女性で「結婚していたが、離婚・死別した」が11.5%と、男性に比べて5.7ポイント高くなっています。

年齢別にみると、29歳以下で「結婚している」が22.7%と、他の年代に比べて割合が低くなっています。



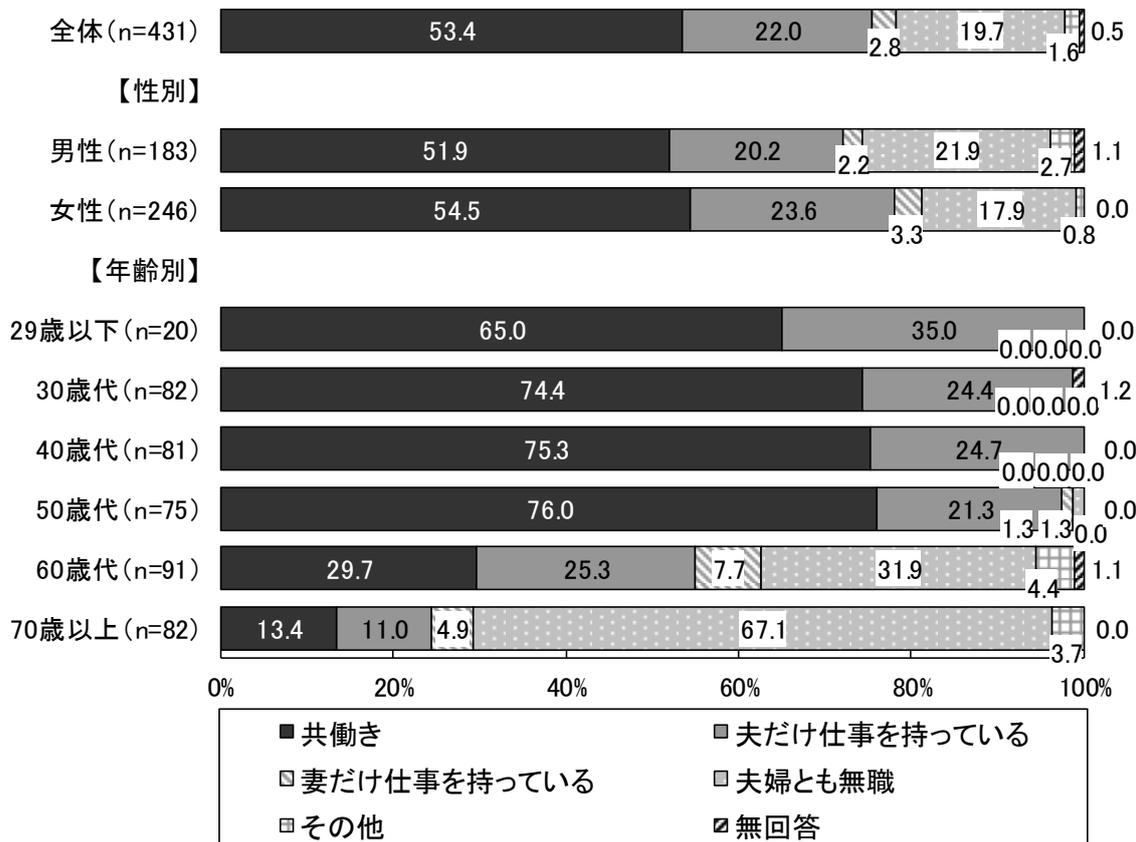
【問4で「1 結婚している」を選択した方】

問4-1 あなたの世帯は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

回答者の世帯の状況については、「共働き」が53.4%と最も多く、次いで「夫だけ仕事を持っている」が22.0%、「夫婦とも無職」が19.7%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

年齢別にみると、60歳代以上で「夫婦とも無職」が最も多くなっています。

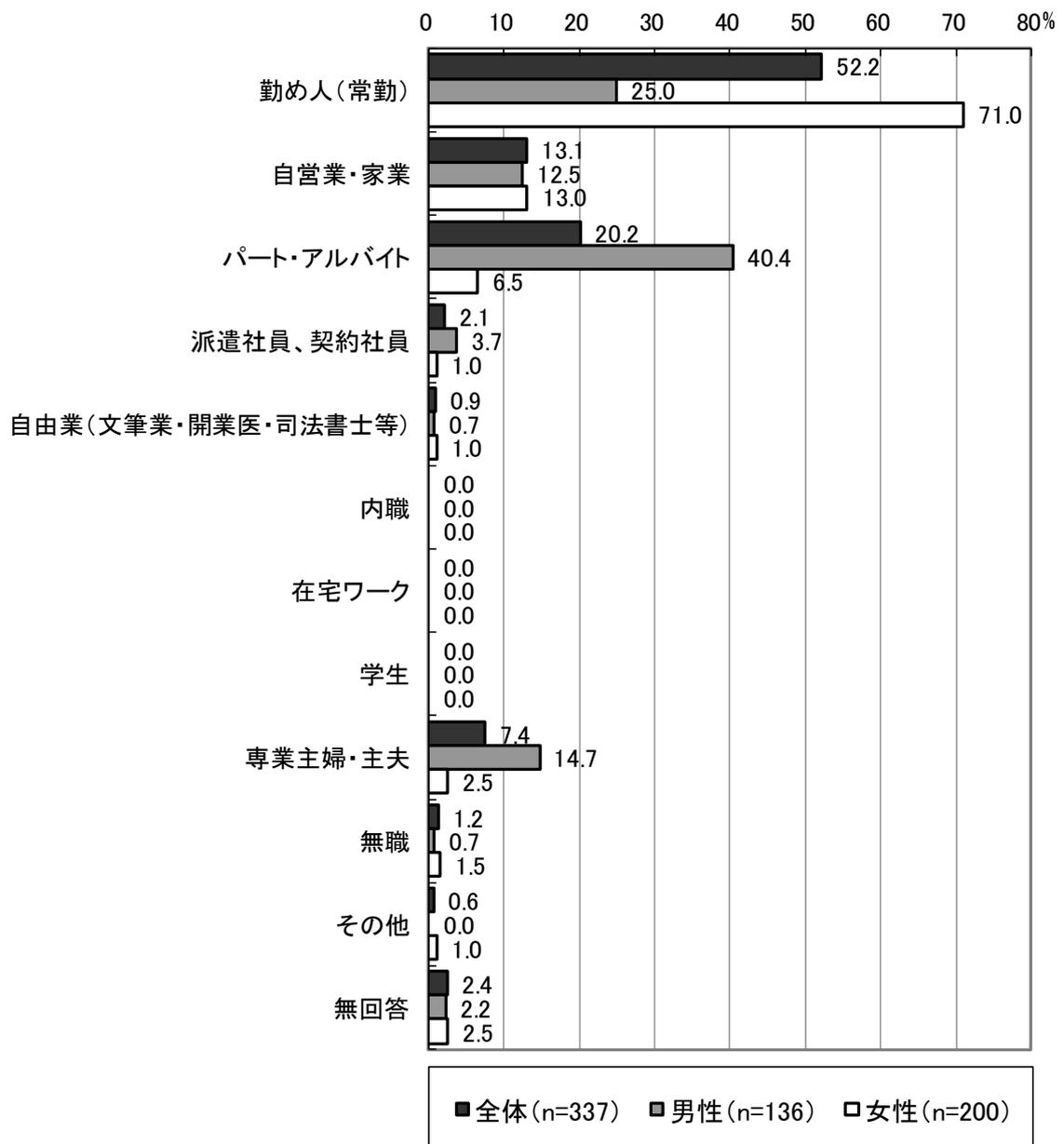


【問4-1で「1 共働き」「2 夫だけ仕事を持っている」「3 妻だけ仕事を持っている」を選択した方】

問4-2 配偶者の職業は何ですか。(〇は1つ)

回答者の配偶者の職業については、「勤め人(常勤)」が52.2%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」が20.2%、「自営業・家業」が13.1%となっています。

性別にみると、男性では「パート・アルバイト」が40.4%と最も多く、次いで「勤め人(常勤)」が25.0%となっています。女性では「勤め人(常勤)」が71.0%と最も多く、次いで「自営業・家業」が13.0%となっています。



## 性・年齢別比較

年齢別に見ると、男性では29歳以下で「パート・アルバイト」「専業主婦・主夫」が、男性の40歳代で「勤め人（常勤）」が、男性の70歳以上で「自営業・家業」が、それ以外の年代では「パート・アルバイト」が最も多くなっています。また、女性では70歳以上で「自営業・家業」が、それ以外の年代では「勤め人（常勤）」が最も多くなっています。

(%)	合計	勤め人 (常勤)	自営業・ 家業	パート・ アルバイト	派遣社員、 契約社員	自由業（文筆業・ 開業医・ 司法書士等）	内職	在宅ワ ーク	学生	専業主婦・ 主夫	無職	その他	無回 答
【年齢別・男性】													
29歳以下	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	29	31.0	0.0	48.3	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	0.0	0.0	3.4
40歳代	31	38.7	12.9	25.8	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	16.1	0.0	0.0	3.2
50歳代	36	22.2	13.9	41.7	2.8	2.8	0.0	0.0	0.0	13.9	0.0	0.0	2.8
60歳代	27	11.1	14.8	51.9	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.8	3.7	0.0	0.0
70歳以上	11	18.2	36.4	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
【年齢別・女性】													
29歳以下	18	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	52	84.6	7.7	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0
40歳代	50	78.0	14.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.0
50歳代	38	73.7	13.2	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	2.6	0.0	0.0
60歳代	30	36.7	16.7	16.7	6.7	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	3.3	10.0
70歳以上	12	16.7	41.7	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3

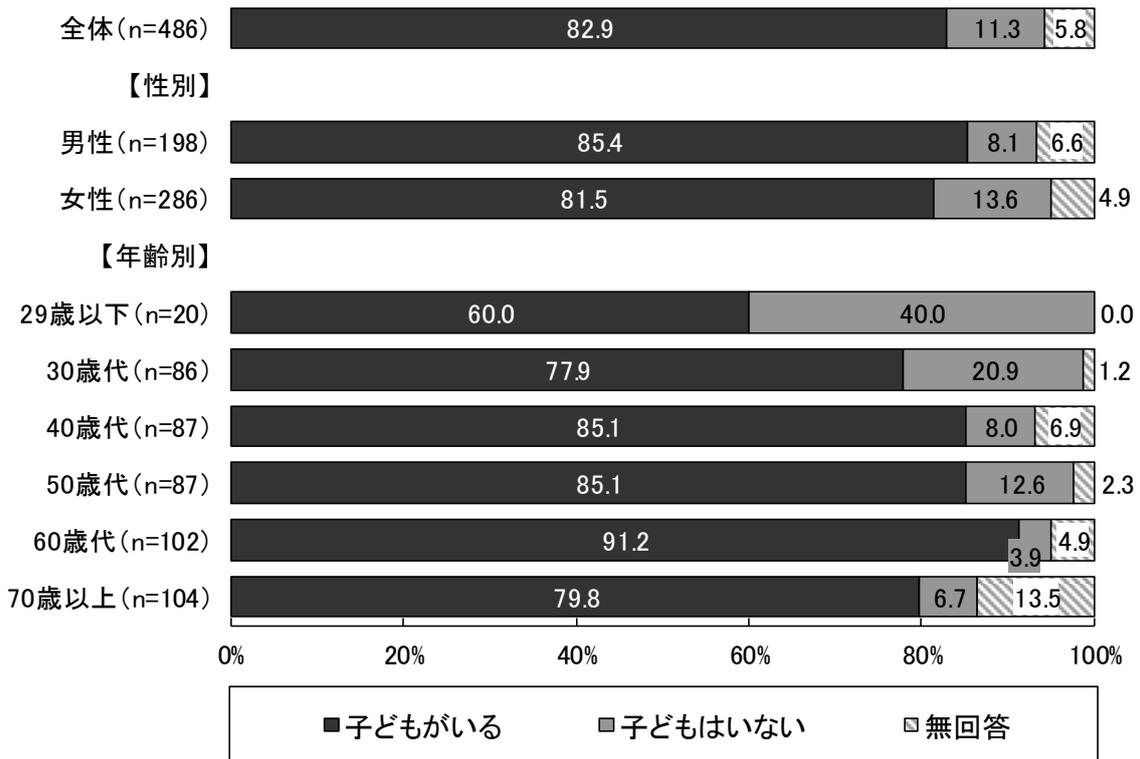
**【問4で「1 結婚している」または「2 結婚していたが、離別・死別した」を選択した方】**

問5 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。現在同居されていない方も含めてお答えください。(〇は1つ)

回答者の子どもの有無については、「子どもがいる」が82.9%、「子どもはいない」が11.3%と、「子どもがいる」が「子どもはいない」を71.6ポイント上回っています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

年齢別にみると、29歳以下で「子どもはいない」が40.0%と、他の年代に比べて割合が高くなっています。

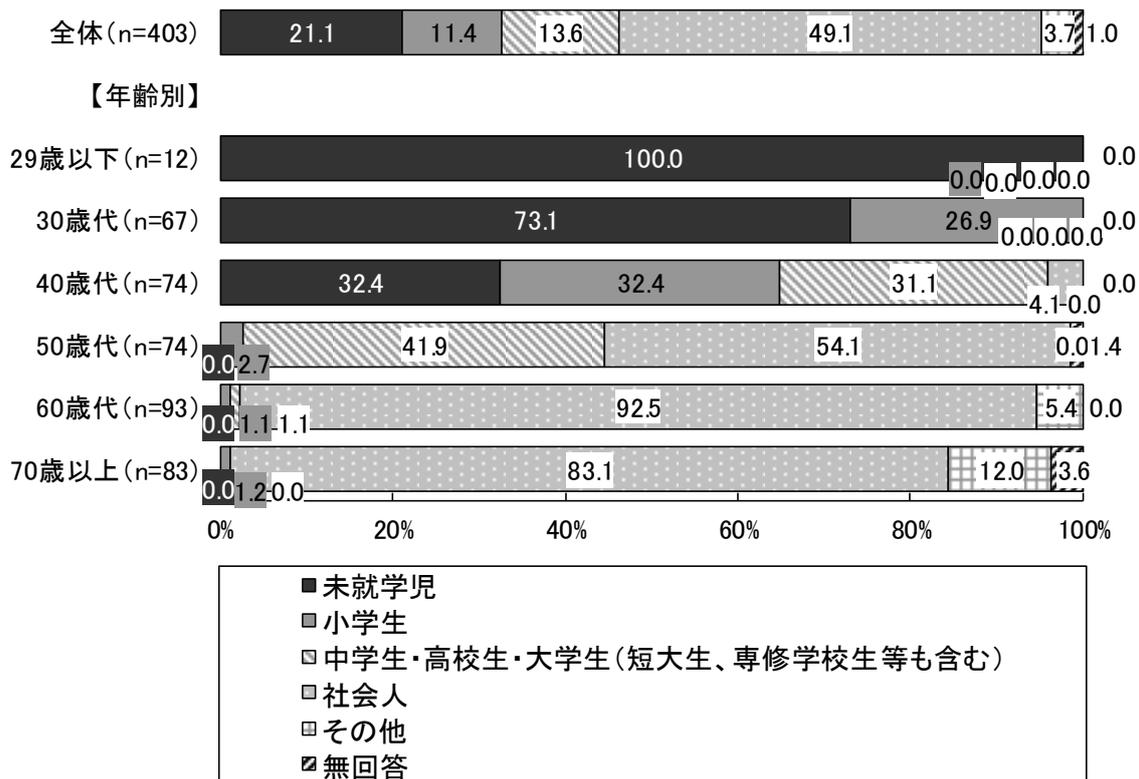


【問5で「1 子どもがいる」を選択した方】

問5-1 一番下のお子さんは次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

一番下のお子さんの所属については、「社会人」が49.1%と最も多く、次いで「未就学児」が21.1%、「中学生・高校生・大学生（短大生、専修学校生等も含む）」が13.6%となっています。

年齢別にみると、40歳代以下で「未就学児」が3割前半を、30・40歳代の「小学生」が2割台半ばを超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。



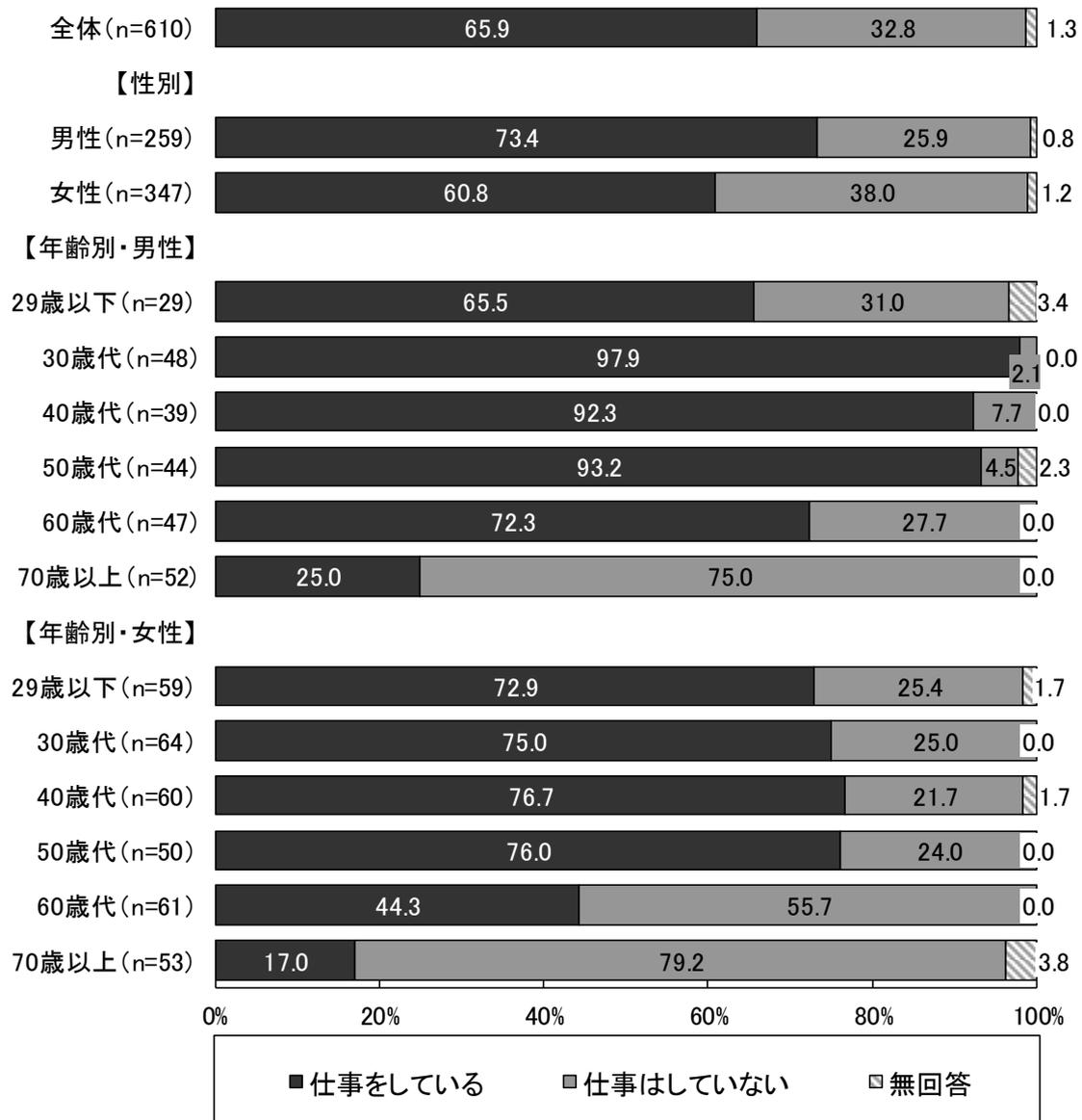
## (2) 仕事についておたずねします

問6 あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか。(○は1つ)

収入を得る仕事をしているかについては、「仕事をしている」が65.9%、「仕事はしていない」が32.8%と「仕事をしている」が「仕事はしていない」を33.1ポイント上回っています。

性別にみると、男性では「仕事をしている」が73.4%と、女性に比べて12.6ポイント高くなっています。

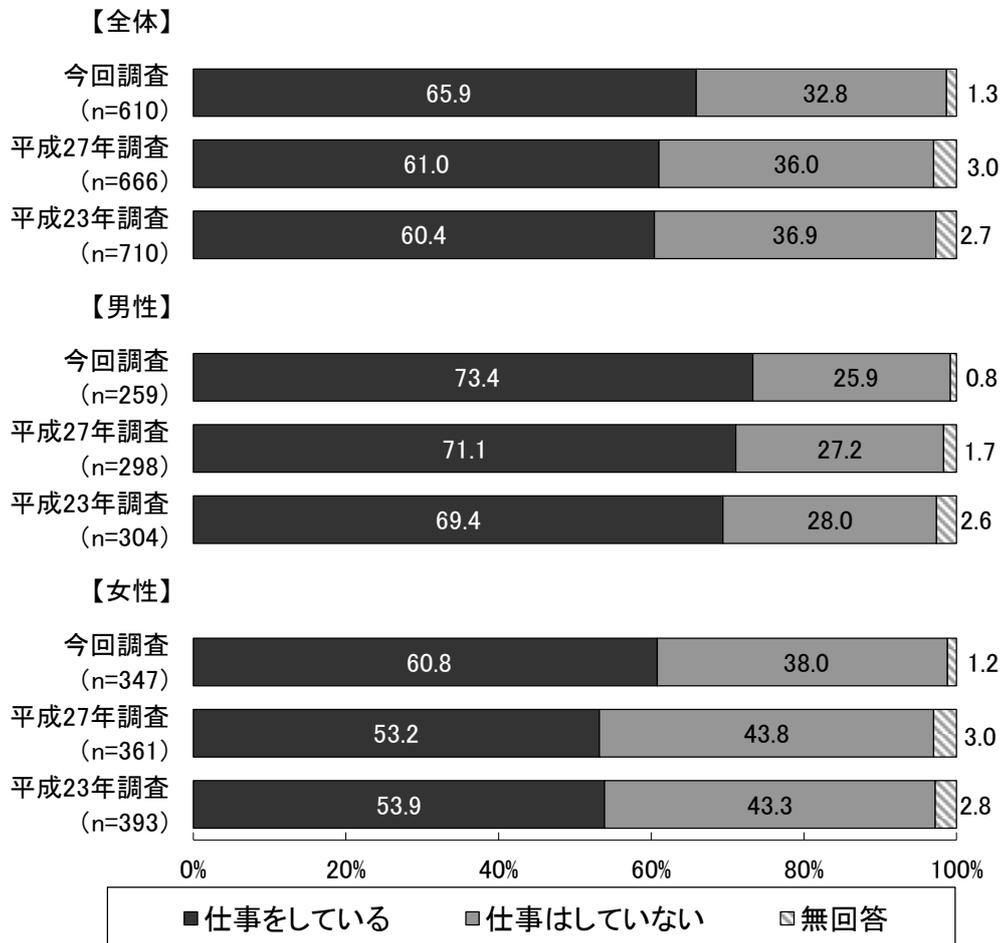
年齢別にみると、男性の30・40・50歳代で「仕事をしている」が9割を、また女性の50歳代以下で「仕事をしている」が7割を超えています。



●○経年比較○●

経年比較すると、男女ともに「仕事をしている」がやや増加しています。

性別にみると、女性で「仕事をしている」が60.8%と、平成27年調査に比べて7.6ポイント増加しています。

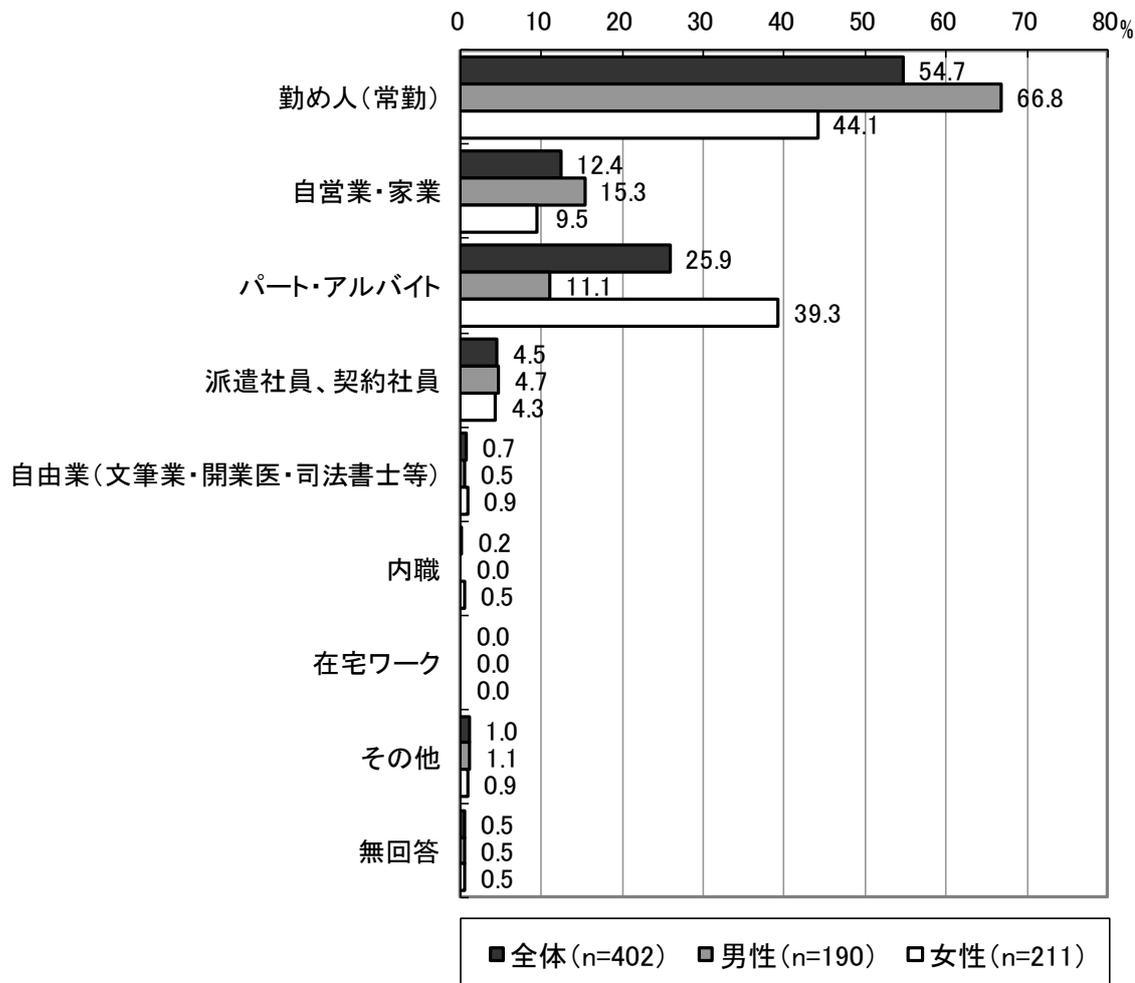


【問6で「1 仕事をしている」を選択した方】

問6-1 あなたの職業は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

職業については、「勤め人(常勤)」が54.7%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」が25.9%、「自営業・家業」が12.4%となっています。

性別にみると、男性は「勤め人(常勤)」が66.8%と多数を占めているものの、女性は「勤め人(常勤)」が44.1%、「パート・アルバイト」が39.3%と二分しています。



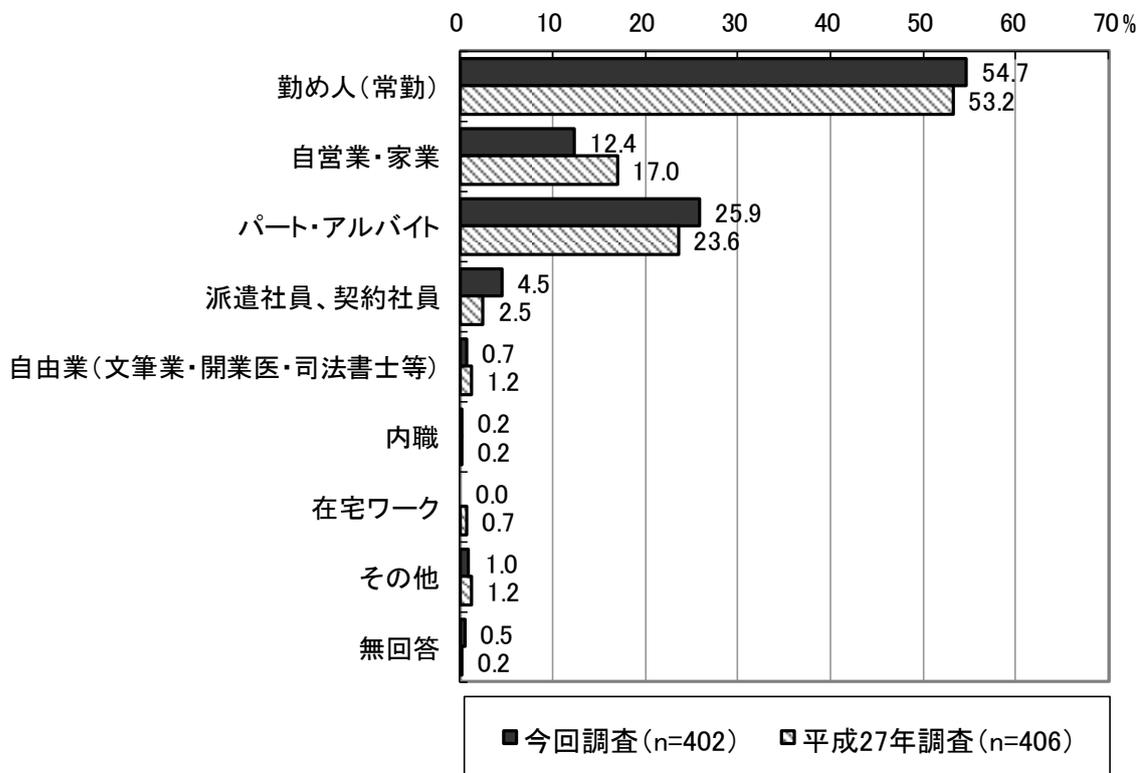
### 性・年齢別比較

年齢別にみると、男女ともに50歳代以下で「勤め人（常勤）」が最も多く、60歳代では「パート・アルバイト」、70歳以上では「自営業・家業」となっています。また、女性の70歳以上で「自営業・家業」が77.8%と、男性の70歳以上に比べて31.6ポイント高くなっています。

(%)	合計	勤め人 (常勤)	自営業・ 家業	パート・ アルバイト	派遣社員、 契約社員	自由業（文筆業・開 業医・司法書士等）	内職	在宅ワーク	その他	無回答
<b>【年齢別・男性】</b>										
29歳以下	19	78.9	0.0	21.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	47	83.0	6.4	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1
40歳代	36	86.1	8.3	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0
50歳代	41	78.0	19.5	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	34	26.5	26.5	32.4	8.8	2.9	0.0	0.0	2.9	0.0
70歳以上	13	7.7	46.2	30.8	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
<b>【年齢別・女性】</b>										
29歳以下	43	48.8	2.3	41.9	4.7	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0
30歳代	48	50.0	2.1	39.6	2.1	2.1	0.0	0.0	2.1	2.1
40歳代	46	54.3	6.5	34.8	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳代	38	44.7	13.2	36.8	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	27	22.2	11.1	55.6	7.4	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上	9	0.0	77.8	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0

●○経年比較○●

経年比較すると、ほぼ平成27年調査と同様の傾向となっているものの、「自営業・家業」の割合がやや低くなっています。



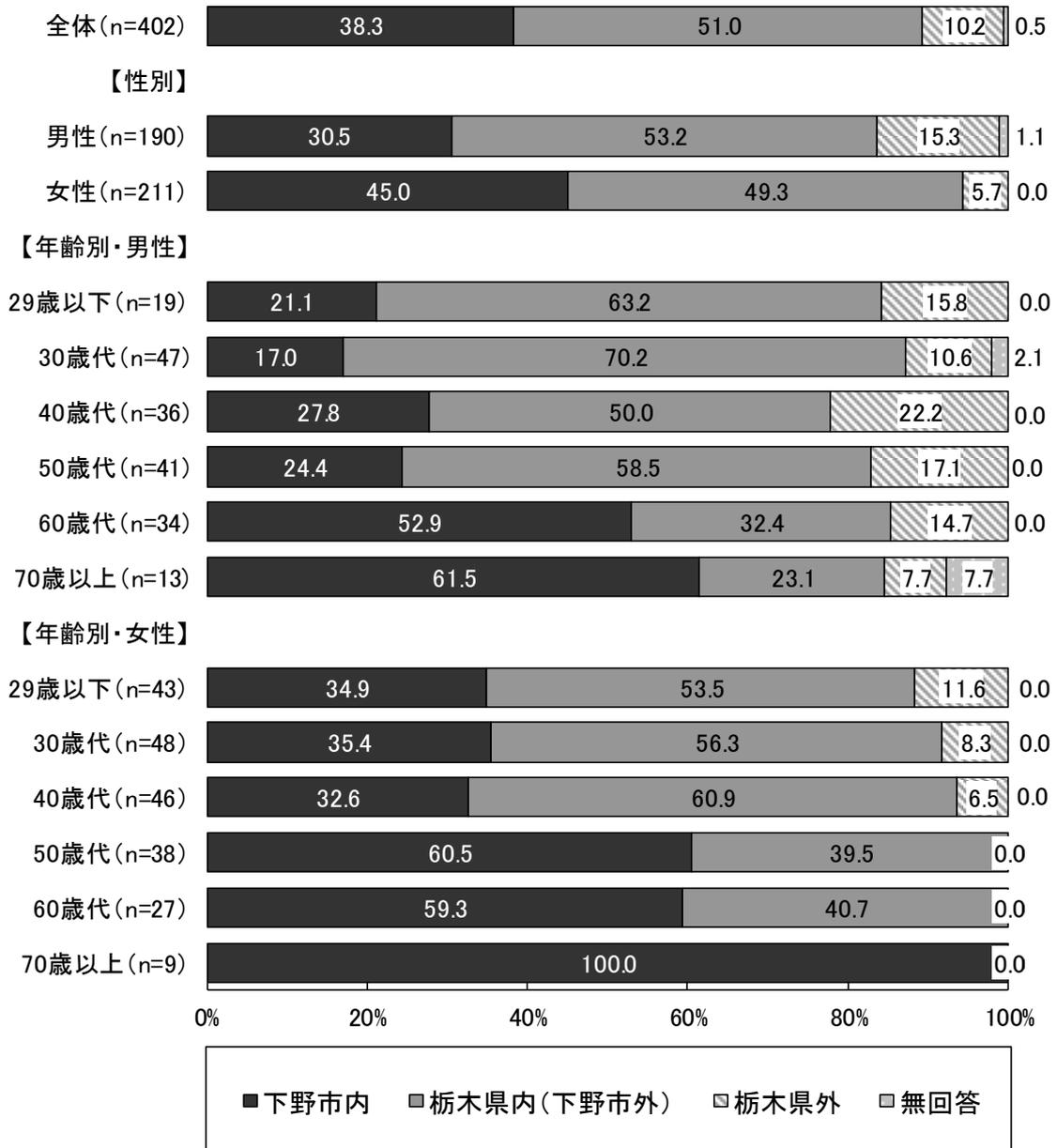
【問6で「1 仕事をしている」を選択した方】

問6-2 あなたの主な仕事場は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

主な仕事場については、「栃木県内（下野市外）」が51.0%と最も多く、次いで「下野市内」が38.3%、「栃木県外」が10.2%となっています。

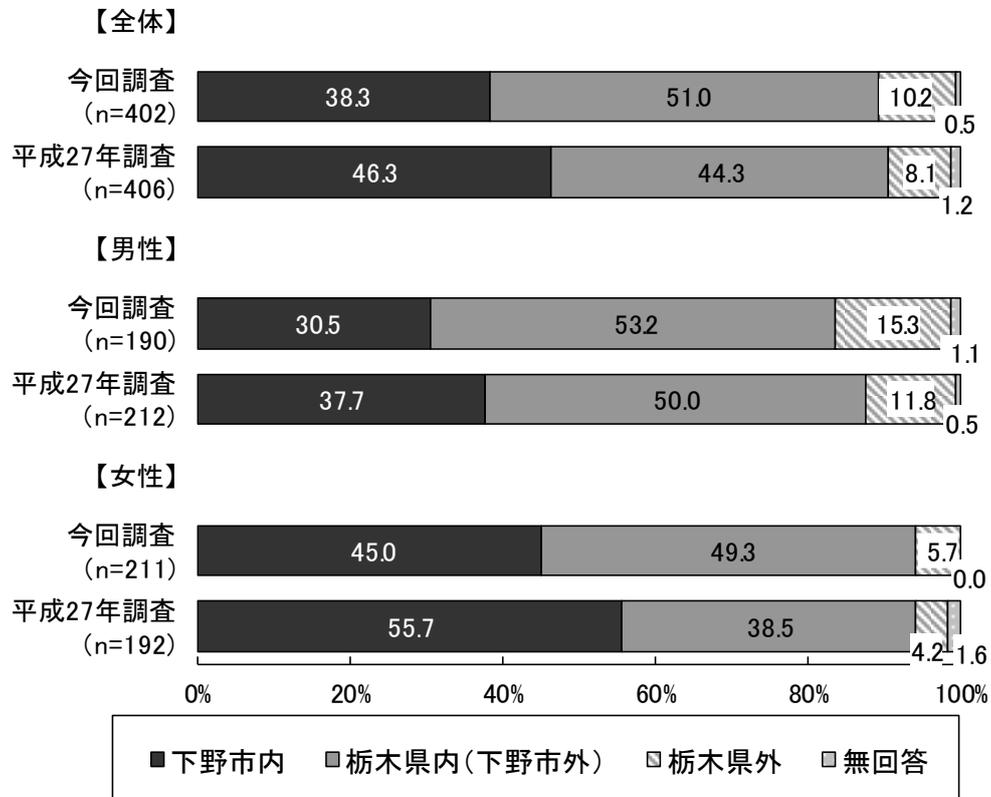
性別にみると、男女ともに「栃木県内（下野市外）」が最も多くなっているものの、女性は「下野市内」が45.0%と、男性に比べて14.5ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男性は50歳代以下で、女性は40歳代以下で「栃木県内（下野市外）」が最も多くなっています。また、男性は60歳代以上で、女性は50歳代以上で「下野市内」が最も多くなっています。



●○経年比較○●

経年比較すると、全体、男女ともに「下野市内」の割合が、平成27年調査と比べて低くなっています。



【問6で「1 仕事をしている」を選択した方】

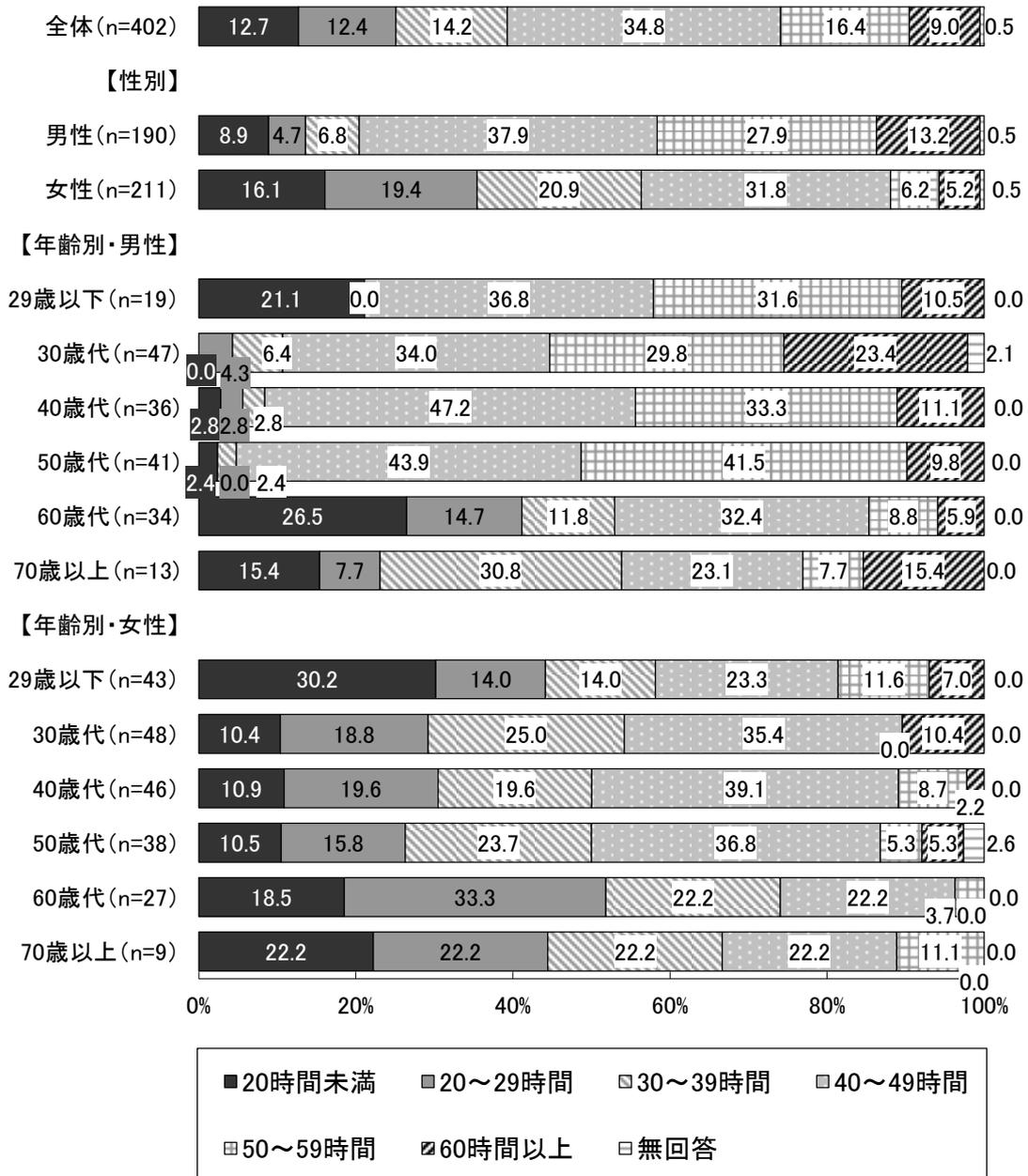
問6-3 あなたは、1週間でおおよそ何時間くらい働いていますか。(残業時間も含まず)

(○は1つ)

1週間の就労時間について、全体では「40～49時間」が34.8%と最も多くなっています。

性別にみると、男女ともに「40～49時間」が最も多くなっているものの、男性では“50時間以上”が41.1%と、長時間労働をしている割合が女性より高くなっています。

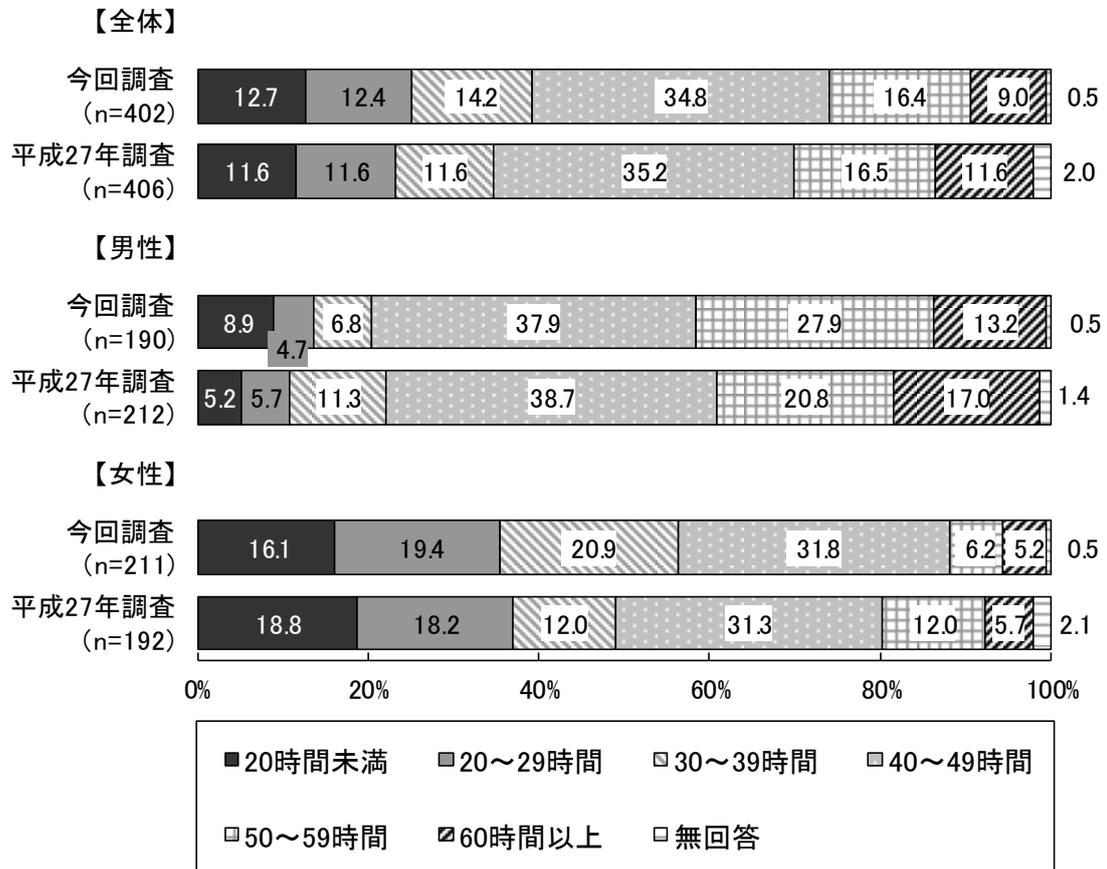
年齢別にみると、男性の50歳代以下で「50～59時間」が約3割から4割台前半と、他の年代に比べて割合が高くなっています。また、男性の30歳代では「60時間以上」が23.4%となっています。



●○経年比較○●

経年比較すると、全体ではほぼ平成27年調査と同様の傾向となっています。

女性では「60時間以上」が5.8ポイント減少し、「30～39時間」が8.9ポイント増加しています。



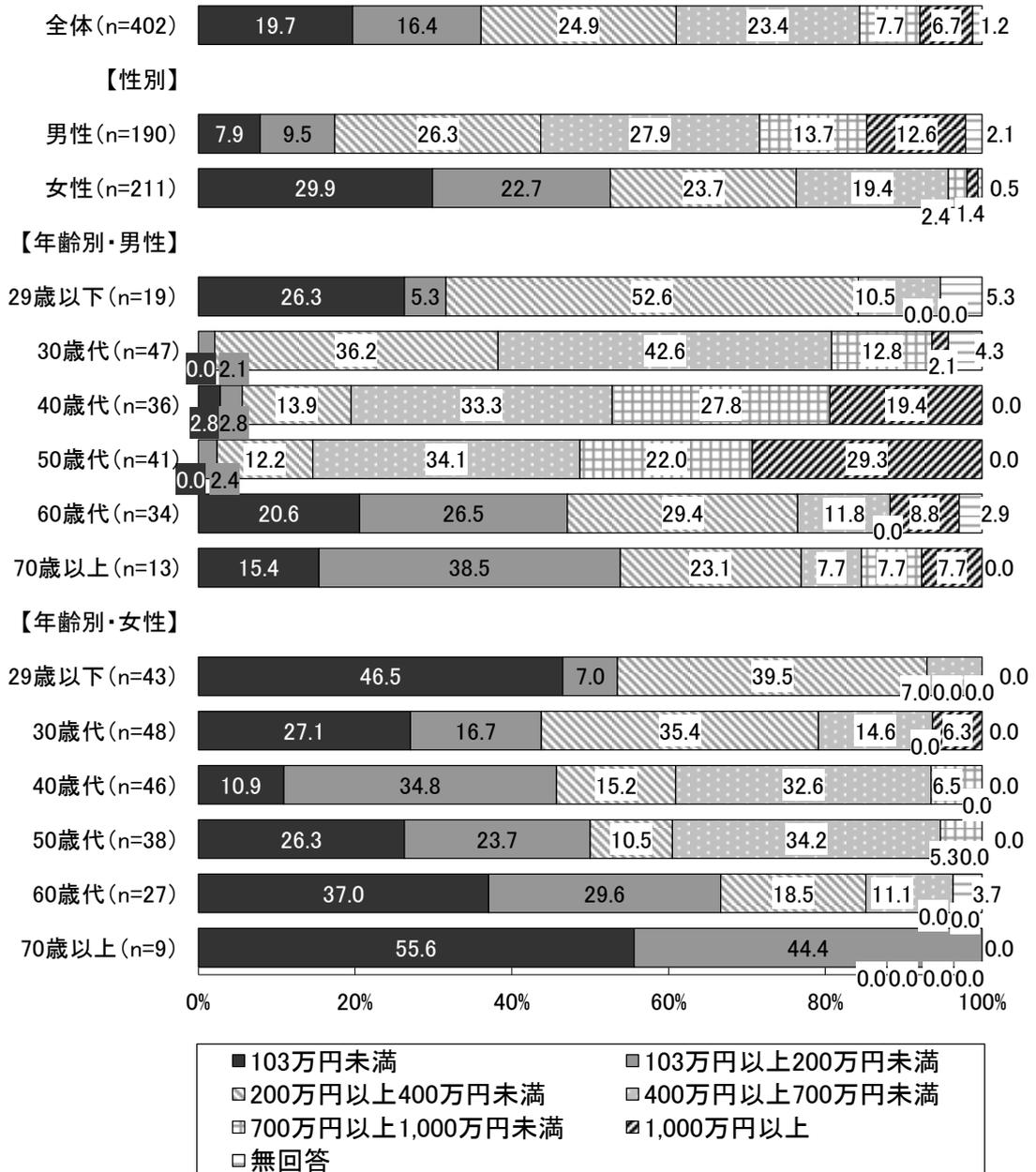
【問6で「1 仕事をしている」を選択した方】

問6-4 あなたの昨年1年間の総収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。（○は1つ）

昨年1年間の総収入については、「200万円以上400万円未満」が24.9%と最も多く、次いで「400万円以上700万円未満」が23.4%となっています。

性別にみると、男性は「400万円以上700万円未満」が27.9%、女性は「103万円未満」が29.9%と、それぞれ最も多くなっています。

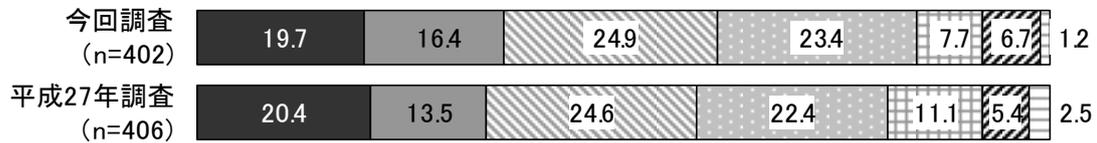
年齢別にみると、男性の29歳以下では「200万円以上400万円未満」が、男性の30・40・50歳代で「400万円以上700万円未満」が最も多くなっています。女性は29歳以下と60歳以上で「103万円未満」が最も多くなっています。



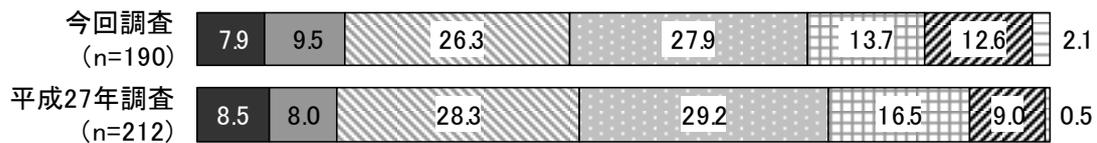
●○経年比較○●

経年比較すると、ほぼ平成 27 年調査と同様の傾向となっているものの、女性で「103 万円未満」が 4.0 ポイント減少、「700 万円以上 1,000 万円未満」が 4.3 ポイント増加しています。

【全体】



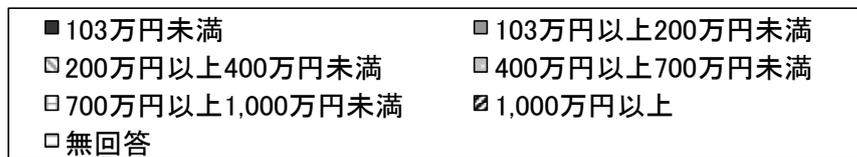
【男性】



【女性】



0% 20% 40% 60% 80% 100%

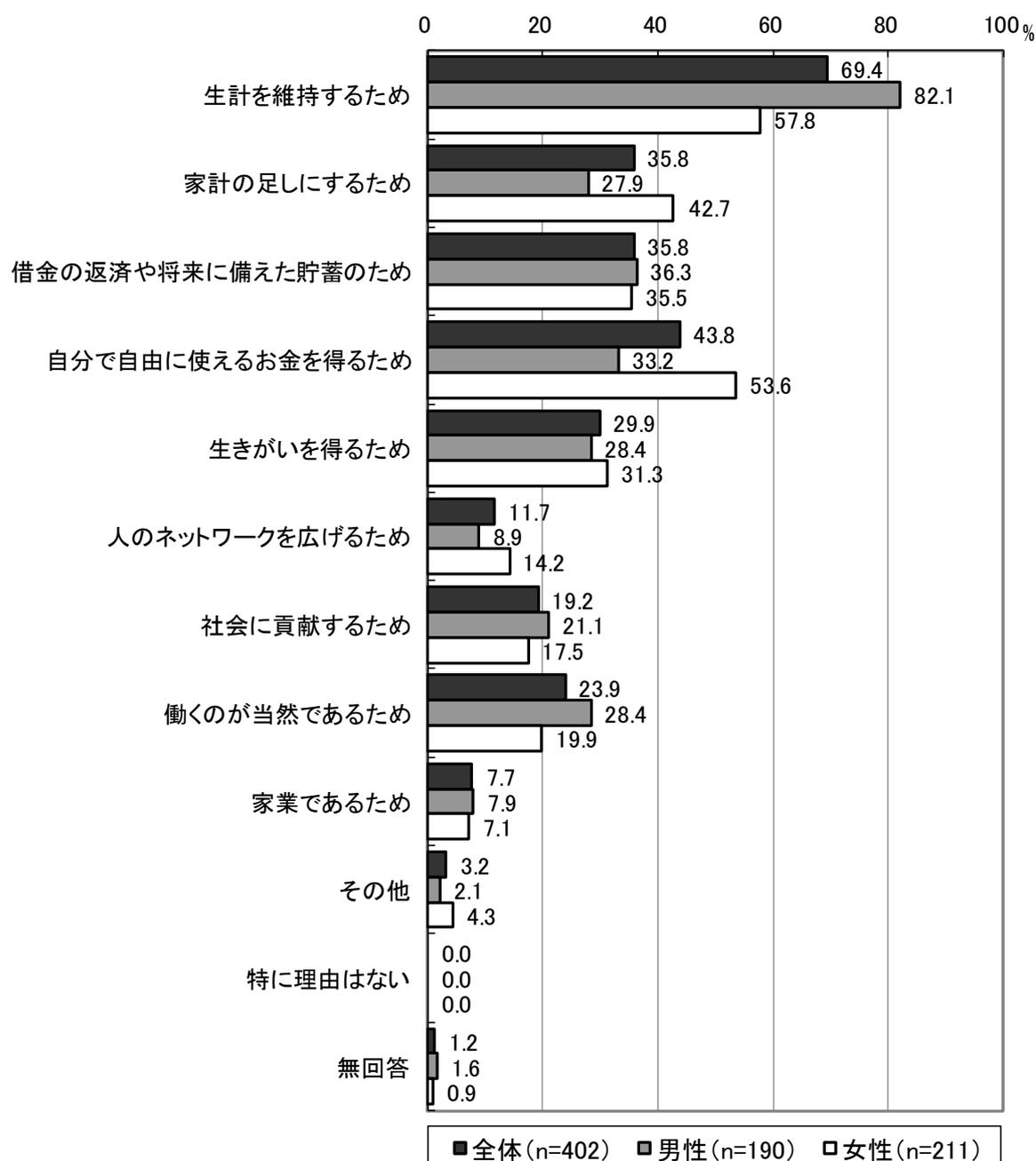


【問6で「1 仕事をしている」を選択した方】

問6-5 あなたが現在働いているのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

現在働いている理由については、「生計を維持するため」が69.4%と最も多く、次いで「自分で自由に使えるお金を得るため」が43.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「生計を維持するため」が最も多くなっているものの、男性が82.1%、女性が57.8%と24.3ポイントの差が見られます。また、「家計の足しにするため」や「自分で自由に使えるお金を得るため」で、女性が男性を10ポイント以上上回っています。



### 性・年齢別、婚姻状況別比較

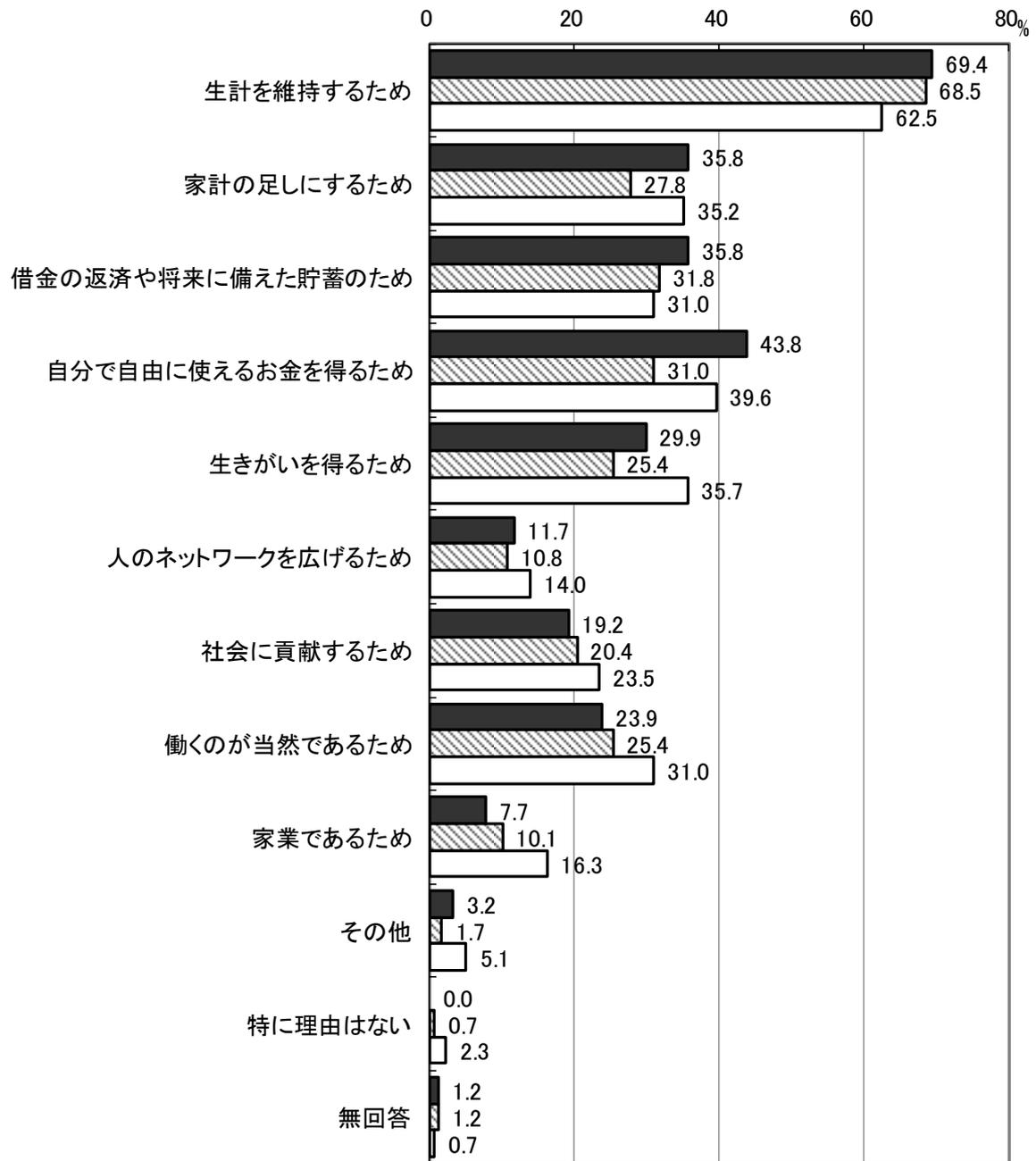
年齢別にみると、男女ともに29歳以下で「自分で自由に使えるお金を得るため」が、女性の30・40・50・60歳代で「家計の足しにするため」が、他の年代に比べて割合が高くなっています。また女性の70歳以上で「家業であるため」が66.7%と最も多くなっています。

婚姻状況別にみると、[結婚していない層]で「自分で自由に使えるお金を得るため」が67.4%と、他の層に比べて高くなっています。

(%)	合計	生計を維持するため	家計の足しにするため	借金の返済や将来に備えた貯蓄のため	自分で自由に使えるお金を得るため	生きがいを得るため	人のネットワークを広げるため	社会に貢献するため	働くのが当然であるため	家業であるため	その他	特に理由はない	無回答
【年齢別・男性】													
29歳以下	19	57.9	26.3	52.6	68.4	5.3	15.8	21.1	31.6	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	47	89.4	29.8	44.7	38.3	25.5	2.1	17.0	36.2	0.0	2.1	0.0	2.1
40歳代	36	94.4	30.6	36.1	25.0	30.6	11.1	30.6	33.3	2.8	2.8	0.0	0.0
50歳代	41	92.7	29.3	43.9	29.3	36.6	12.2	26.8	36.6	12.2	0.0	0.0	4.9
60歳代	34	73.5	17.6	17.6	20.6	29.4	8.8	8.8	2.9	17.6	2.9	0.0	0.0
70歳以上	13	46.2	38.5	7.7	30.8	38.5	7.7	23.1	23.1	23.1	7.7	0.0	0.0
【年齢別・女性】													
29歳以下	43	39.5	25.6	30.2	86.0	16.3	11.6	16.3	14.0	0.0	7.0	0.0	0.0
30歳代	48	70.8	54.2	52.1	58.3	35.4	18.8	20.8	20.8	2.1	4.2	0.0	0.0
40歳代	46	69.6	45.7	39.1	47.8	28.3	10.9	17.4	21.7	2.2	4.3	0.0	2.2
50歳代	38	63.2	42.1	36.8	36.8	42.1	21.1	15.8	23.7	10.5	5.3	0.0	0.0
60歳代	27	48.1	48.1	18.5	37.0	37.0	7.4	18.5	22.2	11.1	0.0	0.0	3.7
70歳以上	9	22.2	33.3	0.0	22.2	33.3	11.1	11.1	11.1	66.7	0.0	0.0	0.0
【婚姻状況別】													
結婚している	283	72.8	40.6	39.9	37.8	33.2	12.0	17.0	22.3	8.5	2.1	0.0	1.1
結婚していたが、離別・死別した	32	78.1	34.4	21.9	31.3	31.3	9.4	18.8	28.1	18.8	9.4	0.0	3.1
結婚していない	86	55.8	19.8	27.9	67.4	18.6	11.6	26.7	27.9	1.2	4.7	0.0	1.2

●○経年比較○●

経年比較すると、「家計の足しにするため」が8.0ポイント、「自分で自由に使えるお金を得るため」が12.8ポイント増加しています。また、「社会に貢献するため」、「働くのが当然であるため」、「家業であるため」がやや減少傾向となっています。



■ 今回調査 (n=402)

▨ 平成27年調査 (n=406)

□ 平成23年調査 (n=429)

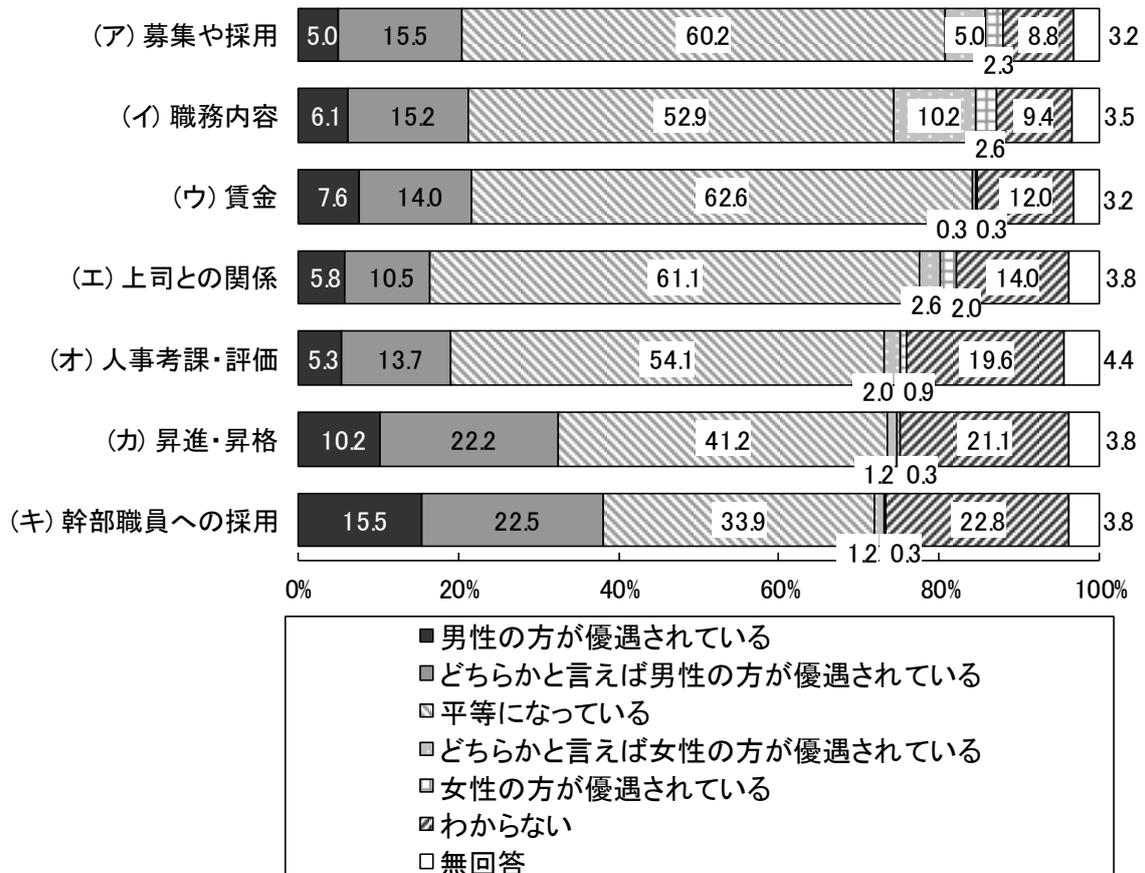
【問6-1で「1 勤め人（常勤）」・「3 パート・アルバイト」・「4 派遣社員、契約社員」を選択した方】

問6-6 あなたの職場では、男女の扱いが平等になっていると思いますか。（(ア)から(キ)それぞれ○は1つ）

職場における男女平等意識について、“男性優遇”、“男女平等”、“女性優遇”に分けてみると、“男女平等”が最も多いのは、[(ウ)賃金]で62.6%、次いで[(エ)上司との関係]が61.1%、[(ア)募集や採用]が60.2%となっています。

“男性優遇”が最も多いのは、[(キ)幹部職員への採用]で38.0%、次いで[(カ)昇進・昇格]が32.4%となっています。

(n=342)

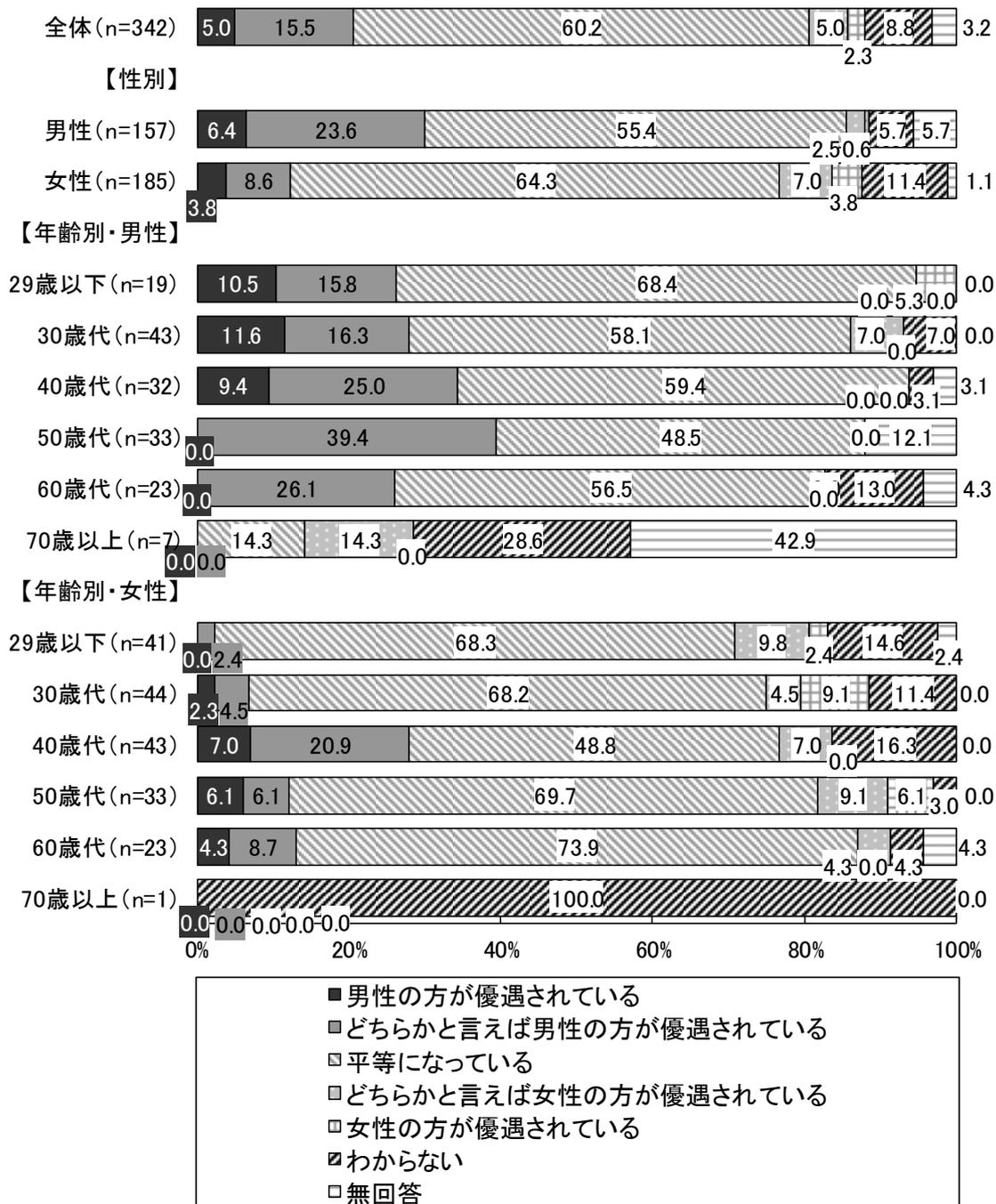


性・年齢別比較

【(ア) 募集や採用】

募集や採用における男女平等意識について、性別にみると、“男性優遇”が男性は30.0%、女性は12.4%と、男性が女性を17.6ポイント上回っています。

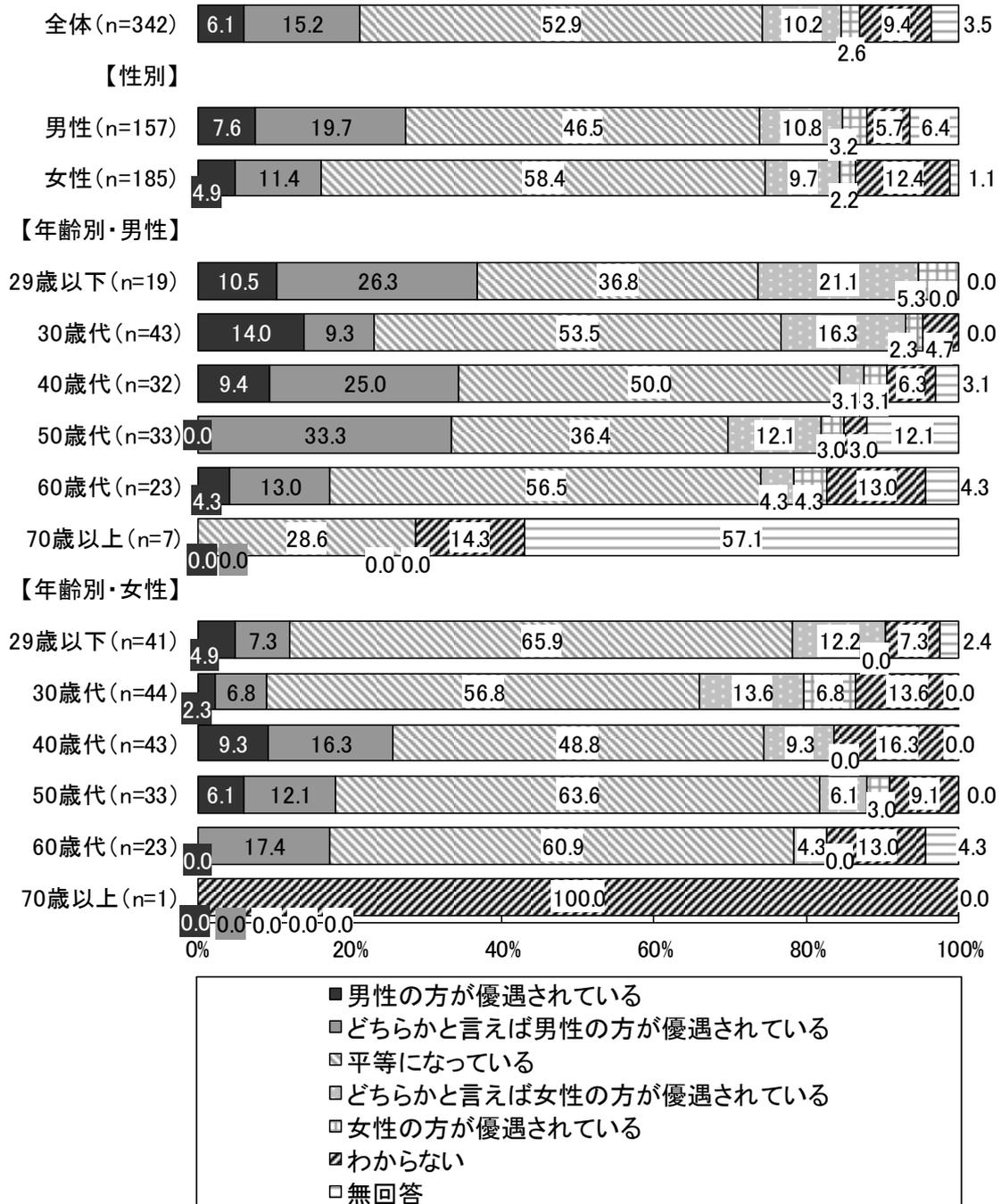
年齢別にみると、男性の60歳代以下と女性の40歳代で“男性優遇”が2割台半ばを超えており、また女性の50歳代で“女性優遇”が15.2%と、他の年代に比べて割合がやや高くなっています。



【(イ) 職務内容】

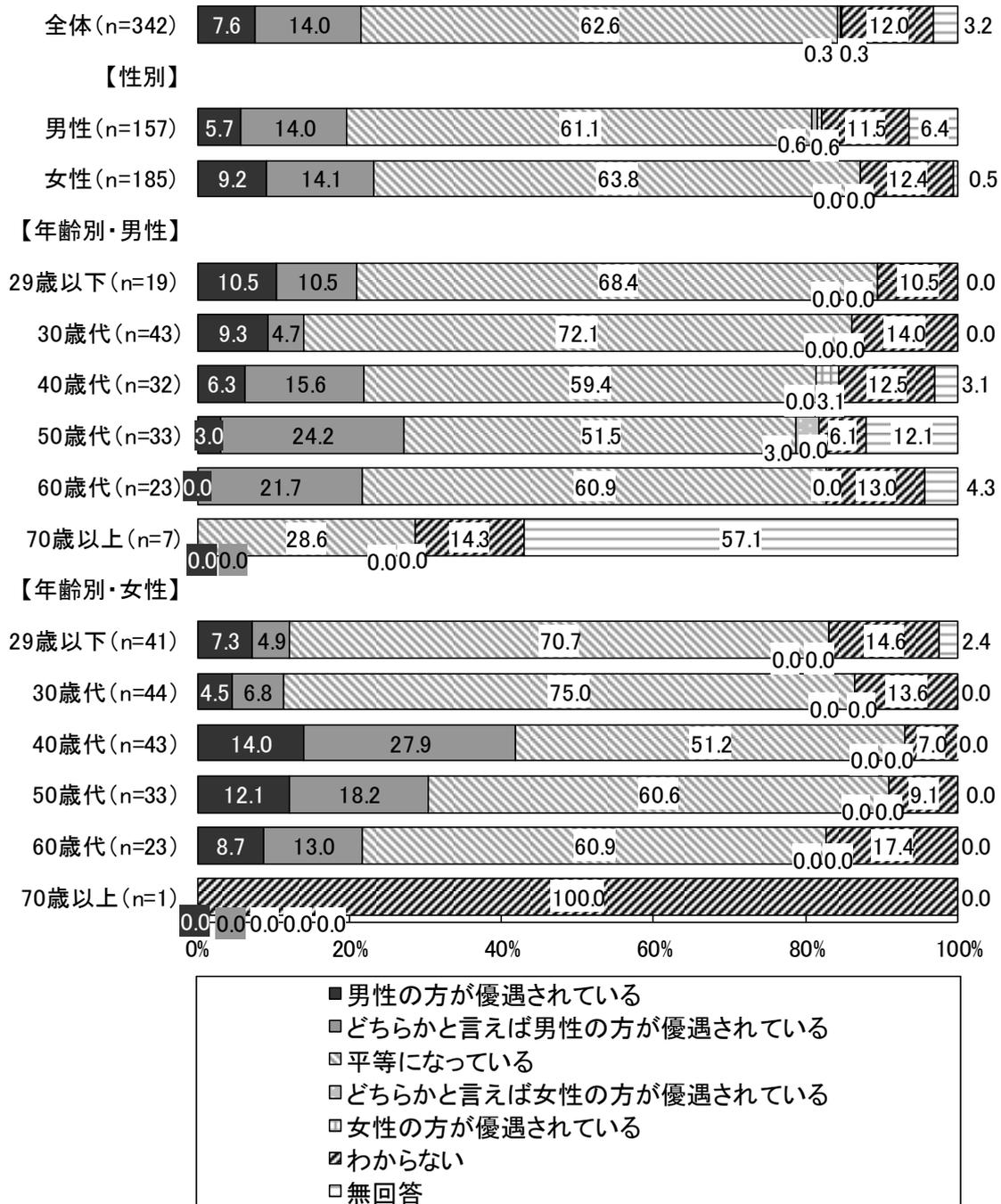
職務内容における男女平等意識について、性別にみると、“男性優遇”が男性は27.3%、女性は16.3%と、男性が女性を11.0ポイント上回っています。

年齢別にみると、男性の50歳代以下と女性40歳代で“男性優遇”が2割台半ばを、男性の29歳以下と女性の30歳代では“女性優遇”が2割を超えており、割合が高くなっています。



【(ウ) 賃金】

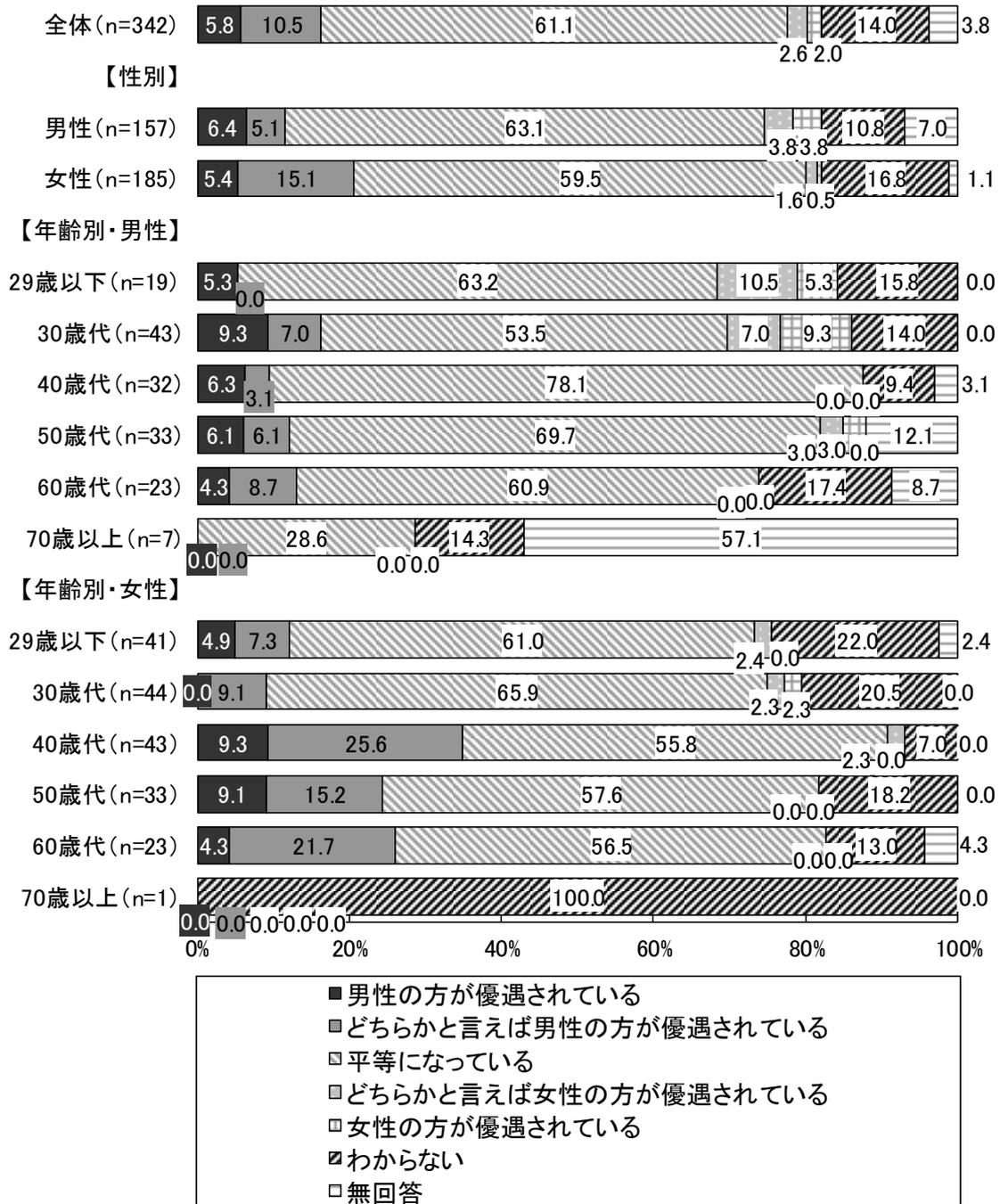
賃金における男女平等意識について、性別にみると、全体と同様の傾向となっています。  
 年齢別にみると、女性の40歳代で“男性優遇”が41.9%と、他の年代に比べて割合が高くなっています。



【(エ) 上司との関係】

上司との関係における男女平等意識について、性別にみると、“男性優遇”の割合が男性は11.5%、女性は20.5%となっており、女性が男性を9.0ポイント上回っています。

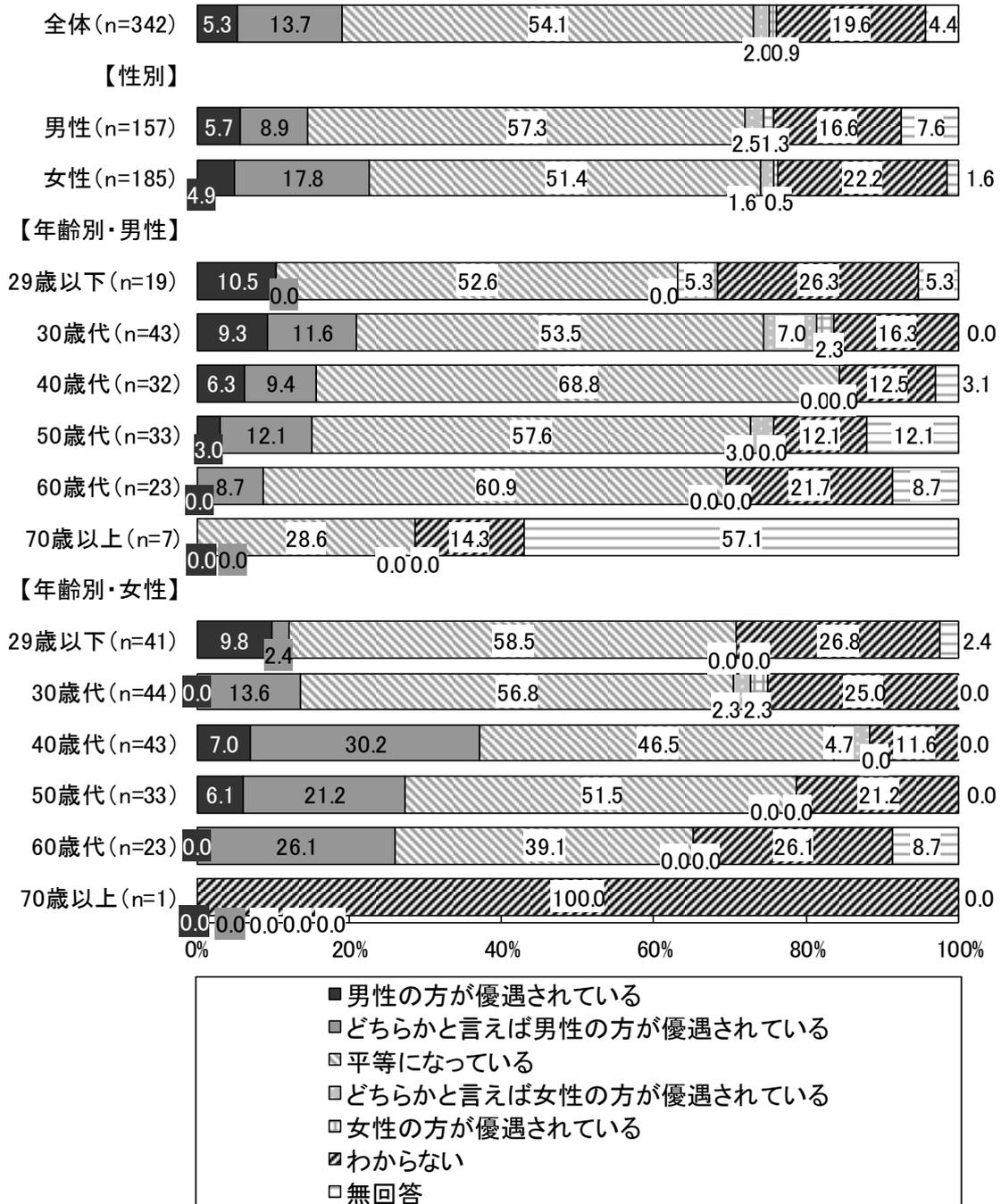
年齢別にみると、男性の70歳以上で“男女平等”が28.6%と、他の年代に比べて割合が低く、女性の40・50・60歳代で“男性優遇”が2割台半ばから3割半ばと、他の年代に比べて割合が高くなっています。



【(オ) 人事考課・評価】

人事考課・評価における男女平等意識について、性別にみると、“男性優遇”の割合が男性は14.6%、女性は22.7%となっており、女性が男性を8.1ポイント上回っています。

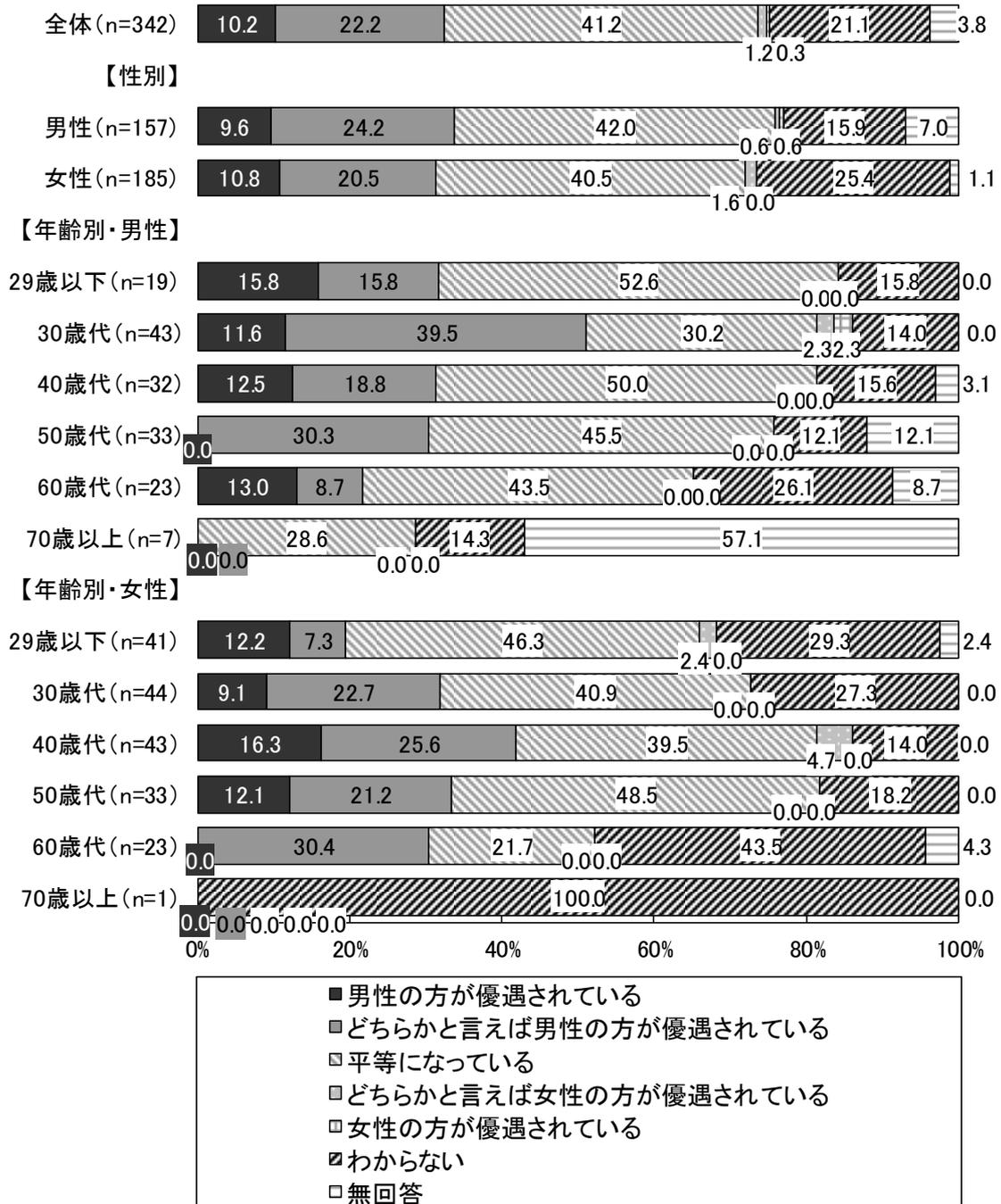
年齢別にみると、女性の40歳代では“男性優遇”が37.2%と、他の年代に比べて割合が高くなっています。



【(カ) 昇進・昇格】

昇進・昇格における男女平等意識について、性別にみると、ほぼ全体と同様の傾向となっています。

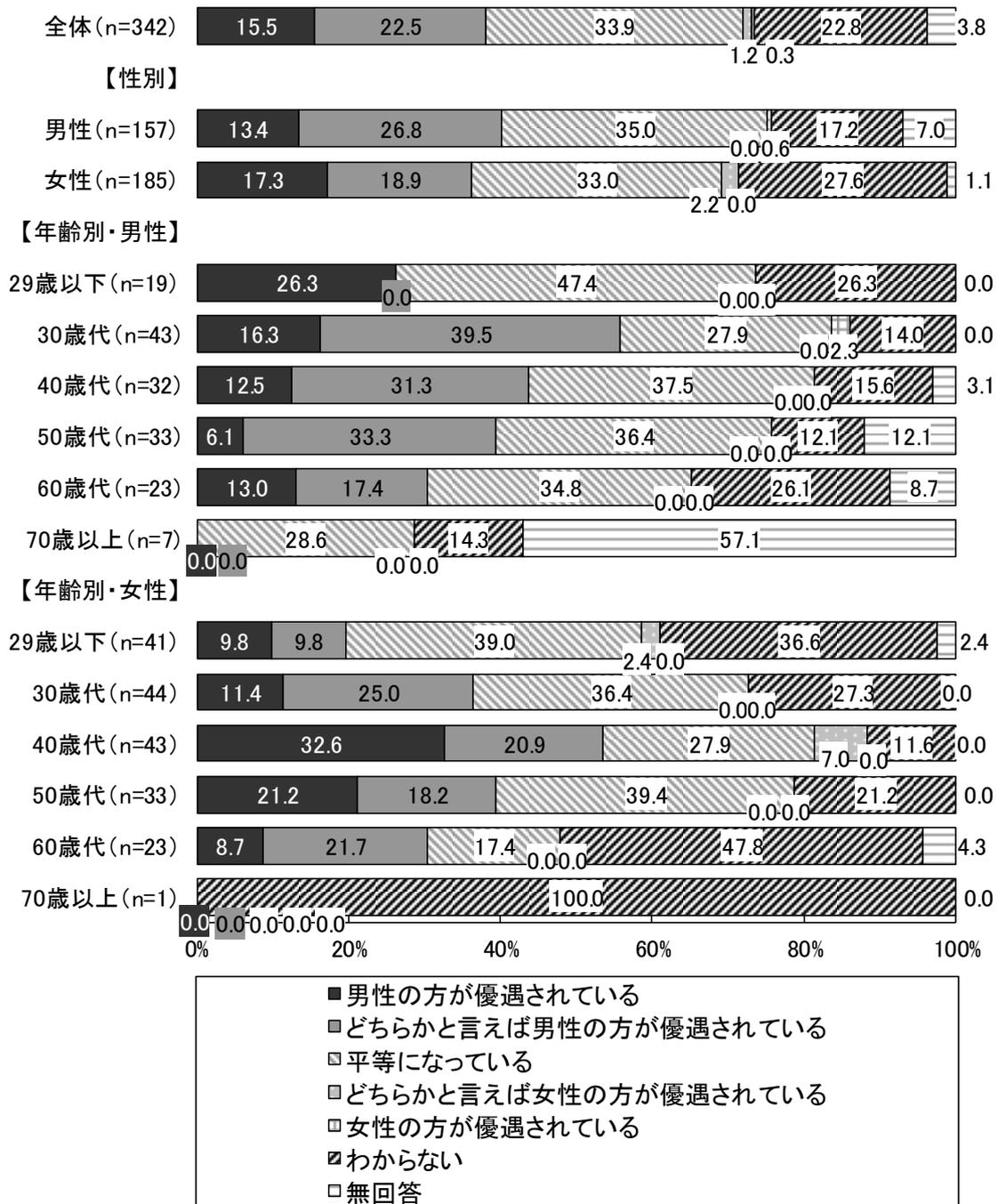
年齢別にみると、男性の50歳代以下、女性の30・40・50・60歳代で“男性優遇”が3割を超えており、特に男性の30歳代、女性の40歳代で割合が高くなっています。



【(キ) 幹部職員への採用】

幹部職員への採用における男女平等意識について、性別にみると、男性で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が26.8%と、女性に比べて7.9ポイント、また女性で「分からない」が27.6%と、男性に比べて10.4ポイント高くなっています。

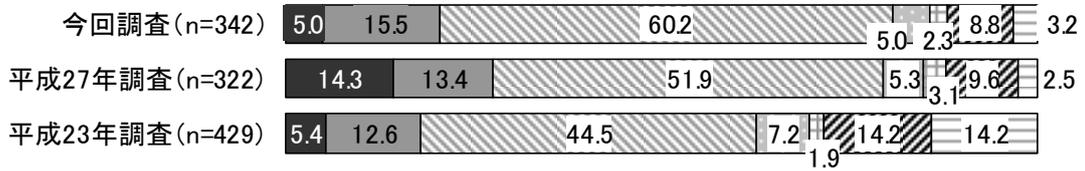
年齢別にみると、男女ともに30・40・50・60歳代で“男性優遇”が3割を超えており、特に男性の30歳代、女性の40歳代で5割を超えて割合が高くなっています。



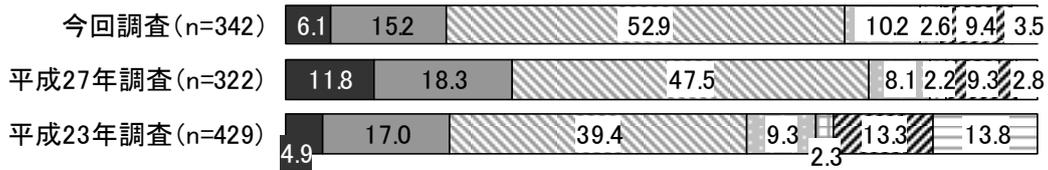
●○経年比較○●

経年比較すると、“男女平等”がほぼすべての項目で平成27年調査調査、平成23年調査調査の割合を上回っている一方、〔(カ)昇進・昇格〕ではわずかに減少しています。

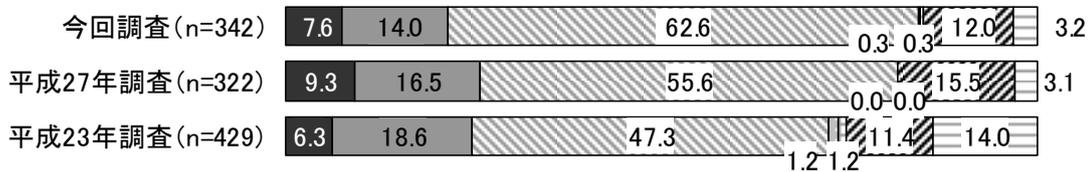
(ア) 募集や採用



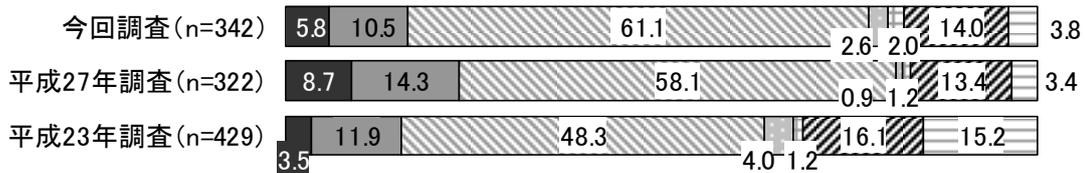
(イ) 職務内容



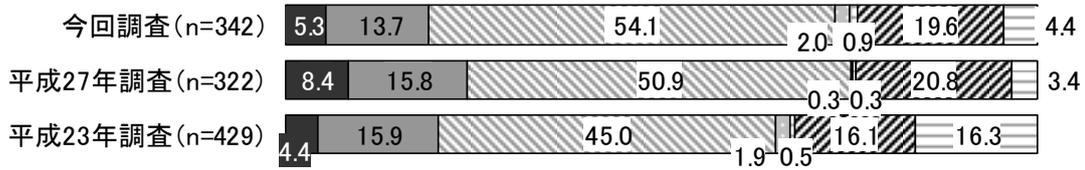
(ウ) 賃金



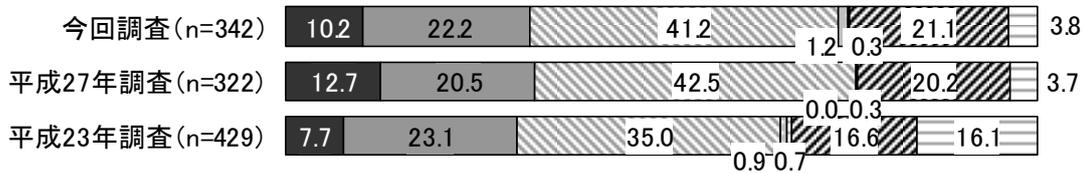
(エ) 上司との関係



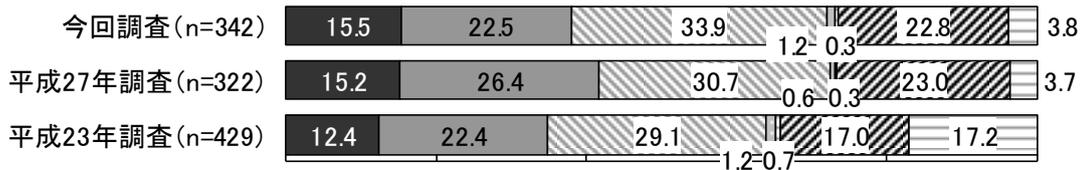
(オ) 人事考課・評価



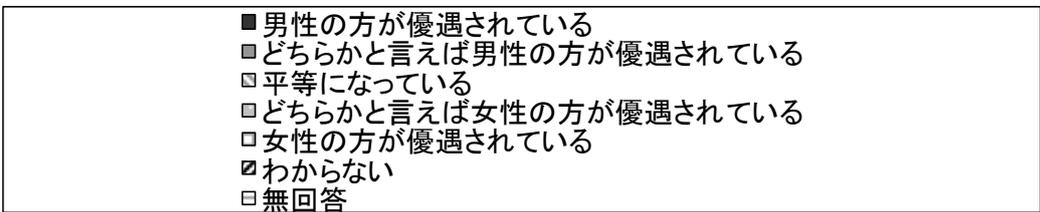
(カ) 昇進・昇格



(キ) 幹部職員への採用



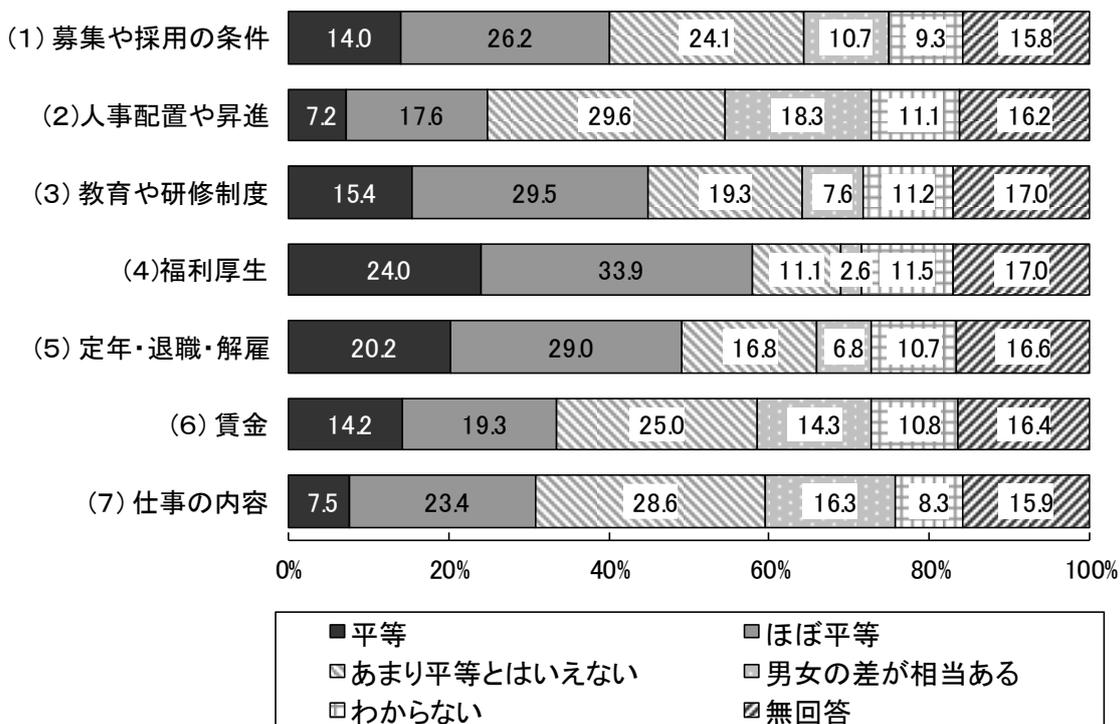
0% 20% 40% 60% 80% 100%



県結果（参考）

県調査と比較すると、調査項目は違うものの、「平等」と「ほぼ平等」を合わせた“平等”で[(4) 福利厚生]が57.9%と最も多く、次いで[(5) 定年・退職・解雇]が49.2%、[(3) 教育や研修制度]が44.9%となっています。また、「男女の差が相当ある」では[(1) 募集や採用の条件]、[(2) 人事配置や昇進]、[(6) 賃金]、[(7) 仕事の内容]が1割を超えています。

(n=1,081)

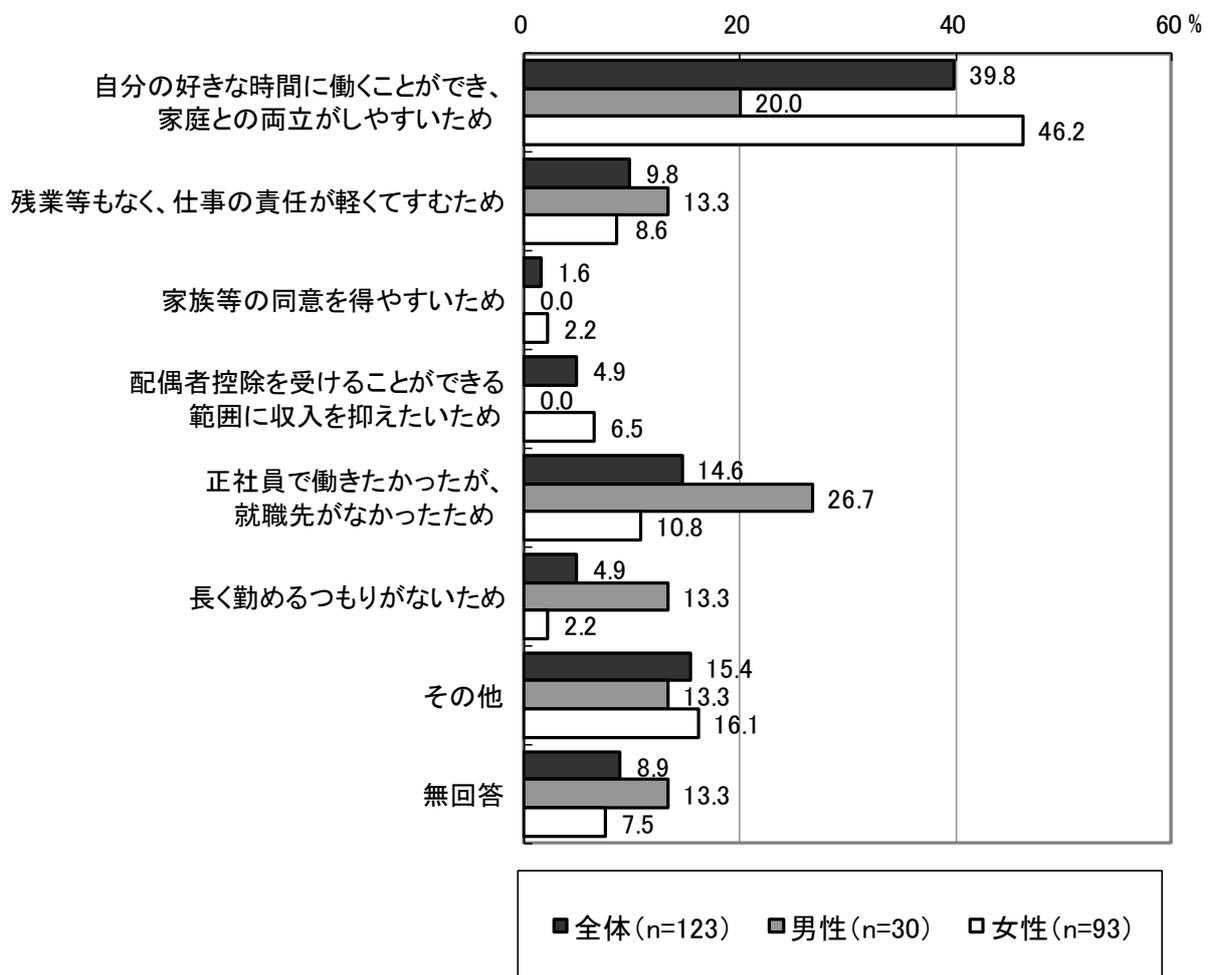


【問6-1で「3 パート・アルバイト」・「4 派遣社員、契約社員」・「6 内職」・「7 在宅ワーク」を選択した方】

問6-7 あなたが、パート・アルバイト、派遣社員、契約社員、内職、在宅ワークを選んだ主な理由は何ですか。(〇は1つ)

パート・アルバイト、派遣社員、契約社員、内職、在宅ワークと回答した方が、その働き方を選んだ理由については、「自分の好きな時間に働くことができ、家庭との両立がしやすいため」が39.8%と最も多く、次いで「その他」が15.4%、「正社員で働きたかったが、就職先がなかったため」が14.6%となっています。

性別にみると、男性では「正社員で働きたかったが、就職先がなかったため」が26.7%と最も多く、女性に比べて15.9ポイント高くなっています。また、女性では「自分の好きな時間に働くことができ、家庭との両立がしやすいため」が46.2%と最も多く、男性に比べて26.2ポイント高くなっています。



**性・年齢別、婚姻状況別、子どもの有無別比較**

年齢別にみると、男性の30・40・50・60歳代で「正社員で働きたかったが、就職先がなかったため」が、他の年代に比べて割合が高くなっています。

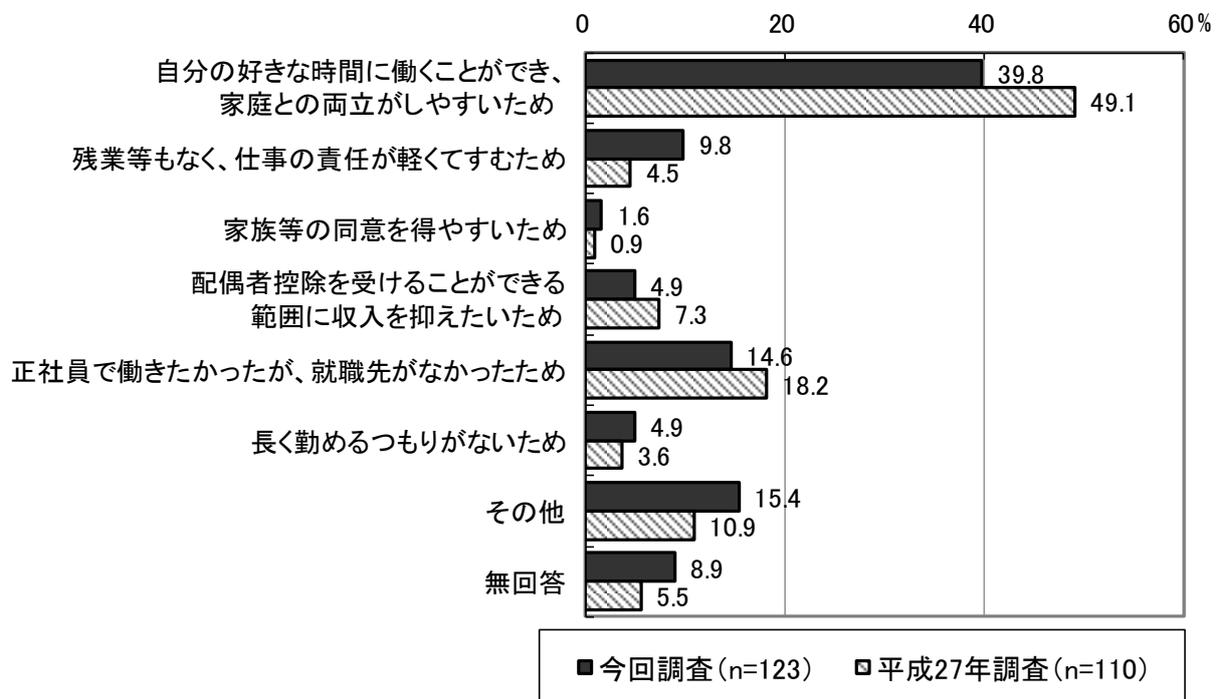
婚姻状況別にみると、「結婚している」と「結婚していたが離別・死別した」と答えた人では「自分の好きな時間に働くことができ、家庭との両立がしやすいため」が最も多くなっており、「結婚していない」と答えた人は「その他」が最も多くなっています。

子どもの有無別にみると、[子どもがいる層]が[子どもはいない層]に比べ、「自分の好きな時間に働くことができ、家庭との両立がしやすいため」が37.7ポイント高く、「正社員で働きたかったが、就職先がなかったため」で20.2ポイント低くなっています。

	合計	のく自 両この 立との がが好 しでき やすき す、時 い家間 た庭に めと働	責残 任業 が等 軽も くなく す、 む仕 た事 めの	い家 た族 ため 等の 同意 を得 やす	をと配 抑が偶 えで者 たき控 たい除 いた範 ため困 にけ 取る入こ	たが正 め、社 就員 職で 先働 がき なた かか った	い長 たく め勤 める つも りが な	そ の 他	無 回 答
(%)									
<b>【年齢別・男性】</b>									
29歳以下	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0
30歳代	4	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0
40歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
50歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	14	14.3	28.6	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	14.3
70歳以上	6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	16.7
<b>【年齢別・女性】</b>									
29歳以下	20	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	55.0	15.0
30歳代	20	45.0	20.0	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	5.0
40歳代	18	50.0	11.1	0.0	5.6	22.2	0.0	11.1	0.0
50歳代	16	56.3	6.3	6.3	12.5	12.5	0.0	0.0	6.3
60歳代	17	64.7	5.9	5.9	5.9	11.8	0.0	0.0	5.9
70歳以上	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
<b>【婚姻状況別】</b>									
結婚している	83	47.0	12.0	2.4	7.2	13.3	3.6	7.2	7.2
結婚していたが、 離別・死別した	12	33.3	16.7	0.0	0.0	25.0	0.0	8.3	16.7
結婚していない	27	22.2	0.0	0.0	0.0	14.8	11.1	40.7	11.1
<b>【子どもの有無別】</b>									
子どもがいる	84	48.8	13.1	2.4	4.8	13.1	3.6	7.1	7.1
子どもはいない	9	11.1	11.1	0.0	11.1	33.3	0.0	11.1	22.2

●○経年比較○●

経年比較すると、「自分の好きな時間に働くことができ、家庭との両立がしやすいため」が39.8%と、平成27年調査に比べ9.3ポイント減少しています。

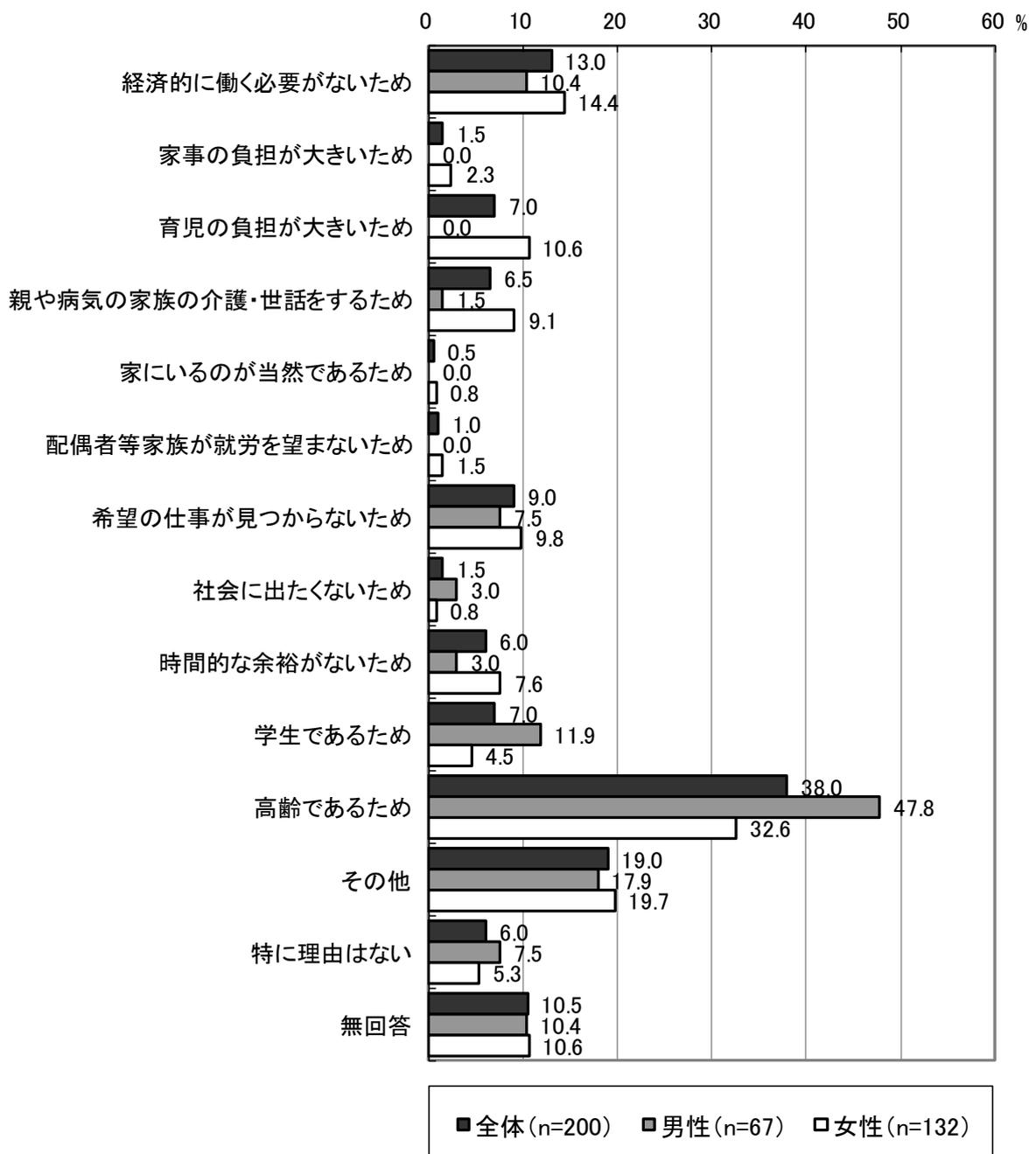


【問6で「2 仕事はしていない」を選択した方】

問6-8 あなたが現在働いていないのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

現在働いていない理由について、全体では「高齢であるため」が38.0%と最も多く、次いで「経済的に働く必要がないため」が13.0%、「希望の仕事が見つからないため」が9.0%となっています。

性別にみると、「育児の負担が大きいため」で女性が男性を、「高齢であるため」で男性が女性を10ポイント以上上回っています。



### 性・年齢別、婚姻状況別、子どもの有無別比較

年齢別にみると、男性の29歳以下で「学生であるため」が、30・50歳代で「希望の仕事が見つからないため」が最も多くなっています。また女性の29歳以下で「学生であるため」、30歳代で「育児の負担が大きいため」、40歳代で「希望の仕事が見つからないため」、50歳代で「親や病気の家族の介護・世話をするため」が最も多くなっています。

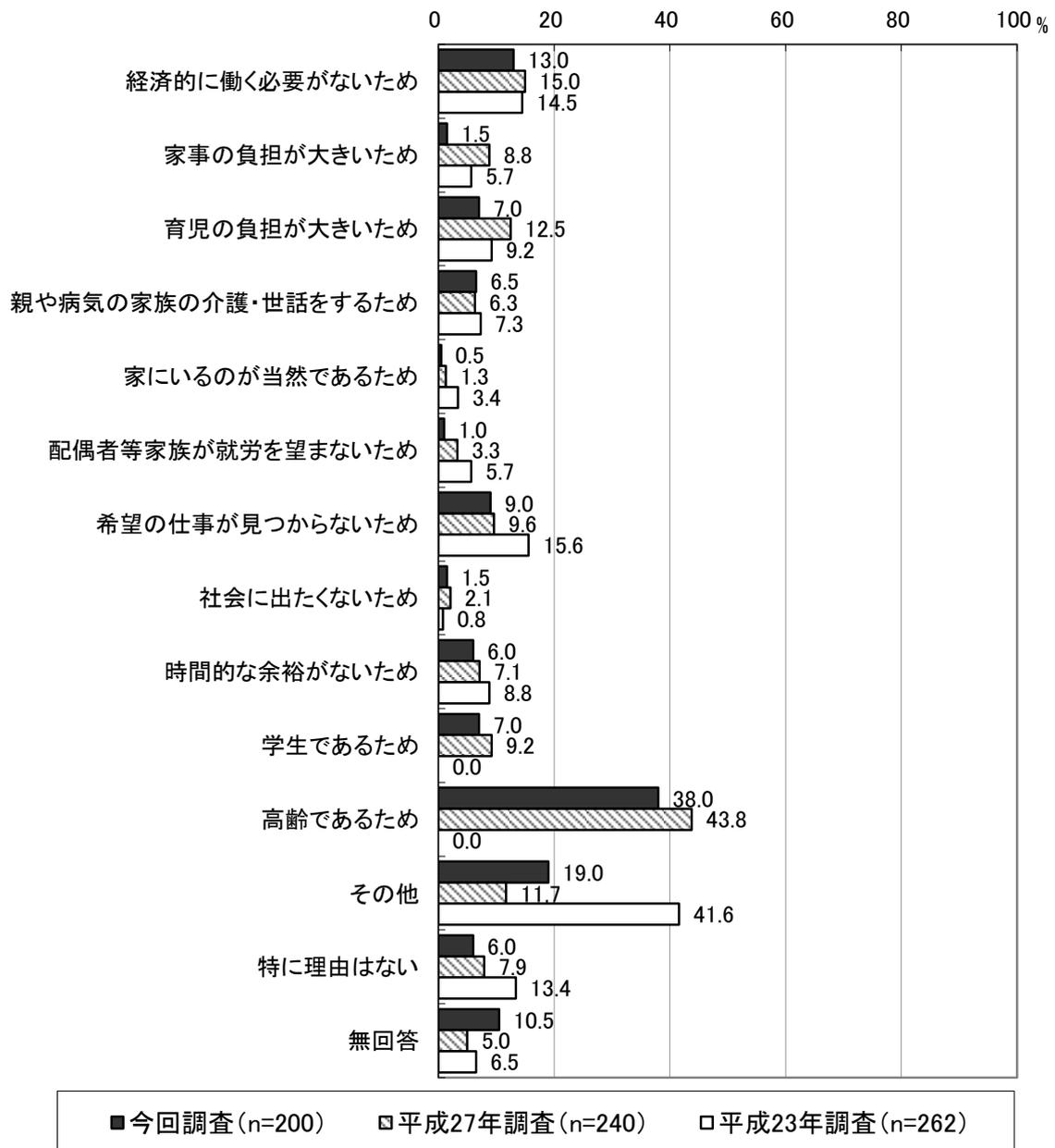
婚姻状況別にみると、「結婚している」と「結婚していたが離別・死別した」と答えた人は「高齢であるため」が最も多くなっており、[結婚していない層]は「学生であるため」が最も多くなっています。

子どもの有無別にみると、[子どもはいない層]で「経済的に働く必要がないため」が26.3%と、[子どもがいる層]に比べて12.8ポイント高くなっています。

(%)	合計	経済的に働く必要がないため	家事の負担が大きい	育児の負担が大きい	親や病気の家族の介護・世話を	家にいるのが当然であるため	配偶者等家族が就労を望まないため	希望の仕事が見つからないため	社会に出たくないため	時間的な余裕がないため	学生であるため	高齢であるため	その他	特に理由はない	無回答
<b>【年齢別・男性】</b>															
29歳以下	9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	88.9	0.0	0.0	0.0	11.1
30歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
50歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
60歳代	13	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4	38.5	23.1	7.7
70歳以上	39	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.1	2.6	2.6	0.0	74.4	10.3	5.1	10.3
<b>【年齢別・女性】</b>															
29歳以下	15	13.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	33.3	40.0	0.0	20.0	0.0	6.7
30歳代	16	31.3	0.0	37.5	0.0	0.0	0.0	18.8	0.0	12.5	0.0	0.0	25.0	6.3	6.3
40歳代	13	23.1	0.0	15.4	15.4	0.0	0.0	38.5	0.0	7.7	0.0	0.0	15.4	0.0	15.4
50歳代	12	16.7	0.0	8.3	25.0	0.0	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	25.0	0.0	16.7
60歳代	34	11.8	5.9	0.0	14.7	2.9	2.9	5.9	0.0	2.9	0.0	23.5	32.4	17.6	11.8
70歳以上	42	7.1	2.4	0.0	4.8	0.0	2.4	2.4	0.0	0.0	0.0	83.3	7.1	0.0	9.5
<b>【婚姻状況別】</b>															
結婚している	146	15.1	2.1	9.6	8.9	0.7	1.4	7.5	1.4	6.8	0.0	41.8	18.5	8.2	8.2
結婚していたが、 離別・死別した	23	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0	0.0	0.0	0.0	47.8	26.1	0.0	13.0
結婚していない	31	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.9	3.2	6.5	45.2	12.9	16.1	0.0	19.4
<b>【子どもの有無別】</b>															
子どもがいる	133	13.5	1.5	10.5	8.3	0.8	1.5	6.8	1.5	6.8	0.0	41.4	20.3	7.5	8.3
子どもはいない	19	26.3	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	21.1	0.0	5.3	0.0	36.8	26.3	5.3	5.3

●○経年比較○●

経年比較すると、「家事の負担が大きいため」、「育児の負担が大きいため」、「高齢であるため」がやや減少しています。



※「学生であるため」「高齢であるため」は平成23年調査には設けていない選択肢です。

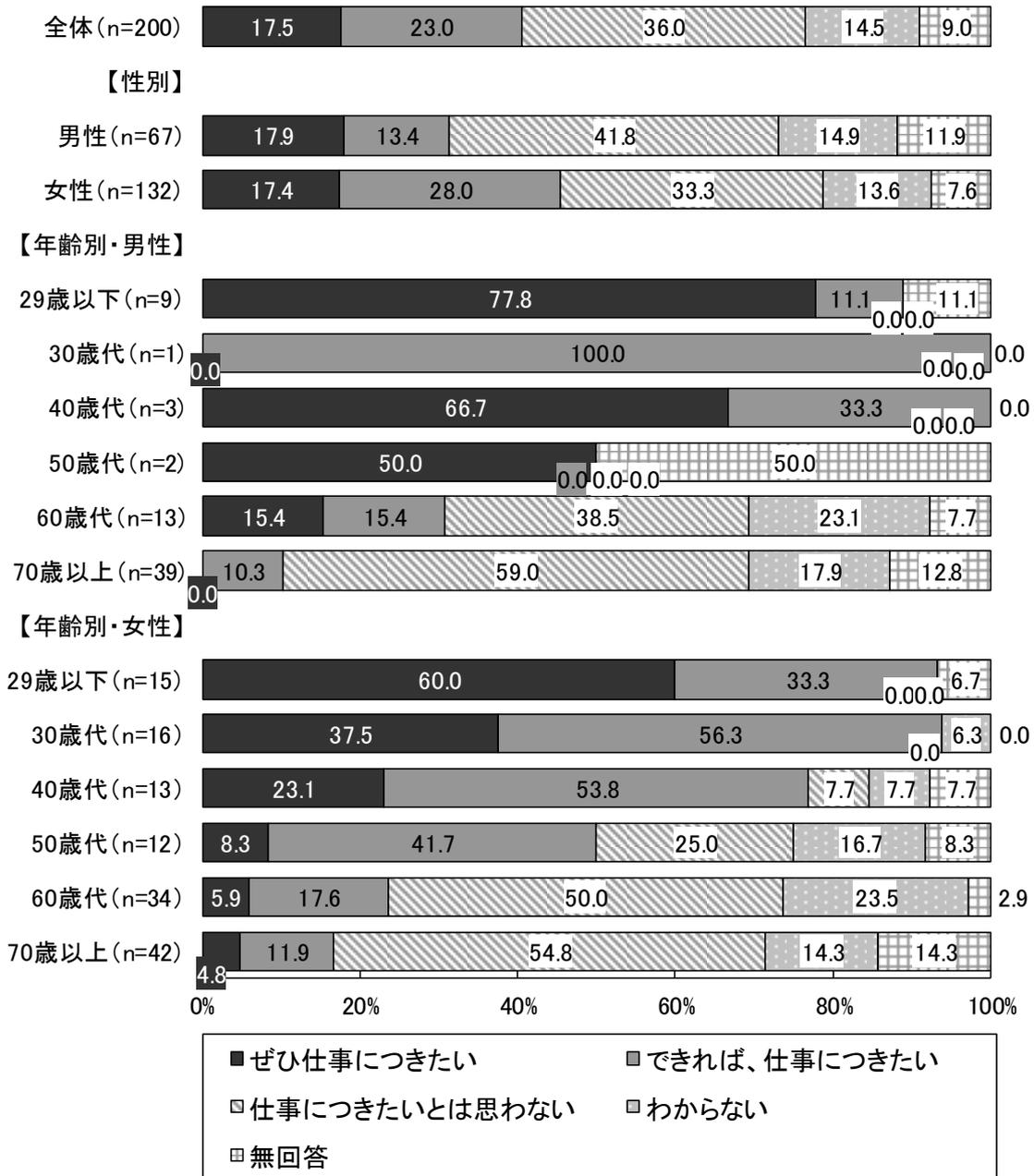
【問6で「2 仕事はしていない」を選択した方】

問6-9 あなたは今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

今後、収入を得る仕事につきたいかについては、「仕事につきたいとは思わない」が36.0%と最も多く、次いで「できれば、仕事につきたい」が23.0%となっています。

性別にみると、女性で「ぜひ仕事につきたい」と「できれば、仕事につきたい」を合わせた“仕事につきたい”が45.4%と、男性に比べて14.1ポイント高く、また男性で「仕事につきたいとは思わない」が41.8%と、女性に比べて8.5ポイント高くなっています。

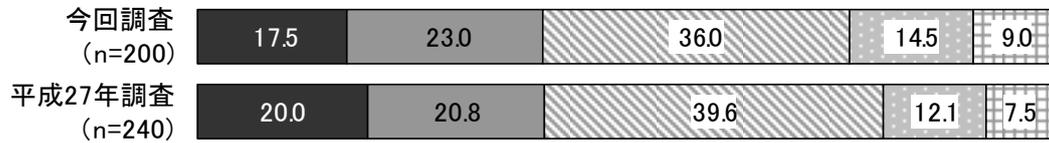
年齢別にみると、男女ともに50歳代以下で“仕事につきたい”との回答が5割を超えて高い割合となっています。



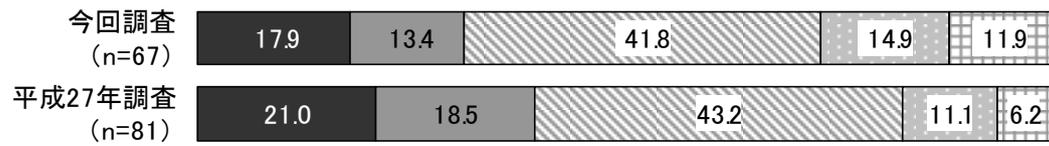
●○経年比較○●

経年比較すると、男性で“仕事につきたい”が8.2ポイント減少しています。

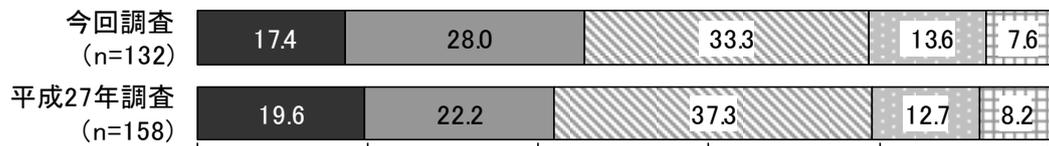
【全体】



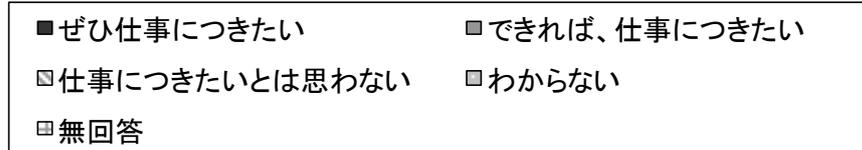
【男性】



【女性】



0% 20% 40% 60% 80% 100%



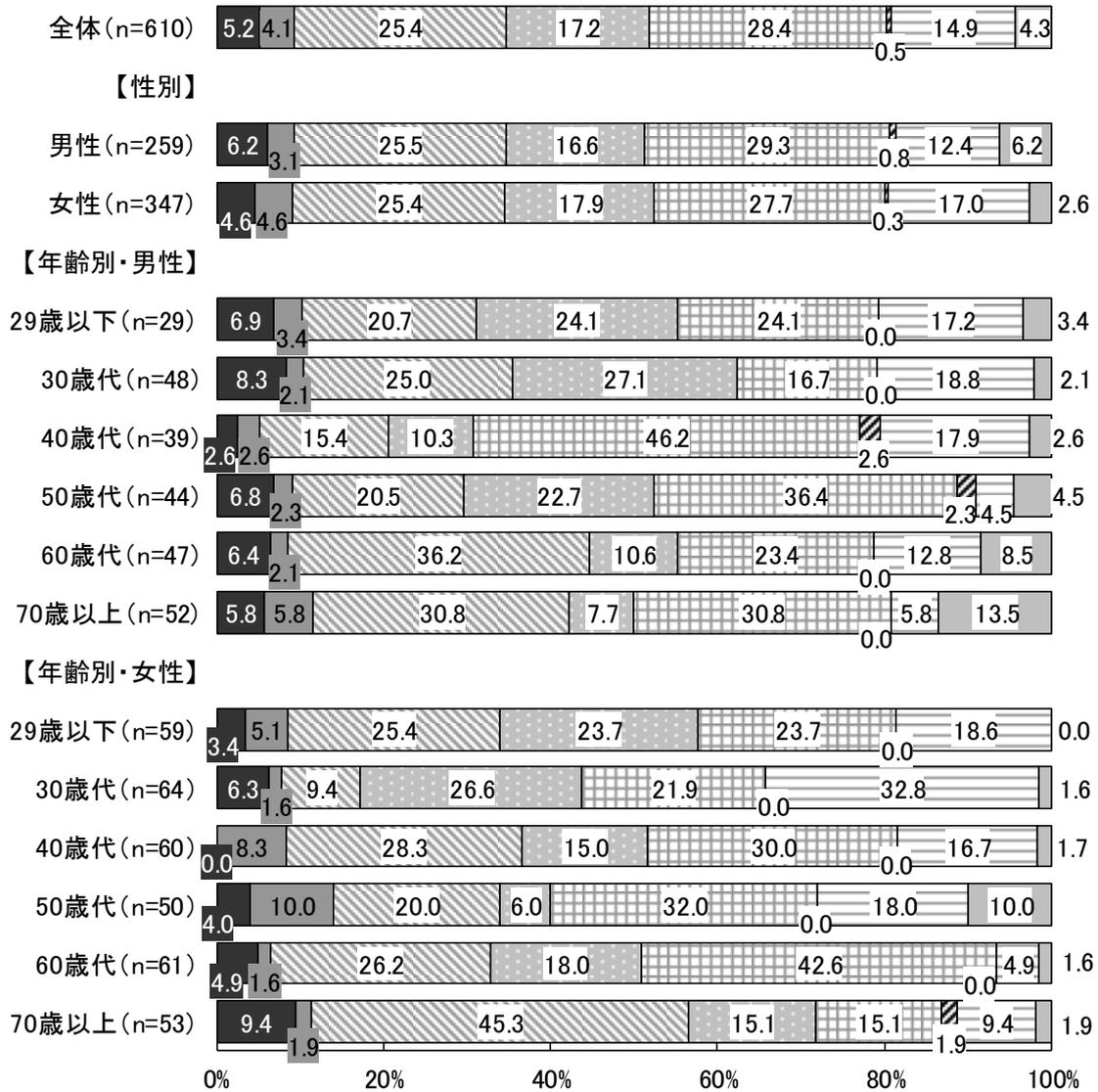
**【ここからは、全員お答えください】**

問7 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

一般的に、女性が仕事を持つことをどう考えるかについては、「子どもができてフルタイムで仕事を続ける方がよい」が28.4%と最も多く、次いで「子どもができたなら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が25.4%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

年齢別にみると、男性の30歳代以下で「子どもができたならパート等に切り替える方がよい」が、男性の60歳代以上と女性の70歳以上で「子どもができたなら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が最も多くなっています。

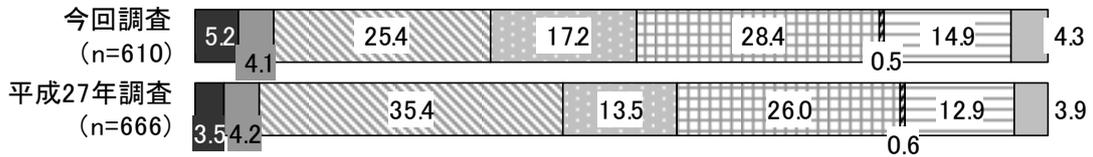


- 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- 子どもができるまでは仕事を持つ方がよい
- 子どもができたなら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
- 子どもができたならパート等に切り替える方がよい
- 子どもができてフルタイムで仕事を続ける方がよい
- 女性は仕事を持たない方がよい
- その他
- 無回答

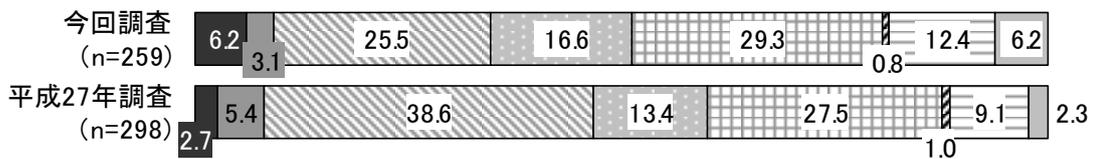
●○経年比較○●

経年比較すると、いずれも「子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が減少しており、「子どもができたらパート等に切り替える方がよい」、「子どもができてフルタイムで仕事を続ける方がよい」がやや増加しています。

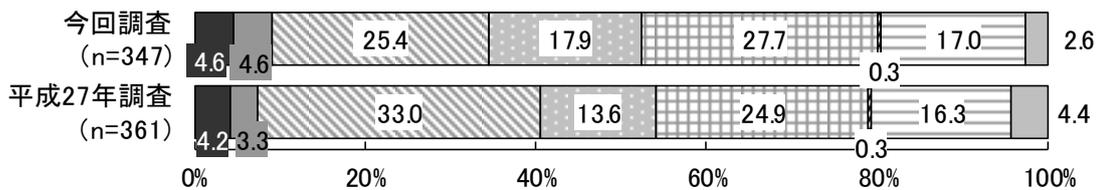
【全体】



【男性】



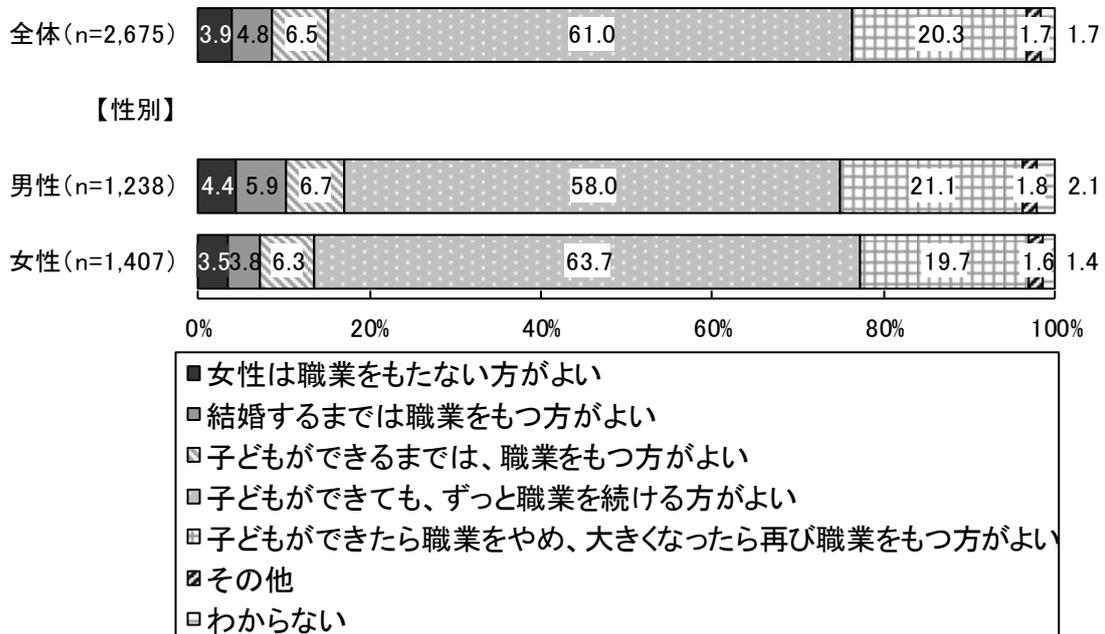
【女性】



- 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- 子どもができるまでは仕事を持つ方がよい
- 子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
- 子どもができたらパート等に切り替える方がよい
- 子どもができてフルタイムで仕事を続ける方がよい
- 女性は仕事を持たない方がよい
- その他
- 無回答

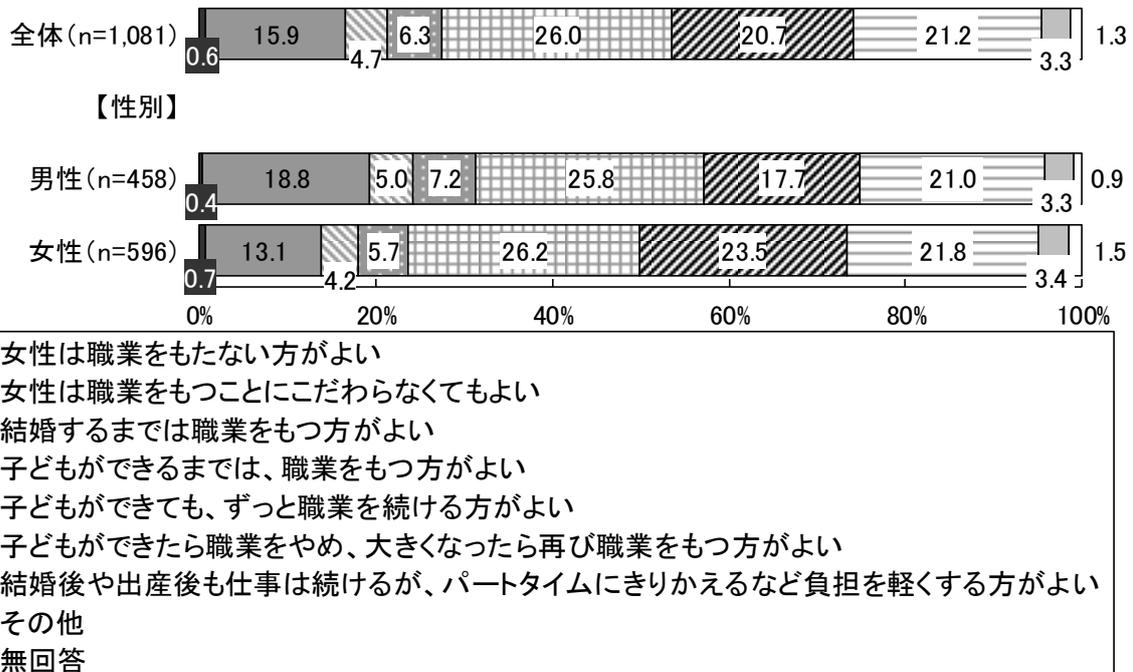
国結果（参考）

国では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が61.0%と最も高く、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」を大きく上回っています。



県結果（参考）

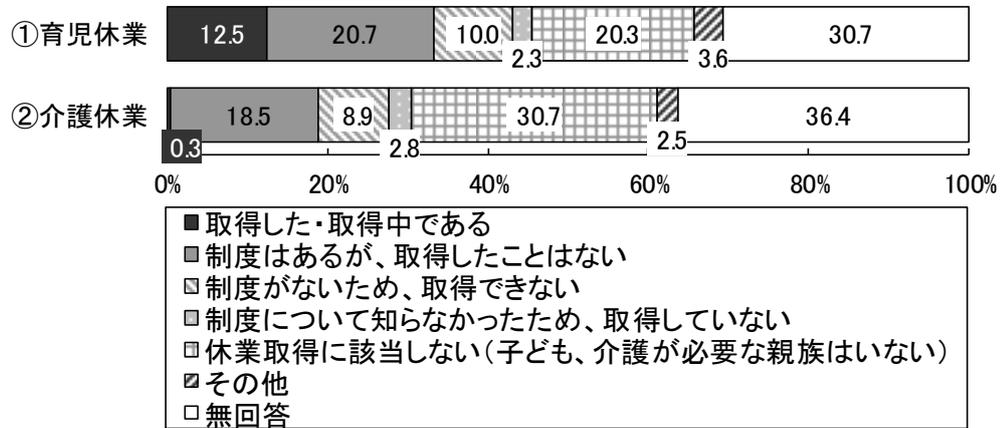
県でも「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」を上回っており、市と同様の傾向です。



問8 あなたは、今までに育児休業・介護休業を取得しましたか。(①と②それぞれ○は1つ)

育児休業・介護休業を取得したことがあるかについては、【①育児休業】では「制度はあるが、取得したことはない」が20.7%と最も多く、【②介護休業】では「休業取得に該当しない(子ども、介護が必要な親族はいない)」が30.7%と最も多くなっています。

(n=610)

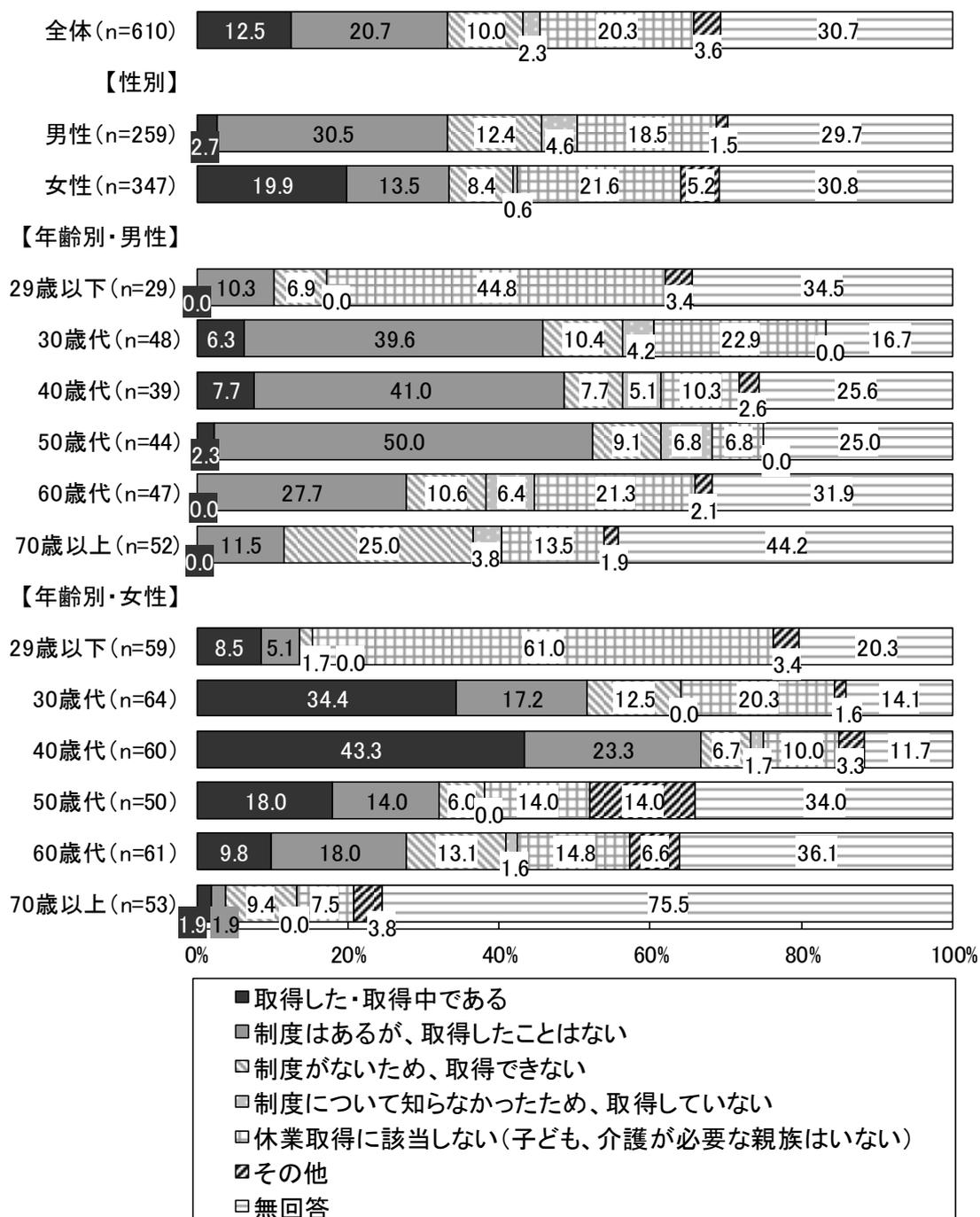


性・年齢別比較

【①育児休業】

育児休業について、性別にみると、男性で「制度はあるが、取得したことはない」が30.5%、女性で「休業取得に該当しない（子ども、介護が必要な親族はいない）」が21.6%と、最も多くなっています。また、女性で「取得した・取得中である」が19.9%となっているものの、男性では2.7%となっています。

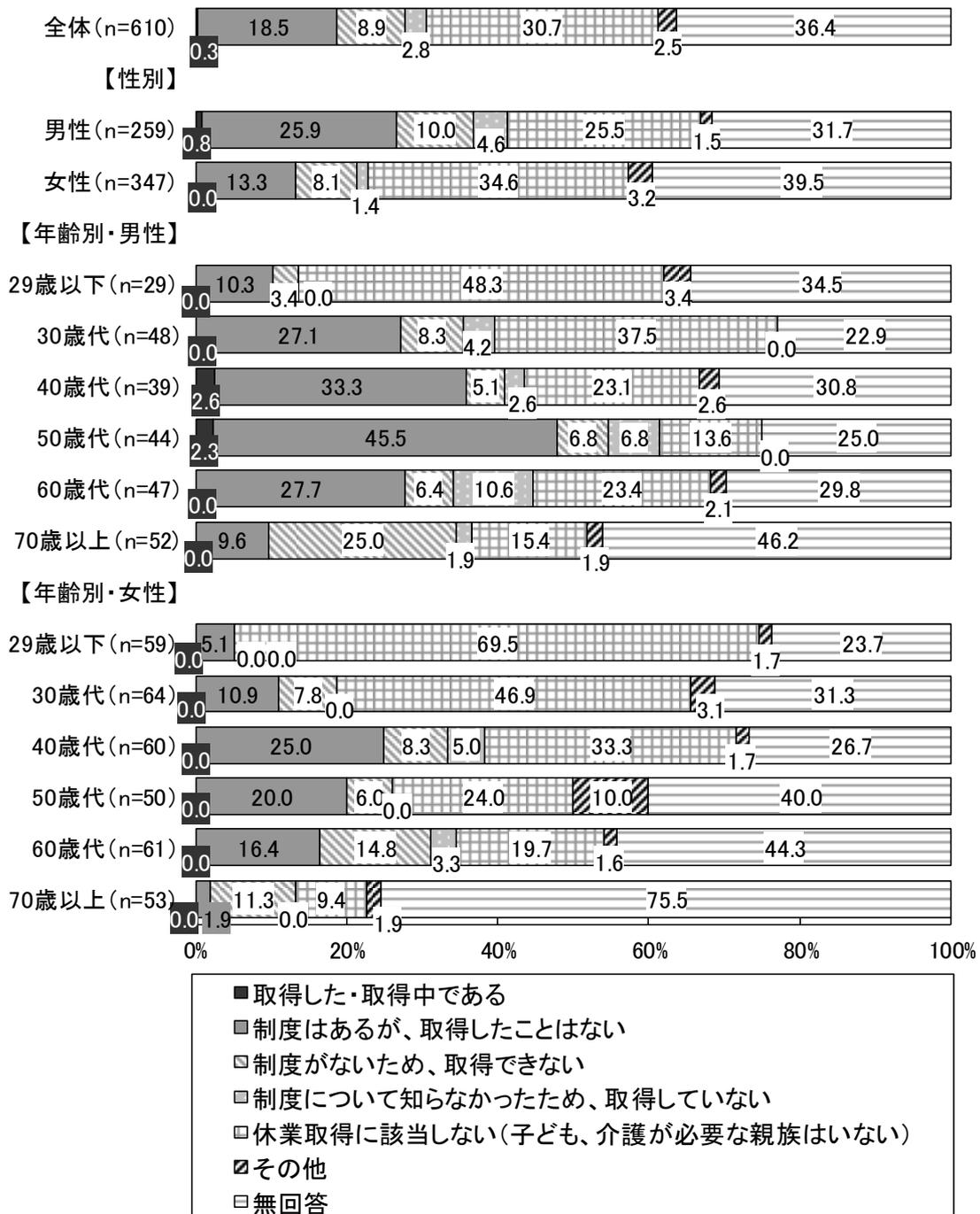
年齢別にみると、女性の30・40歳代で「取得した・取得中である」が3割台半ばを超えて、他の年代に比べて割合が高くなっています。



【②介護休業】

介護休業について、性別にみると、男女ともに「取得した・取得中である」が1%未満、「制度はあるが、取得したことはない」で男性が女性を12.6ポイント上回っています。

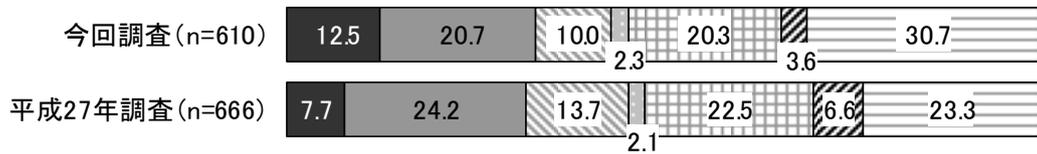
年齢別にみると、男性の40・50歳代で「制度はあるが、取得したことはない」が3割を超えて、他の年代に比べて高くなっています。また、すべての年代で「取得した・取得中である」が低くなっています。



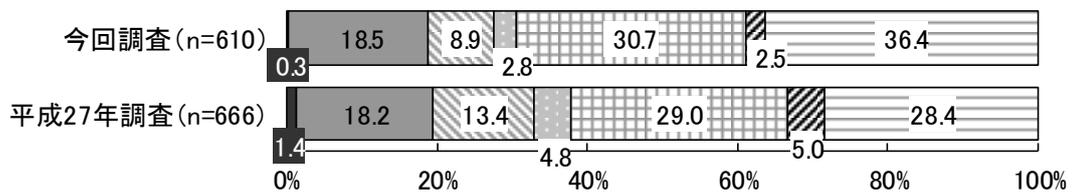
●○経年比較○●

経年比較すると、【①育児休業】では「取得した・取得中である」が12.5%と、平成27年調査に比べて割合がやや高くなっています。【②介護休業】では、ほぼ同様の傾向となっています。

①育児休業



②介護休業



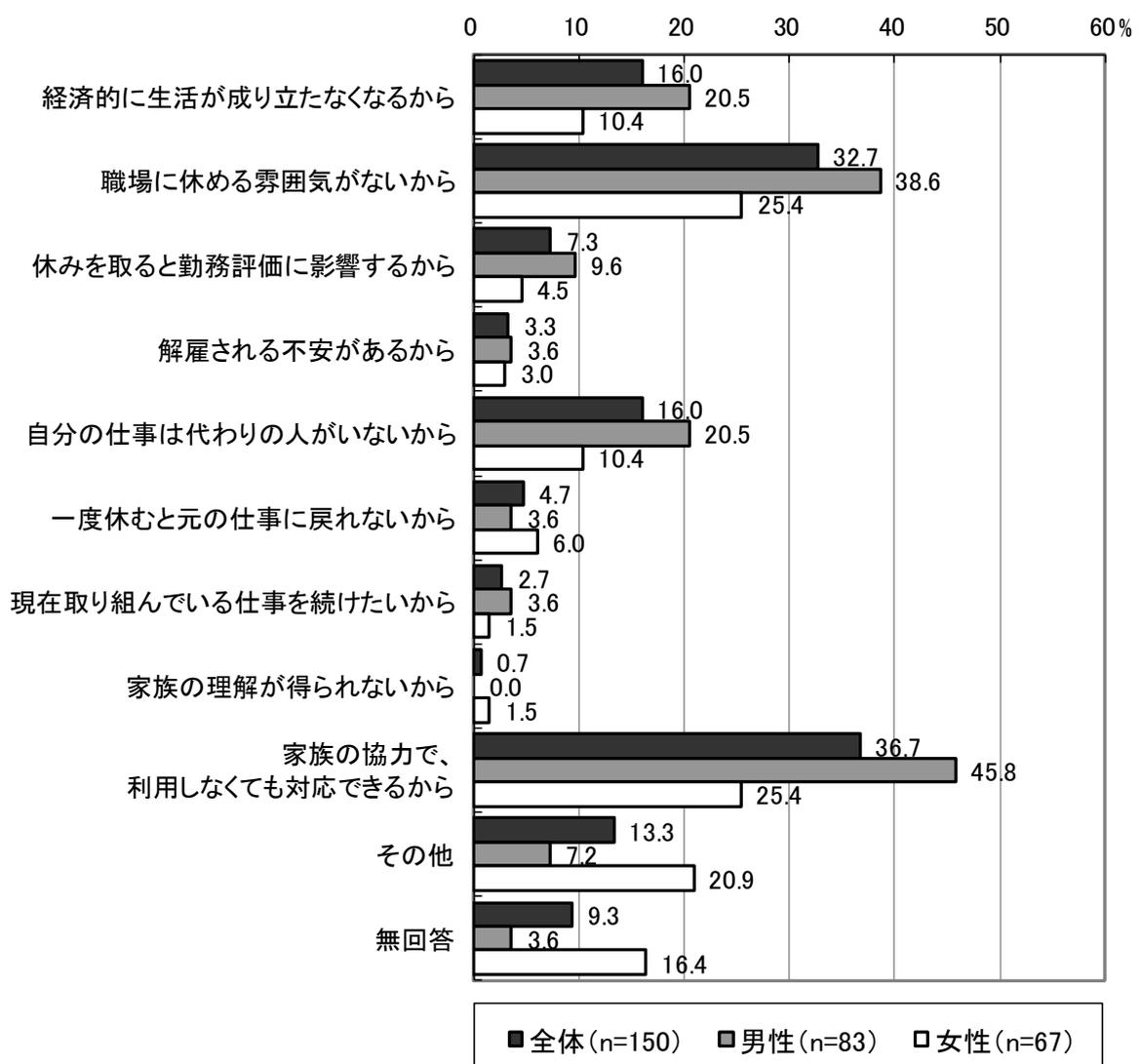
- 取得した・取得中である
- ▣制度はあるが、取得したことはない
- 制度がないため、取得できない
- 制度について知らなかったため、取得していない
- 休業取得に該当しない(子ども、介護が必要な親族はいない)
- ▨その他
- 無回答

【問8の①または②で「2 制度はあるが、取得したことはない」を選択した方】

問8-1 育児休業・介護休業の制度を利用しない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

育児休業・介護休業の制度を利用しない理由については、「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」が36.7%と最も多く、次いで「職場に休める雰囲気がないから」が32.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」、「職場に休める雰囲気がないから」が多くなっていますが、「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」は男性が女性を20.4ポイント上回っています。また、「経済的に生活が成り立たなくなるから」、「職場に休める雰囲気がないから」、「自分の仕事は代替りの人がいないから」も男性が女性を10ポイント以上上回っています。



### 性・年齢別、共働きの状況別比較

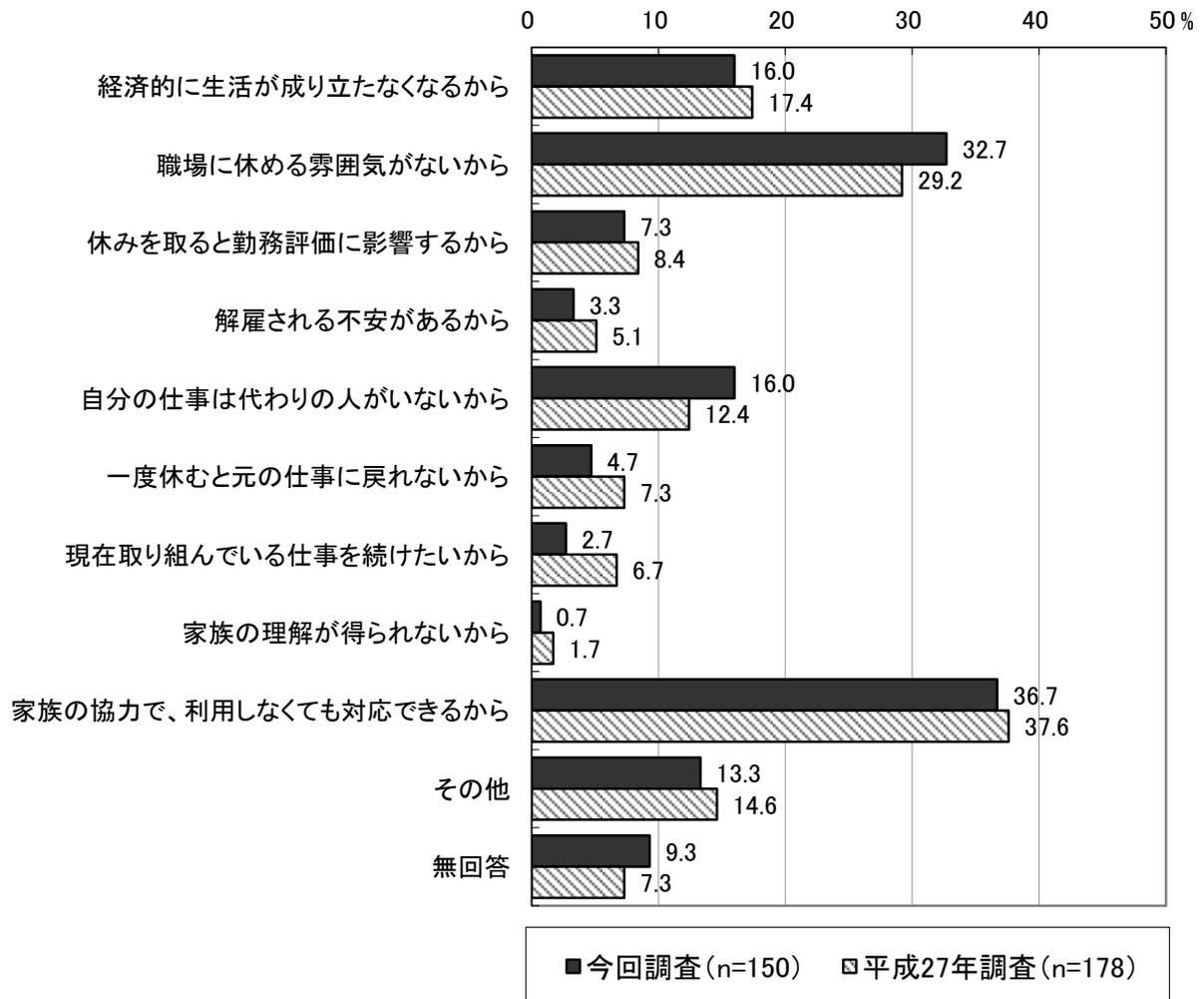
年齢別にみると、男女ともに、「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」、「職場に休める雰囲気がないから」が多くなっていますが、男性の29歳以下で「経済的に生活が成り立たなくなるから」、「休みを取ると勤務評価に影響するから」、「自分の仕事は代わりの人がないから」が、他の年代に比べて割合が高くなっています。

共働きの状況別にみると、[共働き]、[夫だけ仕事を持っている]で「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」が最も多くなっています。

(%)	合計	なる経済的に生活が成り立たなく	ら職場に休める雰囲気がないか	す休みを取ると勤務評価に影響	解雇される不安があるから	ないからの仕事は代わりの人がい	い一度休むと元の仕事に戻れな	け現在取り組んでいる仕事を続	家族の理解が得られないから	も家族の協力で、利用しなくて	その他	無回答
【年齢別・男性】												
29歳以下	3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7
30歳代	19	26.3	47.4	15.8	15.8	15.8	5.3	5.3	0.0	36.8	10.5	5.3
40歳代	16	25.0	43.8	6.3	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	56.3	0.0	0.0
50歳代	24	25.0	25.0	4.2	0.0	12.5	8.3	0.0	0.0	54.2	12.5	0.0
60歳代	15	6.7	33.3	6.7	0.0	26.7	0.0	6.7	0.0	46.7	6.7	0.0
70歳以上	6	0.0	66.7	16.7	0.0	66.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0
【年齢別・女性】												
29歳以下	5	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	60.0	20.0	0.0
30歳代	14	0.0	35.7	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	35.7	21.4
40歳代	20	30.0	45.0	15.0	0.0	15.0	0.0	0.0	0.0	10.0	20.0	10.0
50歳代	13	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	38.5	15.4	30.8
60歳代	14	0.0	7.1	0.0	7.1	21.4	14.3	0.0	7.1	35.7	14.3	14.3
70歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
【共働き状況別】												
共働き	79	17.7	32.9	7.6	2.5	13.9	5.1	0.0	1.3	32.9	13.9	8.9
夫だけ仕事を持っている	30	13.3	43.3	3.3	3.3	16.7	10.0	3.3	0.0	46.7	6.7	10.0
妻だけ仕事を持っている	1	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
夫婦とも無職	14	0.0	35.7	7.1	7.1	42.9	0.0	7.1	0.0	28.6	14.3	7.1
その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

●○経年比較○●

経年比較すると、同様の傾向となっています。



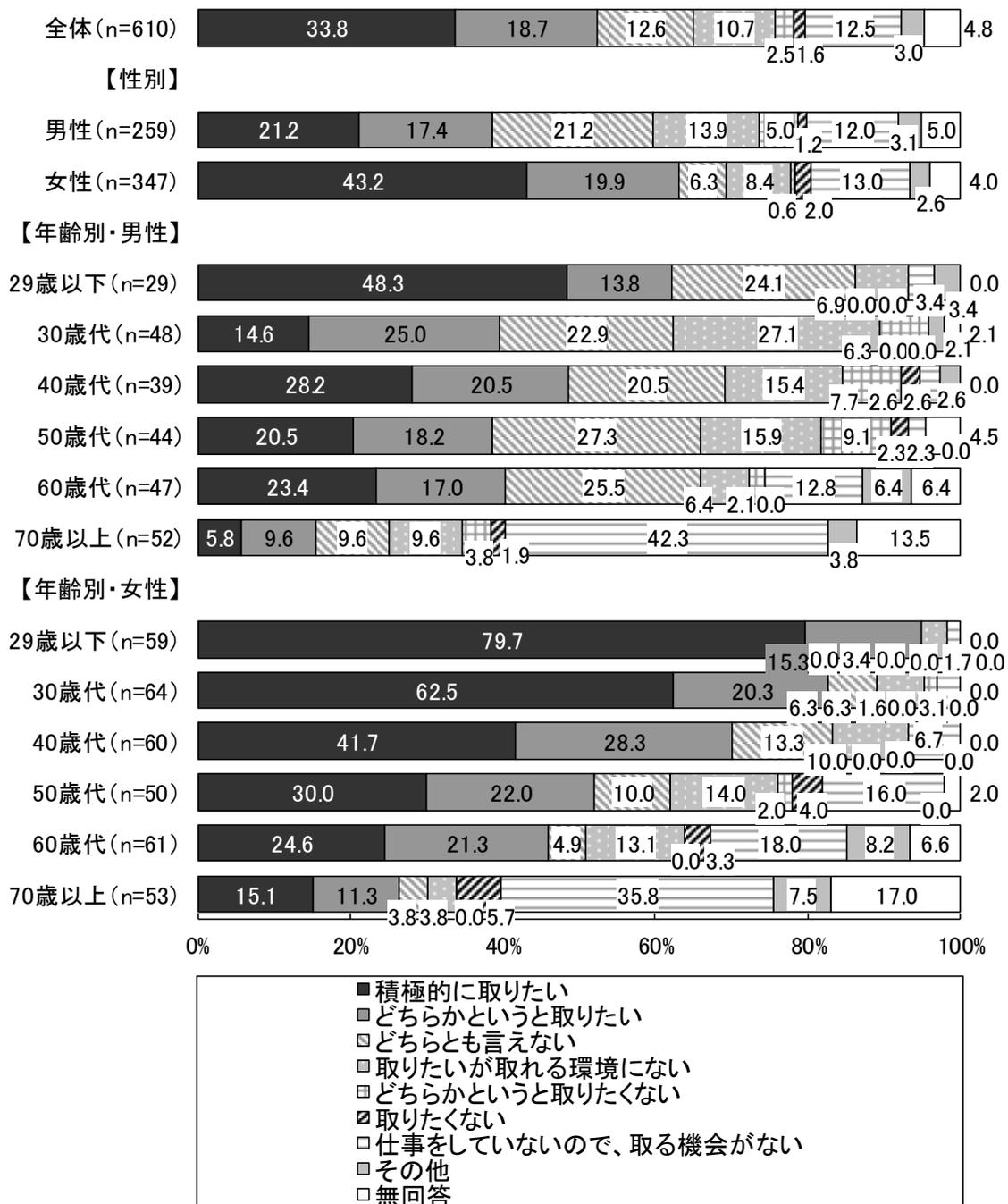
**【ここからは、全員お答えください】**

問9 育児休業や介護休業を取得することについて、あなたはどうお考えですか。(○は1つ)  
※現在取得する予定がない方も、将来取る必要が生じた場合としてお答えください。

育児休業や介護休業を取得することについての考えは、全体では「積極的に取りたい」が33.8%と最も多く、次いで「どちらかというに取りたい」が18.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「積極的に取りたい」が最も多くなっていますが、女性では43.2%と、男性を22.0ポイント上回っています。また、男性で「どちらとも言えない」が21.2%と、女性を14.9ポイント上回っています。

年齢別にみると、男性の29歳以下と女性の40歳以下で「積極的に取りたい」が4割を超えて高くなっています。また、女性では年代が上がるにつれ、「積極的に取りたい」の割合が低くなっています。

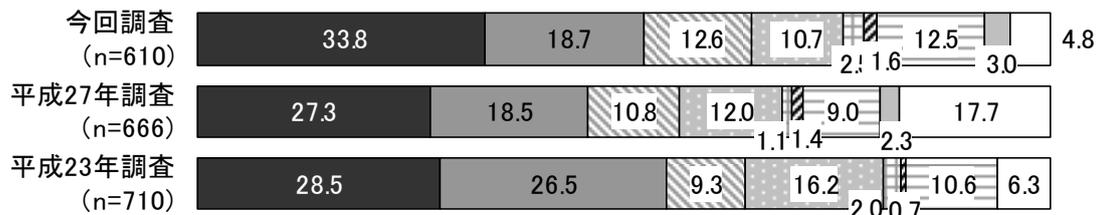


●○経年比較○●

経年比較すると、女性の「積極的に取りたい」が7.7ポイント増加しています。

また、全体では「積極的に取りたい」と「どちらかという取りたい」を合わせた“取りたい”が平成27年調査調査の割合をやや上回っていますが、平成23年調査調査と比較すると、わずかに減少しています。

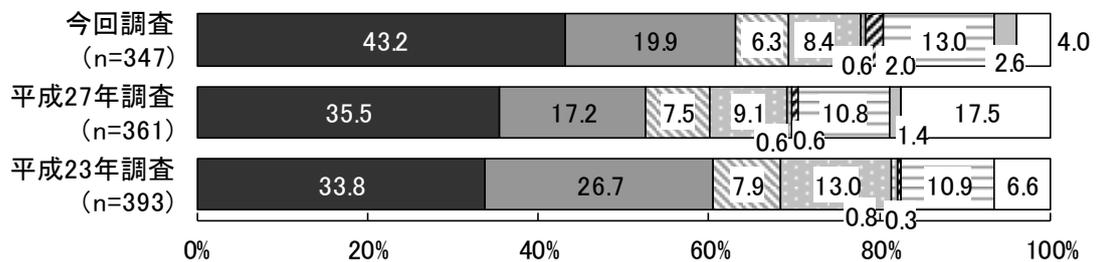
【全体】



【男性】



【女性】

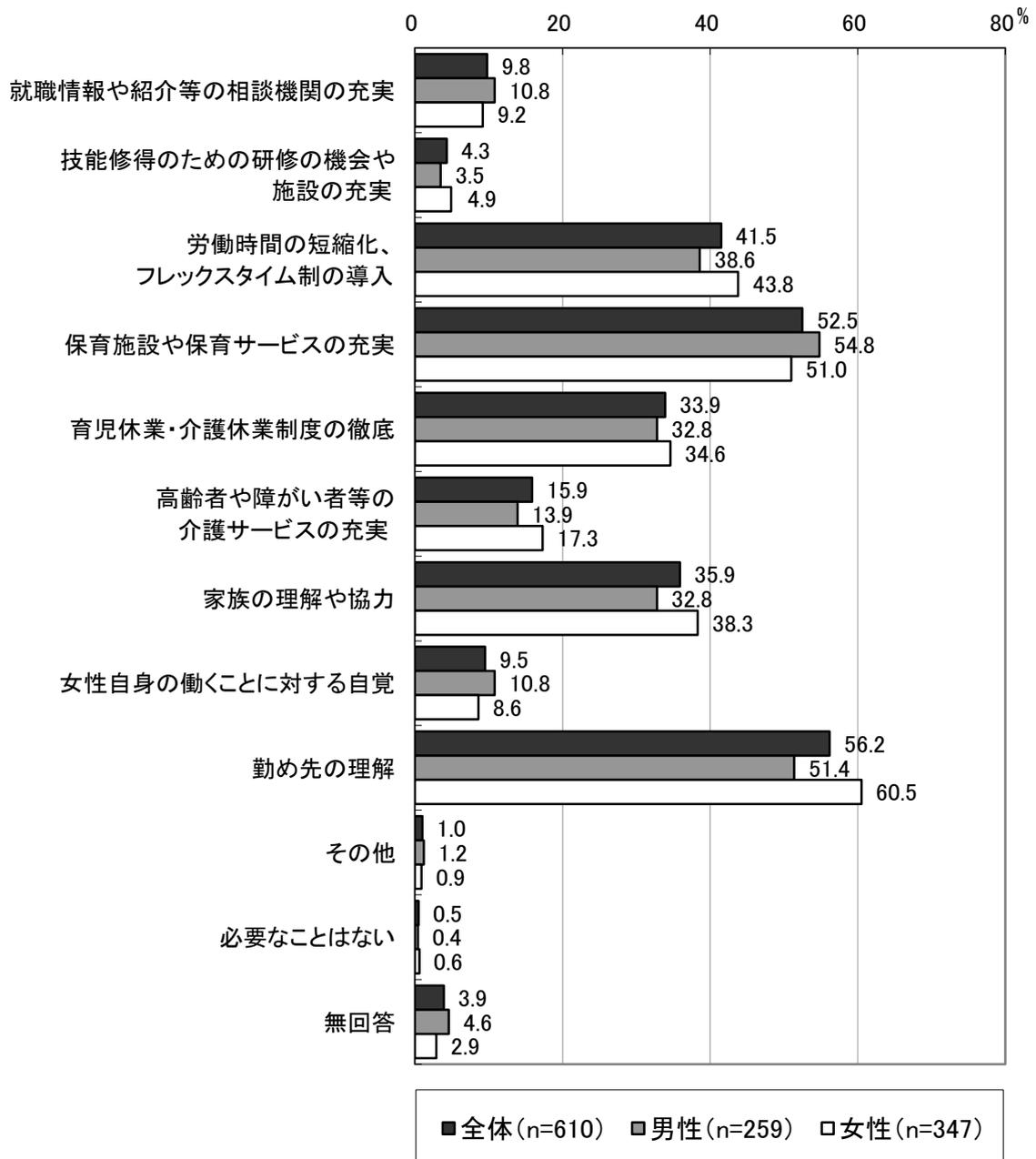


- 積極的に取りたい
- ▣ どちらかという取りたい
- ▨ どちらとも言えない
- ▧ どちらかという取りたくない
- ▩ 仕事をしていないので、取る機会がない
- 無回答
- ▤ 取りたくない
- ▥ その他

問 10 女性が結婚・出産後も働き続けるため、また再就職するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

女性が結婚・出産後も働き続けるため、また再就職するために必要なことについては、「勤め先の理解」が56.2%と最も多く、次いで「保育施設や保育サービスの充実」が52.5%、「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」が41.5%となっています。

性別にみると、男性で「保育施設や保育サービスの充実」が54.8%、女性で「勤め先の理解」が60.5%と最も多くなっています。また、「勤め先の理解」では、女性が男性を9.1ポイント上回っています。



### 性・年齢別、共働きの状況別、子どもの有無別比較

年齢別にみると、男性の40歳代以下と女性の50歳代を除くすべての年代で「勤め先の理解」、男性の50歳代以上で「保育施設や保育サービスの充実」、女性の50歳代で「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」「家族の理解や協力」が最も多くなっています。また、男性の30歳代と女性の30・40歳代で「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」が5割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。

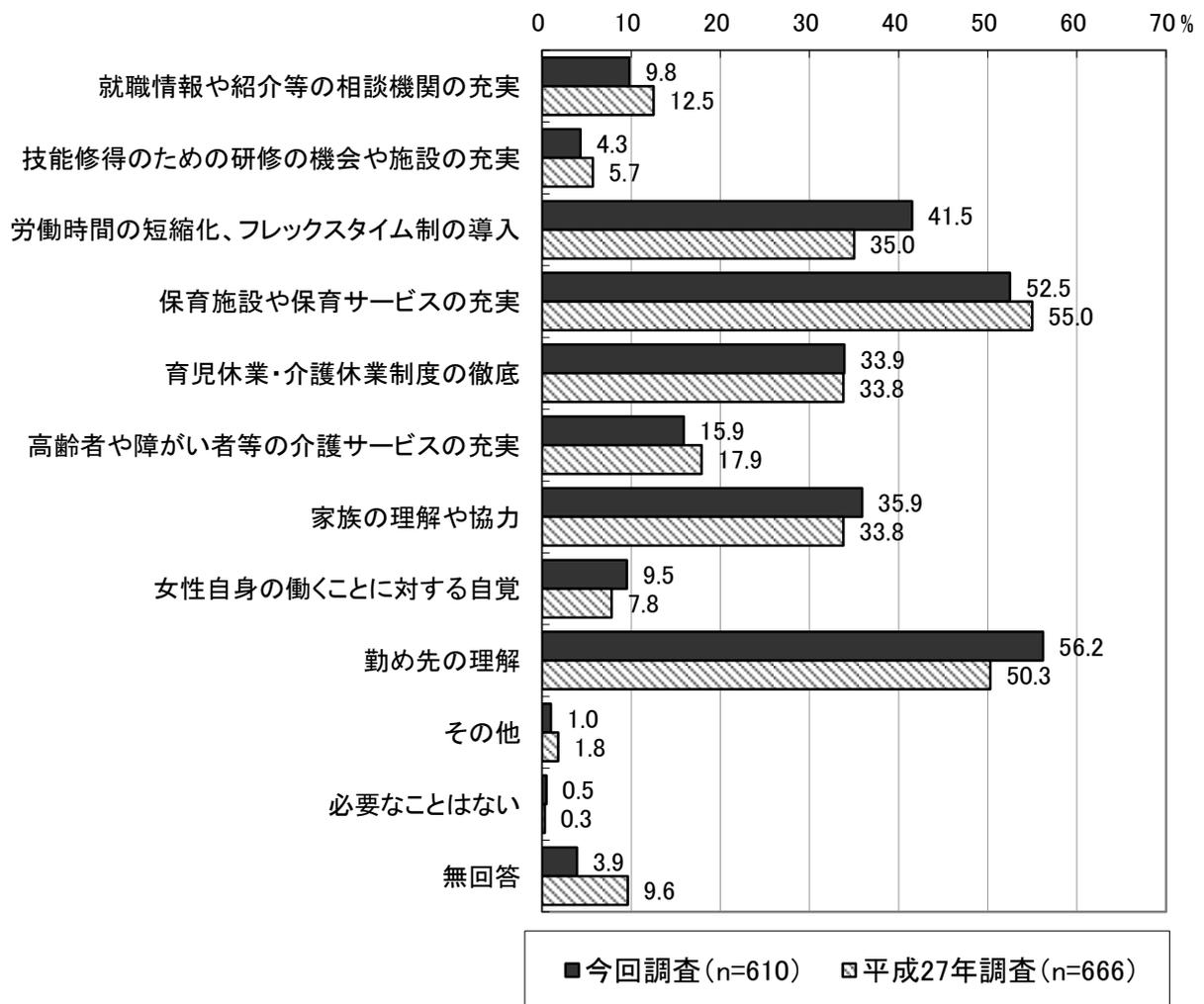
共働きの状況別にみると、[その他]で「育児休業・介護休業制度の徹底」が57.1%と、他に比べて割合が高くなっています。

子どもの有無別にみると、いずれも「勤め先の理解」が最も多く、次いで「保育施設や保育サービスの充実」となっており、全体と同様の傾向となっています。

	合計	就職情報の充実	会技能修得のための研修の機会	労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入	保育施設や保育サービスの充実	育児休業・介護休業制度の徹底	高齢者や障がい者等の介護サービスの充実	家族の理解や協力	女性自身の働くことに対する自覚	勤め先の理解	その他	必要なことはない	無回答
(%)													
【年齢別・男性】													
29歳以下	29	20.7	0.0	34.5	51.7	27.6	6.9	34.5	17.2	65.5	0.0	0.0	0.0
30歳代	48	14.6	2.1	56.3	58.3	31.3	4.2	29.2	10.4	62.5	0.0	2.1	2.1
40歳代	39	10.3	2.6	48.7	53.8	30.8	10.3	35.9	5.1	56.4	5.1	0.0	2.6
50歳代	44	6.8	4.5	36.4	61.4	34.1	22.7	38.6	11.4	56.8	0.0	0.0	2.3
60歳代	47	10.6	2.1	27.7	55.3	34.0	12.8	36.2	8.5	40.4	0.0	0.0	6.4
70歳以上	52	5.8	7.7	28.8	48.1	36.5	23.1	25.0	13.5	34.6	1.9	0.0	11.5
【年齢別・女性】													
29歳以下	59	6.8	5.1	45.8	62.7	50.8	8.5	28.8	8.5	71.2	1.7	1.7	0.0
30歳代	64	12.5	7.8	60.9	67.2	28.1	7.8	40.6	4.7	71.9	1.6	0.0	0.0
40歳代	60	15.0	8.3	61.7	43.3	30.0	15.0	38.3	8.3	70.0	1.7	0.0	0.0
50歳代	50	6.0	0.0	44.0	42.0	36.0	30.0	44.0	12.0	42.0	0.0	2.0	2.0
60歳代	61	4.9	1.6	31.1	54.1	37.7	19.7	41.0	9.8	59.0	0.0	0.0	4.9
70歳以上	53	9.4	5.7	15.1	32.1	24.5	26.4	37.7	9.4	43.4	0.0	0.0	11.3
【共働き状況別】													
共働き	230	9.6	6.1	50.4	54.8	31.3	15.7	42.6	8.7	61.3	1.3	0.4	1.3
夫だけ仕事を持っている	95	10.5	1.1	41.1	55.8	35.8	14.7	31.6	6.3	55.8	0.0	1.1	2.1
妻だけ仕事を持っている	12	16.7	0.0	41.7	50.0	25.0	25.0	33.3	8.3	66.7	0.0	0.0	8.3
夫婦とも無職	85	7.1	3.5	30.6	40.0	35.3	23.5	30.6	8.2	43.5	1.2	0.0	8.2
その他	7	0.0	0.0	14.3	57.1	57.1	14.3	42.9	0.0	42.9	0.0	0.0	14.3
【子どもの有無別】													
子どもがいる	403	9.4	3.5	42.4	52.9	33.0	17.6	38.0	8.2	56.1	0.7	0.2	4.0
子どもはいない	55	9.1	5.5	43.6	49.1	40.0	16.4	36.4	9.1	54.5	1.8	1.8	1.8

●○経年比較○●

経年比較すると、「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」、「勤め先の理解」がやや増加しています。

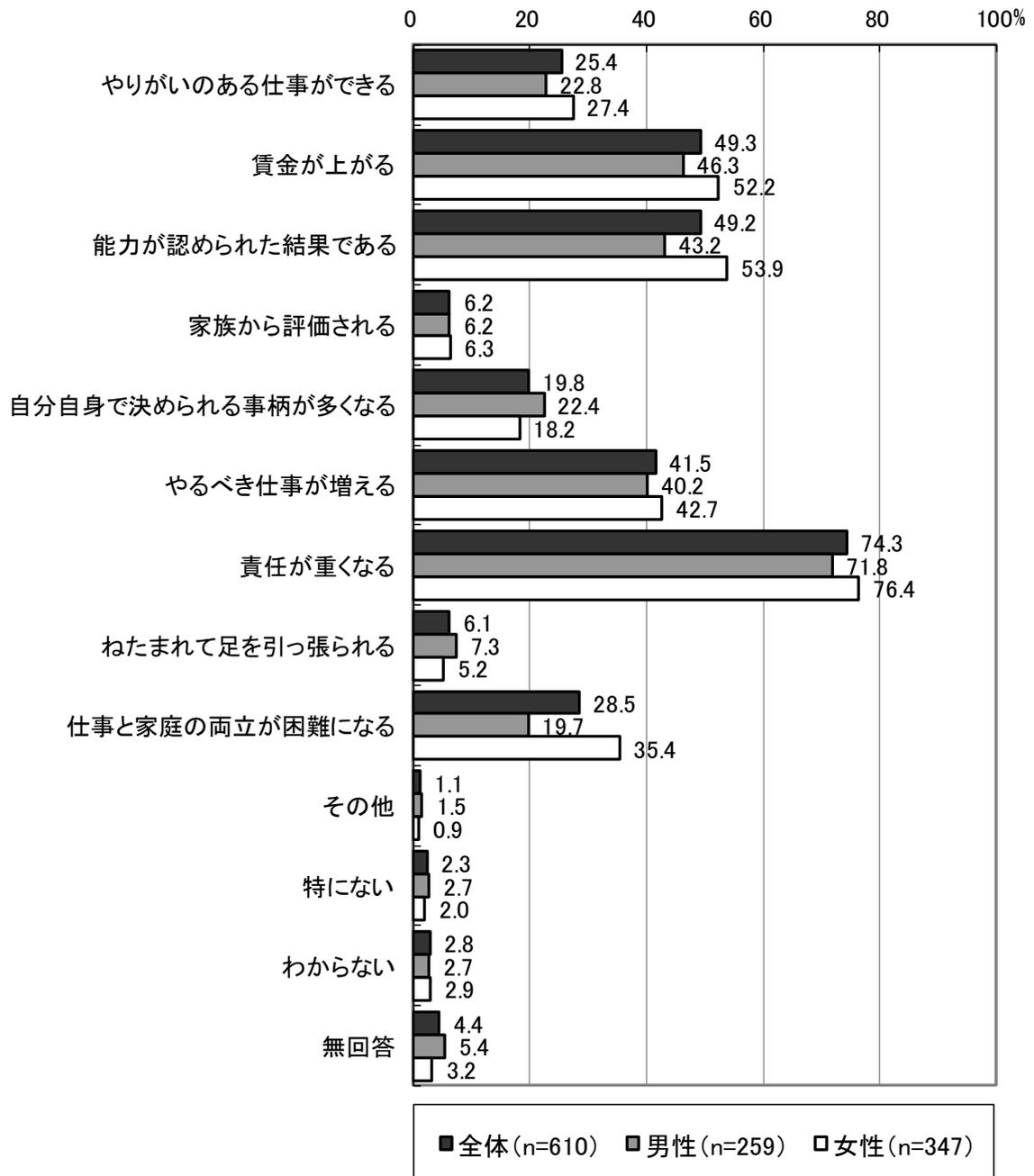


問 11 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

管理職以上に昇進することへのイメージについては、「責任が重くなる」が74.3%と最も多く、次いで「賃金が上がる」が49.3%、「能力が認められた結果である」が49.2%となっています。

性別にみると、女性で「能力が認められた結果である」が53.9%、「仕事と家庭の両立が困難になる」が35.4%と、女性が男性を10ポイント以上上回っています。



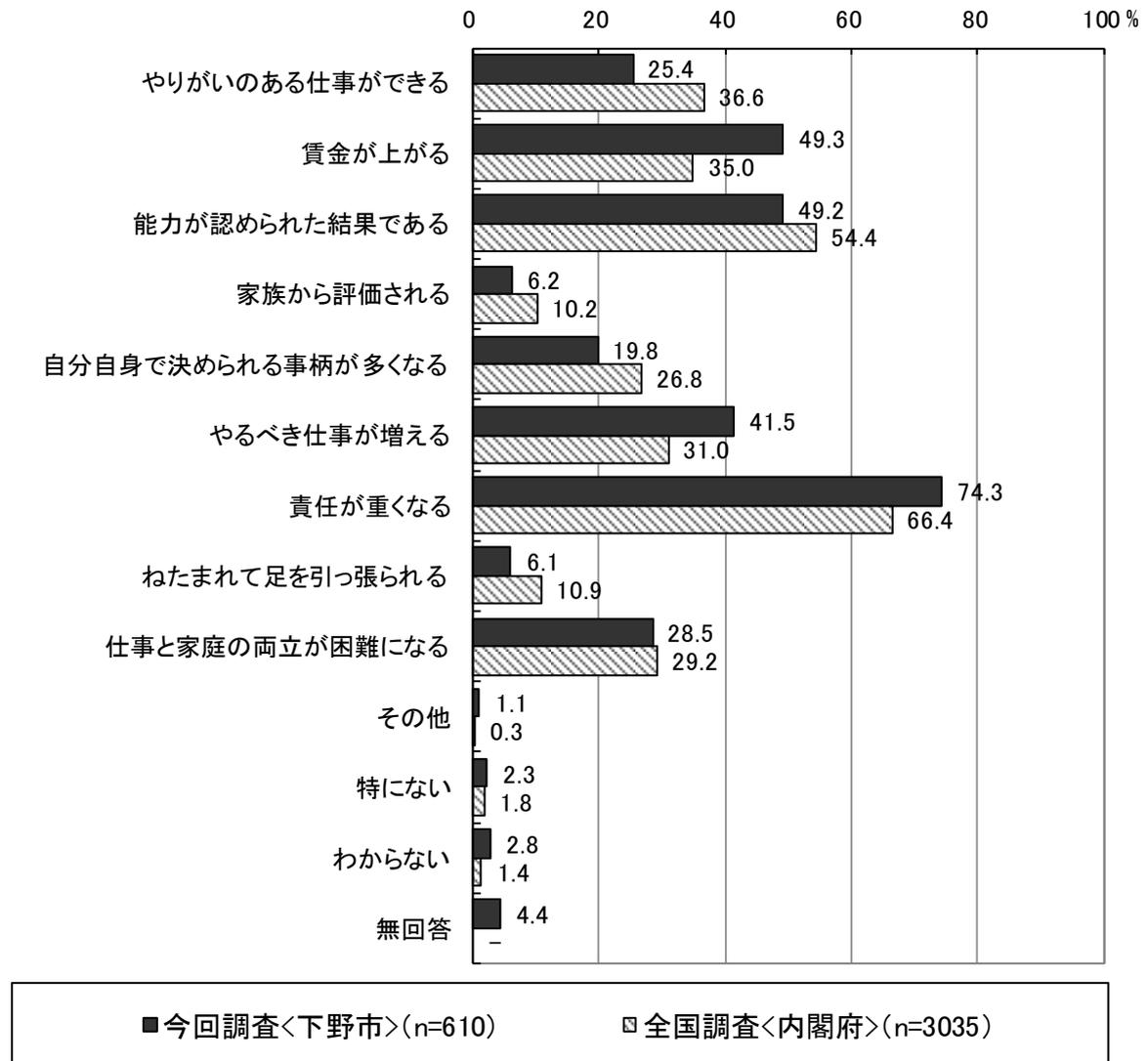
## 性・年齢別比較

年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「責任が重くなる」が最も多くなっています。また、男女ともに50歳以下で「賃金上がる」が4割半ばを超えて、割合が高くなっています。女性の30歳代で「やるべき仕事が増える」が71.9%と、他の性年代に比べて割合が高くなっています。

(%)	合計	きりやりのある仕事で	賃金上がる	能力が認められた結果で	家族から評価される	柄が多くなる	自分自身で決められる事	やるべき仕事が増える	責任が重くなる	ねたまれて足を引っ張られる	仕事と家庭の両立が困難になる	その他	特にない	わからない	無回答
<b>【年齢別・男性】</b>															
29歳以下	29	31.0	65.5	48.3	10.3	27.6	55.2	82.8	6.9	20.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	48	16.7	56.3	29.2	10.4	25.0	52.1	85.4	10.4	20.8	6.3	0.0	4.2	2.1	
40歳代	39	20.5	48.7	46.2	5.1	23.1	43.6	66.7	12.8	23.1	0.0	2.6	0.0	2.6	
50歳代	44	29.5	54.5	43.2	2.3	13.6	52.3	77.3	6.8	29.5	0.0	0.0	0.0	4.5	
60歳代	47	17.0	38.3	51.1	4.3	21.3	34.0	63.8	6.4	17.0	0.0	6.4	2.1	6.4	
70歳以上	52	25.0	25.0	44.2	5.8	25.0	13.5	59.6	1.9	9.6	1.9	5.8	7.7	13.5	
<b>【年齢別・女性】</b>															
29歳以下	59	32.2	64.4	62.7	13.6	27.1	39.0	84.7	3.4	25.4	1.7	0.0	1.7	0.0	
30歳代	64	29.7	67.2	57.8	7.8	21.9	71.9	89.1	1.6	42.2	1.6	0.0	0.0	0.0	
40歳代	60	25.0	65.0	56.7	1.7	16.7	45.0	85.0	3.3	38.3	0.0	1.7	0.0	0.0	
50歳代	50	24.0	46.0	44.0	0.0	20.0	42.0	74.0	4.0	34.0	0.0	4.0	4.0	4.0	
60歳代	61	24.6	41.0	57.4	1.6	14.8	31.1	72.1	9.8	39.3	0.0	4.9	6.6	1.6	
70歳以上	53	28.3	24.5	41.5	13.2	7.5	22.6	49.1	9.4	32.1	1.9	1.9	5.7	15.1	

## 国比較

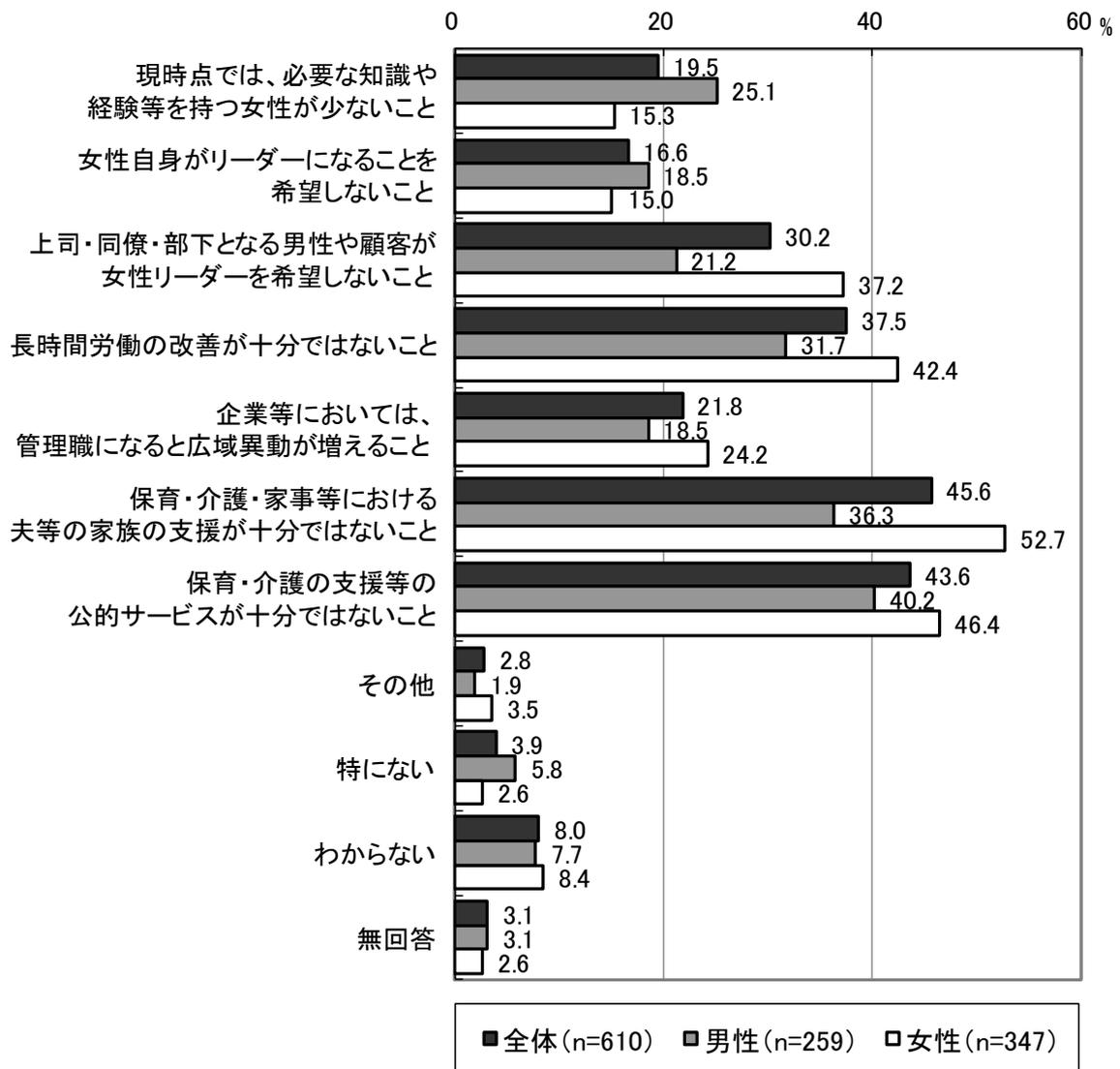
管理職以上に昇進することへのイメージについて、全国調査と比較すると、「賃金が上がる」と「やるべき仕事が増える」で下野市が10ポイント以上上回っています。また、「やりがいのある仕事ができる」で全国調査が10ポイント以上上回っています。



問 12 あなたは、政治・経済・地域等の各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

政治・経済・地域等の各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものについては、「保育・介護・家事等における夫等の家族の支援が十分ではないこと」が45.6%と最も多く、次いで「保育・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと」が43.6%、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が37.5%となっています。

性別にみると、男性で「現時点では、必要な知識や経験等を持つ女性が少ないこと」が25.1%と、女性に比べて9.8ポイント、女性で「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」、「長時間労働の改善が十分ではないこと」、「保育・介護・家事等における夫等の家族の支援が十分ではないこと」が、男性に比べて10ポイント以上上回っています。



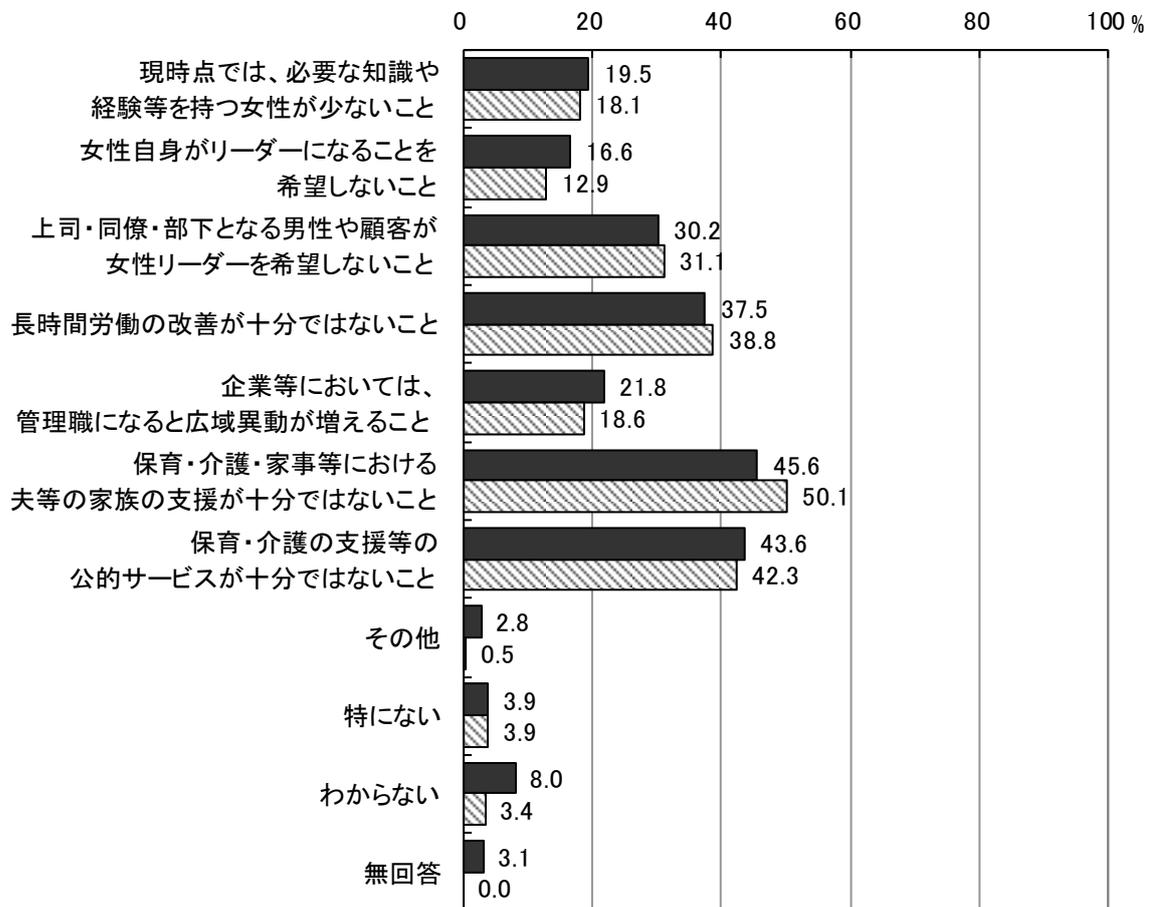
## 性・年齢別比較

年齢別にみると、男女ともにほぼすべての年代で「保育・介護・家事等における夫等の家族の支援が十分ではないこと」、「保育・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと」、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が多くなっています。また、男性の40歳代と女性の40歳代以下で「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が3割台後半を超えており、男性の70歳以上で「現時点では、必要な知識や経験等を持つ女性が少ないこと」が32.7%と、他の年代に比べて割合が高くなっています。

(%)	合計	現時点では、必要な知識や経験等を持つ女性が少ないこと	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	企業等において、管理職になると広域異動が増えること	保育・介護・家事等における夫等の家族の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと	その他	特になし	わからない	無回答
【年齢別・男性】												
29歳以下	29	20.7	20.7	17.2	6.9	3.4	37.9	34.5	6.9	13.8	6.9	0.0
30歳代	48	20.8	22.9	20.8	35.4	14.6	37.5	39.6	0.0	6.3	10.4	2.1
40歳代	39	23.1	23.1	38.5	41.0	20.5	38.5	35.9	5.1	0.0	2.6	0.0
50歳代	44	22.7	13.6	27.3	29.5	18.2	36.4	52.3	0.0	9.1	4.5	4.5
60歳代	47	27.7	17.0	17.0	38.3	23.4	40.4	34.0	2.1	2.1	6.4	4.3
70歳以上	52	32.7	15.4	9.6	30.8	25.0	28.8	42.3	0.0	5.8	13.5	5.8
【年齢別・女性】												
29歳以下	59	1.7	13.6	54.2	39.0	18.6	59.3	57.6	8.5	0.0	11.9	0.0
30歳代	64	10.9	21.9	40.6	57.8	28.1	46.9	43.8	3.1	0.0	6.3	0.0
40歳代	60	23.3	10.0	50.0	43.3	25.0	48.3	43.3	1.7	0.0	5.0	1.7
50歳代	50	8.0	20.0	30.0	40.0	22.0	62.0	56.0	4.0	4.0	6.0	4.0
60歳代	61	24.6	14.8	23.0	36.1	26.2	60.7	45.9	3.3	8.2	8.2	3.3
70歳以上	53	22.6	9.4	22.6	35.8	24.5	39.6	32.1	0.0	3.8	13.2	7.5

国比較

政治・経済・地域等の各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものについて、全国調査と比較しても、大きな差は見られませんでした。



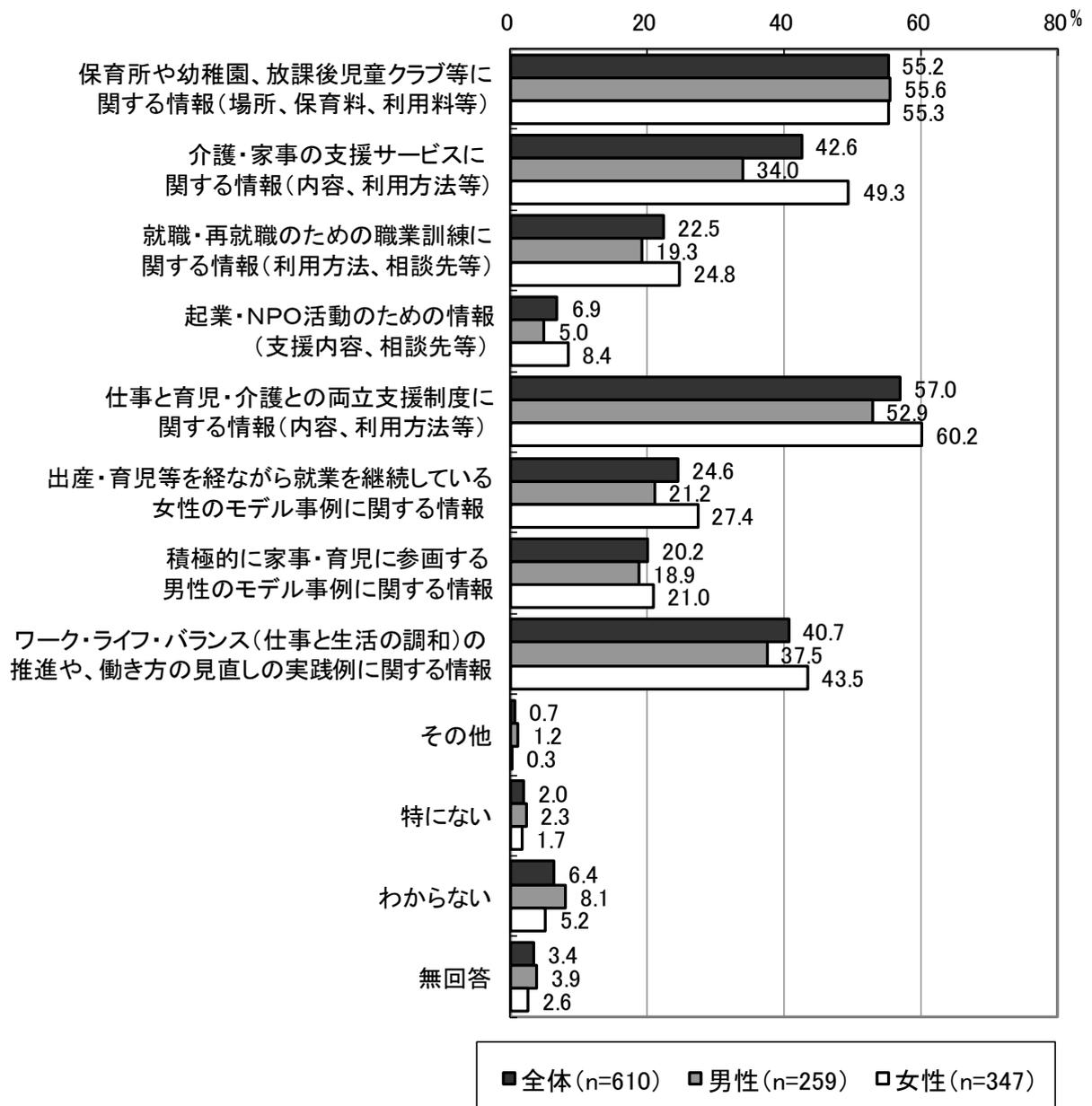
■ 今回調査<下野市>(n=610)

□ 全国調査<内閣府>(n=3037)

問 13 あなたは、女性の活躍推進の取組に関する情報のうち、どの情報が特に必要になると感じますか。(あてはまるものすべてに○)

女性の活躍推進の取組で、必要になると感じる情報については、「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法等）」が57.0%と最も多く、次いで「保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等に関する情報（場所、保育料、利用料等）」が55.2%、「介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法等）」が42.6%となっています。

性別にみると、女性で「介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法等）」が49.3%と、男性に比べて15.3ポイント上回っています。



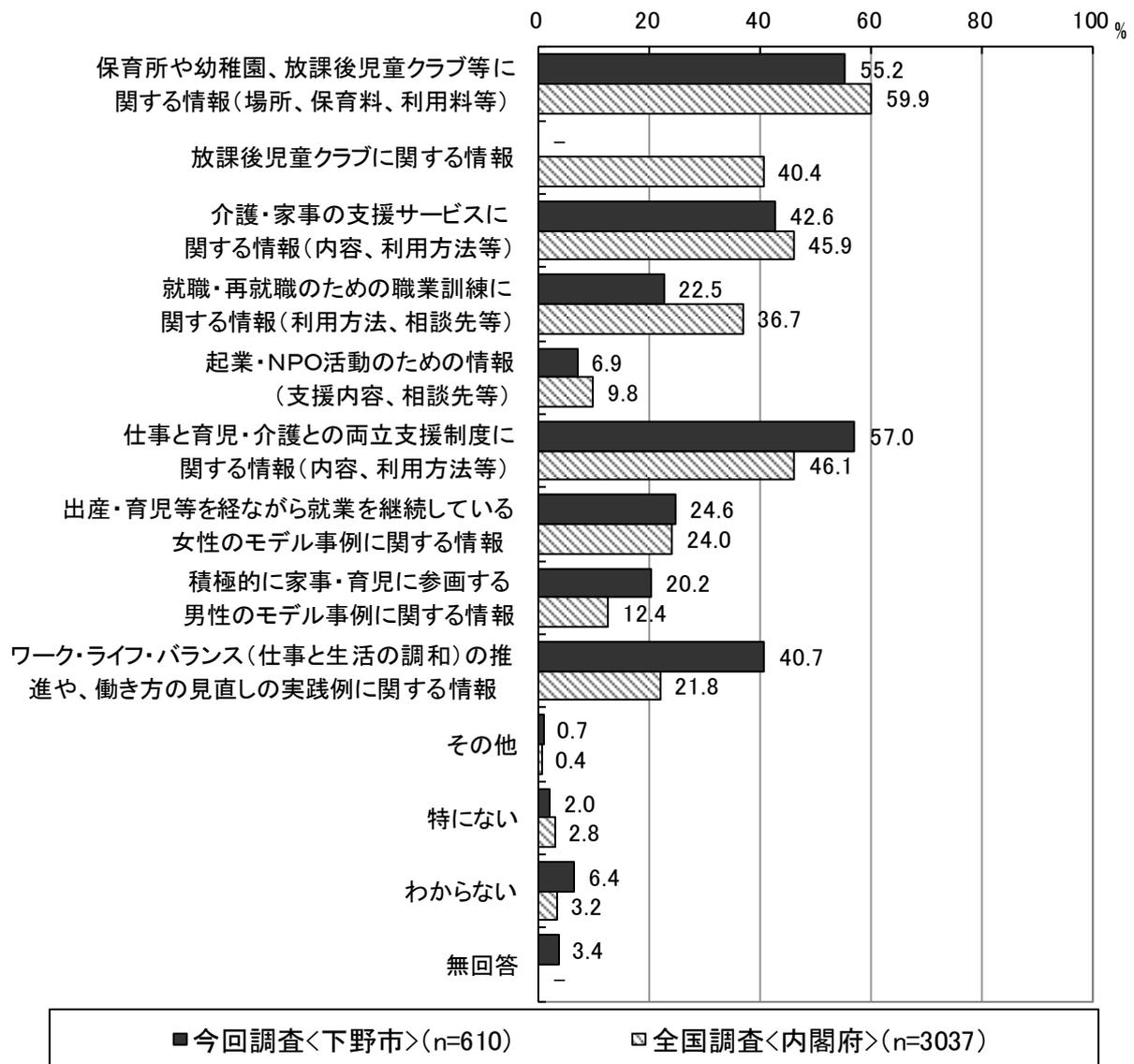
## 性・年齢別比較

年齢別にみると、女性の70歳以上を除くすべての年代で「保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等に関する情報（場所、保育料、利用料等）」、「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法等）」が多くなっています。また、男性の30歳代と女性の29歳以下で「出産・育児等を経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報」が3割、男性の40歳代以下と女性の50歳代以下で「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報」が4割を超えて、他の年代と比較して高くなっています。

(%)	合計	等 に 保 育 所 や 幼 稚 園 （ 場 所 、 保 育 料 、 利 用 料 等 ）	報 介 護 （ 内 容 、 利 用 方 法 等 ）	る 就 職 ・ 再 就 職 の た め の 職 業 訓 練 に 関 す る 情 報 （ 利 用 方 法 、 相 談 先 等 ）	内 起 業 ・ N P O 活 動 の た め の 情 報 （ 支 援 内 容 、 相 談 先 等 ）	関 事 と 育 児 ・ 介 護 と の 両 立 支 援 制 度 に 関 す る 情 報 （ 内 容 、 利 用 方 法 等 ）	て 出 産 ・ 育 児 等 を 経 な が ら 就 業 を 継 続 し て い る 女 性 の モ デ ル 事 例 に 関 す る 情 報	モ 積 極 的 に 家 事 ・ 育 児 に 参 画 す る 男 性 の モ デ ル 事 例 に 関 す る 情 報	の 活 の 調 和 （ ） の 推 進 や 、 働 き 方 の 見 直 し の 実 践 例 に 関 す る 情 報	ワ ー ク ・ ラ イ フ ・ バ ラ ン ス （ ） の 推 進 や 、 働 き 方 の 見 直 し	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答	
【年齢別・男性】															
29歳以下	29	55.2	24.1	31.0	3.4	41.4	13.8	17.2	48.3	3.4	6.9	17.2	0.0		
30歳代	48	68.8	31.3	16.7	6.3	47.9	35.4	22.9	47.9	0.0	0.0	8.3	2.1		
40歳代	39	64.1	38.5	15.4	5.1	61.5	17.9	33.3	43.6	2.6	2.6	2.6	2.6		
50歳代	44	47.7	45.5	25.0	4.5	52.3	11.4	9.1	34.1	0.0	0.0	6.8	6.8		
60歳代	47	59.6	42.6	12.8	8.5	55.3	25.5	25.5	34.0	0.0	2.1	2.1	4.3		
70歳以上	52	40.4	21.2	19.2	1.9	55.8	19.2	7.7	23.1	1.9	3.8	13.5	5.8		
【年齢別・女性】															
29歳以下	59	76.3	45.8	33.9	8.5	72.9	54.2	33.9	52.5	0.0	0.0	3.4	0.0		
30歳代	64	75.0	50.0	28.1	10.9	67.2	29.7	28.1	42.2	1.6	0.0	3.1	0.0		
40歳代	60	56.7	51.7	35.0	10.0	55.0	21.7	8.3	50.0	0.0	3.3	0.0	0.0		
50歳代	50	48.0	60.0	12.0	8.0	64.0	18.0	22.0	50.0	0.0	0.0	2.0	4.0		
60歳代	61	49.2	47.5	18.0	6.6	63.9	18.0	18.0	37.7	0.0	3.3	8.2	3.3		
70歳以上	53	20.8	41.5	18.9	5.7	35.8	20.8	15.1	28.3	0.0	3.8	15.1	9.4		

## 国比較

女性の活躍推進の取組で、必要になると感じる情報について、全国調査と比較すると、「仕事と育児・介護の両立支援制度に関する情報」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報」で下野市が全国調査を10ポイント以上上回っています。また、「就職・再就職のための職業訓練に関する情報（利用方法、相談先等）」では全国調査が下野市を14.2ポイント上回っています。



※「放課後児童クラブに関する情報」は全国調査のみ設けられた選択肢。

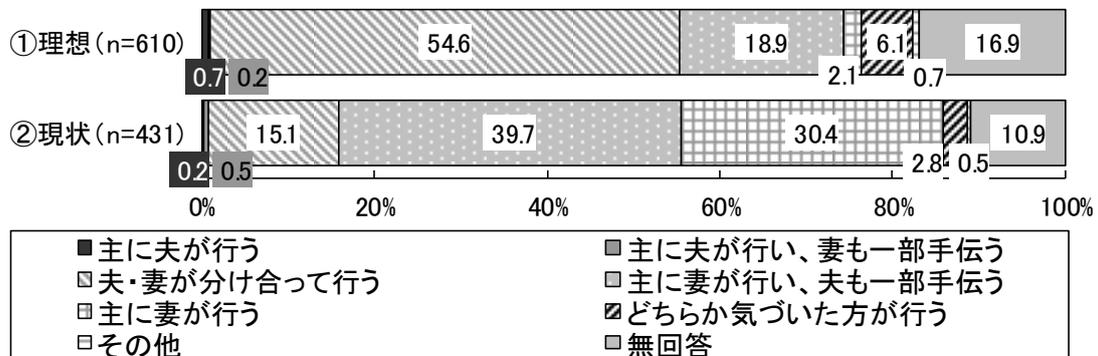
### (3) 生活全般についておたずねします

問 14 家事（掃除・洗濯・食事の支度・食事の後片づけなど）は、どのように行うべきだと思いますか。理想をお答えください（①）。また、結婚をしている方のみ、実際にあなたの家庭において、主に誰が行っていますか（②）。（①と②それぞれ〇は1つ）

家事の役割分担の【理想】については、「夫・妻が分け合って行う」が54.6%と最も多くなっています。

結婚している方の家事の役割分担の【現状】については、「主に妻が行い、夫も一部手伝う」が39.7%と最も多く、次いで「主に妻が行う」が30.4%となっています。

また、【理想】の分担として最も多かった「夫・妻が分け合って行う」が54.6%なのに対し、【現状】は15.1%にとどまっており、一方「主に妻が行い、夫も一部手伝う」が39.7%、「主に妻が行う」が30.4%となっています。

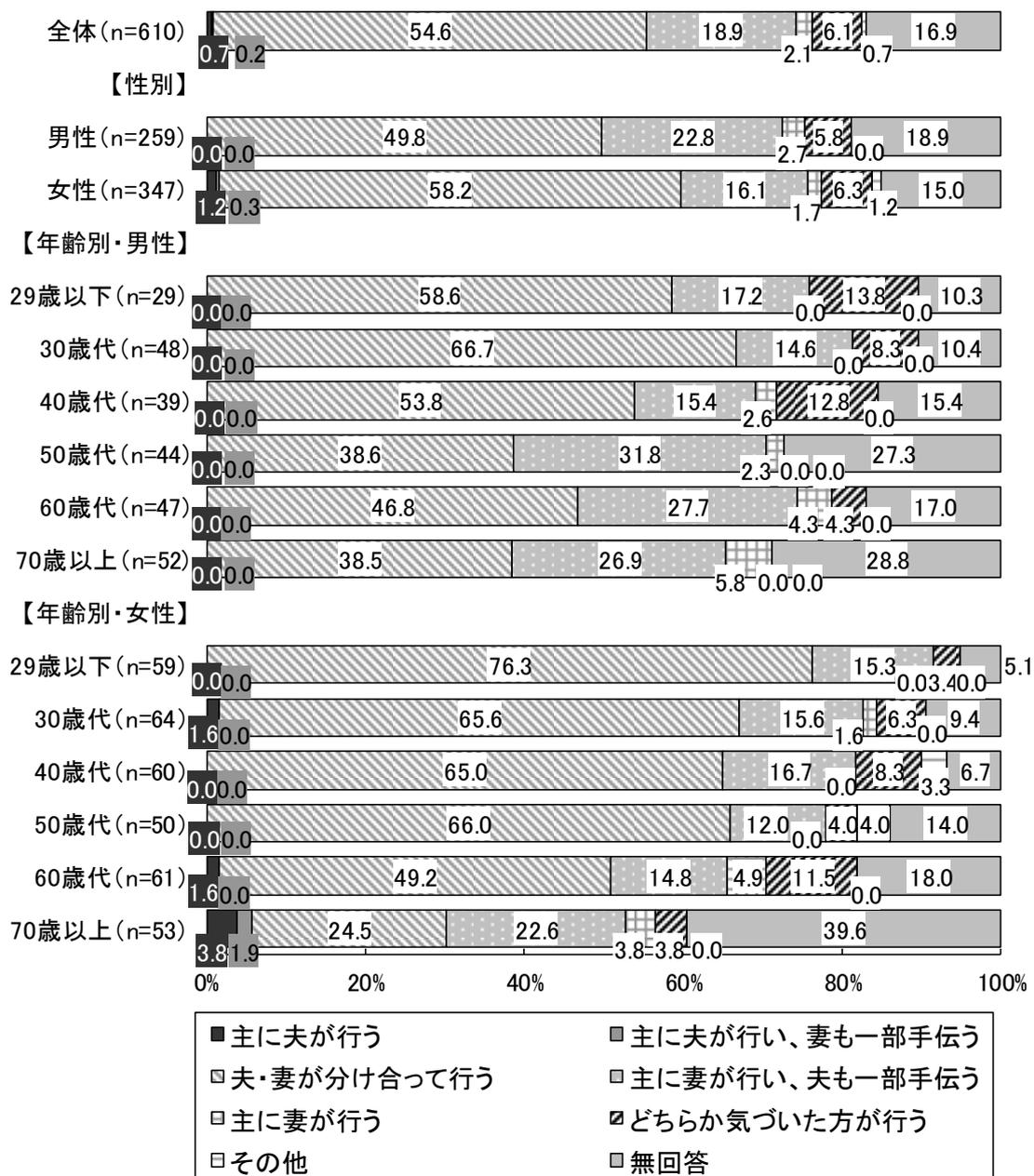


性・年齢別比較

【①理想】

家事の役割分担の【理想】について、性別にみると、男女ともに「夫・妻が分け合って行う」が最も多いものの、女性が男性を8.4ポイント上回っています。一方、「主に妻が行い、夫も一部手伝う」では、男性が女性を6.7ポイント上回っています。

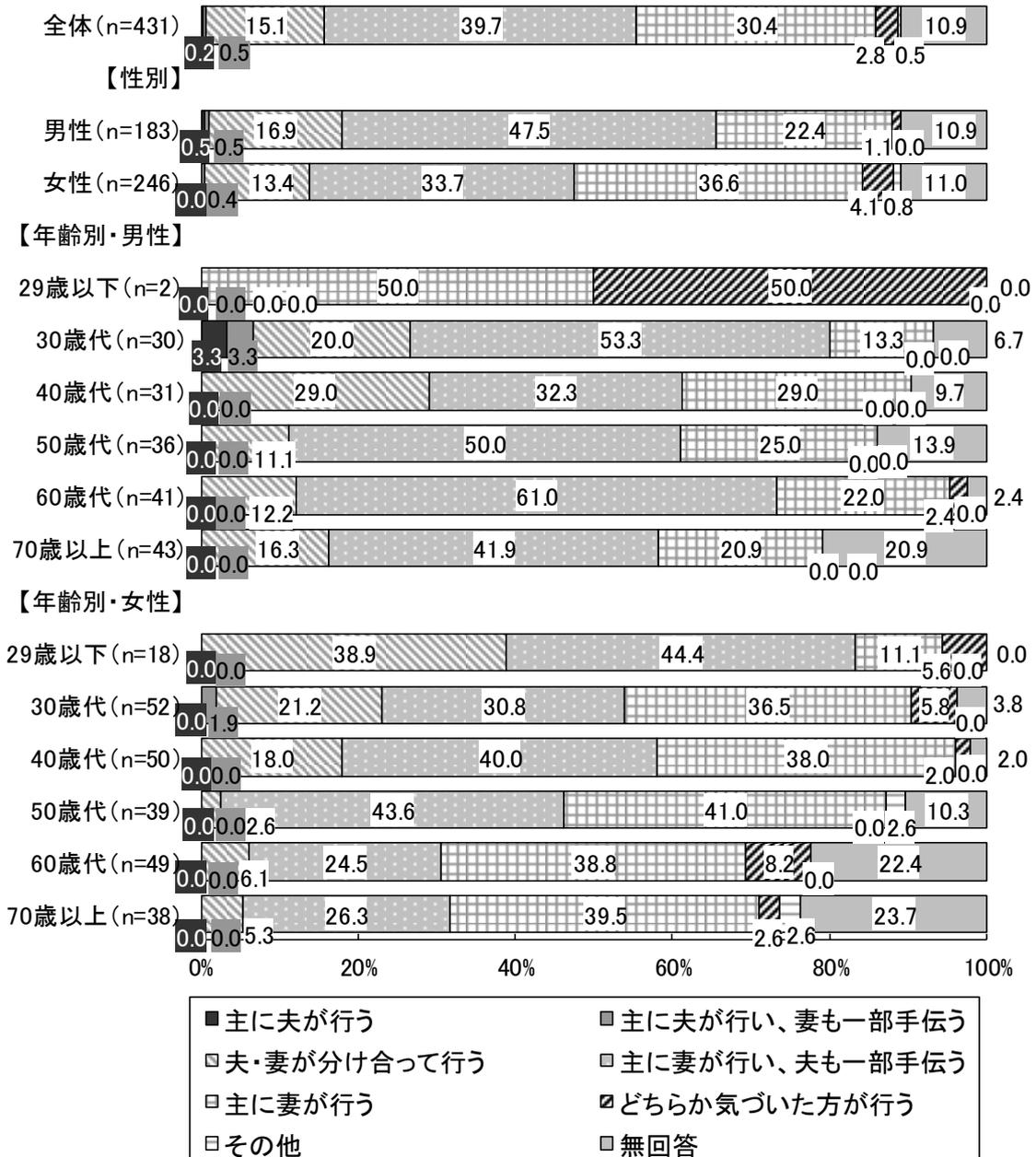
年齢別にみると、男性の30歳代と女性の50歳代以下で「夫・妻が分け合って行う」が6割を超えており、割合が高くなっています。また、男性の50歳代以上と女性の70歳以上で「主に妻が行い、夫も一部手伝う」が2割を超えています。



【②現状】

結婚している方の家事の役割分担の【現状】について、性別にみると、男性で「主に妻が行い、夫も一部手伝う」が47.5%、女性で「主に妻が行う」が36.6%と最も多くなっています。

年齢別にみると、男性の30・40歳代と女性の29歳以下・30歳代で「夫・妻が分け合って行う」が2割以上で、他の年代に比べてやや割合が高くなっています。また、「主に妻が行い、夫も一部手伝う」と「主に妻が行う」を合わせた“主に妻”が男女ともにすべての年代で多く、男性の60歳代と女性の50歳代では8割を超えています。

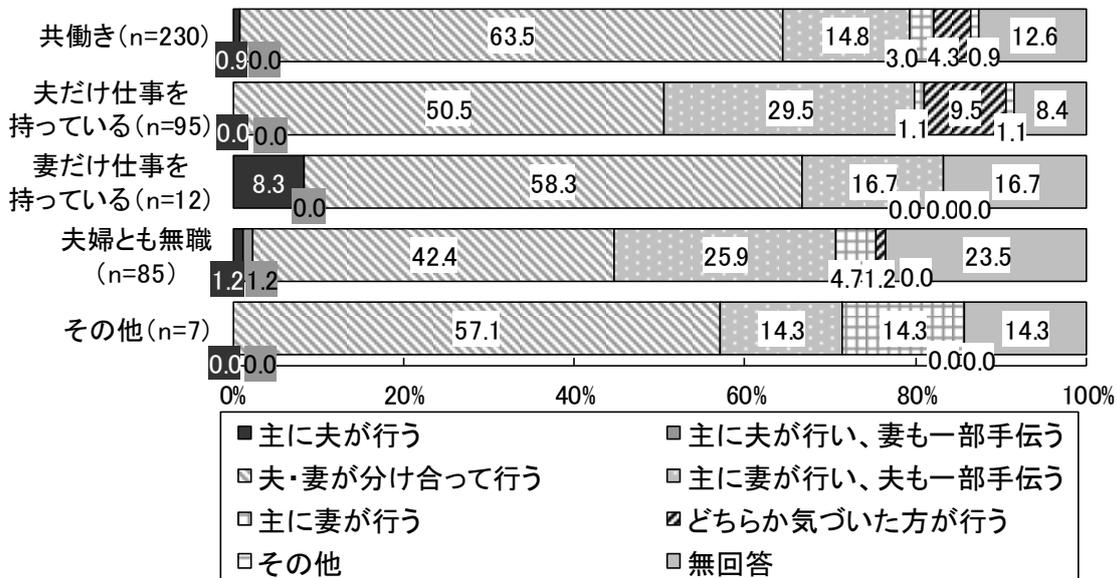


## 共働きの状況別比較

### 【①理想】

家事の役割分担の【理想】について、共働きの状況別にみると、いずれの状況も「夫・妻が分け合って行く」が最も多いものの、[共働き]で63.5%とやや割合が高くなっています。

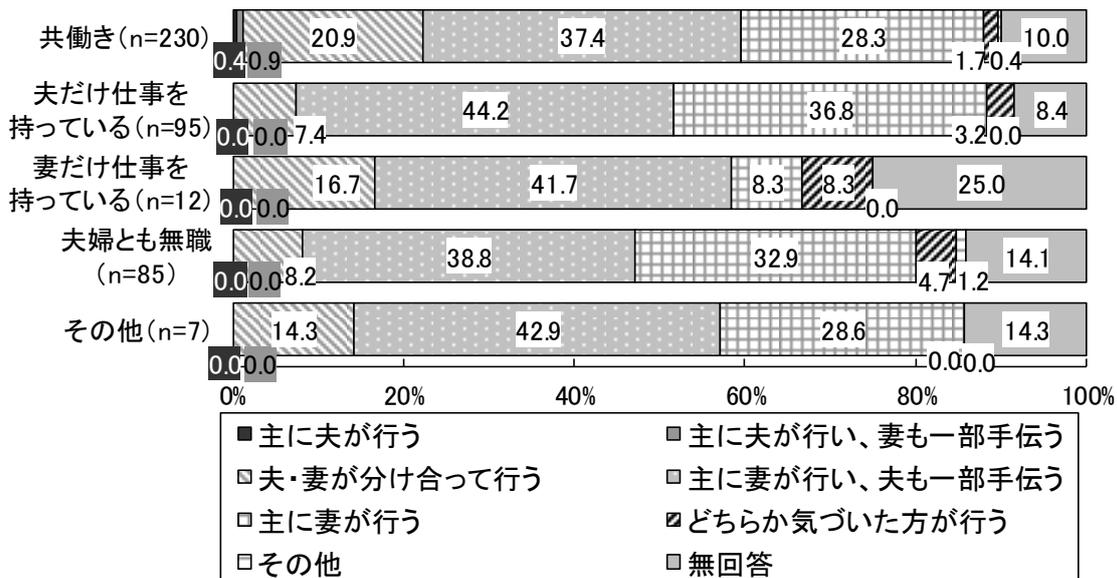
#### 【共働き状況別】



### 【②現状】

家事の役割分担の【現状】について、共働きの状況別にみると、いずれの状況も「主に妻が行い、夫も一部手伝う」が最も多くなっています。また、[夫だけ仕事を持っている]、[夫婦とも無職]、[その他]で“主に妻”が7割を超えて高くなっています。

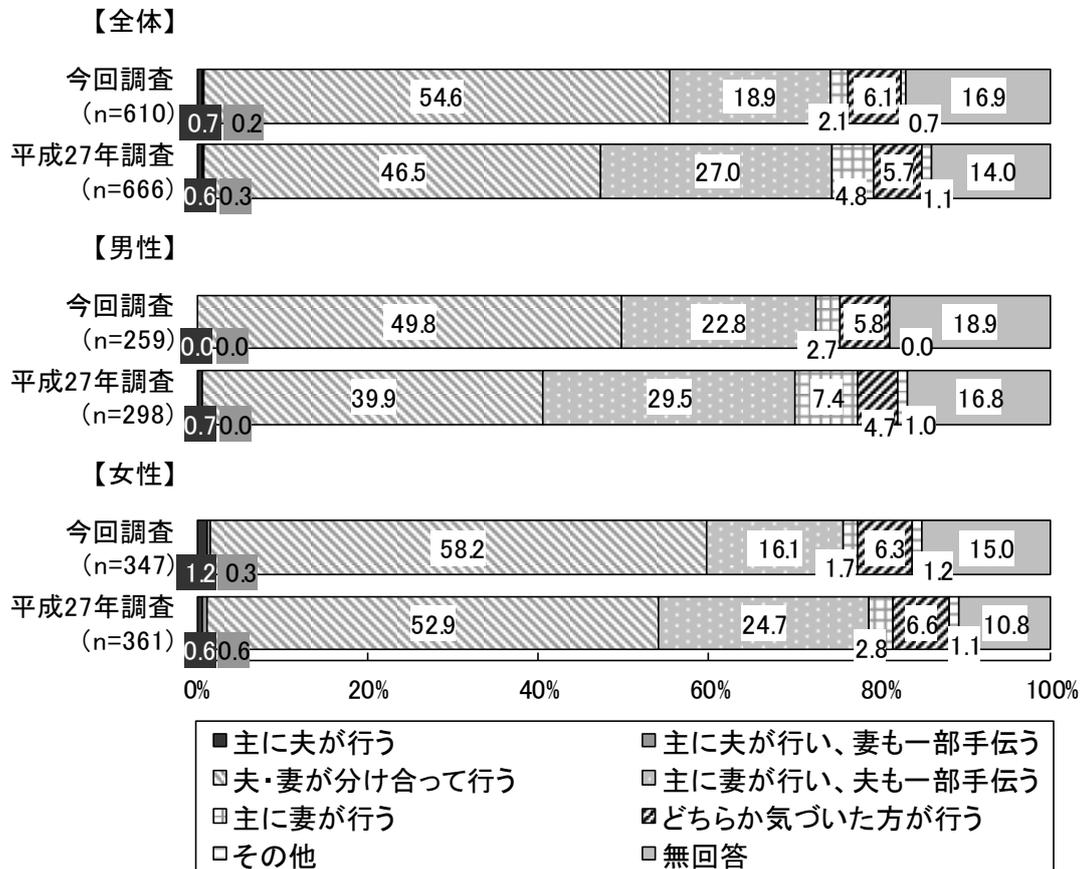
#### 【共働き状況別】



●○経年比較○●

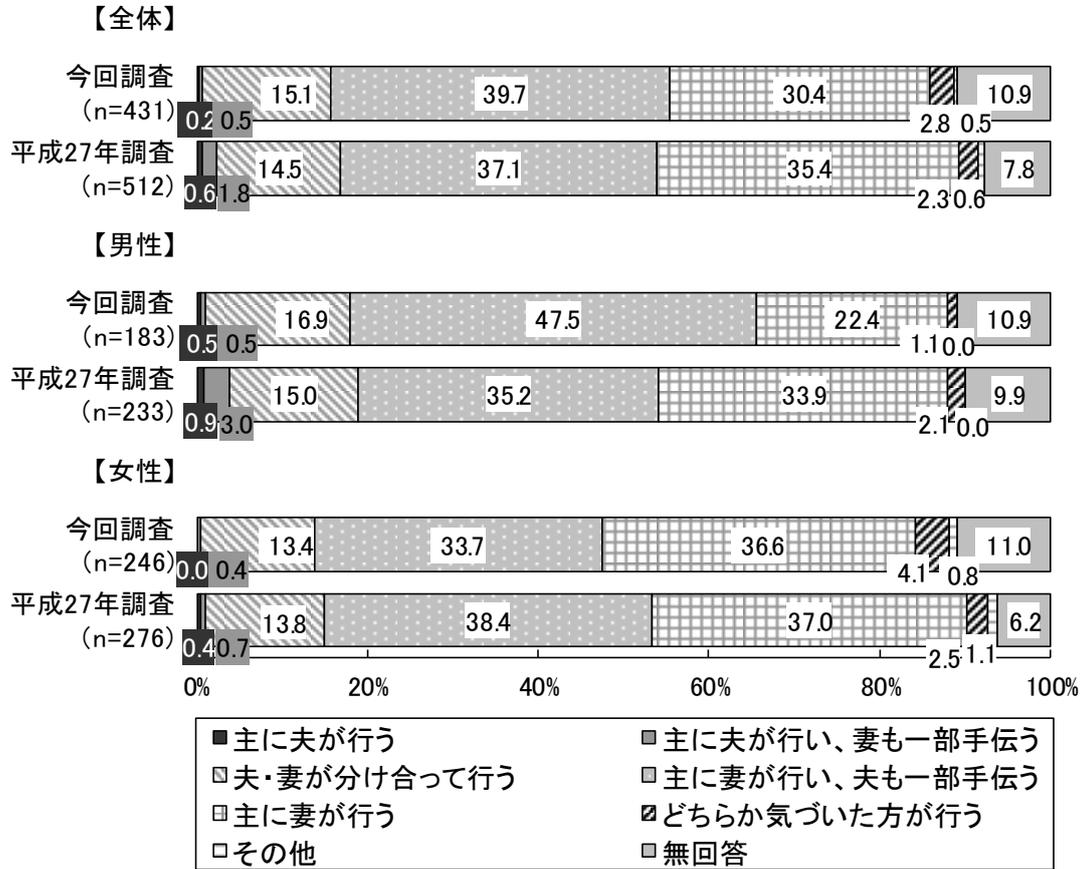
【①理想】

経年比較すると、男女ともに「夫・妻が分け合って行く」が増加しており、「主に妻が行い、夫も一部手伝う」、「主に妻が行う」がやや減少しています。



【②現状】

経年比較すると、男性で「主に妻が行い、夫も一部手伝う」が12.3ポイント増加し、「主に妻が行う」が11.5ポイント減少しています。



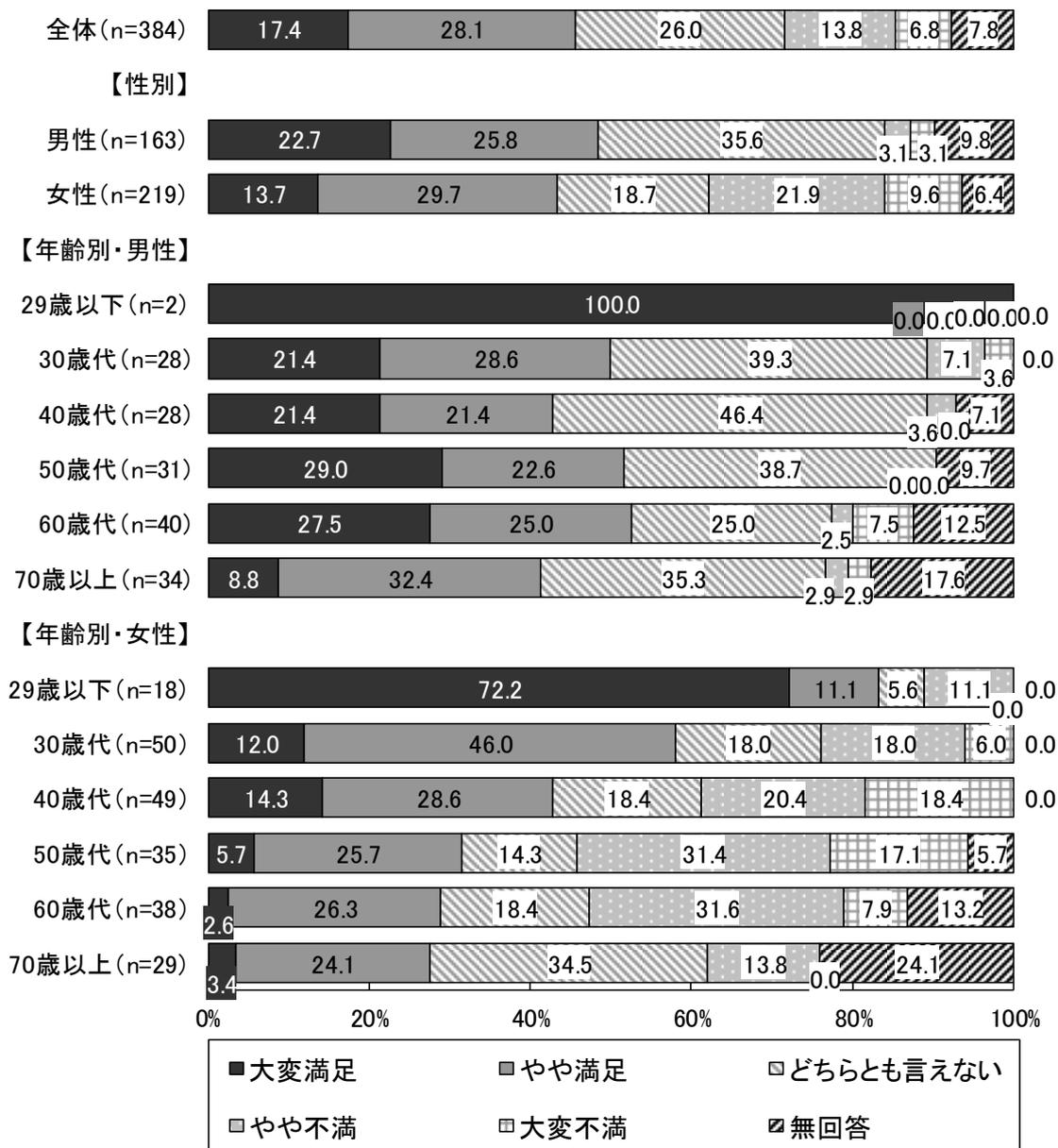
問 15 問 14 の②で回答した、家庭での実際の役割分担の満足感についてお聞かせください。

(○は1つ)

結婚している方の家庭での実際の役割分担の満足度について、全体では「やや満足」が28.1%と最も多く、「大変満足」の17.4%と合わせた“満足”が45.5%となっています。また、「やや不満」と「大変不満」を合わせた“不満”は20.6%、「どちらとも言えない」が26.0%となっています。

性別にみると、男女ともに“満足”は4割台となっていますが、“不満”は女性で31.5%となっており、男性の6.2%を大きく上回っています。

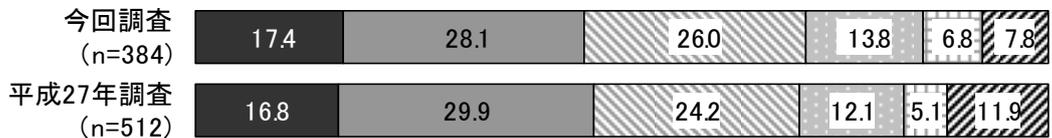
年齢別にみると、男性のすべての年代で“満足”が4割を超えている一方、女性では年代が上がるにつれ“満足”が減少しています。また、女性の40・50・60歳代で“不満”が3割台後半を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。



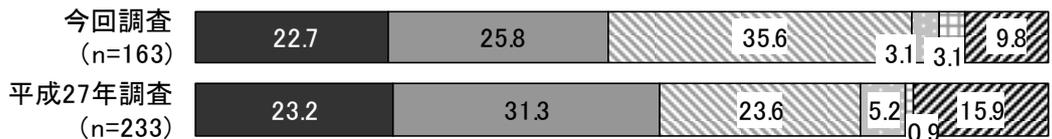
●○経年比較○●

経年比較すると、男性では「どちらとも言えない」が12.0ポイント増加しています。

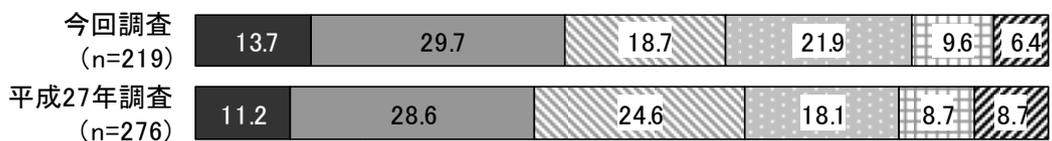
【全体】



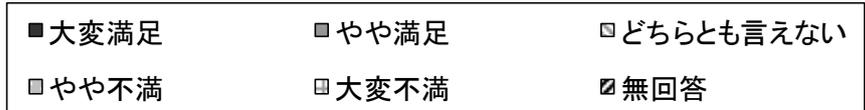
【男性】



【女性】



0% 20% 40% 60% 80% 100%



県結果 (参考)

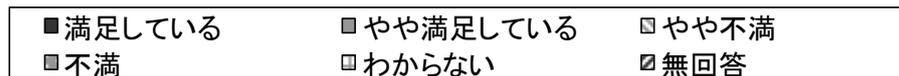
県調査と比較すると、「満足」は男性で78.5%、女性で46.2%と、男性が女性を32.3ポイント上回っており、下野市よりも男女で差が大きくなっています。



【性別】



0% 20% 40% 60% 80% 100%

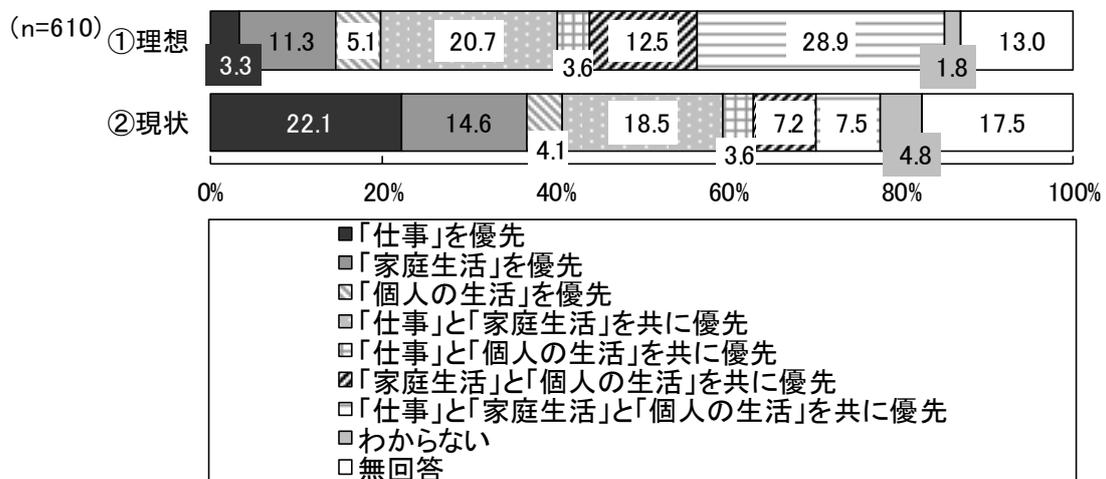


問 16 生活の中での、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、趣味・学習等）の優先度について、あてはまる①あなたの理想と ②あなたの現状をお選びください。（①と②それぞれ〇は1つ）

生活の中での優先度の【理想】については、『「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先』が28.9%と最も多くなっています。

生活の中での優先度の【現状】については、『「仕事」を優先』が22.1%と最も多くなっています。

また、【理想】の優先度として『「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先』が最も多くなっていますが、【現状】では『「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先』と回答した方は7.5%にとどまっており、『「仕事」と「家庭生活」を共に優先』が18.5%となっています。

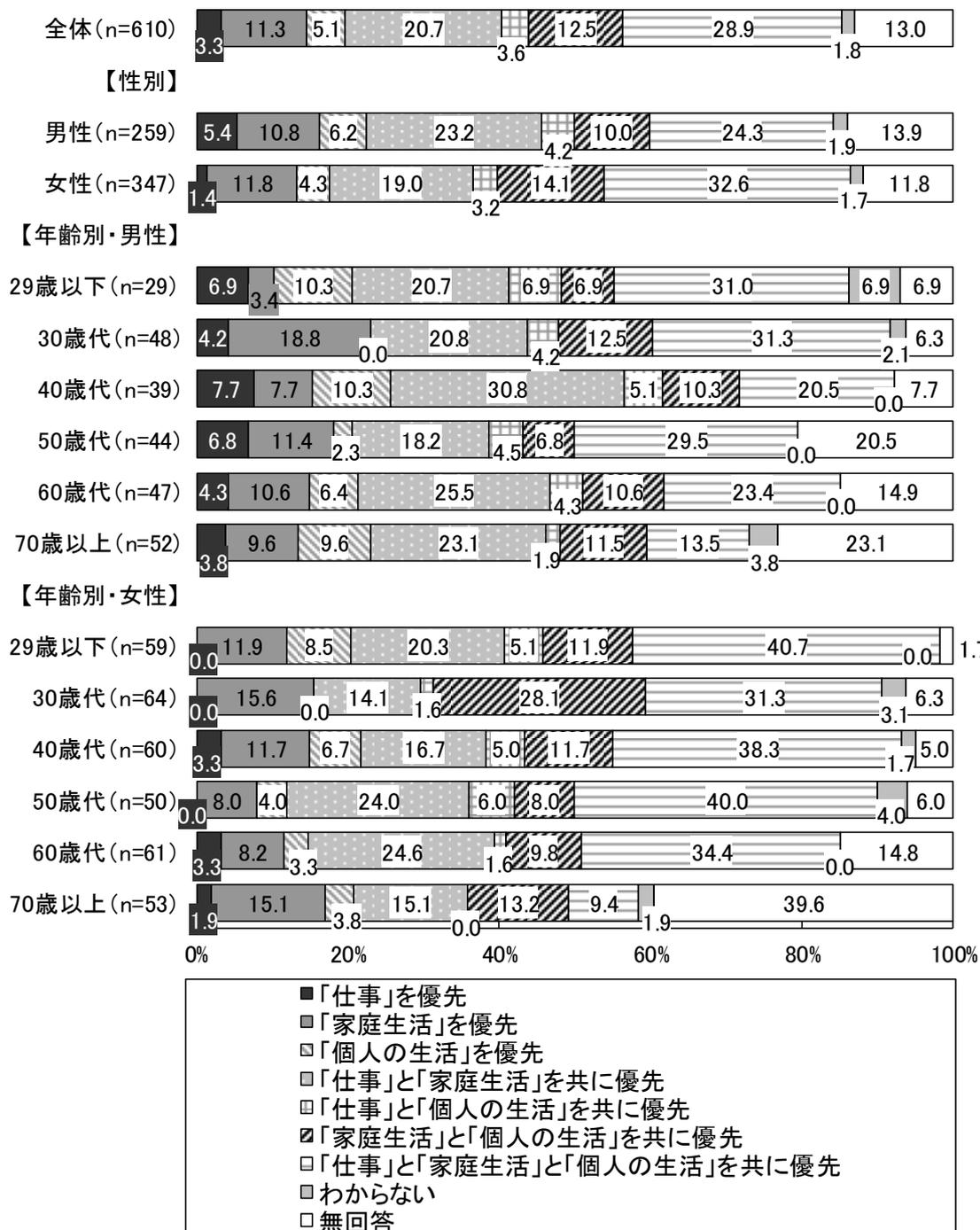


性・年齢別比較

【①理想】

生活の中での優先度の【理想】について、性別にみると、男女ともに『「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先』が最も多くなっているものの、女性が男性を8.3ポイント上回っています。

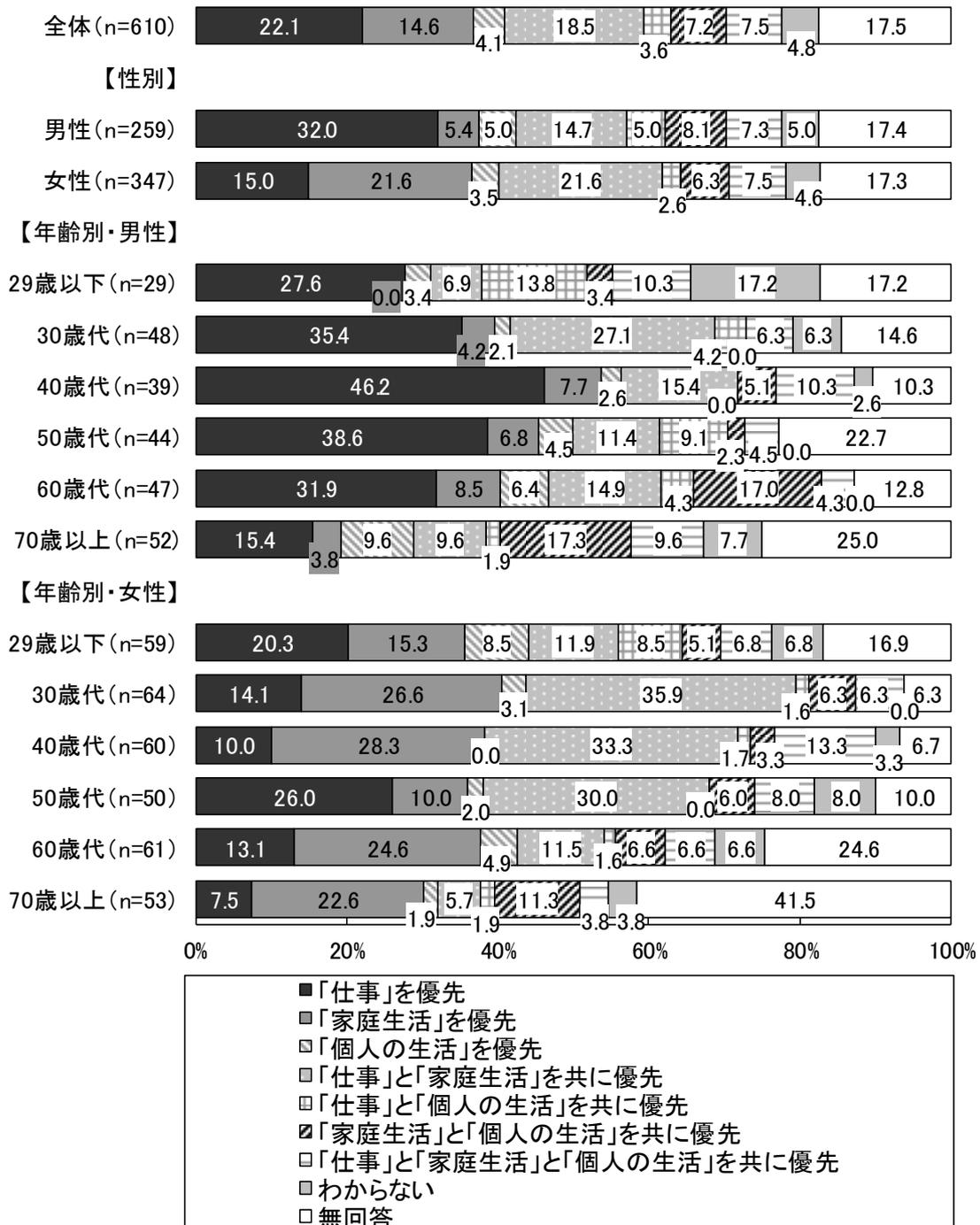
年齢別にみると、男性の40歳代・60歳以上、女性の70歳以上を除くすべての年代で『「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先』が最も多くなっています。また、女性の30歳代で『「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先』が28.1%と、他の年代に比べて割合が高くなっています。



【②現状】

生活の中での優先度の【現状】について、性別にみると、男性は『「仕事」を優先』、女性は『「家庭生活」を優先』、『「仕事」と「家庭生活」を共に優先』がそれぞれ最も多くなっています。

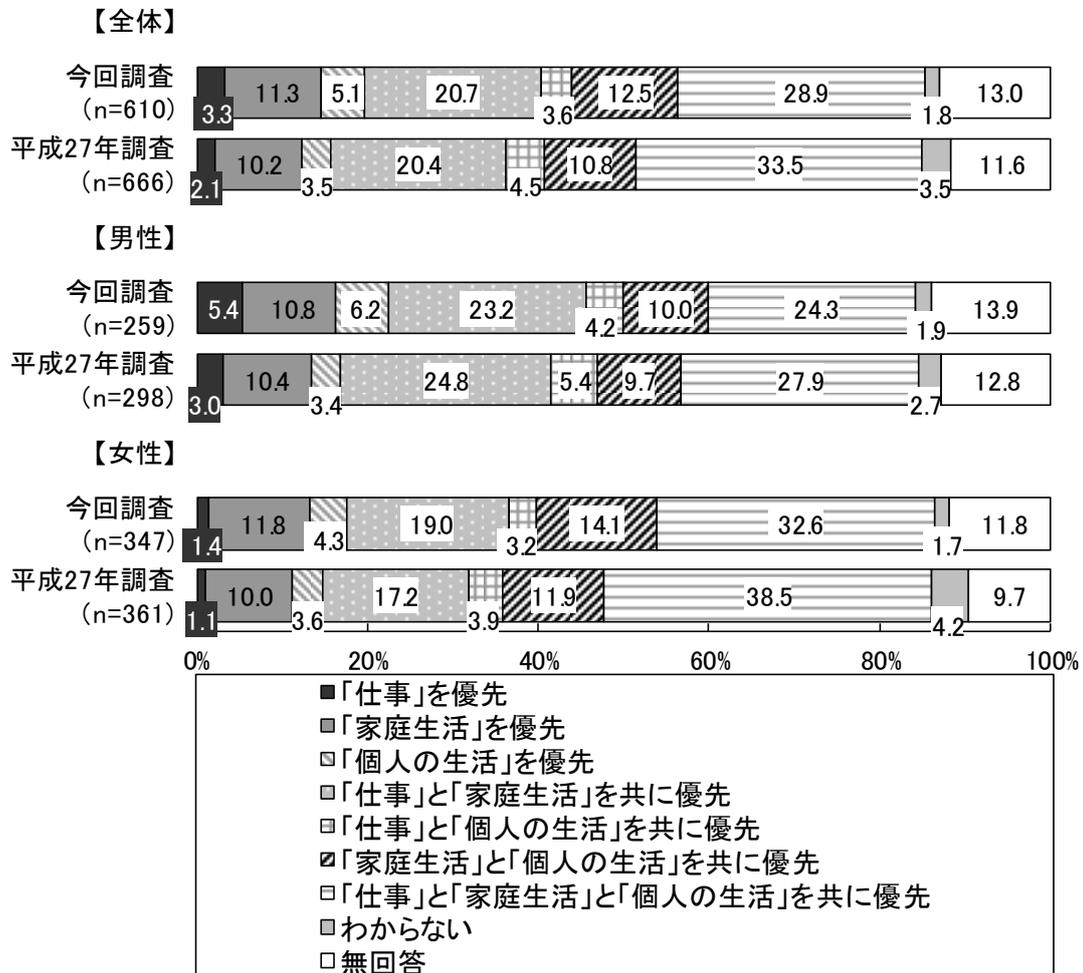
年齢別にみると、男性の70歳以上を除くすべての年代、女性の29歳以下で『「仕事」を優先』、男性の70歳以上で『「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先』、女性の30・40・50歳代で『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』、女性の60歳以上で『「家庭生活」を優先』、がそれぞれ最も多くなっています。



●○経年比較○●

【①理想】

経年比較すると、ほぼ同様の傾向となっているものの、女性で『「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先』が5.9ポイント減少しています。



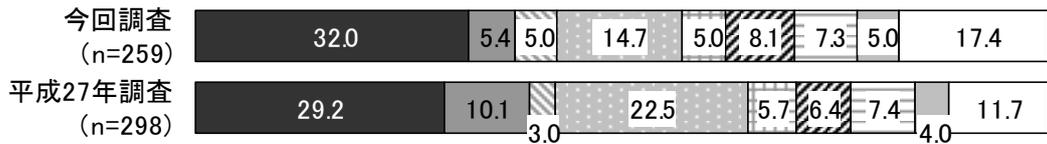
【②現状】

経年比較すると、男性で『「仕事」と「家庭生活」を共に優先』が7.8ポイント減少しています。

【全体】



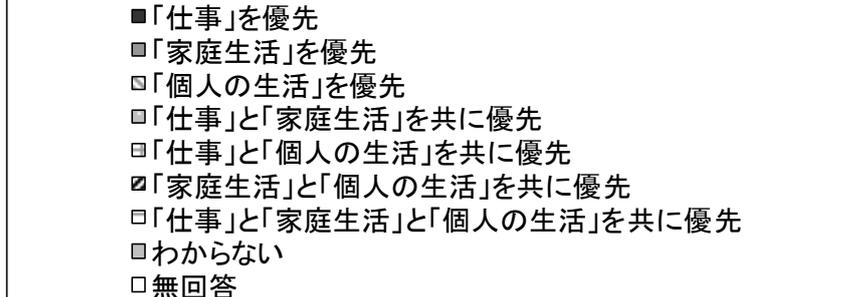
【男性】



【女性】



0% 20% 40% 60% 80% 100%



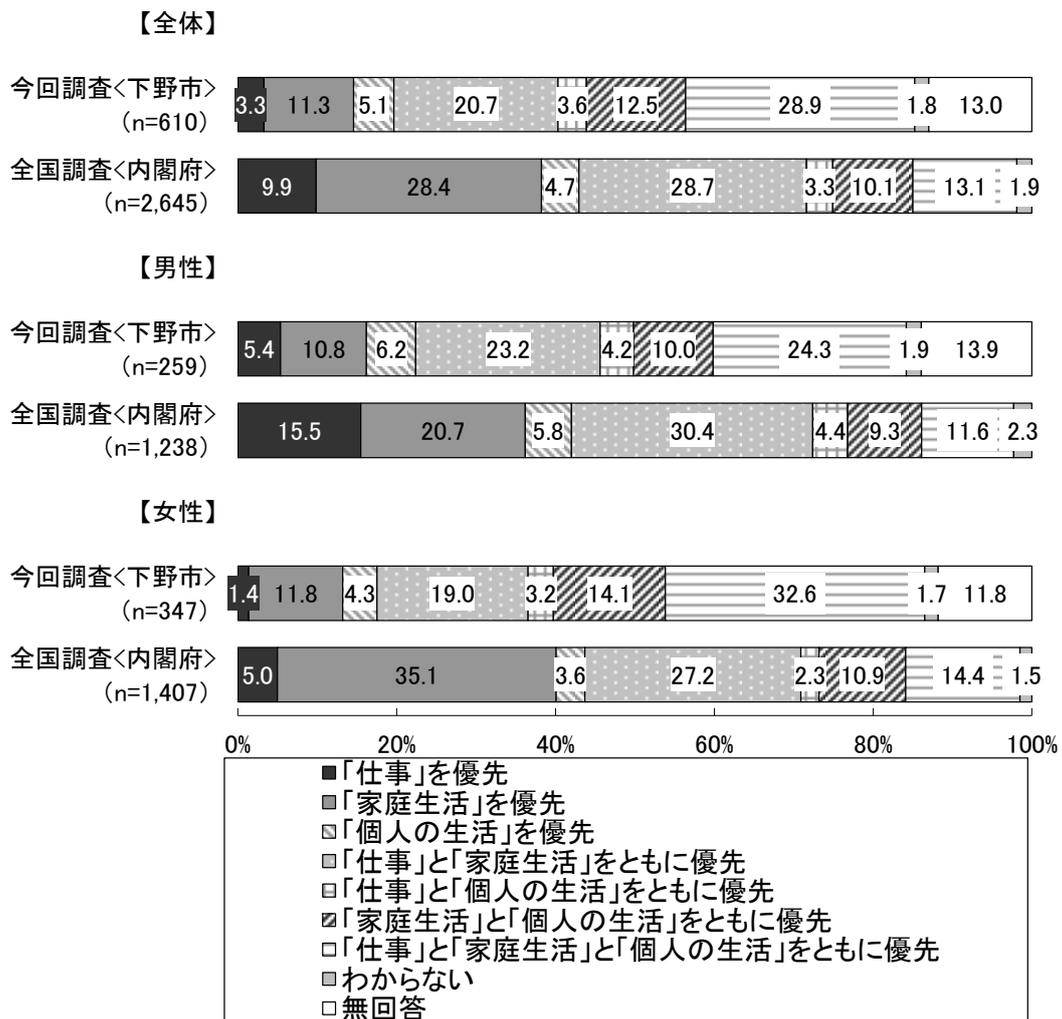
## 国比較

### 【①理想】

生活の中での優先度の【理想】について、全国調査と比較すると、【全体】では「家庭生活を優先」が低く、『「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先』が高くなっています。

【男性】では『「仕事」を優先』が10.1ポイント低く、『「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先』が19.9ポイント高くなっています。

【女性】では『「家庭生活」を優先』が23.3ポイント低く、『「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先』が18.2ポイント高くなっており、差は【全体】よりも大きくなっています。

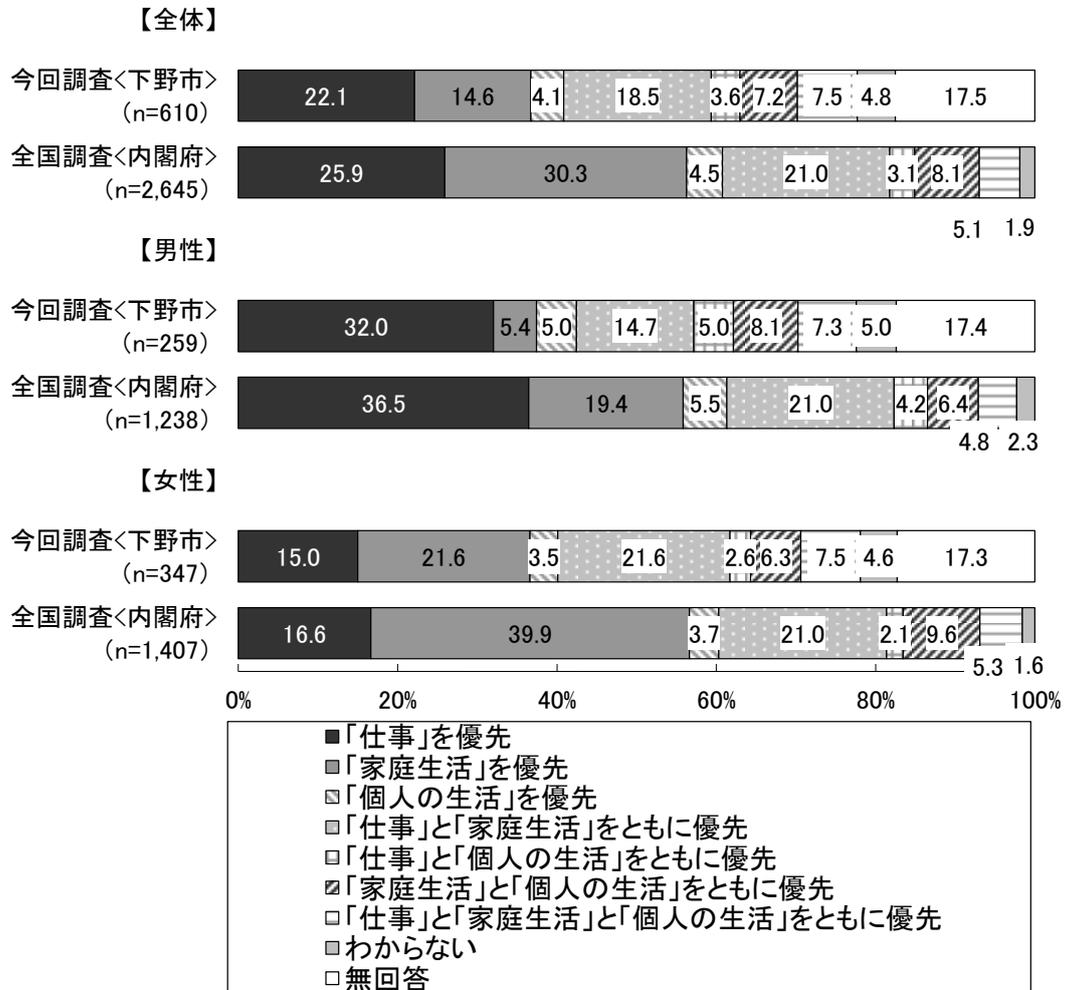


国比較

【②現状】

生活の中での優先度の【現状】について、全国調査と比較すると、【全体】では「家庭生活」を優先」が15.7ポイント低くなっています。

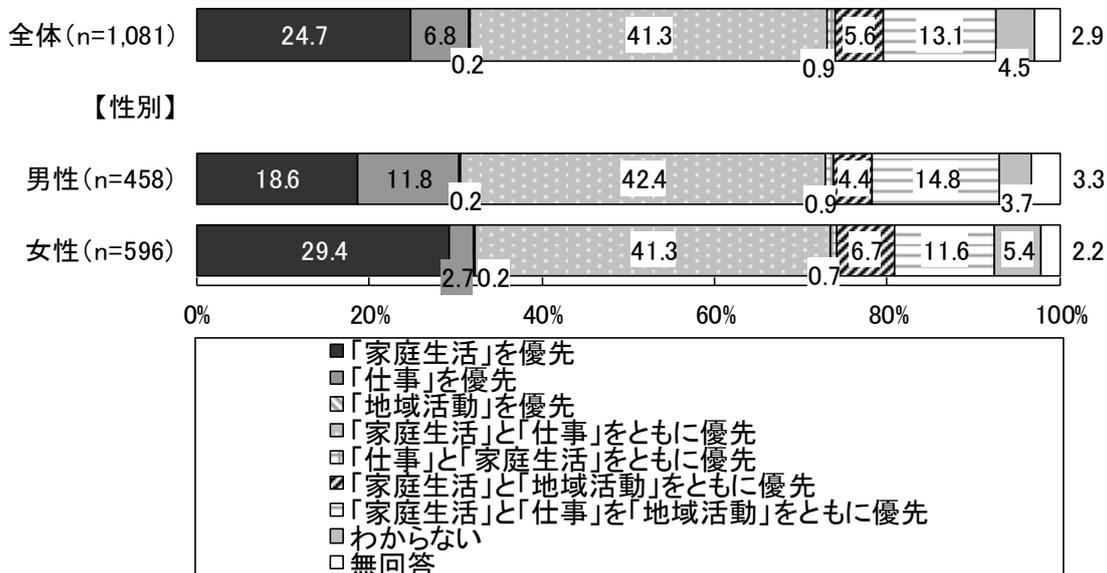
【男性】【女性】共に「家庭生活」を優先」が10ポイント以上低くなっています。



県結果（参考）

【①理想】

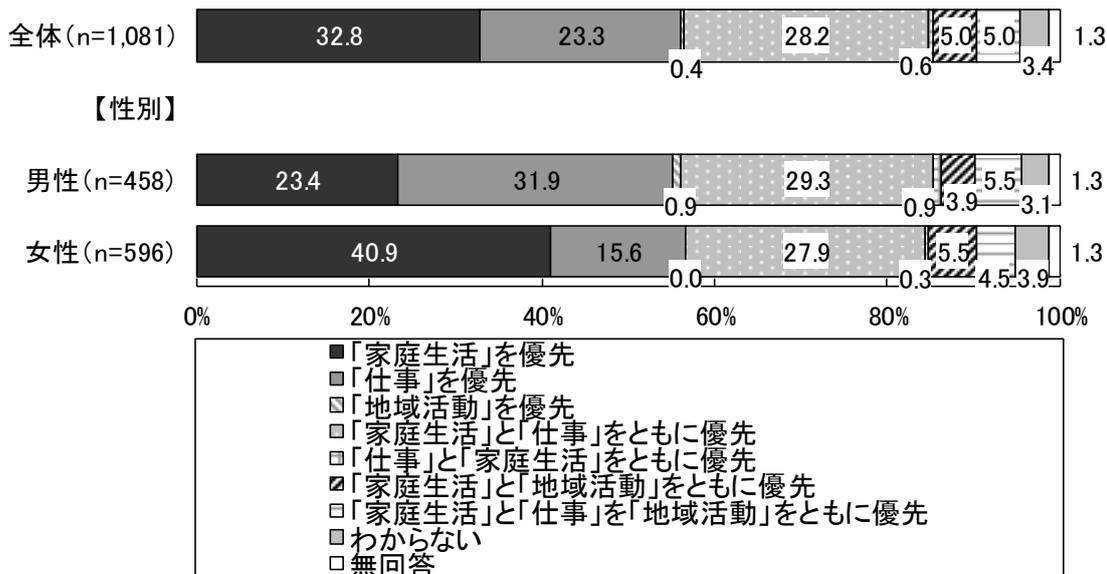
生活の中での優先度の【理想】について、県では「家庭生活」と「仕事」をともに優先」が最も高くなっています。



県結果（参考）

【②現状】

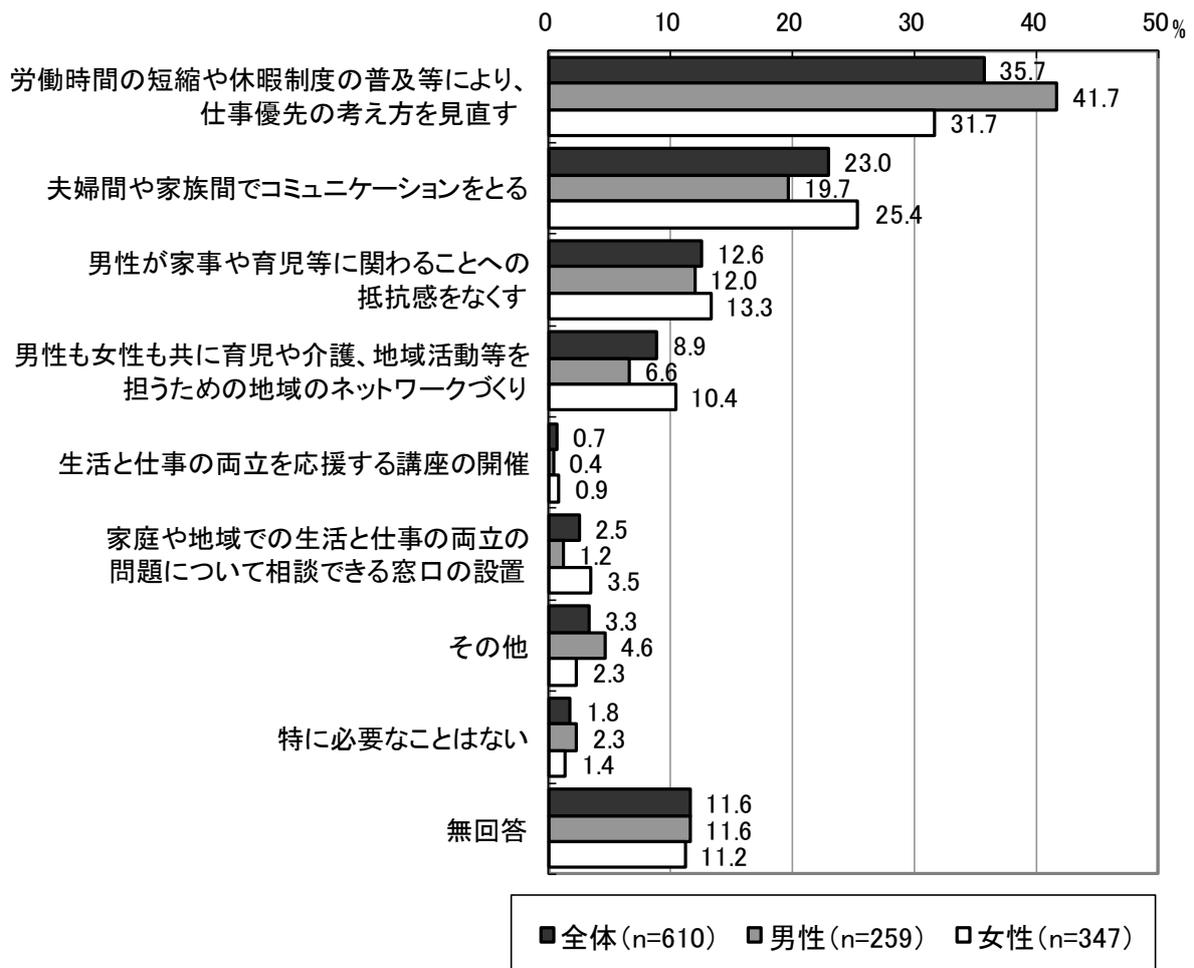
生活の中での優先度の【現状】について、県では「家庭生活」を優先」が最も多くなっています。



問 17 今後、男性も女性も共に、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するためには、  
どのようなことがもっとも重要だと思いますか。(〇は1つ)

今後、男性も女性も共に、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために最も重要だと思うことについては、「労働時間の短縮や休暇制度の普及等により、仕事優先の考え方を見直す」が 35.7%と最も多く、次いで「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」が 23.0%、「男性が家事や育児等に関わることへの抵抗感をなくす」が 12.6%となっています。

性別にみると、男性で「労働時間の短縮や休暇制度の普及等により、仕事優先の考え方を見直す」が 41.7%と、女性に比べて 10.0 ポイント高くなっています。



### 性・年齢別、共働きの状況別、子どもの有無別比較

年齢別にみると、男性の60歳代以下と女性の40歳代以下で「労働時間の短縮や休暇制度の普及等により、仕事優先の考え方を見直す」が、男性の70歳以上と女性の50歳代以上で「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」が最も多くなっています。

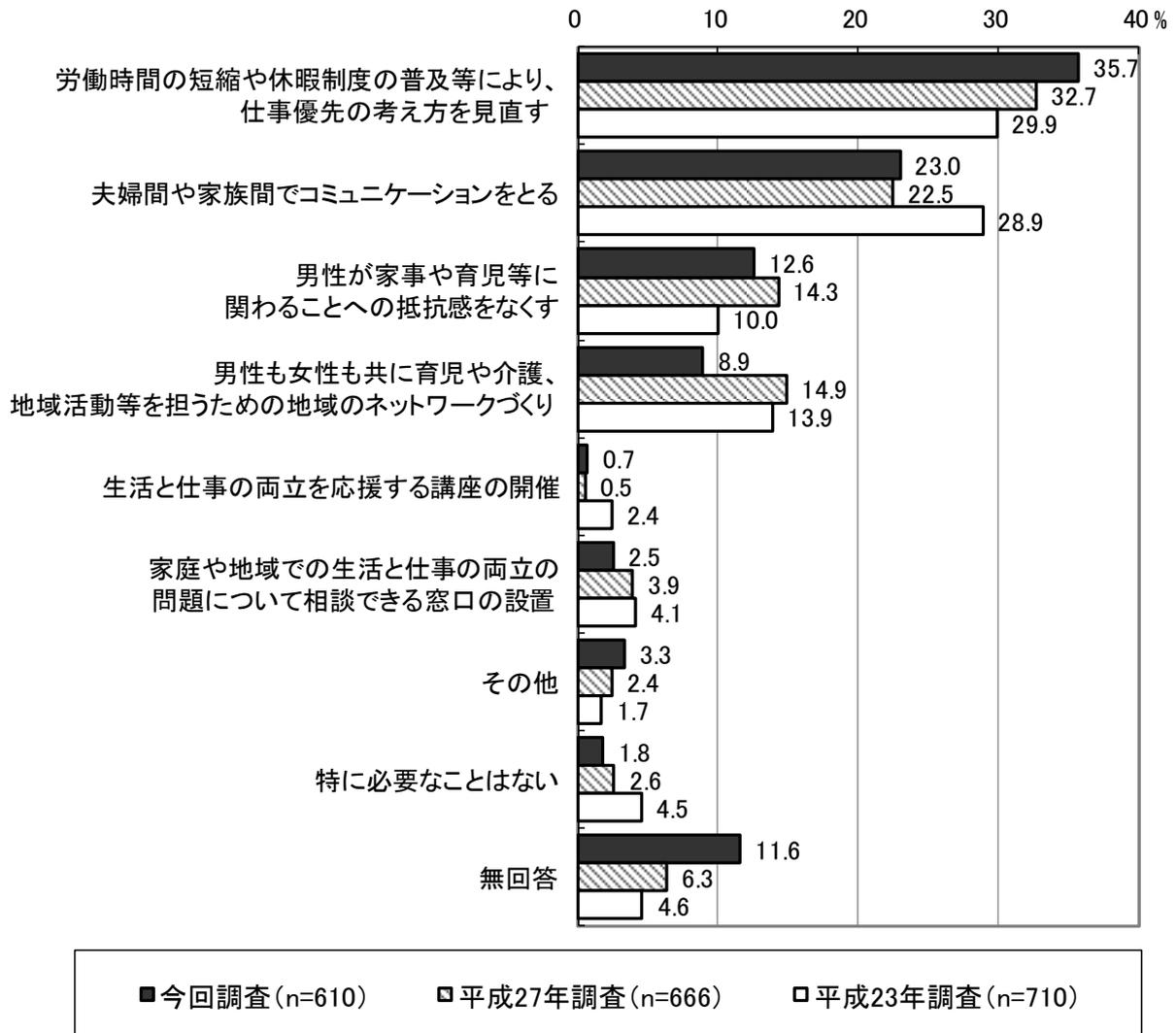
共働きの状況別にみると、いずれの状況も「労働時間の短縮や休暇制度の普及等により、仕事優先の考え方を見直す」、「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」が多く、[妻だけ仕事を持っている]で「生活と仕事の両立を応援する講座の開催」が16.7%と、他の状況に比べてやや割合が高くなっています。

子どもの有無別にみると、[子どもがいる層]で「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」が25.1%と、[子どもはいない層]に比べて10.6ポイント高くなっています。

(%)	合計	え普及労働時間を見直し、短縮や仕事優先の考え方を	夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる	男性が家事や育児等に関する抵抗感をなくす	地域・ネットワークワークづくり	男性も女性も共に育児や介護の活動等を担うため	生活と仕事の両立を応援する講座の開催	両立の問題について相談できる窓口の設置	その他	特に必要なことはない	無回答
【年齢別・男性】											
29歳以下	29	37.9	24.1	17.2	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.2
30歳代	48	56.3	10.4	12.5	4.2	0.0	2.1	4.2	0.0	0.0	10.4
40歳代	39	66.7	7.7	7.7	2.6	0.0	0.0	7.7	2.6	0.0	5.1
50歳代	44	36.4	18.2	11.4	9.1	0.0	2.3	4.5	2.3	0.0	15.9
60歳代	47	36.2	25.5	6.4	8.5	0.0	2.1	6.4	2.1	0.0	12.8
70歳以上	52	21.2	30.8	17.3	9.6	1.9	0.0	3.8	5.8	0.0	9.6
【年齢別・女性】											
29歳以下	59	45.8	13.6	18.6	11.9	0.0	1.7	1.7	0.0	0.0	6.8
30歳代	64	37.5	17.2	20.3	4.7	0.0	4.7	4.7	0.0	0.0	10.9
40歳代	60	41.7	15.0	16.7	6.7	0.0	5.0	1.7	0.0	0.0	13.3
50歳代	50	26.0	32.0	12.0	18.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	10.0
60歳代	61	19.7	42.6	6.6	8.2	1.6	3.3	1.6	3.3	0.0	13.1
70歳以上	53	17.0	34.0	3.8	15.1	3.8	5.7	1.9	5.7	0.0	13.2
【共働き状況別】											
共働き	230	39.1	18.3	14.3	7.4	0.0	2.2	5.2	1.3	0.0	12.2
夫だけ仕事を持っている	95	43.2	29.5	11.6	7.4	1.1	2.1	1.1	0.0	0.0	4.2
妻だけ仕事を持っている	12	33.3	25.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3
夫婦とも無職	85	25.9	36.5	9.4	10.6	0.0	3.5	2.4	5.9	0.0	5.9
その他	7	28.6	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
【子どもの有無別】											
子どもがいる	403	36.0	25.1	10.9	9.7	0.2	2.2	3.0	1.7	0.0	11.2
子どもはいない	55	34.5	14.5	18.2	7.3	1.8	3.6	7.3	3.6	0.0	9.1

●○経年比較○●

経年比較すると、ほぼ同様の傾向となっているものの、「労働時間の短縮や休暇制度の普及等により、仕事優先の考え方を見直す」がやや増加、「男性も女性も共に育児や介護、地域活動等を担うための地域のネットワークづくり」がやや減少しています。



## (4) 地域・社会参加についておたずねします

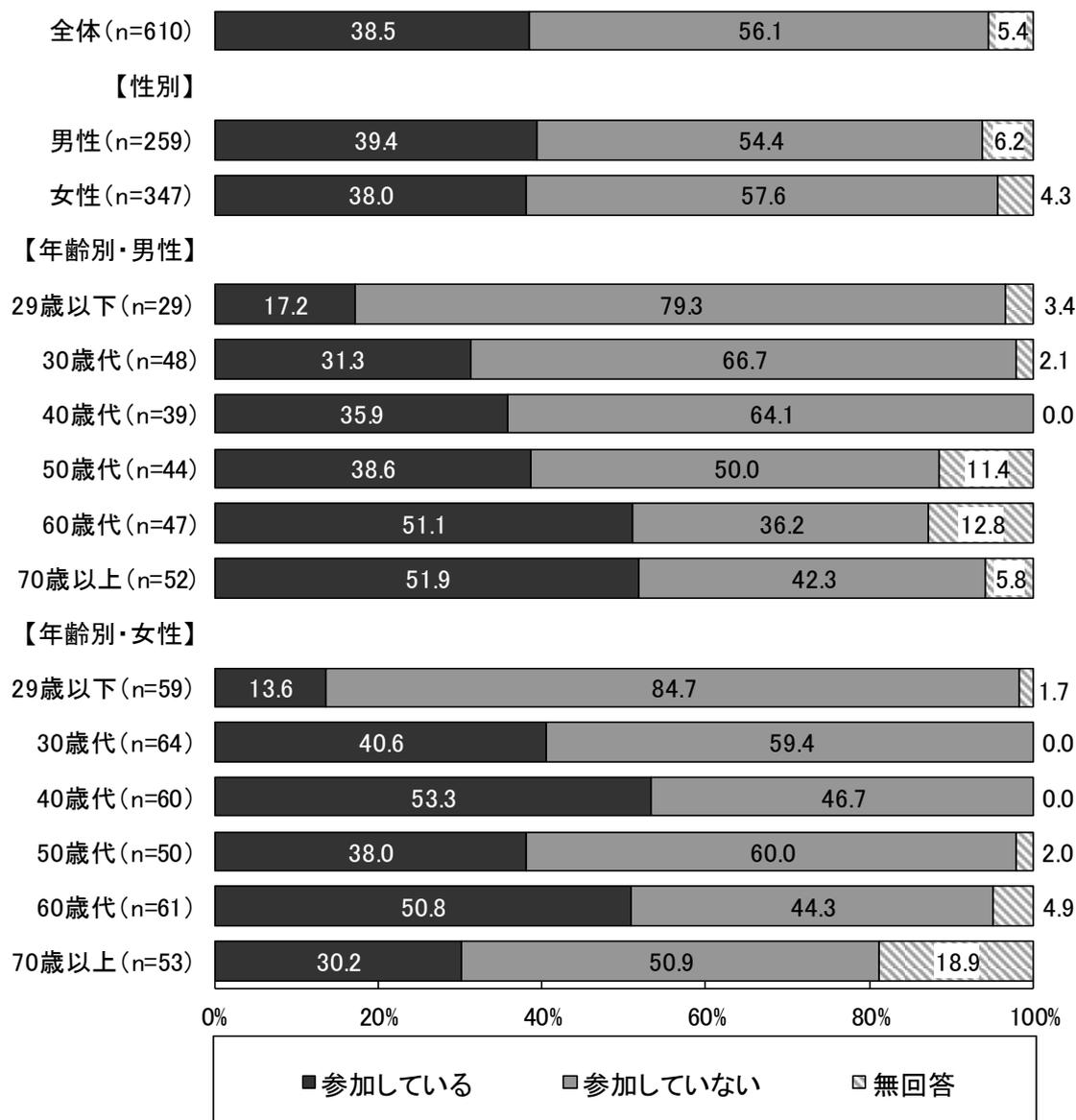
問 18 あなたは現在、次にあげるような地域活動に参加していますか。(○は1つ)

- 自治会等の地域活動
- 地域の仲間同士集まって行う研究会や勉強会
- 趣味やスポーツの活動
- 子ども会や青少年スポーツチームの指導や世話
- 保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTA活動
- NPO活動(環境問題、消費者問題、リサイクル等)
- ボランティア活動(高齢者や障がい者の介護・介助、子育て、被災地での活動等を含む)

現在の地域活動への参加状況については、「参加している」が38.5%、「参加していない」が56.1%と、「参加していない」が「参加している」を17.6ポイント上回っています。

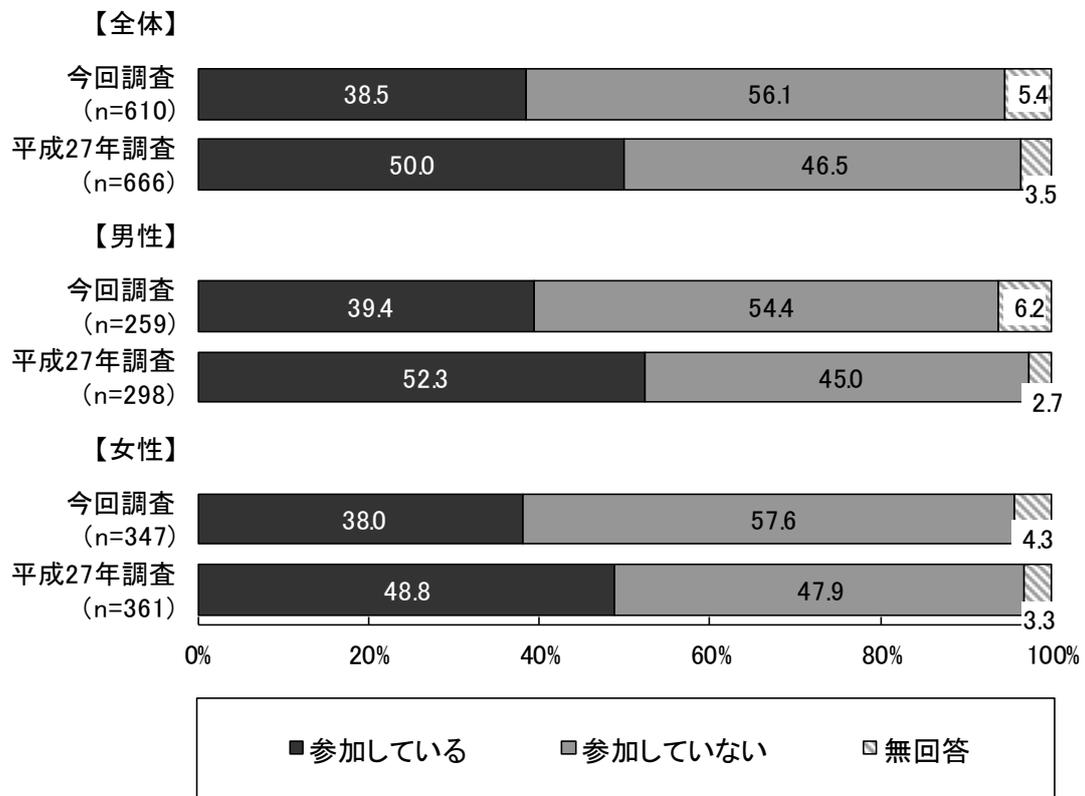
性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

年齢別にみると、男性では年代が上がるにつれ「参加している」の割合が高くなっています。また女性の40・60歳代では「参加している」が5割を超えている一方、女性の29歳以下で「参加していない」が84.7%と、他の年代に比べて割合が高くなっています。



●○経年比較○●

経年比較すると、男女ともに「参加している」が10ポイント以上減少しています。

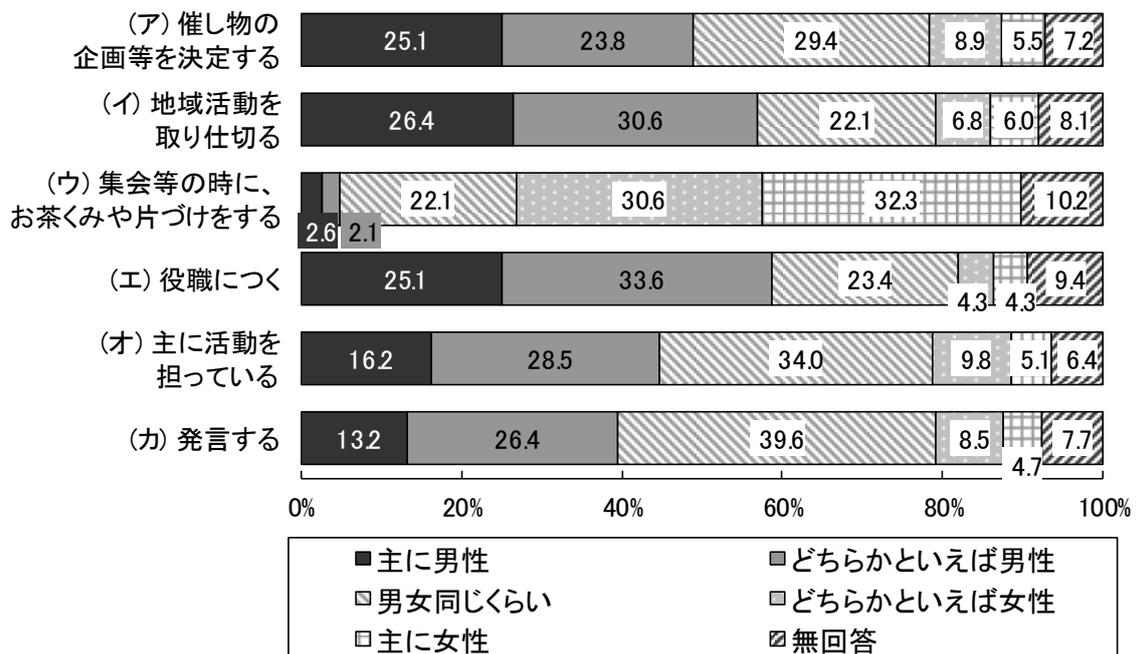


【問 18 で「1 参加している」を選択した方】

問 18-1 あなたが参加している地域活動の現状について、あてはまる考えをお選びください。（(ア) から (カ) それぞれ○は1つ）

参加している地域活動の現状については、[(ア) 催し物の企画等を決定する]、[(イ) 地域活動を取り仕切る]、[(エ) 役職につく]、[(オ) 主に活動を担っている]、[(カ) 発言する]で「主に男性」と「どちらかといえば男性」を合わせた“男性がする”が「どちらかといえば女性」と「主に女性」を合わせた“女性がする”に比べて、割合が高くなっています。また、[(ウ) 集会等の時に、お茶くみや片づけをする]で“女性がする”が62.9%と、“男性がする”に比べて58.2ポイント上回っています。

(n=235)

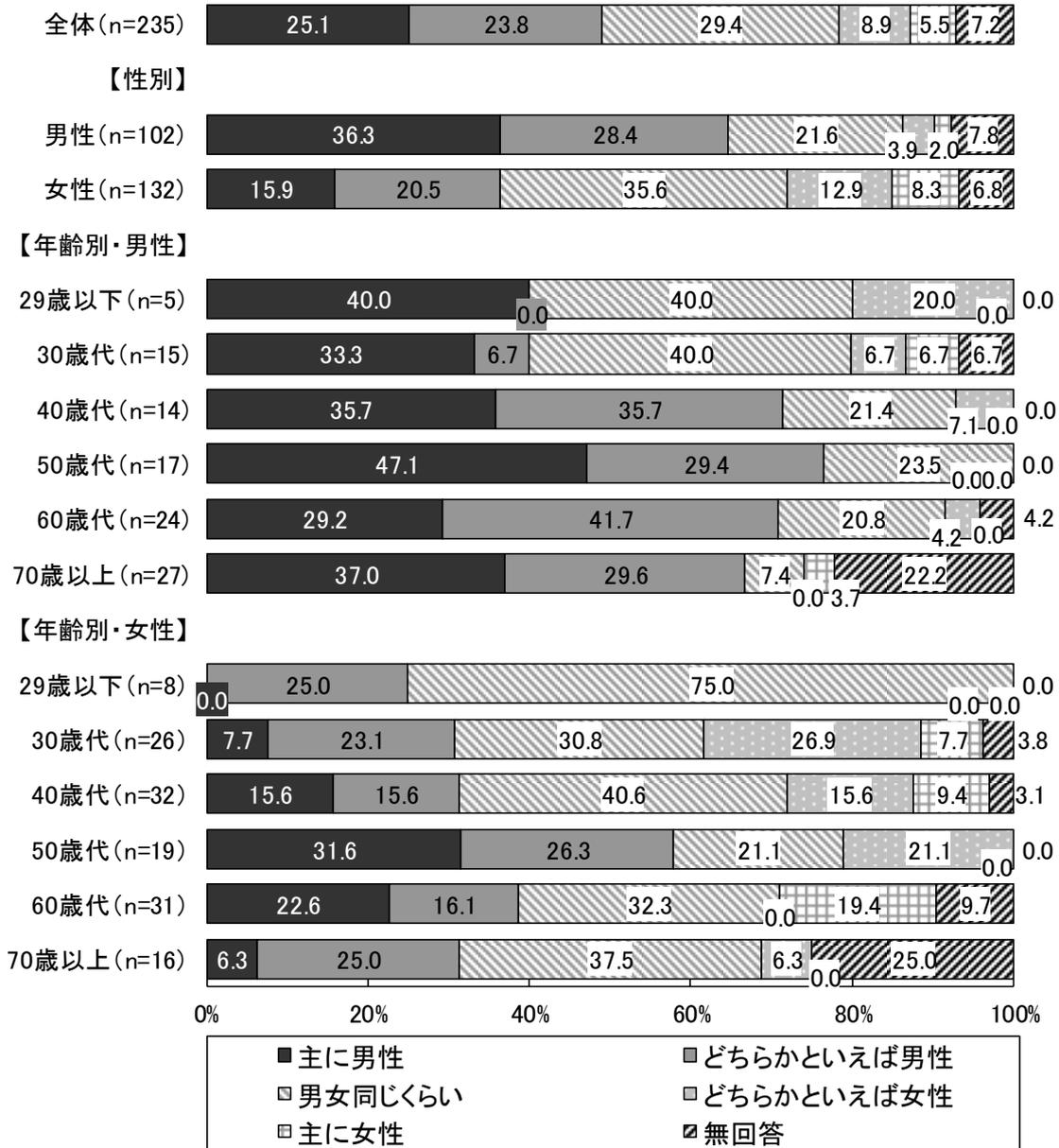


性・年齢別分析

【(ア) 催し物の企画等を決定する】

[(ア) 催し物の企画等を決定する]について、性別にみると、男性で“男性がする”が64.7%と、女性の36.4%に比べて、28.3ポイント高くなっています。

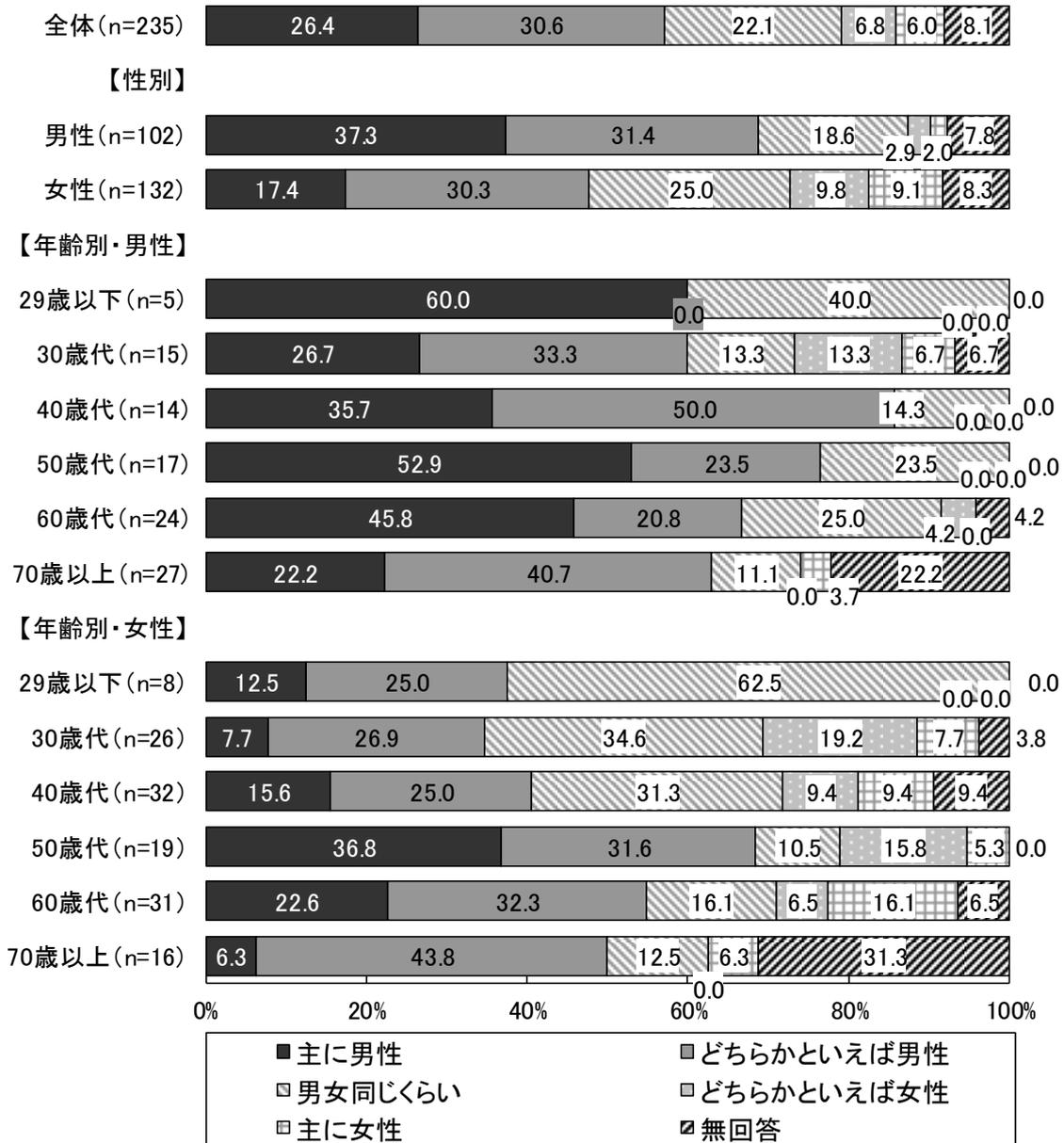
年齢別にみると、男性の40歳代以上と女性の50歳代で“男性がする”が5割台半ばを超えて割合が高くなっています。また、女性の29歳以下で「男女同じくらい」が75.0%と、他の年代に比べて高くなっています。



【(イ) 地域活動を取り仕切る】

[(イ) 地域活動を取り仕切る]について性別にみると、男性で“男性がする”が68.7%と、女性の47.7%に比べて、21.0ポイント高くなっています。

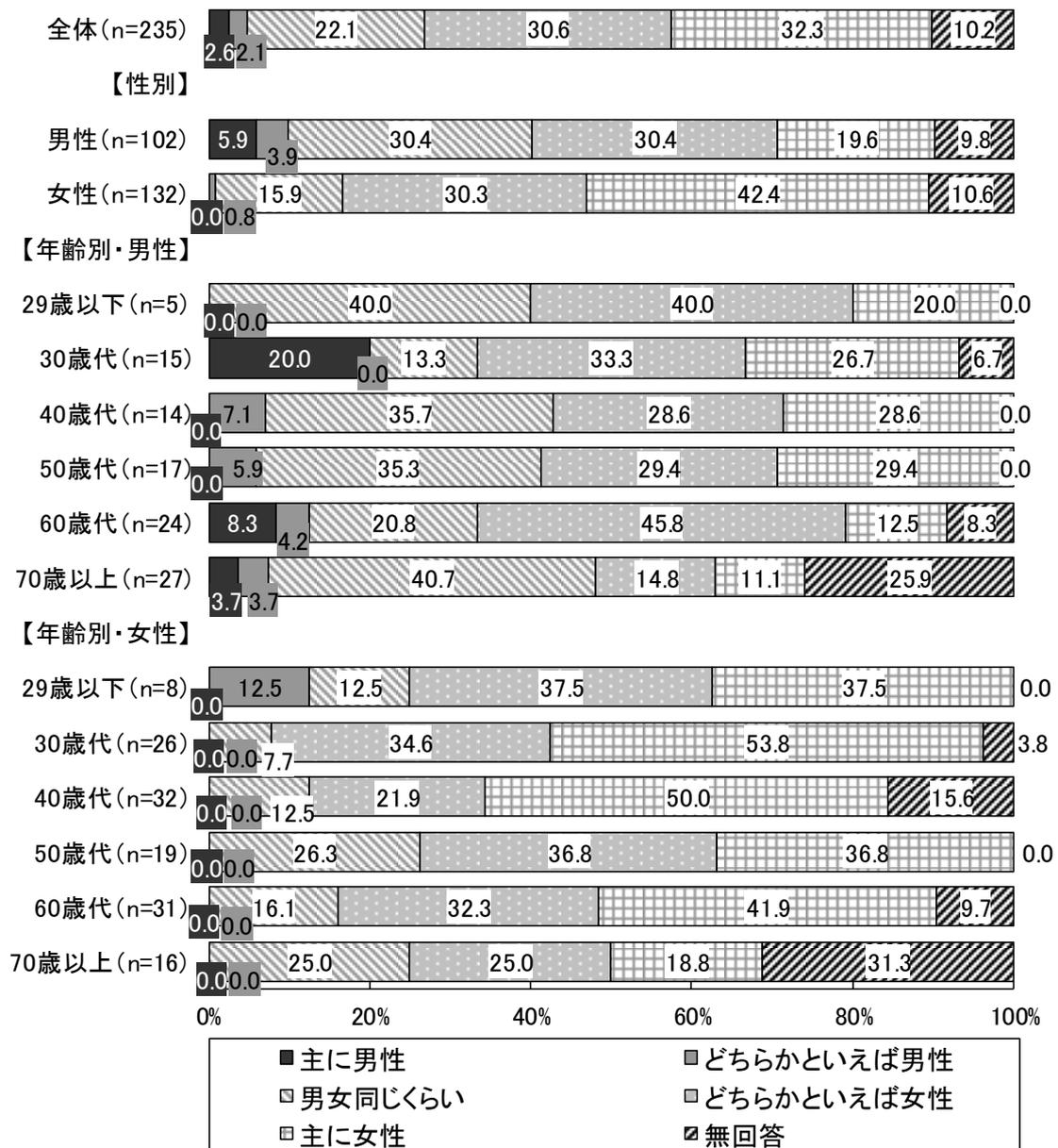
年齢別にみると、男性のすべての年代と女性の50歳代で“男性がする”が6割を超えて割合が高くなっています。また、女性の29歳以下で「男女同じくらい」が62.5%と、他の年代に比べて高くなっています。



【(ウ) 集会等の時に、お茶くみや片づけをする】

[(ウ) 集会等の時に、お茶くみや片づけをする] について性別にみると、女性で “女性がする” が 72.7%と、男性の 50.0%に比べて、22.7ポイント高くなっています。

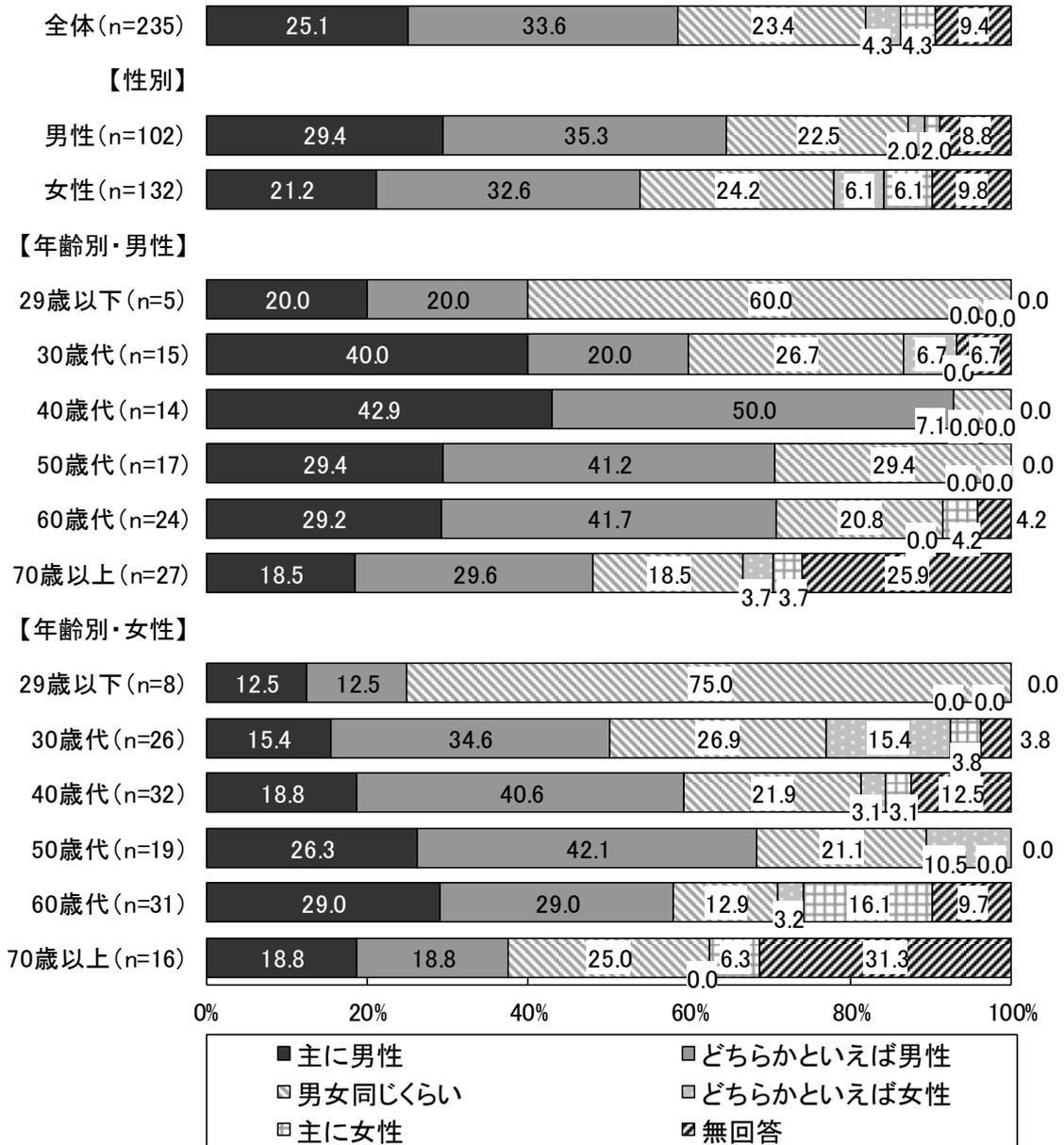
年齢別にみると、男女の 70 歳以上を除くすべての年代で “女性がする” が 5 割を超えて高くなっています。



【(エ) 役職につく】

[(エ) 役職につく] について性別にみると、男性で “男性がする” が 64.7%と、女性の 53.8%に比べて、10.9ポイント高くなっています。

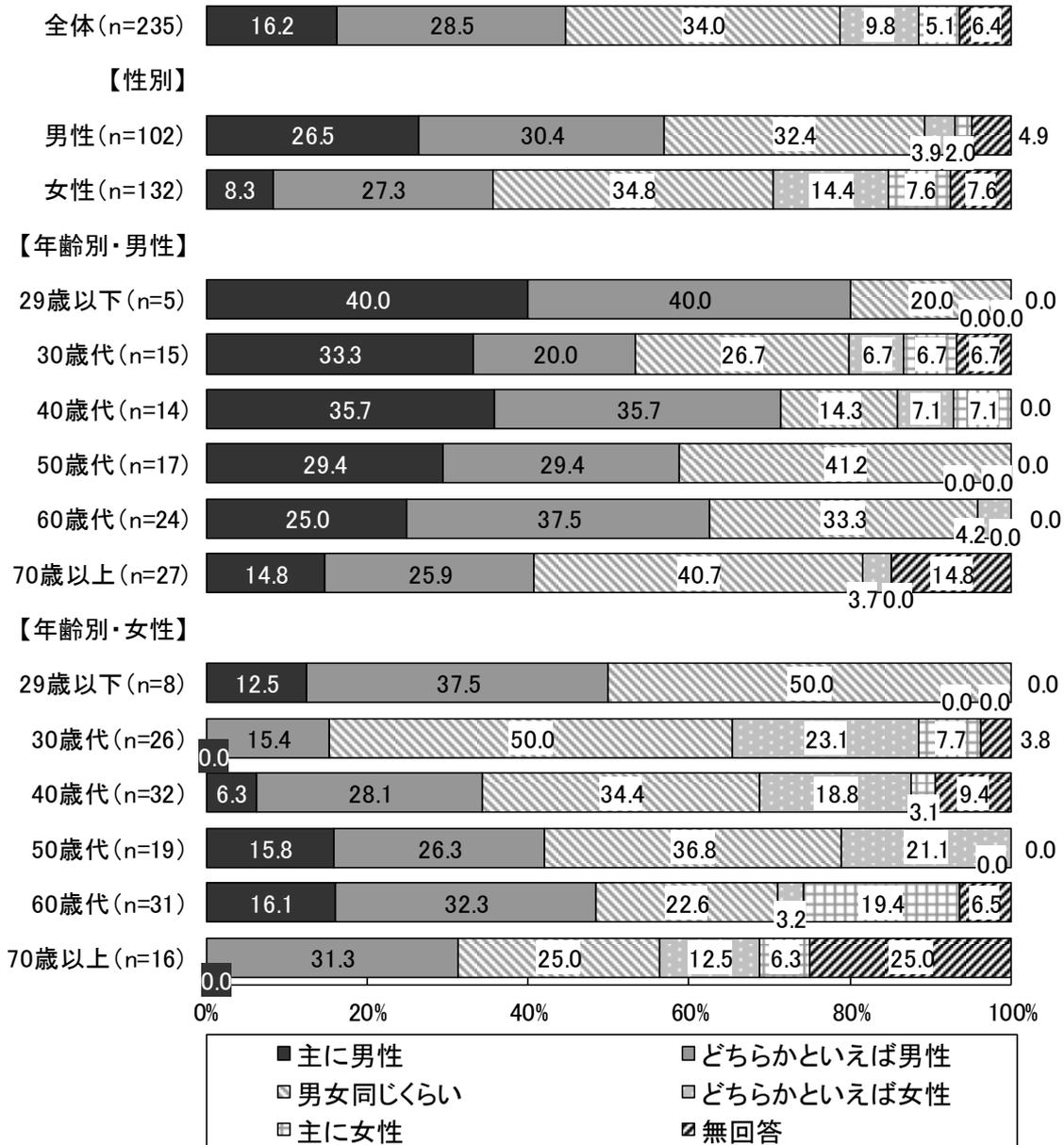
年齢別にみると、男性の30・40・50・60歳代と女性の50歳代で “男性がする” が6割を超えており、割合が高くなっています。また、「男女同じくらい」が男性の29歳以下で60.0%、女性の29歳以下で75.0%と、他の年代に比べて高くなっています。



【(オ) 主に活動を担っている】

〔(オ) 主に活動を担っている〕について性別にみると、男性で“男性がする”が56.9%と、女性の35.6%に比べて、21.3ポイント高くなっています。

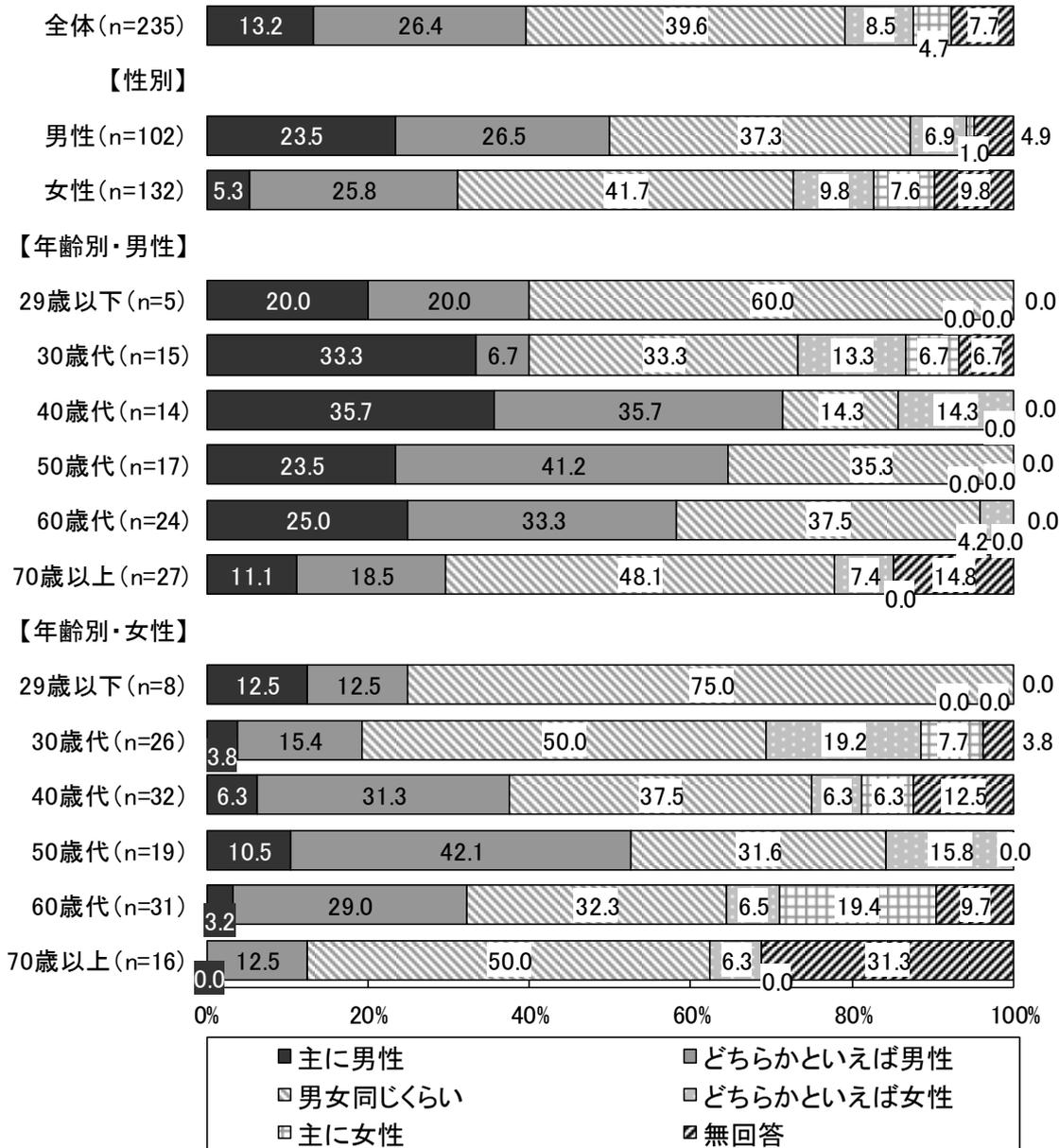
年齢別にみると、男性の29歳以下・40・60歳代で“男性がする”が6割を超えており、割合が高くなっています。また、女性の30歳代以下で「男女同じくらい」が50.0%と、他の年代に比べて高くなっています。



【(カ) 発言する】

[(カ) 発言する]について性別にみると、男性で“男性がする”が50.0%と、女性の31.1%に比べて、18.9ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男性の40・50・60歳代と女性の50歳代で“男性がする”が5割を超えており、割合が高くなっています。また、男性の29歳以下、女性の30歳以下、女性の70歳以上で「男女同じくらい」が5割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。



問 19 今後、地域や職場、家庭において、女性が活躍できる環境を作るためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたのご意見をお聞かせください。

問 19 の内容については、201 件の意見が寄せられました。以下に原文のまま掲載します。

ご意見	性別	年齢
女性だからできる事、気づく事を活かしていく。	男性	20 歳未満
男性の理解や女性の意識の向上はもちろんのこと、女性の活躍が見られるモデルケースを広く知ってもらうこと。	男性	20 歳未満
働き方改革。	男性	20 歳未満
性別関係なく能力で評価されるような社会になること。	女性	20 歳未満
女性の安心できる地域や職場を作って欲しい。家事、育児、介護の何かしらのサービスを取り入れる。	女性	20 歳未満
保育、幼児教育等の量的、質的向上。待機児童の解消。	女性	20 歳未満
女性たち自身が自信を持って発言することが必要だと思う。	女性	20 歳未満
周りの理解。	女性	20 歳未満
正直 10 代なのでわからないが本音ですが、誰かが頑張っていたり、やっていたら次も次となるのが日本の一般的な考えなので、そういった人を大きく取り上げたりすること。	女性	20 歳未満
夫婦での役割分担が出来るよう、男性と女性の業務量の均等化。ライフイベントの負担が女性はどうしても重くなるため定期的に女性と職場が面談を行い、活躍したい女性をサポートしていく事で若い世代にも良い影響を与えられると思う。	女性	20 歳未満
男性は外に、女性は内にという概念を解く。	女性	20 歳未満
女性を差別しないこと。	男性	20 歳代
子育てに対する制度の充実。	男性	20 歳代
男子も女子も平等でありたい。	男性	20 歳代
職場の理解と身体・能力差による差別が生まれないような設備や装置の導入。	男性	20 歳代
男女差別を無くし、女性も仕事をしながら家庭の両立出来るように協力し合う。	男性	20 歳代
男性は女性の発言、行動に意見をする前に一度任せてみる。女性は男性に任せきりになったり、一歩引くよりは自分の存在をアピールして欲しい。男女ともにお互いを尊重し合う。	男性	20 歳代
地域、職場の理解。	男性	20 歳代
特に職場では、夫が育児休暇等を取得する事への理解が必要かと思います。	男性	20 歳代
産休、育休に対する直属の上司の考えの改善。	男性	20 歳代
当人の意識や周りの理解。	男性	20 歳代
小さいコミュニティ（2、3人で仲の良い人々）がまとまって参加できる。＝コミュニティに元々知り合いがいる状態を作る。	女性	20 歳代
下野市は保育や保育サービスが充実していると思うので、企業の理解、どれだけ企業が子育てに対して協力的か、労働時間の短縮、休暇制度の普及、男性の家事・育児等の協力が必要だと思います。	女性	20 歳代

ご意見	性別	年齢
女性だけでなく働く人全員の、働き方の選択肢が増えること。（在宅ワークや子連れ出勤、フレックス。）	女性	20 歳代
女性に対する職場の理解。	女性	20 歳代
女性が活躍することに否定的な考えの人を説得する。	女性	20 歳代
女性が育児や介護で休まざる得ない状況になった時の職場の理解が必要だと思います。	女性	20 歳代
女性議員やリーダーを増やすよう、上層部の男性に対して働きかける。	女性	20 歳代
職場や家庭への支援、地域の理解。	女性	20 歳代
周りの理解。子供が急に体調を崩したりしたとき早退や休めることなど。	女性	20 歳代
託児所、老人ホーム。	女性	20 歳代
主に出産や子育てが大きな障害になると思う。子育ては女性だけの仕事ではないという理解が必要。	女性	20 歳代
女性に対して、意見を聞くこと。	女性	20 歳代
夫の主體的な協力、周囲の子育てについての理解は必須だと思う。	女性	20 歳代
女性にしかできないことを提案し、女性が気軽にチャレンジしてみようと思える環境を作っていくこと。	女性	20 歳代
男性が優位という考え方が、年配の方に多く見られる。その考えを取り除き、平等に活躍できる場を与え、女性にやりがいや、向上心を与えて欲しい。また、育児についても充実したサービスが欲しい。	女性	20 歳代
職場や家庭での（主に男性からの）理解があること。	女性	20 歳代
男性の意識改革。高齢者が古い考えを押し付けないこと。	女性	20 歳代
男性の方達が今まで思ってきたこと、やってきたことの固定概念をなくすこと。	女性	20 歳代
女性自身のやる気と男性からの理解。	女性	20 歳代
男性も育休などを取りやすい環境にすること。女性が産休、育休後にも再就職や職場復帰しやすい環境作り。	女性	20 歳代
問7で回答したとおり。個人の状況において最適かが異なるということが各世代を通じて理解されること。夫婦別姓が認められる事。	女性	20 歳代
私の周囲においては、十分活躍しており、社会における自立を促すためにも、過剰な支援は、逆に作用している。	男性	30 歳代
柔軟な働き方の推進と理解。家事はほどほどに、便利なものは活用する。	男性	30 歳代
夫が家事をできる時間に帰れるような、夫側の職場意識。	男性	30 歳代
女性の活躍は重要だと思うが、女性メインの男女平等は日本をだめにすると思う。	男性	30 歳代
育児の負担を減らすこと。学童の無償化、男性側の賃金の引き上げ。	男性	30 歳代
女性の意識改革。	男性	30 歳代
やはり夫や職場などの協力が必要になってくると思います。	男性	30 歳代

ご意見	性別	年齢
男だから、女だからという意識。「女性を活躍させよう」ということが聞こえが良いからやろう、はやめた方が良くと思う。その活動で活躍できるようになったとして、本人は嬉しいのか。	男性	30 歳代
結婚出産を機に仕事を辞めたり、休職した女性が、再就職や職場復帰する為に、就職情報や教養を得る機会を増やし、保育施設やサービスの充実等でバックアップできれば、おのずと女性は活躍できるのでは。	男性	30 歳代
短い時間で労働し、短い時間でガッツリ稼ぎ、長い時間で家庭のことや、地域活動できる環境が必要である。	男性	30 歳代
女性が活躍できる環境はすでに沢山ある。環境が無いと考えていることが問題であり、固定概念である。その概念を持つ人が多いほど、選択肢は狭くなる。	男性	30 歳代
周囲にどの様にしてほしいかを伝える。	男性	30 歳代
特に必要なことは無い。	男性	30 歳代
古い考えを無くす。	男性	30 歳代
積極的に外に出る事。	男性	30 歳代
女性の家庭における家事、育児負担を（心理的、物理的）減らすことが必要だと思います。平日、他の大人の手と目が欲しい。	女性	30 歳代
どの場所であっても固定観念を変えること。	女性	30 歳代
男性も生理痛で休んだり、ツワリの辛さを知ったり、出産が出来るようになれば、男女平等になり、社会での女性の活躍場面が増える。	女性	30 歳代
女性、男性それぞれの思いや意見を聞き、すり合わせていくことが良いと思う。活躍したい女性もいればそうでない女性もいる。無理やり活躍させようとするのもどうかと思う。それぞれが得意な分野で活躍すればいいと思う。	女性	30 歳代
短時間勤務や働き方の多様性を多くの職場で取り入れてほしい。子供は国の宝として、子育てをどの年代の人でも支える気持ちを持って欲しい。男性が子育てに参加するのを当たり前にしていかないとなかなか難しいことが多い。	女性	30 歳代
女性が活躍する時間子供を見てくれる信頼できる仕組み、環境が整っていること。周囲の理解。（上司など積極的に発信していくこと。）	女性	30 歳代
家事が仕事として評価されるシステム。（人の子を預かってくれる、ゴミ捨て場や道の掃除。）	女性	30 歳代
育休、短時間労働を見直す。	女性	30 歳代
安心して子供を預けることができる環境の整備。（病児、台風等で学校が休校になった等の急な事件でも対応してくれる場。）	女性	30 歳代
何をすることも、時間は必要なので、まとまった時間が作れる事や、次の行動をするのに焦らずに、少し余裕を持てる様にできたらと思います。職場では残業をさせない様にするなど、できたらいいなと思います。	女性	30 歳代
子供がいると再就職しづらいと感じさせない様な保育、支援の充実や就職先の情報。	女性	30 歳代
男性（父親、夫）が早く帰宅すること。	女性	30 歳代

ご意見	性別	年齢
長時間（勤務時間とプライベートの境なく）働くことが美德とされ、評価されている現状が変わらないと、出産（産休）、通院すらできない不妊治療のための病院も諦めました。	女性	30 歳代
産休、育休を取得する際に職場で問題になるのは、代替職員がみつからない事。仕事の適齢期の方が1年限りの仕事を希望してこないため、結果、マイナス1人の状況になる。会社に金銭的余裕がないと、「女性が歓迎される」職場になるのはむずかしい。	女性	30 歳代
パートナーや家族に共感してもらえる環境。	女性	30 歳代
男性や（主人）、勤め先の理解が必要だと思う。	女性	30 歳代
夫の協力（子育て、家事等）。	女性	30 歳代
働きやすい環境を作る事。	女性	30 歳代
女性は出産、妊娠で仕事を休まなければいけない時期があり、子供が小さい時期は仕事をセーブして子供と過ごす時間を持つ必要があるので、その配慮が出来る社会が必要。	女性	30 歳代
子育てしながらも仕事出来る雇用形態、制度。	女性	30 歳代
職場の雰囲気、理解。	女性	30 歳代
偏見、差別をなくす。理解度。企業によっては女性の方が器用にこなし、丁寧処理出来ます。	女性	30 歳代
職場、家庭の理解。	女性	30 歳代
地域ではまだまだ女性がPTAや活動に参加することが多いように思うため、男性にも地域参加、暮らしている地域への理解や必要性、重要性を一緒に考えて欲しい。	女性	30 歳代
女性が「普通に」参画している、これが当たり前となるのが大切。あと、女性はこう、男性はこうといった無意識の思い込みを無くす。	女性	30 歳代
周囲の協力だと思います。女性が働きたいと思っても子育てもあって働くのは無理…、フルタイムは無理…、資格を取るのは無理…となってしまうことが多いと思います。子供を安心して任せられる夫や両親（保育園）などがあればと思います。まずは夫の理解と協力だと思います。	女性	30 歳代
転勤の多い仕事、長時間労働が少なくなれば夫婦で仕事を持つことが出来ると思う。	女性	30 歳代
男性の働く環境改善。賃金の安定。	男性	40 歳代
育児・介護体制の充実（公的支援の拡大）。	男性	40 歳代
周囲の理解、意識の変化と女性のやる気。	男性	40 歳代
女性が活躍したいなら、自分の職場内の不貞を続けながらも、開き直って積極的に不倫相手の男性上司に「こび」を売りながらも、出世して下さい。目立たないように長年不貞を続けている会社や部署が多すぎます。女性の活躍環境作りは大きなお世話です。その当事者達に、こみいった話を聞いてみるといいですよ。	男性	40 歳代
永住しない。	男性	40 歳代
女性の賃金を男性の賃金より多くする。	男性	40 歳代
育児休暇の取得を前提した人事制度の刷新。	男性	40 歳代

ご意見	性別	年齢
企業による意識改革、理解（労働時間等の制限を設けるなど）家庭がある場合。	男性	40 歳代
どの職場でも同じ割合で仕事をする事。先入観をなくす。保育所の充実。	男性	40 歳代
今も社会に根ざす男性中心的な考え方を様々な多様性を許すものに変えていく。	男性	40 歳代
女性も働ける環境改善。	男性	40 歳代
1. 問 17 の 1 と同じ。2. 自治会等の役員の仕事の仕事分担が多い。（役所で出来る事は役所でやって頂きたい。）	男性	40 歳代
個々の認識を攻める。	男性	40 歳代
もっとどの企業も女性を活躍の場に立たせ、管理職へ昇進させる環境が必要。	男性	40 歳代
子供、親の世話を妻任せにしない。夫も手伝う。	男性	40 歳代
男は仕事、女は家事という概念を変える事。まだまだ残っていると思う。	男性	40 歳代
男性・女性共に認め合う（長所・短所や存在等）。	女性	40 歳代
男性がもっと協力し合い、女性が働きやすくする必要がある。また、産後の職場復帰のしやすさ、環境を各企業がそれぞれ真剣に取り組む必要がある。	女性	40 歳代
女性、男性、関係なく能力のある人が活動すればいいのでは。	女性	40 歳代
職場の理解がされていないと思います。核家族が増えているなかで家庭優先を良く思っていない上司が多い。女性の上司でさえも。	女性	40 歳代
私は子供は大きくなり手がかからなくなりましたが、小さいお子さんを育てながら仕事をしている方は大変そうです。職場の理解がないと難しいのかと思います。	女性	40 歳代
どのような環境においても人と人のコミュニケーションをうまくとれるように各個人が意識をもつことが大切。	女性	40 歳代
女性の交流を進める会など。	女性	40 歳代
見本になる具体的な人物像をあげていくこと。	女性	40 歳代
男性の意識を変えること。	女性	40 歳代
子供を母親一人で育てずに、多くの人の手をかりることができるような環境整備。	女性	40 歳代
保育支援の公的サービスの充実。（特に病児保育定員の増加。）	女性	40 歳代
女性自身の意識を変える。	女性	40 歳代
地域の活動に年配の方が、口を出し過ぎだと思う。結局、準備片付けなど若い人が（子を持つ親）行うのだから意見ばかり言わないでほしい。	女性	40 歳代
家事、育児、親の介護、子供の学校行事など全て女性がするのがあたりまえのようになっていく。夫の職場にも理解してもらい、家の事で有休を使う際、休みやすい環境作り（会社）が必要だと思う。	女性	40 歳代
周囲の人たちの理解が必要。	女性	40 歳代
女性が働きやすい環境作りも大切だが、女性も働く自覚、働かせてもらえる事への感謝（夫、子、親、仕事場のスタッフ）をする。	女性	40 歳代

ご意見	性別	年齢
とにかく体制を確立すること。各個人の見解、対応はその上で啓発していくしかない。	女性	40 歳代
男尊女卑の思想が特に年配の方に根強いと思います。なかなか高齢者の方の考え方を变えるのは難しいので、将来のある子供たちに考えを広める事をした方が良いのではと思います。	女性	40 歳代
社会の仕組みや構造を変えないと（根本を変えないと）何も変わらない。	女性	40 歳代
女性活躍のための法整備が必要。	女性	40 歳代
男性も女性も関係なく、育児や介護に協力し合う国民皆の考え方。	女性	40 歳代
職場や家族の理解、協力。	女性	40 歳代
残業や仕事を家に持ち帰る事の無い風土。	女性	40 歳代
男性社会である地域・職場が女性を認め・共存して行く思考が必要。	男性	50 歳代
男女同等の立場になる事。	男性	50 歳代
政治の改善。	男性	50 歳代
雇用環境整備。	男性	50 歳代
地域に根付いている習慣があるので変えられない。	男性	50 歳代
女性が家庭に入ったら育児や介護、学校や地域への関わりなど、仕事以外にやらなければならない事が多々あるのに対し、家族や男性側の会社の理解はまだまでするよう思う。女性がやるべきという概念から見直さないと何も変わらないと思う。	男性	50 歳代
男性と社会の意識改革。先進的な他の国や地域は、どの様な制度を取り入れているのか？	男性	50 歳代
古くからの習わしばかりにとらわれず、今の時代に合わせた考え方を持つことが必要だと思う。	男性	50 歳代
老害の排除（古い常識にとらわれ、皆の足を引っ張ってしまう。特に年齢の高い男性）。	男性	50 歳代
妻などは、女性の活躍を取り上げるのが疑問だと言っている。女性という理由でむしろ仕事を押し付けられたりして迷惑だそう。男とか女、関係なくてよい。	男性	50 歳代
私の若い頃に比べて今の若い夫婦は子育てにとっても協力的に感じられるので、このまま、このような考え方を広めてもらえると良い事だと思います。（公園にもお父さんが多くみられるようになった。）	女性	50 歳代
賃金を上げる事により、仕事の時間、家庭への関わり方が少し多くなれる。仕事と家庭の両立は大変ですね。ますます、これから大変になるのでは。	女性	50 歳代
コミュニケーションで、どのようにするのがいいのか理解しあう。	女性	50 歳代
家族の理解が大切。親と同居しているお嫁さんの立場の人は、昔ながらの考えを持っている親がいるので理解がないと何もできません。	女性	50 歳代
男性が女性の活躍及び進出を大きく認めること。	女性	50 歳代
職場や家庭の理解と協力。	女性	50 歳代

ご意見	性別	年齢
年齢、性別を問わず、一人一人の人間として認め合うことができるように意識すること。	女性	50 歳代
女性や子ども、高齢者に限らず、地域を職場などのエリアを超えた、活動団体が求められる。老人が集まるカフェ、子ども食堂、認知症の方等が集まり共存する施設。	女性	50 歳代
リーダーシップをとってくれるような女性の存在。	女性	50 歳代
男性優位の考え方、偏見の是正、家族の協力が重要。	女性	50 歳代
家庭内で育児、介護、家事に携わる時間を短縮できる様工夫する事。女性が自分の為に使える時間を確保する事が必要だと思う（家族の意識改革とサービスの利用）。	女性	50 歳代
育児、介護支援。在宅勤務、時短勤務など。	女性	50 歳代
特に中高年においては男性の意識改革が必要だと考えます。	女性	50 歳代
出産は女性のみだが、育児、家事、介護は男性も可能な事。女性だけの問題とせず、共に考え、取り組むことが大事だと思います。	女性	50 歳代
女性特有の能力（識能）の有効活用。	男性	60 歳代
オレがオレの人と私が私がと言う人はダメ。人がついて行かない。	男性	60 歳代
1. 家庭で子育てをしながら、夫婦が共に自分のやりたいこと（仕事・趣味など）を実行できる社会的雰囲気さらに向上する。2. 女性が自ら働きたいと思うような仕事環境の整備。	男性	60 歳代
自覚と協力。	男性	60 歳代
社会の変化（少子高齢化）を考えると女性の能力をいかす方向にしていかないと未来はないと思う。	男性	60 歳代
学校教育の見直しで、日本人の意識改革を図る。社会や、他人とのコミュニケーション能力のアップを図る教育制度にする。身の回りの困った人への手助け出来る人間の育成をする。	男性	60 歳代
ワーク・ライフ・バランスを行い家事等の分担を行う。	男性	60 歳代
女性が積極的に参加する意識を育てる。	男性	60 歳代
一部の声の大きい年配者には若い人たちも女性も意見を言いにくく、否定されることが多い。またくどく酒飲みが多い（表時間タダ酒を飲みにきている）。	男性	60 歳代
会社組織の充実（社会的通念）でボランティア他対応をしやすくする様にする。	男性	60 歳代
男性の理解と協力が必要。	男性	60 歳代
育児等や介護への公共機関による支援。	男性	60 歳代
家族の協力。	女性	60 歳代
職場、家庭等の協力が必要。	女性	60 歳代
夫の協力や地域の支援が必要。	女性	60 歳代
無理のない日時の設定。子どもを連れていける環境を整えた場所づくり。	女性	60 歳代
参加のお誘い。	女性	60 歳代
周囲とのコミュニケーションが大切と思う。隣、近所、他人との交流が少なく、情報交換ができない。	女性	60 歳代

ご意見	性別	年齢
男性、女性、夫、妻という考え方をやめて、一人の人間として活動し、評価する。	女性	60 歳代
女性が活躍できる環境を作ろうとすることではなく、自分自身の考えや行動が、まわりの人に認めてもらえることが大切ではないでしょうか。女性だからではなく…。	女性	60 歳代
女性は、どちらかといえば活動に対して消極的な抵抗がある。そこで、自分が好んで活動できる場を探して活動することで、意識を変え、自信をつけていくことが大切だと思う。	女性	60 歳代
情報の発信をわかりやすくしてほしい。	女性	60 歳代
家族の理解と協力。	女性	60 歳代
職場、家庭における理解と協力体制。	女性	60 歳代
男性も女性も思いやりの心を持ってやって欲しいと思います。	女性	60 歳代
私はスポーツをしていますが、67 歳の高齢ですがどのチームを見てもほとんどが女性です。男性も入れる雰囲気が欲しいです。夫婦でやってみたいと思う。主人はいつも留守番です。	女性	60 歳代
男女の特性、性差等を考慮しつつ、同じ人間として相手を尊重する気持ちで関わり合うことが必要と考えます。既存のケースに左右されない。新しい発想での活躍スタイルについての情報も知りたいです。	女性	60 歳代
子供がいるといないとでは大きな差があると思います。家事、育児はどうしても女性の負担が大きいです。そのためには夫の理解、協力。そして職場でも十分な理解が必要だと思います。	女性	60 歳代
女性の意識。	無回答	60 歳代
職場ではスキルアップの研修と男女平等の給与体制。	男性	70 歳以上
男女平等という考えを優先しない限り、女性の進出は難しい。	男性	70 歳以上
子育てや介護に負担のかからない環境を作ってあげることが必要だと思います。	男性	70 歳以上
人格尊重すること。	男性	70 歳以上
相互理解	男性	70 歳以上
女性の能力、意欲を理解する。	男性	70 歳以上
互いの理解。	男性	70 歳以上
自由な場。全てに。	男性	70 歳以上
個人情報かわからないので近所でも顔はなんとなくわかるけれど、どこの子供さんかは、わかりません。声をかけて良いか迷います。皆で見守りたいと思いますが。	男性	70 歳以上
家庭内における女性の負担の軽減。	男性	70 歳以上
細部にこだわらない。全体、今後の方向性など考慮に入れる。	男性	70 歳以上
職場や家庭内の理解。又、本人のやる気。	女性	70 歳以上
活躍出来そうな人に積極的に声をかけ、現場体験などして、理解してもらおう。	女性	70 歳以上
お互いを理解し、尊重しながら話し合いができる環境、雰囲気づくり。	女性	70 歳以上
男性の理解必要である。	女性	70 歳以上

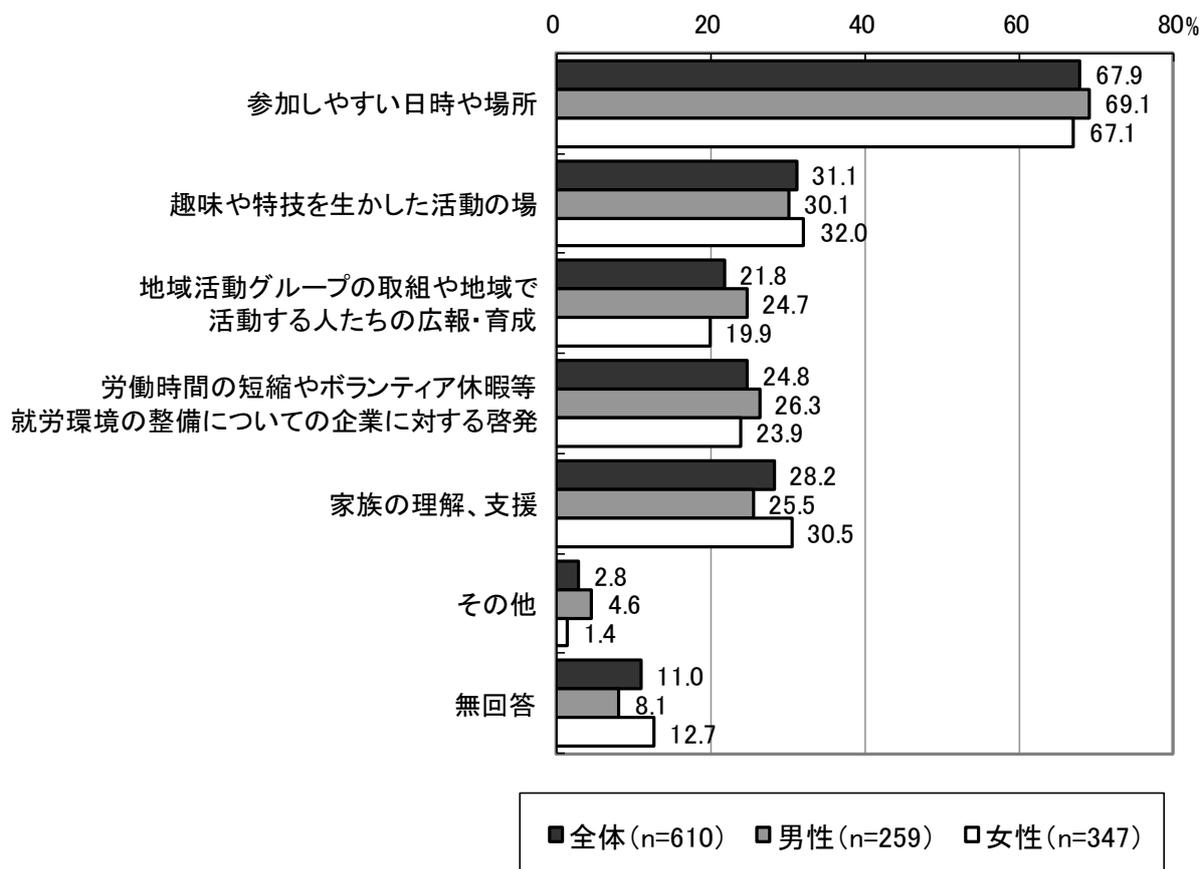
ご意見	性別	年齢
会社では社長、家庭では主人と男性の方が多いですが、長い人生の考えではまとめるのは女性だと思っています。この考えは私だけの考えですが、嫁いってから50年ずっと思い仲良くやってきてます。	女性	70歳以上
今にこだわらず、家族の協力、地域の方々と会話をする機会を持って、女性達、高齢者も参加することにより健康的な生活ができ、生きがいになる。	女性	70歳以上
子育て等家族で協力してもらおう。	女性	70歳以上
女性が外に出やすい環境を作ってあげる。	女性	70歳以上
独身で仕事を頑張っていた女性も結婚し仕事を継続していく為にも不可欠な子育て、もちろん男性の協力も必要ですが、常に課題の託児所・保育所・放課後の学童保育等の増設、充実、夫婦の勤務先の努力と理解が欠かせないと思います。	女性	70歳以上
大勢の参加が必要とする。	女性	70歳以上
自分自身が思っている事を意見として出せる事。	女性	70歳以上
まず第1に家族の理解と支援が無ければ出来ないと思います。	女性	70歳以上
気兼ねなく意見交換などが出来る様な集まりを多く持つようにする。	女性	70歳以上
協力し合う事が必要。	無回答	70歳以上

問 20 地域活動に男性も女性も共に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(○は3つまで)

地域活動に男性も女性も共に参加するために必要なことについては、「参加しやすい日時や場所」が67.9%と最も多く、次いで「趣味や特技を生かした活動の場」が31.1%、「家族の理解、支援」が28.2%となっています。

性別にみると、ほぼ同様の傾向となっているものの、女性で「家族の理解、支援」が30.5%と、男性に比べて5.0ポイント上回っています。



## 性・年齢別、婚姻状況別、子どもの有無別比較

年齢別にみると、すべての年代で「参加しやすい日時や場所」が最も多くなっているものの、男性の60歳代で「地域活動グループの取組や地域で活動する人たちの広報・育成」が44.7%、男性の70歳以上で「趣味や特技を生かした活動の場」が42.3%、女性の60歳代で「家族の理解、支援」が50.8%と、他の年代に比べて割合が高くなっています。

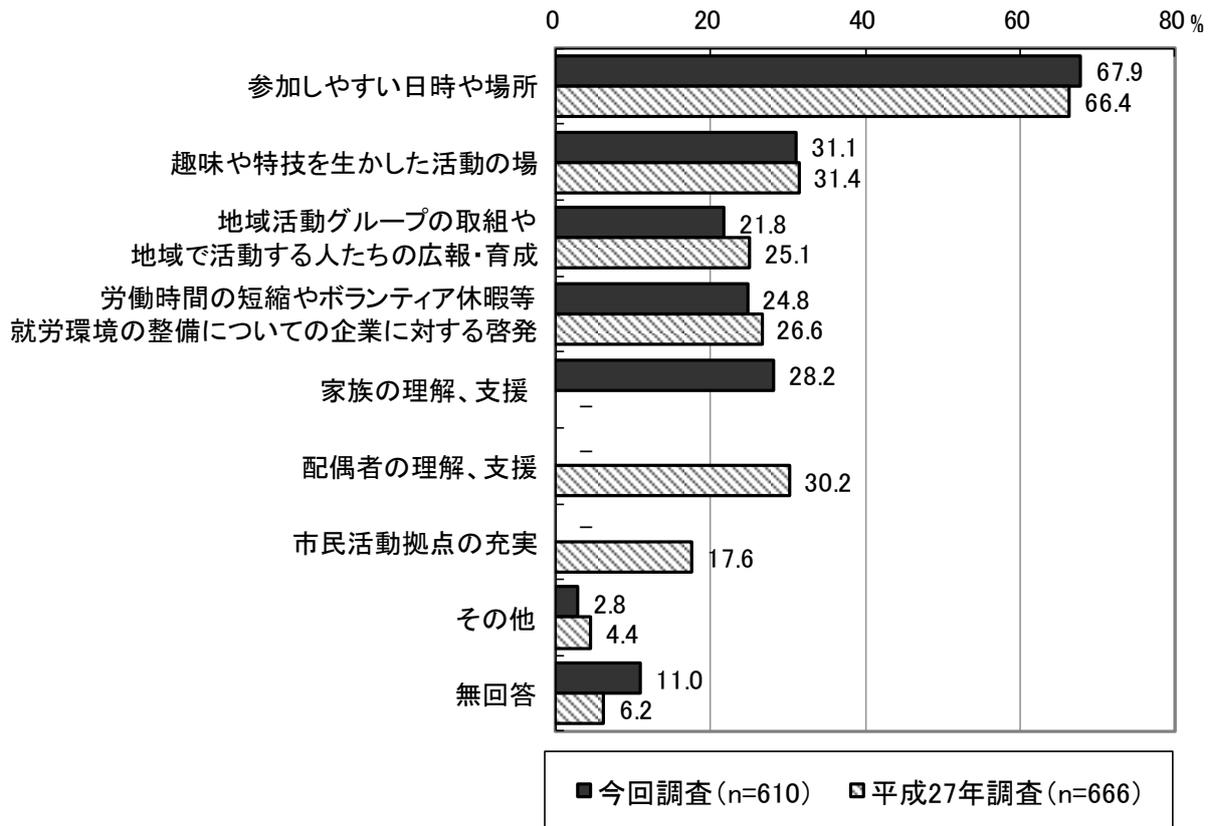
婚姻状況別にみると、「参加しやすい日時や場所」に次いで、[結婚している層]は「家族の理解、支援」が高くなっているのに対し、[結婚していない層]では「趣味や特技を生かした活動の場」が高くなっています。

子どもの有無別にみると、[子どもがいる層]は「家族の理解、支援」が11.0ポイント高くなっているのに対し、[子どもはいる層]では「労働時間の短縮やボランティア休暇など就労環境の整備についての企業に対する啓発」が7.6ポイント高くなっています。

(%)	合計	参加しやすい日時や場所	趣味や特技を生かした活動の場	地域活動グループの取組や地域で活動する人たちの広報・育成	労働時間の短縮やボランティア休暇など就労環境の整備について企業に対する啓発	家族の理解、支援	その他	無回答
<b>【年齢別・男性】</b>								
29歳以下	29	69.0	31.0	20.7	20.7	17.2	10.3	6.9
30歳代	48	64.6	27.1	10.4	39.6	20.8	0.0	10.4
40歳代	39	74.4	20.5	17.9	30.8	15.4	12.8	5.1
50歳代	44	72.7	31.8	18.2	34.1	25.0	4.5	11.4
60歳代	47	68.1	25.5	44.7	25.5	29.8	2.1	2.1
70歳以上	52	67.3	42.3	32.7	7.7	38.5	1.9	11.5
<b>【年齢別・女性】</b>								
29歳以下	59	79.7	30.5	20.3	35.6	22.0	0.0	8.5
30歳代	64	62.5	32.8	20.3	26.6	23.4	1.6	17.2
40歳代	60	71.7	35.0	13.3	33.3	25.0	1.7	1.7
50歳代	50	62.0	26.0	20.0	34.0	28.0	4.0	12.0
60歳代	61	70.5	27.9	27.9	6.6	50.8	1.6	8.2
70歳以上	53	54.7	39.6	17.0	7.5	34.0	0.0	30.2
<b>【婚姻状況別】</b>								
結婚している	431	69.6	29.5	22.5	26.0	31.8	2.8	10.2
結婚していたが、離別・死別した	55	61.8	38.2	23.6	20.0	25.5	0.0	14.5
結婚していない	121	65.3	33.9	18.2	23.1	17.4	4.1	10.7
<b>【子どもの有無別】</b>								
子どもがいる	403	69.5	29.8	22.3	25.1	32.8	2.7	9.7
子どもはいる層	55	60.0	30.9	21.8	32.7	21.8	1.8	18.2

●○経年比較○●

経年比較すると、平成27年調査と同様の傾向となっています。



※「家族の理解、支援」は今回調査にのみ設けられた選択肢。

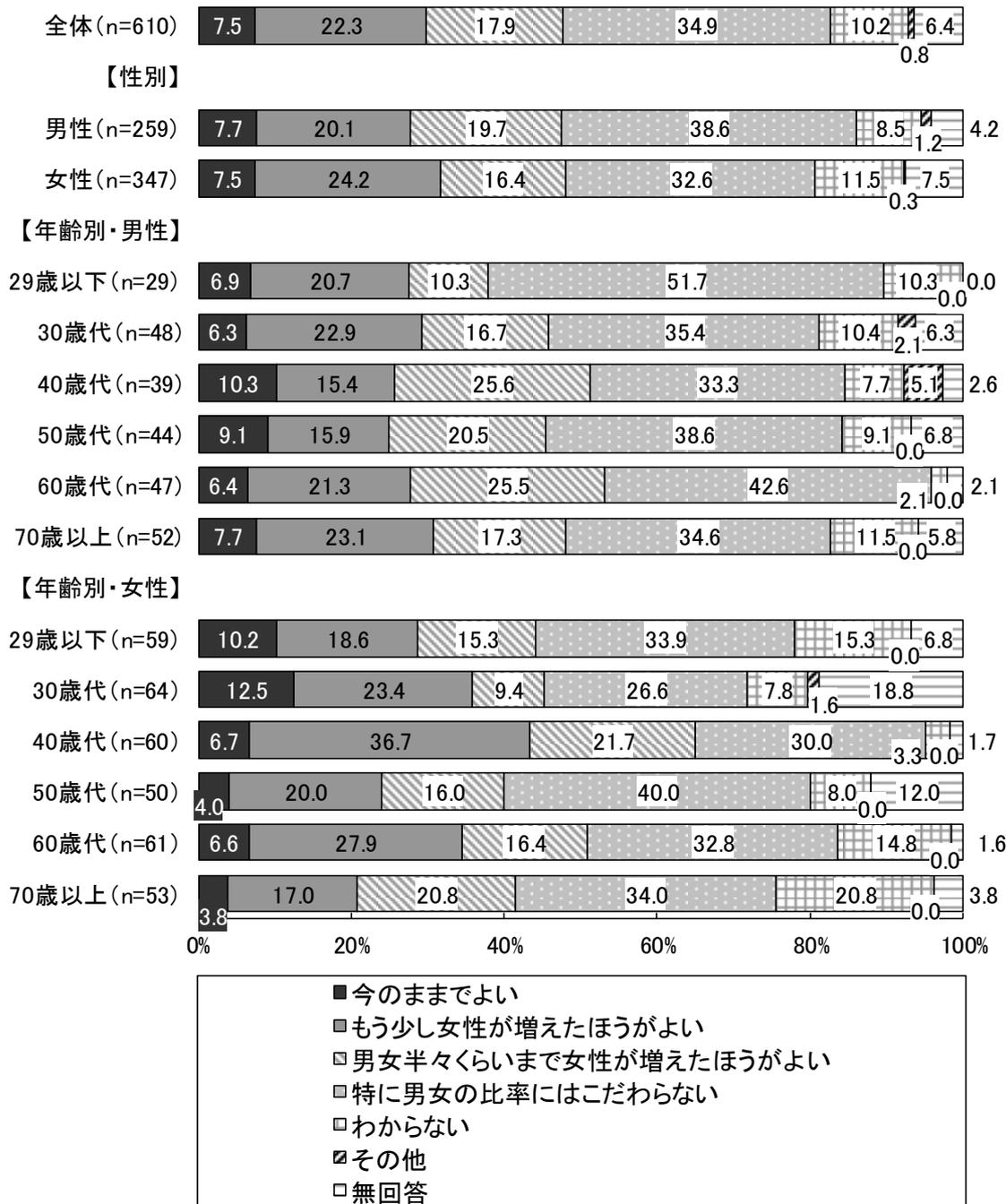
※「配偶者の理解、支援」と「市民活動拠点の充実」は平成27年調査にのみ設けられた選択肢。

問 21 現在下野市で設置している審議会や委員会等の委員のうち、約 30%が女性です。これについてあなたはどのように思いますか。(○は1つ)

下野市で設置している審議会や委員会等の委員のうち、約 30%が女性であることをどう思うかについては、「特に男女の比率にはこだわらない」が 34.9%と最も多く、次いで「もう少し女性が増えた方がよい」が 22.3%、「男女半々くらいまで女性が増えたほうがよい」が 17.9%となっています。

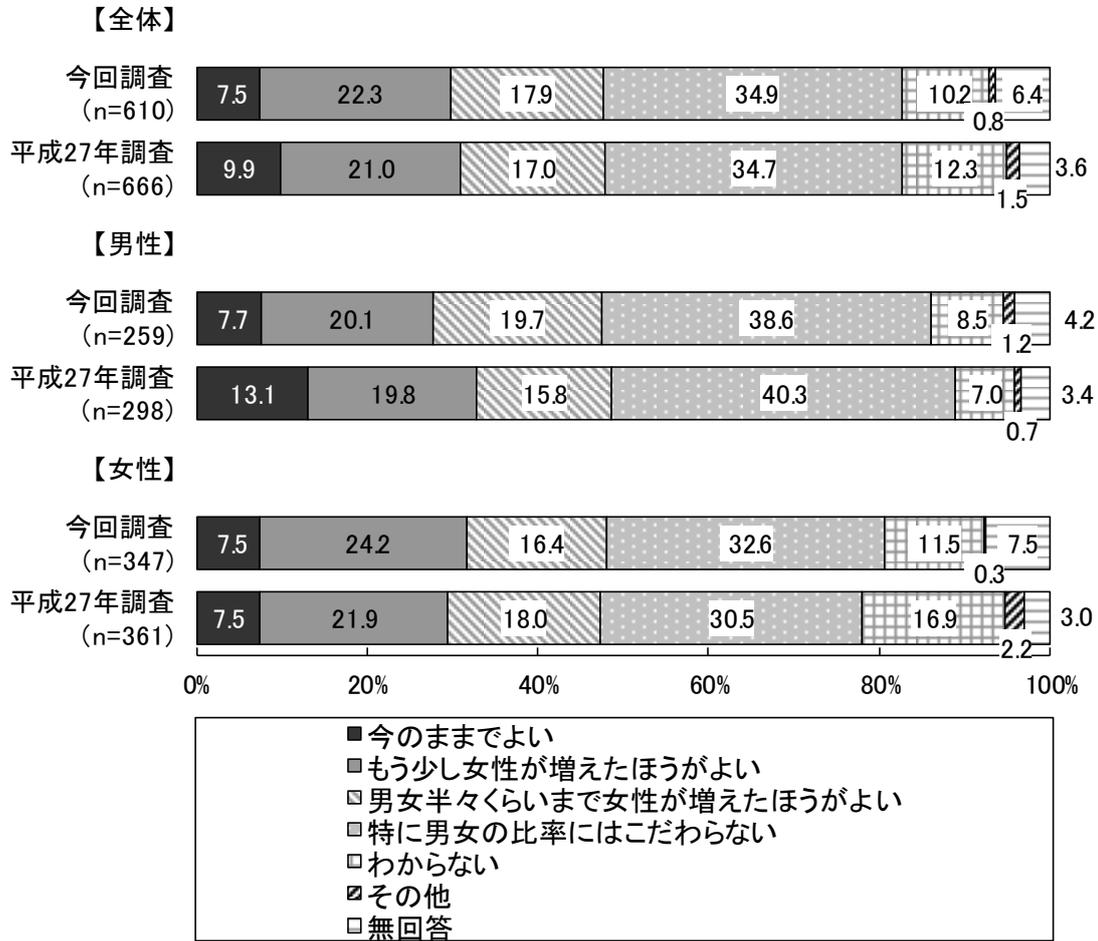
性別にみると、男性で「特に男女の比率にはこだわらない」が 38.6%と、女性に比べてやや高くなっています。

年齢別にみると、「もう少し女性が増えた方がよい」と「男女半々くらいまで女性が増えたほうがよい」を合わせた“女性が増えたほうがよい”との回答が女性の 40 歳代で 58.4%と、割合が高くなっています。



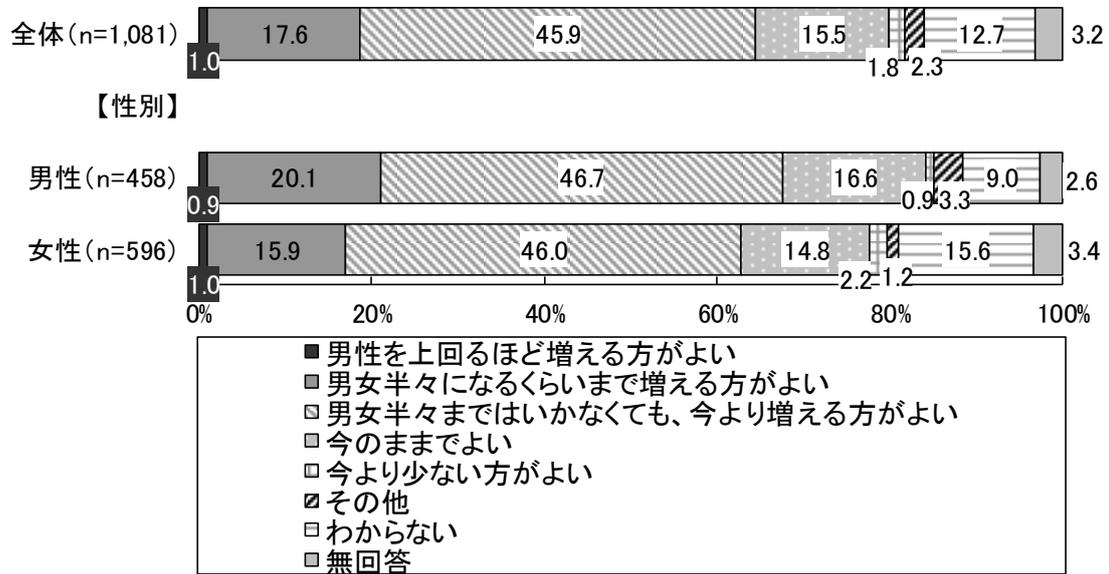
●○経年比較○●

経年比較すると、ほぼ同様の傾向となっているものの、女性で「わからない」が11.5%と、5.4ポイント減少しています。



**県結果（参考）**

議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性が参画することをどう思うかについての県調査と比較すると、栃木県では「男女半々くらいまではいなくても、今より増える方がよい」が45.9%と最も多く、次いで「男女半々になるくらいまで増える方がよい」が17.6%と、“女性が増えた方がよい”の回答が多くなっています。

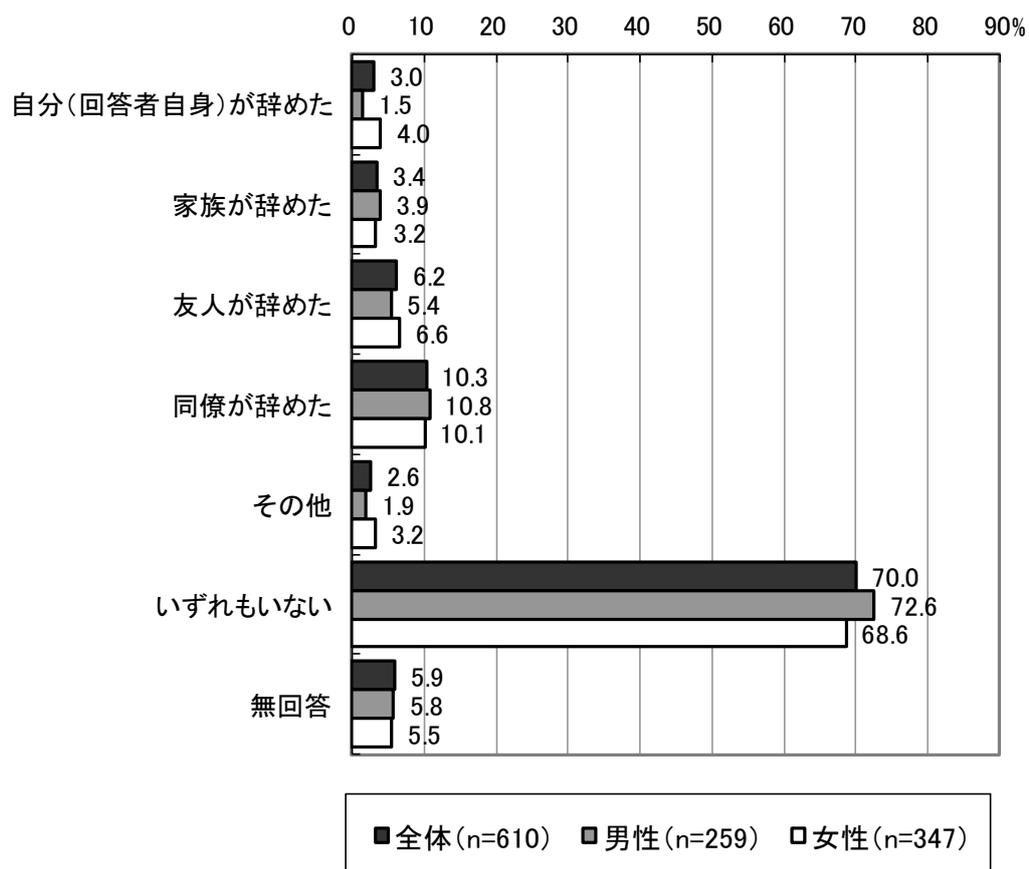


## (5) 老後・定年後についておたずねします

問 22 あなた、もしくはあなたの周りで両親など家族の介護を理由に仕事を辞めたことがある方はいますか。(あてはまるものすべてに○)

回答者自身や周りに介護を理由に仕事を辞めたことがある方がいるかについては、「いずれもない」が70.0%と最も多く、次いで「同僚が辞めた」が10.3%、「友人が辞めた」が6.2%となっています。

性別の結果に大きな差はみられませんでした。



### 性・年齢別、共働きの状況別比較

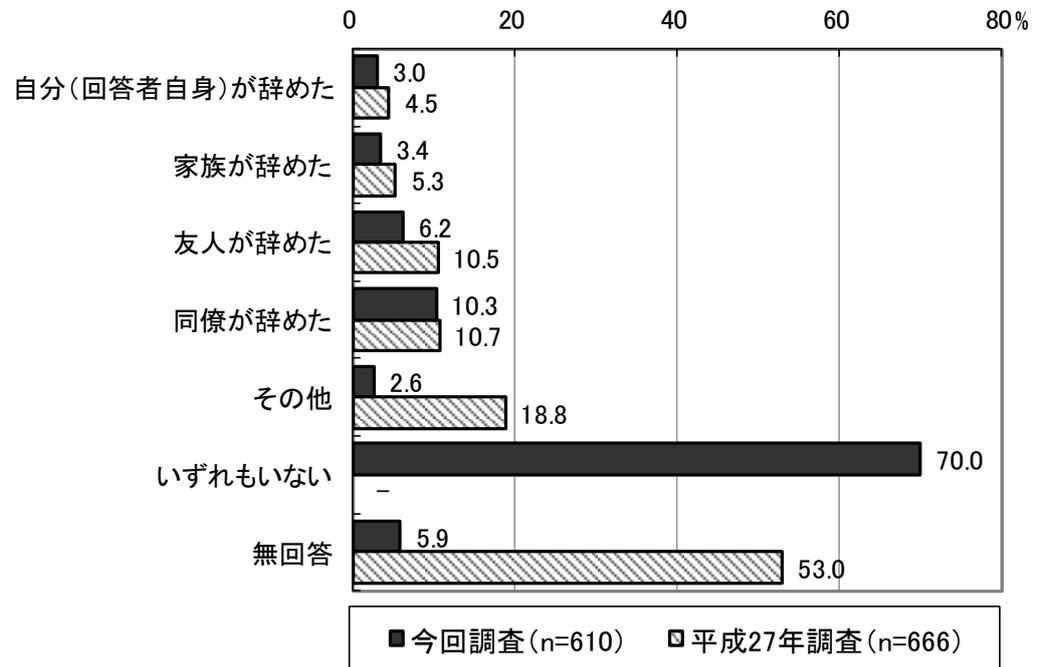
年齢別にみると、男性の50歳代で「同僚が辞めた」が22.7%と、他の年代に比べて割合がやや高くなっています。

共働きの状況別にみると、[妻だけ仕事を持っている]で「同僚が辞めた」が25.0%と、他の状況に比べて割合が高くなっています。

(%)	合計	自分 が 辞めた ( 回答者 自身 )	家族 が 辞めた	友人 が 辞めた	同僚 が 辞めた	その他	い ず れ も い な い	無 回 答
<b>【年齢別・男性】</b>								
29歳以下	29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	96.6	3.4
30歳代	48	0.0	4.2	2.1	16.7	4.2	70.8	2.1
40歳代	39	2.6	5.1	0.0	12.8	0.0	82.1	0.0
50歳代	44	2.3	2.3	11.4	22.7	4.5	54.5	9.1
60歳代	47	4.3	4.3	8.5	8.5	2.1	66.0	8.5
70歳以上	52	0.0	5.8	7.7	1.9	0.0	75.0	9.6
<b>【年齢別・女性】</b>								
29歳以下	59	0.0	1.7	3.4	5.1	5.1	88.1	0.0
30歳代	64	0.0	6.3	0.0	12.5	4.7	73.4	3.1
40歳代	60	3.3	1.7	1.7	11.7	3.3	78.3	0.0
50歳代	50	4.0	4.0	16.0	16.0	0.0	54.0	10.0
60歳代	61	9.8	4.9	6.6	14.8	1.6	54.1	8.2
70歳以上	53	7.5	0.0	15.1	0.0	3.8	60.4	13.2
<b>【共働き状況別】</b>								
共働き	230	2.2	3.9	7.8	16.1	3.0	66.5	3.0
夫だけ仕事を持っている	95	2.1	4.2	4.2	8.4	2.1	75.8	3.2
妻だけ仕事を持っている	12	8.3	0.0	0.0	25.0	0.0	58.3	8.3
夫婦とも無職	85	5.9	4.7	9.4	1.2	1.2	67.1	10.6
その他	7	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	42.9	28.6

## ●○経年比較○●

経年比較すると、ほぼ同様の傾向となっているものの、「その他」が16.2ポイント減少しています。

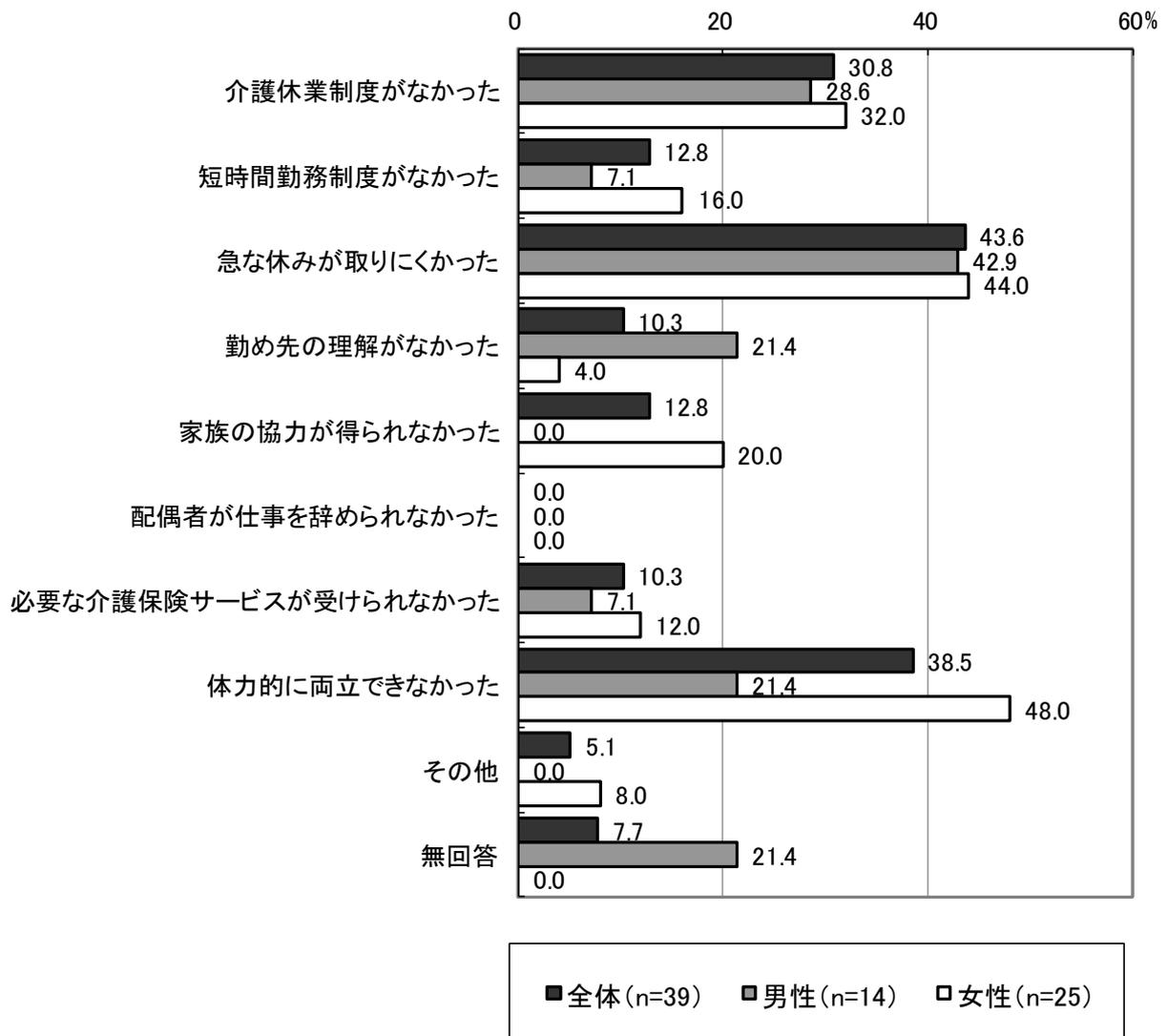


【問 22 で「1 自分（回答者自身）が辞めた」または「2 家族が辞めた」を選択した方】

問 22-1 どのような理由から仕事を辞めましたか。（あてはまるものすべてに○）

仕事を辞めた理由については、「急な休みが取りにくかった」が 43.6%と最も多く、次いで「体力的に両立できなかつた」が 38.5%、「介護休業制度がなかつた」が 30.8%となっています。

性別にみると、女性で「家族の協力が得られなかつた」、「体力的に両立できなかつた」が、男性に比べて 20 ポイント以上高くなっています。また男性で「勤め先の理解がなかつた」が 21.4%と、女性に比べて 17.4 ポイント高くなっています。



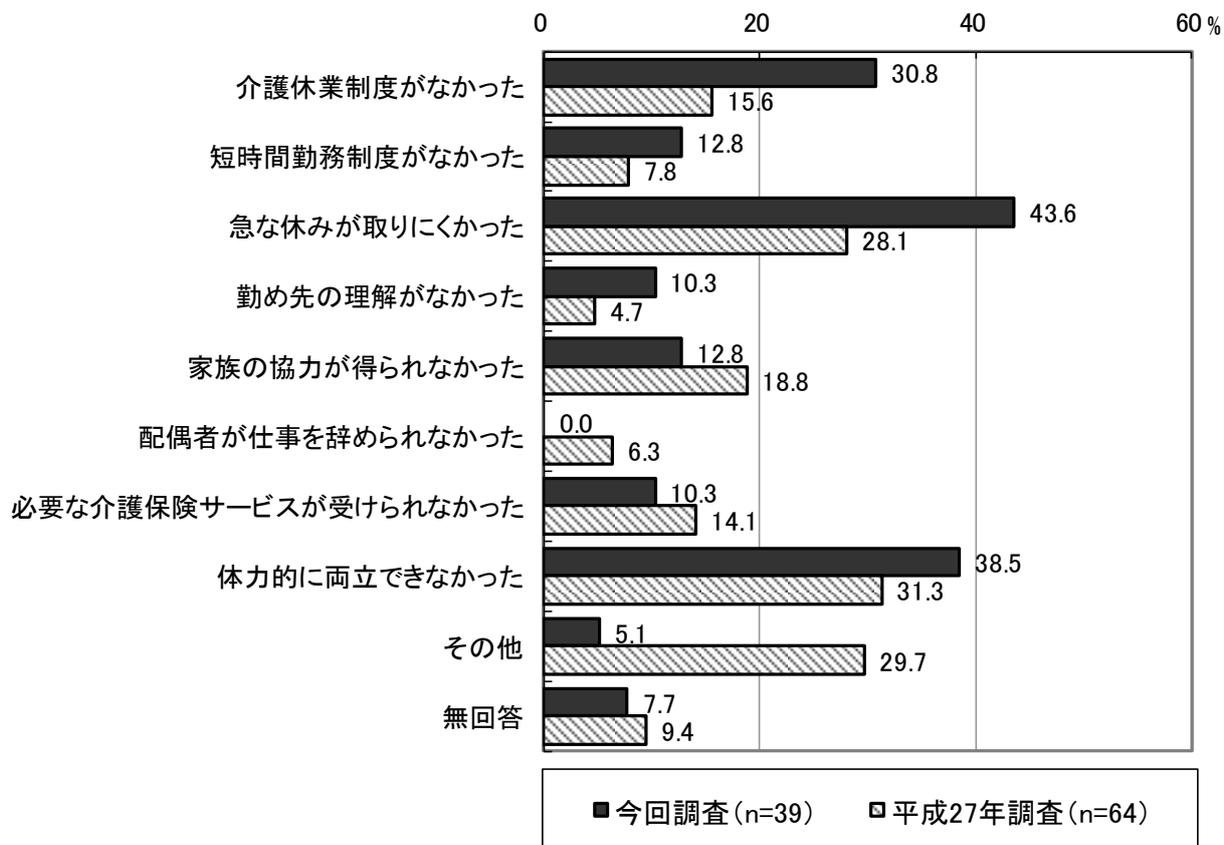
## 性・年齢別比較

年齢別にみると、性別・年代によって仕事を辞めた理由が異なるものの、女性の50歳代以下と男性の50歳代で「体力的に両立できなかった」が、他の年代に比べて割合が高くなっています。

	合計	た介護休業制度がなかった	か短時間勤務制度がなかった	か急な休みが取りにくかった	た勤め先の理解がなかった	か家族の協力が得られなかった	れ配偶者が仕事を辞められなかった	ス必要な介護保険サービスを受けられなかった	か体力的に両立できなかった	その他	無回答
(%)											
【年齢別・男性】											
29歳以下	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
50歳代	2	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
60歳代	4	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0
70歳以上	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
【年齢別・女性】											
29歳以下	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0
30歳代	4	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0
40歳代	3	33.3	33.3	100.0	0.0	33.3	0.0	33.3	100.0	0.0	0.0
50歳代	4	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0
60歳代	9	44.4	11.1	55.6	11.1	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0
70歳以上	4	50.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0

●○経年比較○●

経年比較すると、「介護休業制度がなかった」、「急な休みが取りにくかった」がそれぞれ15ポイント以上増加、「その他」が24.6ポイント減少しています。



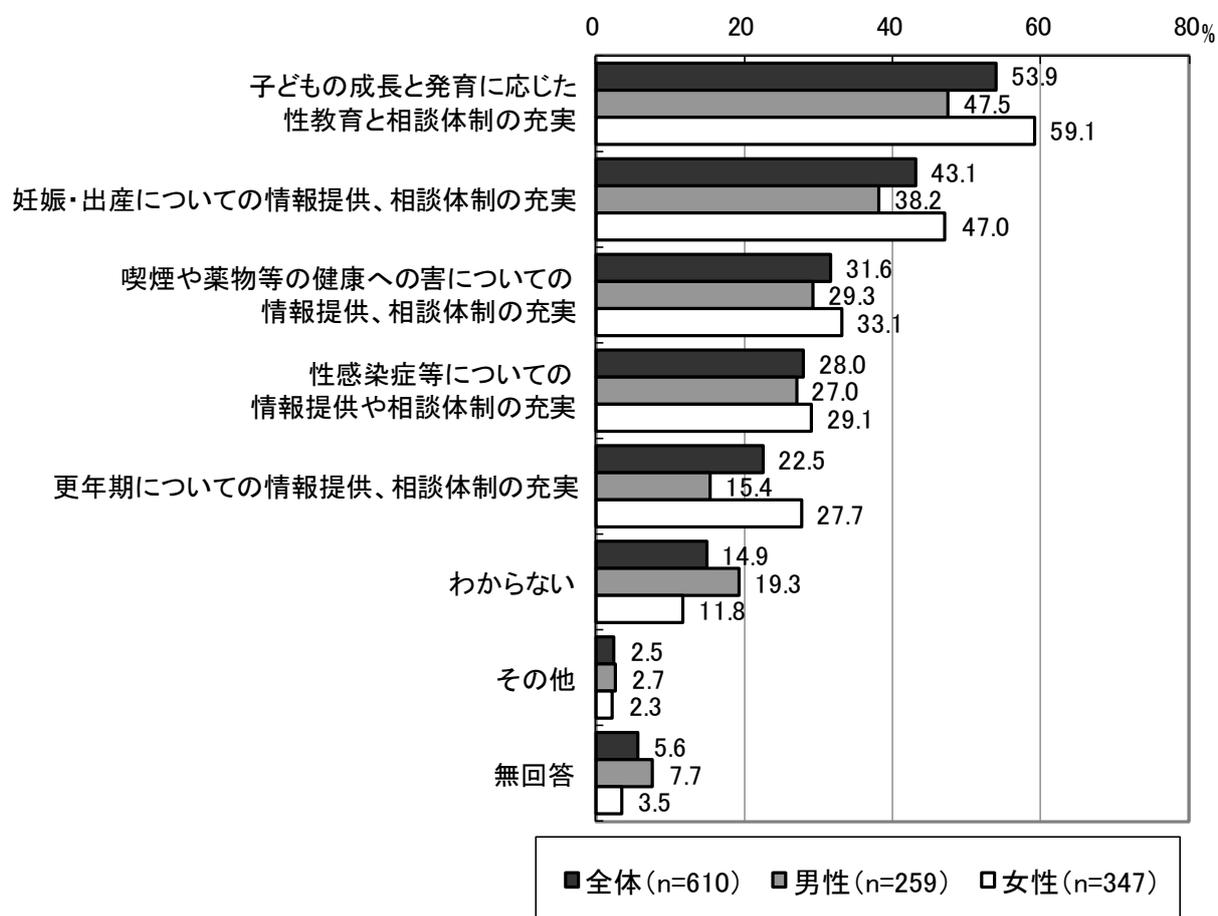
## (6) 健康についておたずねします

問 23 性の自己決定権（リプロダクティブ・ヘルス／ライツ）に基づいて、女性が妊娠、避妊、中絶に関して自分で決めたり、自分の健康を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。  
（〇は3つまで）

**\*性の自己決定権（リプロダクティブ・ヘルス／ライツ）：生涯自分らしく健康に生きるために、自分のからだや性に関することを自分で決める権利のこと。**

女性が妊娠、避妊、中絶に関して自分で決めたり、自分の健康を守るために必要なことについては、「子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実」が53.9%と最も多く、次いで「妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実」が43.1%、「喫煙や薬物等の健康への害についての情報提供、相談体制の充実」が31.6%となっています。

性別にみると、女性で「子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実」、「更年期についての情報提供、相談体制の充実」が、男性に比べて10ポイント以上上回っています。



## 性・年齢別、婚姻状況別、子どもの有無別比較

年齢別にみると、男性の30・40・50歳代と女性の40歳代以下で「妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実」が4割を超えて、女性の70歳以上では「喫煙や薬物等の健康への害についての情報提供、相談体制の充実」が45.3%、また、女性の40・50・60歳代で「更年期についての情報提供、相談体制の充実」が3割台半ばを超えて、他の年代に比べて割合が高くなっています。

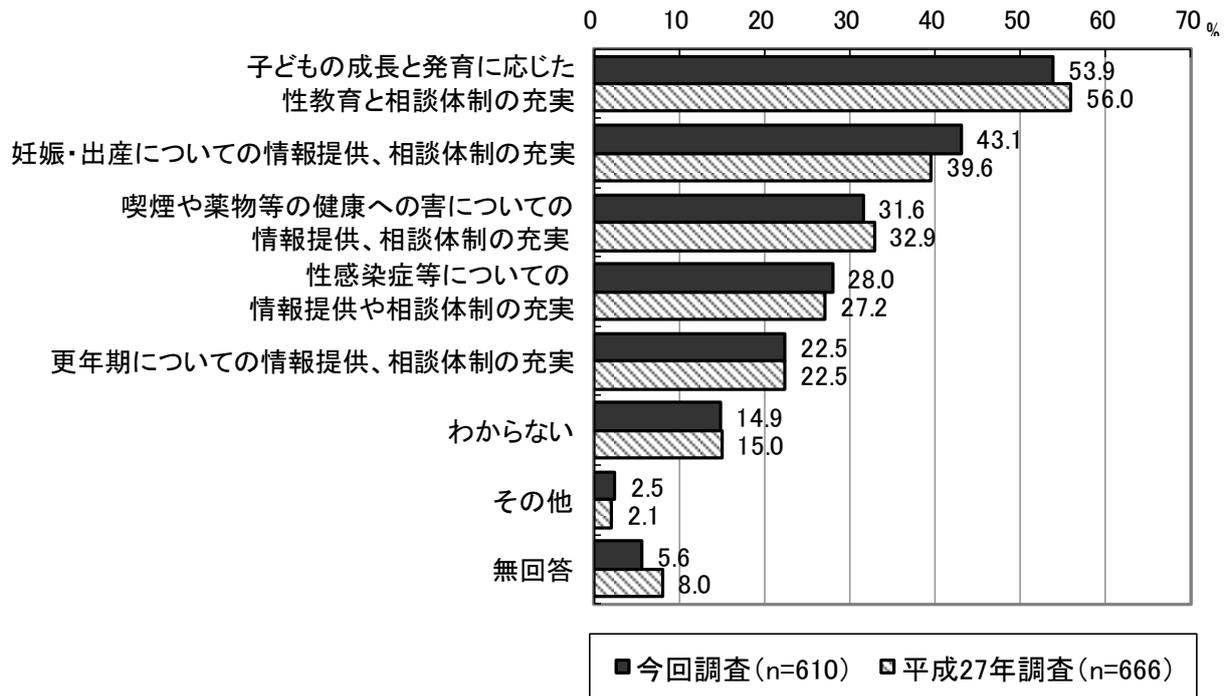
婚姻状況別にみると、「結婚している」、「結婚していたが離別・死別した」と答えた人は「子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実」が最も多くなっているのに対し、「結婚していない」と答えた人は「妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実」が最も多くなっています。

子どもの有無別にみると、[子どもがいる層]で「子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実」が最も多くなっているのに対し、[子どもはいない層]では「妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実」が最も多くなっています。また、[子どもがいる層]で「更年期についての情報提供、相談体制の充実」が25.6%と、[子どもはいない層]に比べて11.1ポイント高くなっています。

(%)	合計	子どもの成長と発達に た性教育と相談体制の充実	妊娠・出産について 提供、相談体制の充実	喫煙や薬物の健康への 体についでの情報提供、相 体制の充実	性感染症等についての 提供や相談体制の充実	更年期についての 供、相談体制の充実	わからない	その他	無回答
<b>【年齢別・男性】</b>									
29歳以下	29	62.1	34.5	27.6	34.5	3.4	20.7	3.4	3.4
30歳代	48	47.9	43.8	22.9	31.3	10.4	20.8	0.0	4.2
40歳代	39	64.1	51.3	23.1	28.2	12.8	12.8	2.6	2.6
50歳代	44	56.8	45.5	29.5	31.8	20.5	11.4	0.0	11.4
60歳代	47	40.4	34.0	38.3	23.4	23.4	19.1	8.5	8.5
70歳以上	52	25.0	23.1	32.7	17.3	17.3	28.8	1.9	13.5
<b>【年齢別・女性】</b>									
29歳以下	59	50.8	78.0	32.2	40.7	10.2	6.8	5.1	0.0
30歳代	64	67.2	62.5	32.8	32.8	23.4	7.8	1.6	1.6
40歳代	60	80.0	53.3	21.7	40.0	38.3	5.0	1.7	1.7
50歳代	50	58.0	38.0	32.0	20.0	38.0	12.0	2.0	4.0
60歳代	61	54.1	24.6	36.1	21.3	36.1	19.7	1.6	3.3
70歳以上	53	41.5	20.8	45.3	17.0	20.8	20.8	1.9	11.3
<b>【婚姻状況別】</b>									
結婚している	431	55.5	41.8	33.9	27.8	23.7	13.9	1.9	5.3
結婚していたが、離 別・死別した	55	56.4	32.7	30.9	21.8	25.5	14.5	1.8	7.3
結婚していない	121	47.9	52.9	24.8	32.2	16.5	19.0	5.0	4.1
<b>【子どもの有無別】</b>									
子どもがいる	403	56.6	39.7	35.0	28.5	25.6	12.4	1.7	5.7
子どもはいない	55	49.1	58.2	27.3	21.8	14.5	18.2	3.6	3.6

●○経年比較○●

経年比較すると、大きな違いは見られません。

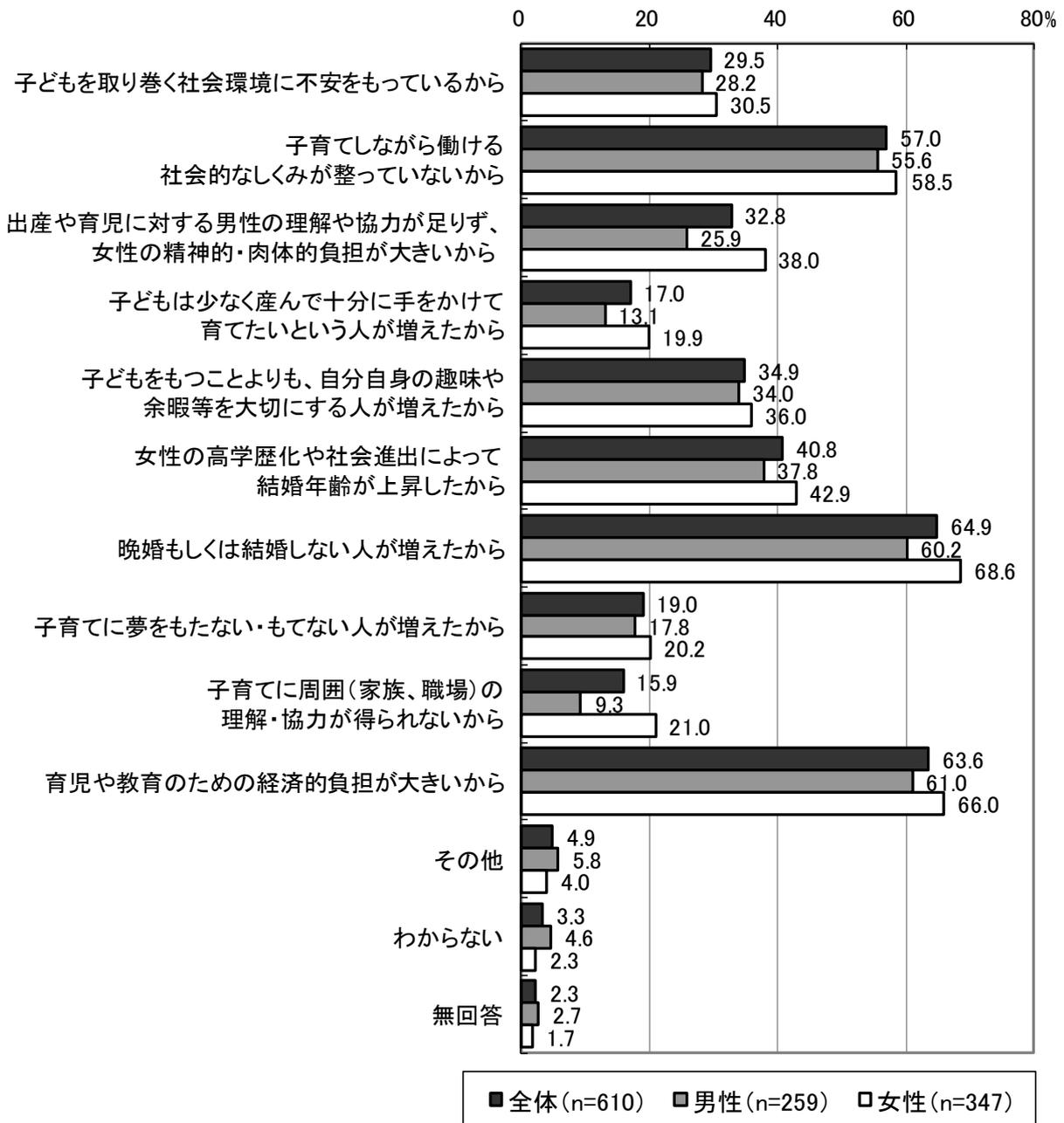


## (7) 結婚・出産・教育についておたずねします

問 24 近年、女性が一生のうちに産む子どもの数が少なくなっていますが、その主な理由としてどのようなことがあると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

女性が一生のうちに産む子どもの数が少なくなっている主な理由については、「晩婚もしくは結婚しない人が増えたから」が 64.9%と最も多く、次いで「育児や教育のための経済的負担が大きいから」が 63.6%、「子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから」が 57.0%となっています。

性別にみると、女性で「出産や育児に対する男性の理解や協力が足りず、女性の精神的・肉体的負担が大きいから」、「子育てに周囲（家族、職場）の理解・協力が得られないから」が男性に比べて 10 ポイント以上上回っています。



## 性・年齢別、婚姻状況別、子どもの有無別比較

年齢別にみると、男女ともに29歳以下で「子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから」が7割を超えて、割合が高くなっています。また、男性の40歳代と女性の30歳代以下で「育児や教育のための経済的負担が大きいから」が7割を超えています。また、男性の30・40・50歳代、女性の29歳以下で「子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にしたい人が増えたから」が4割を超えて、他の年代に比べて割合が高くなっています。

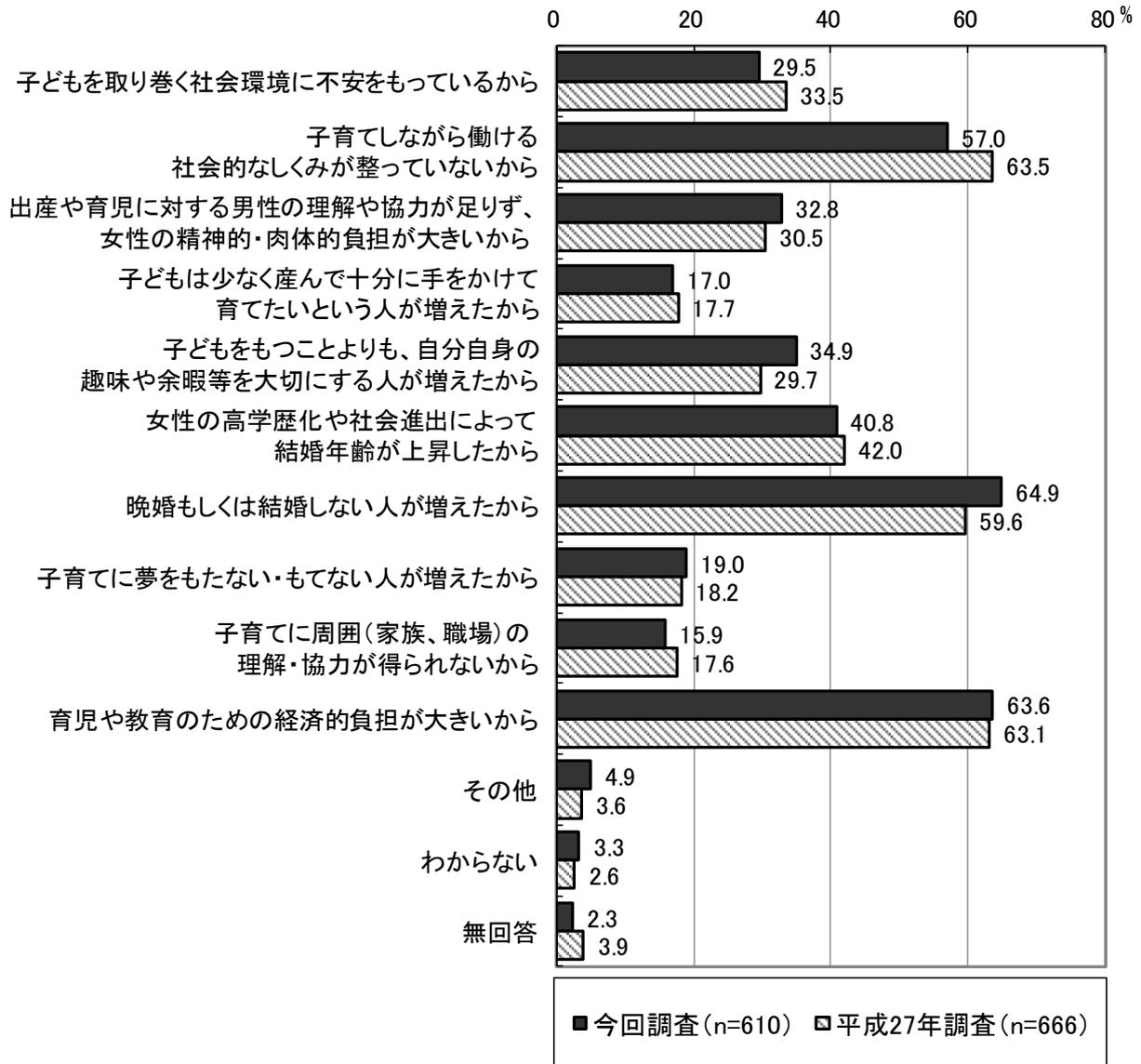
婚姻状況別にみると、「結婚していない」と答えた人は「子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから」が64.5%と、他の状況に比べて割合がやや高くなっています。

子どもの有無別にみると、[子どもがいる層]で「子育てに周囲（家族、職場）の理解・協力が得られないから」が16.4%と、[子どもはいない層]に比べて12.8ポイント高く、また[子どもはいない層]で「子育てに夢をもたない、もてない人が増えたから」が29.1%と、[子どもがいる層]に比べて13.5ポイント高くなっています。

	合計	子どもを取り巻く社会環境に不安	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから	身体的負担が大きいから	出産や育児に対する女性の精神的・肉体的負担が大きいから	子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから	子どもの趣味や余暇などを大切にしたい人が増えたから	子どもの趣味や余暇などを大切にしたい人が増えたから	女性の高学歴化や社会進出による結婚年齢が上昇したから	晩婚もしくは結婚しない人が増えたから	子育てに夢をもたない・もてない人が増えたから	子育てに周囲（家族、職場）の理解・協力が得られないから	育児や教育のための経済的負担が大きいから	その他	わからない	無回答
	(%)															
<b>【年齢別・男性】</b>																
29歳以下	29	13.8	75.9	27.6	3.4	31.0	37.9	55.2	13.8	17.2	51.7	3.4	6.9	0.0		
30歳代	48	27.1	52.1	22.9	8.3	41.7	35.4	54.2	25.0	12.5	60.4	6.3	6.3	2.1		
40歳代	39	33.3	56.4	35.9	23.1	41.0	41.0	64.1	23.1	15.4	76.9	10.3	5.1	0.0		
50歳代	44	34.1	50.0	18.2	20.5	40.9	43.2	68.2	18.2	6.8	56.8	4.5	0.0	4.5		
60歳代	47	31.9	55.3	31.9	8.5	25.5	34.0	61.7	19.1	4.3	57.4	4.3	4.3	2.1		
70歳以上	52	25.0	51.9	21.2	13.5	25.0	36.5	57.7	7.7	3.8	61.5	5.8	5.8	5.8		
<b>【年齢別・女性】</b>																
29歳以下	59	39.0	78.0	42.4	20.3	47.5	47.5	76.3	33.9	30.5	72.9	5.1	0.0	0.0		
30歳代	64	23.4	62.5	48.4	20.3	39.1	50.0	70.3	20.3	25.0	70.3	7.8	0.0	0.0		
40歳代	60	31.7	60.0	38.3	15.0	31.7	46.7	75.0	23.3	31.7	63.3	6.7	0.0	0.0		
50歳代	50	28.0	64.0	36.0	24.0	38.0	36.0	58.0	18.0	16.0	68.0	2.0	4.0	2.0		
60歳代	61	37.7	50.8	32.8	21.3	32.8	39.3	62.3	14.8	14.8	59.0	0.0	4.9	3.3		
70歳以上	53	22.6	34.0	28.3	18.9	26.4	35.8	67.9	9.4	5.7	62.3	1.9	5.7	5.7		
<b>【婚姻状況別】</b>																
結婚している	431	29.5	56.8	33.9	18.6	36.0	42.5	65.7	16.2	16.0	66.1	4.6	1.9	2.3		
結婚していたが、離別・死別した	55	38.2	43.6	34.5	12.7	27.3	38.2	60.0	21.8	5.5	54.5	0.0	7.3	1.8		
結婚していない	121	26.4	64.5	28.1	14.0	35.5	36.4	66.1	28.1	20.7	59.5	7.4	6.6	1.7		
<b>【子どもの有無別】</b>																
子どもがいる	403	30.3	56.6	34.5	17.1	34.7	41.9	65.3	15.6	16.4	64.8	3.5	2.2	2.5		
子どもはいない	55	34.5	52.7	30.9	12.7	38.2	40.0	70.9	29.1	3.6	58.2	7.3	1.8	1.8		

## ●○経年比較○●

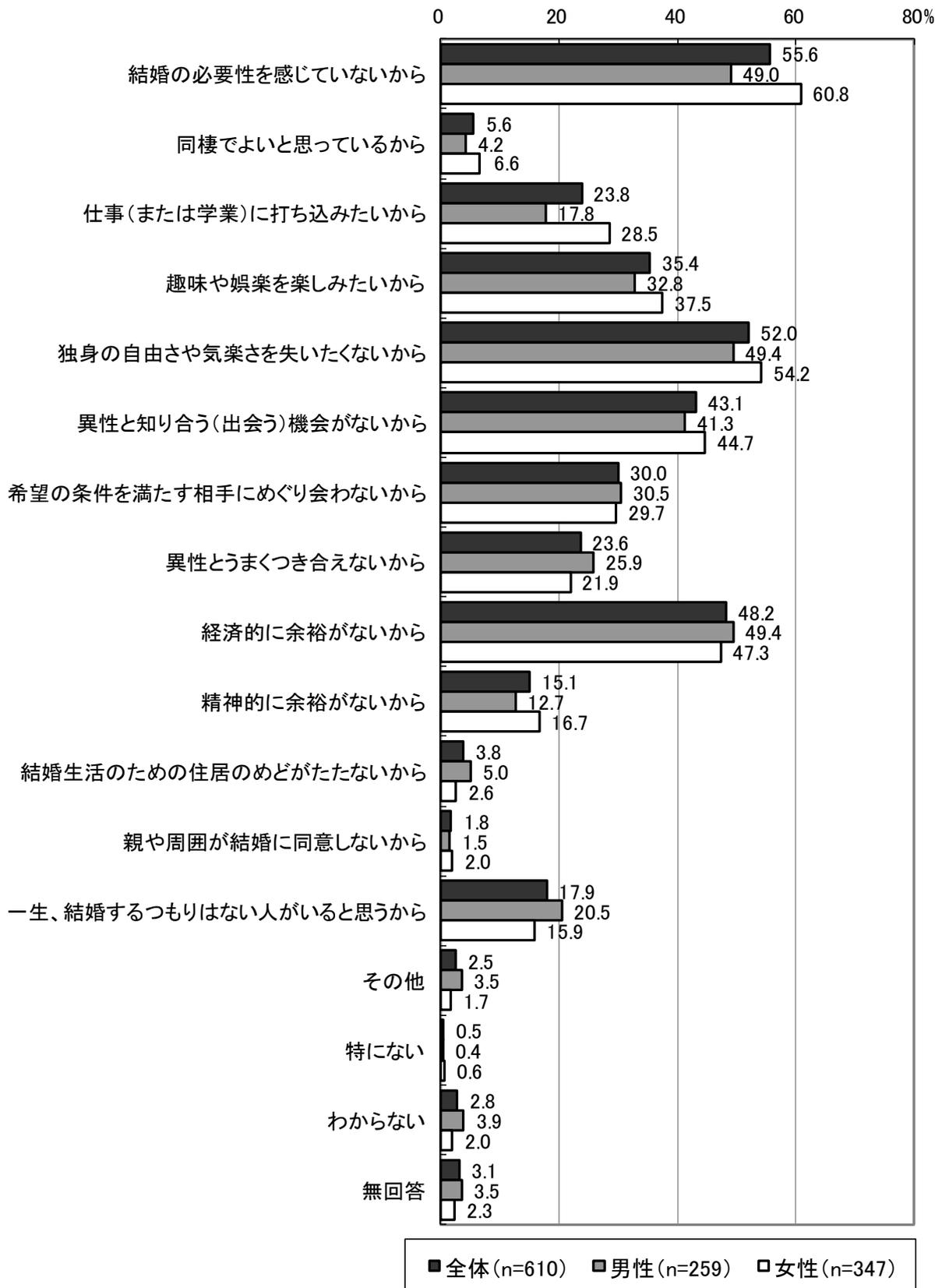
経年比較すると、「子育てしながら働ける社会的なしくみが整っていないから」が6.5ポイント減少し、「子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇等を大切にする人が増えたから」、「晩婚もしくは結婚しない人が増えたから」がそれぞれ約5ポイント増加しています。



問 25 日本では、若い世代で「未婚」「晩婚」が増えていると言われています。その理由はどんなことだと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

若い世代の「未婚」「晩婚」が増えている理由については、「結婚の必要性を感じていないから」が 55.6%と最も多く、次いで「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が 52.0%、「経済的に余裕がないから」が 48.2%となっています。

性別にみると、女性で「結婚の必要性を感じていないから」が 60.8%、男性で「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」、「経済的に余裕がないから」がそれぞれ 49.4%と最も多くなっています。また、女性で「結婚の必要性を感じていないから」、「仕事（または学業）に打ち込みたいから」が、男性に比べて 10 ポイント以上上回っています。



## 性・年齢別、婚姻状況別、子どもの有無別比較

年齢別にみると、すべての年代で「結婚の必要性を感じていないから」、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」、「経済的に余裕がないから」が多くなっています。それ以外では、女性の29歳以下で「仕事（または学業）に打ち込みたいから」、「趣味や娯楽を楽しみたいから」、男性の50・60歳代と女性の70歳以上で「異性と知り合う（出会う）機会がないから」が5割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。

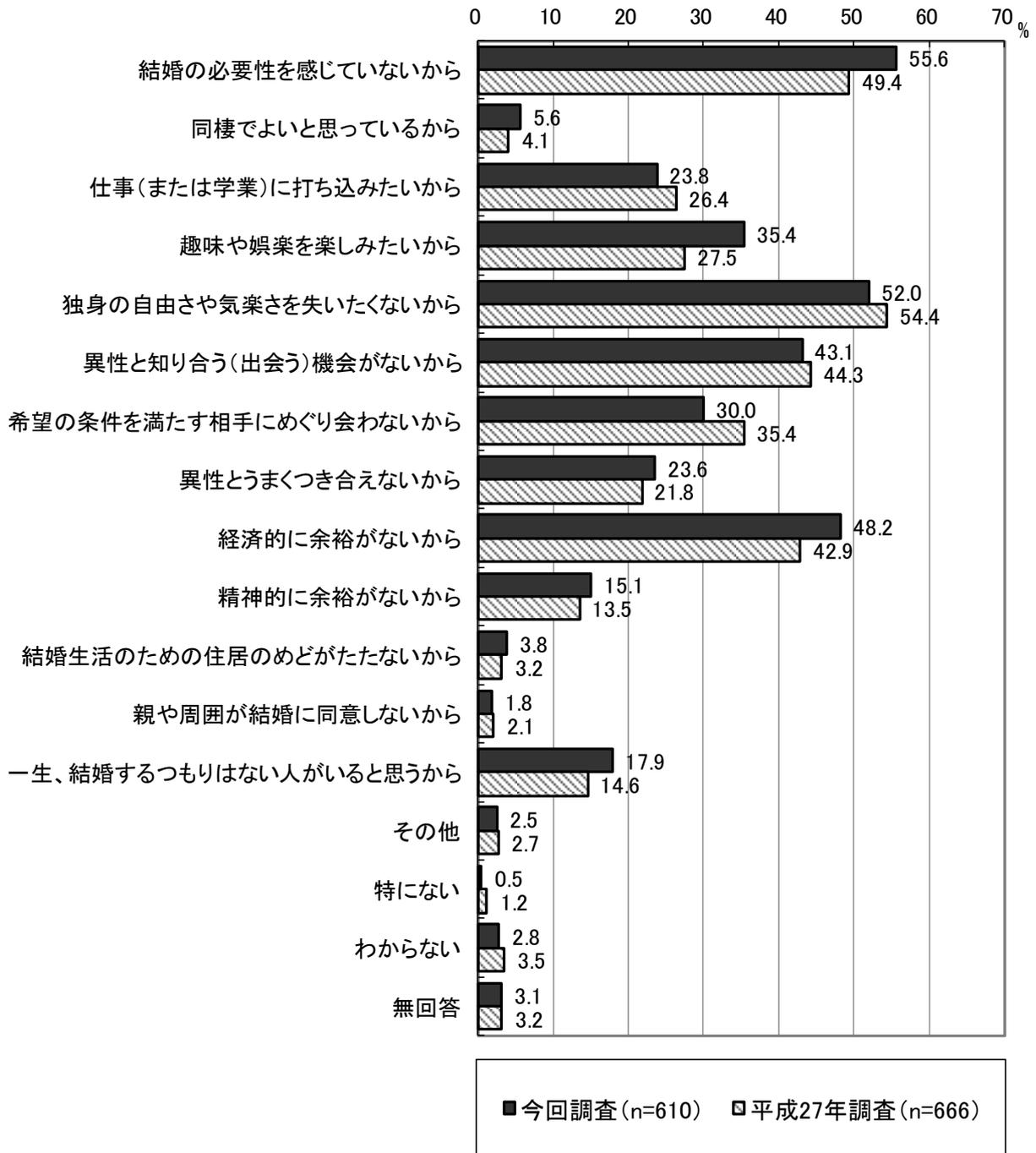
婚姻状況別にみると、「結婚していない」と答えた人は「仕事（または学業）に打ち込みたいから」が他の状況に比べ割合がやや高くなっています。

子どもの有無別による回答に大きな違いはみられません。

	合計	結婚の必要性を感じていないから	同棲でよいと思っているから	仕事（または学業）に打ち込みたいから	趣味や娯楽を楽しみたいから	独身の自由さや気楽さを失いたくないから	異性と知り合う（出会う）機会がないから	希望の条件を満たす相手にめぐり会わないから	異性とうまくつき合えないから	経済的に余裕がないから	精神的に余裕がないから	結婚生活のための住居のめどがたないから	親や周囲が結婚に同意しないから	一生、結婚するつもりはない人がいると思うから	その他	特になし	わからない	無回答
(%)																		
<b>【年齢別・男性】</b>																		
29歳以下	29	58.6	6.9	20.7	37.9	31.0	37.9	20.7	27.6	58.6	20.7	6.9	3.4	13.8	3.4	3.4	0.0	0.0
30歳代	48	47.9	2.1	27.1	37.5	52.1	33.3	29.2	16.7	47.9	14.6	8.3	0.0	18.8	4.2	0.0	4.2	2.1
40歳代	39	51.3	5.1	20.5	38.5	51.3	33.3	25.6	23.1	64.1	10.3	2.6	2.6	20.5	12.8	0.0	2.6	0.0
50歳代	44	63.6	4.5	18.2	38.6	63.6	50.0	36.4	43.2	52.3	13.6	4.5	0.0	29.5	0.0	0.0	0.0	4.5
60歳代	47	40.4	2.1	10.6	27.7	48.9	53.2	31.9	27.7	48.9	10.6	6.4	0.0	17.0	0.0	0.0	8.5	2.1
70歳以上	52	38.5	5.8	11.5	21.2	44.2	38.5	34.6	19.2	32.7	9.6	1.9	3.8	21.2	1.9	0.0	5.8	9.6
<b>【年齢別・女性】</b>																		
29歳以下	59	69.5	11.9	54.2	57.6	59.3	39.0	32.2	22.0	54.2	23.7	5.1	3.4	27.1	3.4	0.0	1.7	1.7
30歳代	64	57.8	9.4	32.8	46.9	59.4	43.8	32.8	9.4	51.6	14.1	1.6	3.1	6.3	3.1	0.0	1.6	0.0
40歳代	60	60.0	5.0	25.0	31.7	48.3	48.3	31.7	21.7	43.3	20.0	1.7	1.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳代	50	68.0	6.0	26.0	38.0	56.0	42.0	28.0	22.0	54.0	12.0	2.0	0.0	18.0	0.0	0.0	4.0	2.0
60歳代	61	62.3	4.9	14.8	31.1	45.9	44.3	24.6	36.1	37.7	18.0	3.3	3.3	21.3	1.6	3.3	1.6	4.9
70歳以上	53	47.2	1.9	17.0	17.0	56.6	50.9	28.3	20.8	43.4	11.3	1.9	0.0	15.1	1.9	0.0	3.8	5.7
<b>【婚姻状況別】</b>																		
結婚している	431	55.7	6.3	22.5	36.2	53.8	42.9	31.3	24.8	49.0	12.3	3.5	2.1	16.5	1.4	0.2	2.8	2.6
結婚していたが、離別・死別した	55	58.2	0.0	16.4	21.8	50.9	43.6	29.1	25.5	41.8	9.1	3.6	0.0	23.6	1.8	0.0	3.6	3.6
結婚していない	121	55.4	5.8	31.4	39.7	46.3	44.6	26.4	19.0	48.8	28.1	5.0	1.7	20.7	6.6	1.7	2.5	3.3
<b>【子どもの有無別】</b>																		
子どもがいる	403	57.1	5.5	22.3	35.5	53.6	42.9	31.3	26.8	47.9	9.9	3.2	1.7	17.4	1.2	0.0	2.7	3.0
子どもはいない	55	52.7	7.3	23.6	30.9	52.7	45.5	30.9	18.2	49.1	16.4	3.6	1.8	14.5	3.6	0.0	3.6	1.8

●○経年比較○●

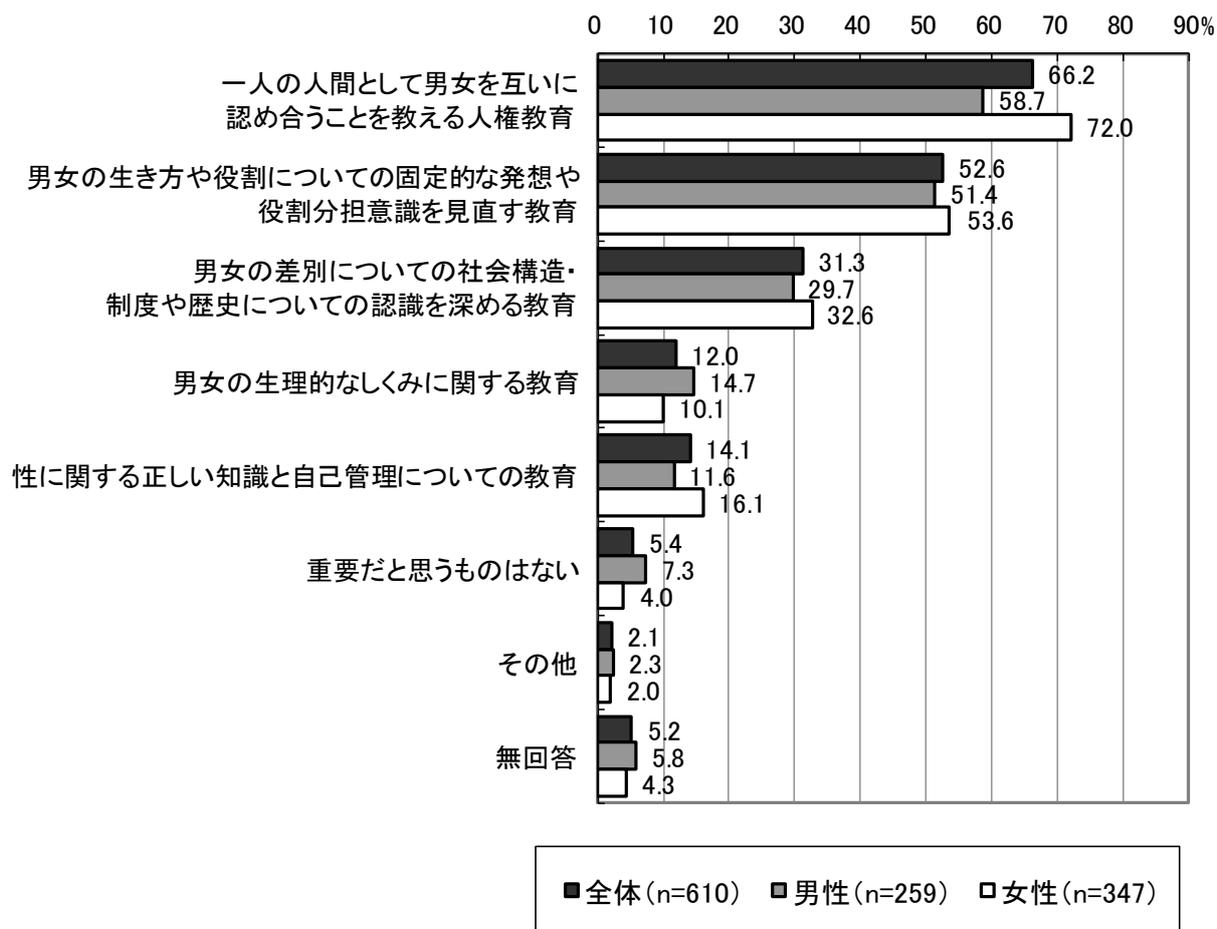
経年比較すると、「結婚の必要性を感じていないから」が6.2ポイント、「経済的に余裕がないから」が5.3ポイントそれぞれ増加しています。また、「希望の条件を満たす相手にめぐり合わないから」が5.4ポイント減少しています。



問 26 男性も女性も共に輝く社会の形成のために行う教育の内容についてはどのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

男性も女性も共に輝く社会の形成のために行う教育の内容で重要だと思うことについては、「一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育」が66.2%と最も多く、次いで「男女の生き方や役割についての固定的な発想や役割分担意識を見直す教育」が52.6%、「男女の差別についての社会構造・制度や歴史についての認識を深める教育」が31.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育」が最も多くなっているものの、女性が男性を13.3ポイント上回っています。



### 性・年齢別、子どもの有無別比較

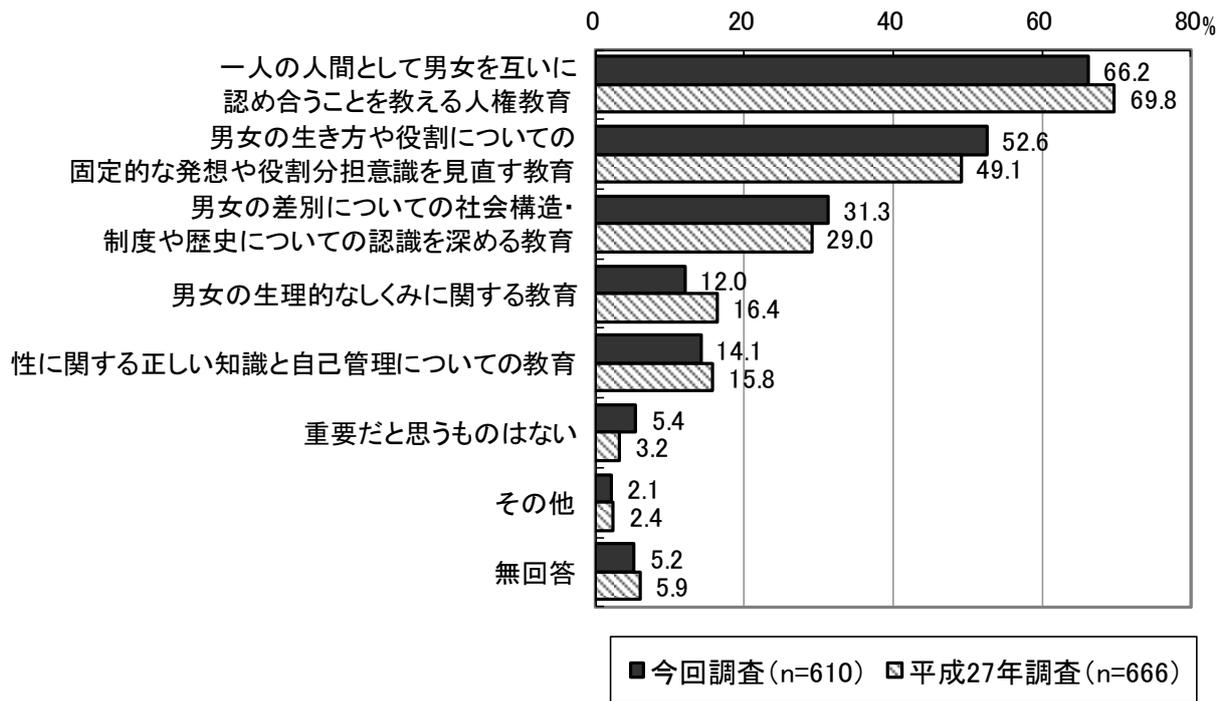
年齢別にみると、男性の40歳代で「男女の生き方や役割についての固定的な発想や役割分担意識を見直す教育」が59.0%と最も多くなっています。

子どもの有無別にみると、[子どもがいる層]で「男女の生理的なしくみに関する教育」が13.2%と、[子どもはいない層]に比べてやや割合が高く、また[子どもはいない層]で「性に関する正しい知識と自己管理についての教育」が21.8%と、[子どもがいる層]に比べて割合が高くなっています。

(%)	合計	一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える教育	固定的な発想や役割分担意識を見直す教育	男女の生き方や役割分担意識を深める教育	男女の差別について社会構造を深める教育	男女の生理的なしくみに関する教育	性に関する正しい知識と自己管理についての教育	重要だと思わない	その他	無回答
【年齢別・男性】										
29歳以下	29	62.1	41.4	37.9	20.7	10.3	3.4	3.4	3.4	
30歳代	48	54.2	41.7	27.1	20.8	12.5	12.5	2.1	4.2	
40歳代	39	46.2	59.0	15.4	17.9	7.7	15.4	5.1	2.6	
50歳代	44	65.9	56.8	29.5	13.6	13.6	4.5	0.0	6.8	
60歳代	47	63.8	59.6	44.7	6.4	12.8	4.3	2.1	2.1	
70歳以上	52	59.6	48.1	25.0	11.5	11.5	3.8	1.9	13.5	
【年齢別・女性】										
29歳以下	59	72.9	52.5	32.2	10.2	20.3	3.4	5.1	1.7	
30歳代	64	64.1	59.4	29.7	12.5	29.7	3.1	4.7	3.1	
40歳代	60	75.0	56.7	31.7	15.0	13.3	3.3	0.0	0.0	
50歳代	50	72.0	56.0	32.0	8.0	10.0	10.0	0.0	4.0	
60歳代	61	82.0	49.2	31.1	8.2	11.5	3.3	1.6	6.6	
70歳以上	53	66.0	47.2	39.6	5.7	9.4	1.9	0.0	11.3	
【子どもの有無別】										
子どもがいる	403	65.8	55.1	33.0	13.2	12.9	5.5	1.2	5.0	
子どもはいない	55	67.3	54.5	23.6	5.5	21.8	5.5	3.6	5.5	

●○経年比較○●

経年比較すると、平成27年調査と同様の傾向となっています。

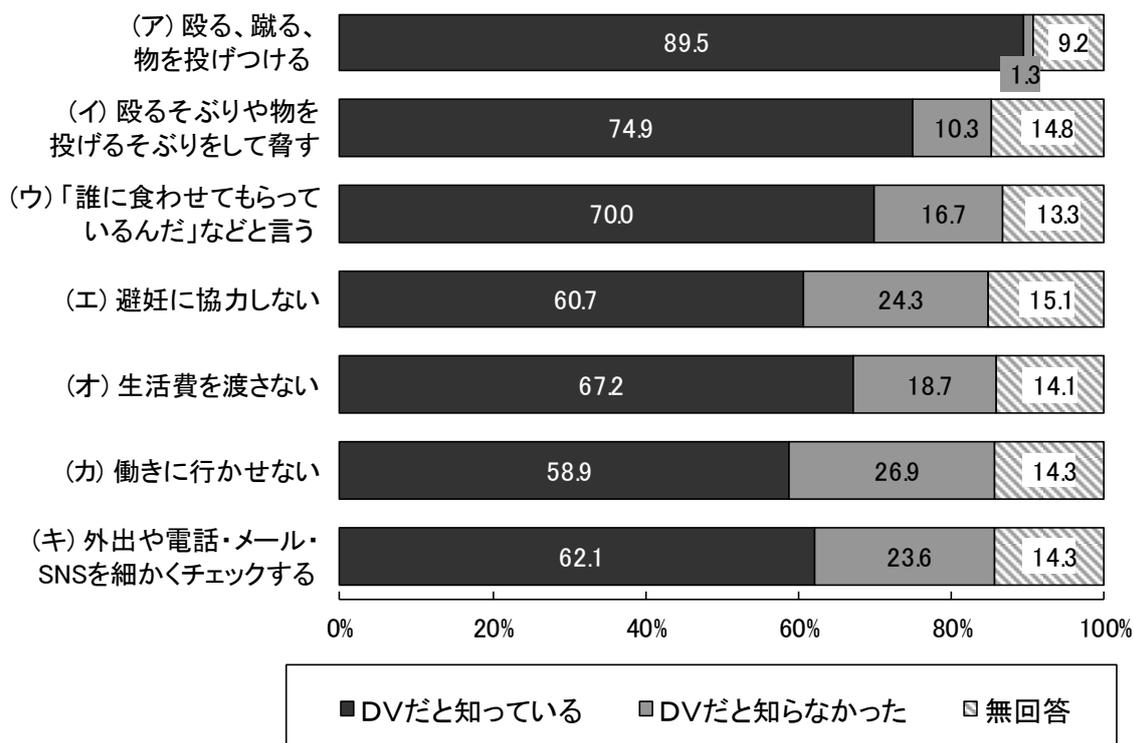


## (8) 男女の人権についておたずねします

問 27 あなたは次にあげる行為が、ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）パートナーからの暴力）にあたりと知っていますか。（(ア)から(キ)それぞれ○は1つ）

次の行為がDVであると知っているかについては、[(ア)殴る、蹴る、物を投げつける]で89.5%、[(イ)殴るそぶりや物を投げるそぶりをして脅す]で74.9%、[(ウ)「誰に食わせてもらっているんだ」などと言う]で70.0%が、「DVだと知っている」と回答しているものの、それ以外の項目はやや低く、最も割合の低い[(カ)働きに行かせない]では58.9%となっています。

(n=610)

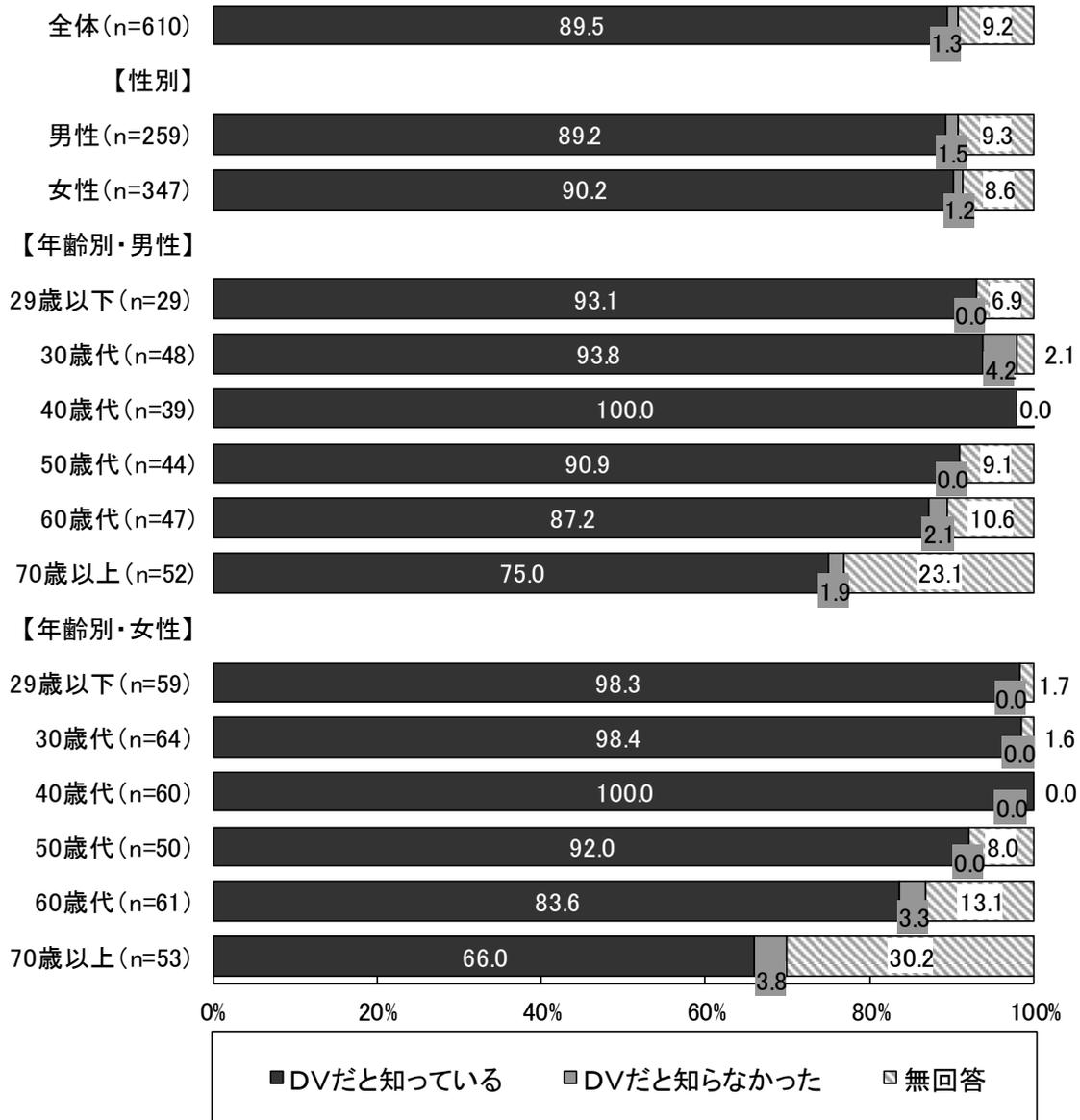


性・年齢別、比較

【(ア) 殴る、蹴る、物を投げつける】

殴る、蹴る、物を投げつけることがDVであると知っているかについては、性別による回答に大きな違いはみられません。

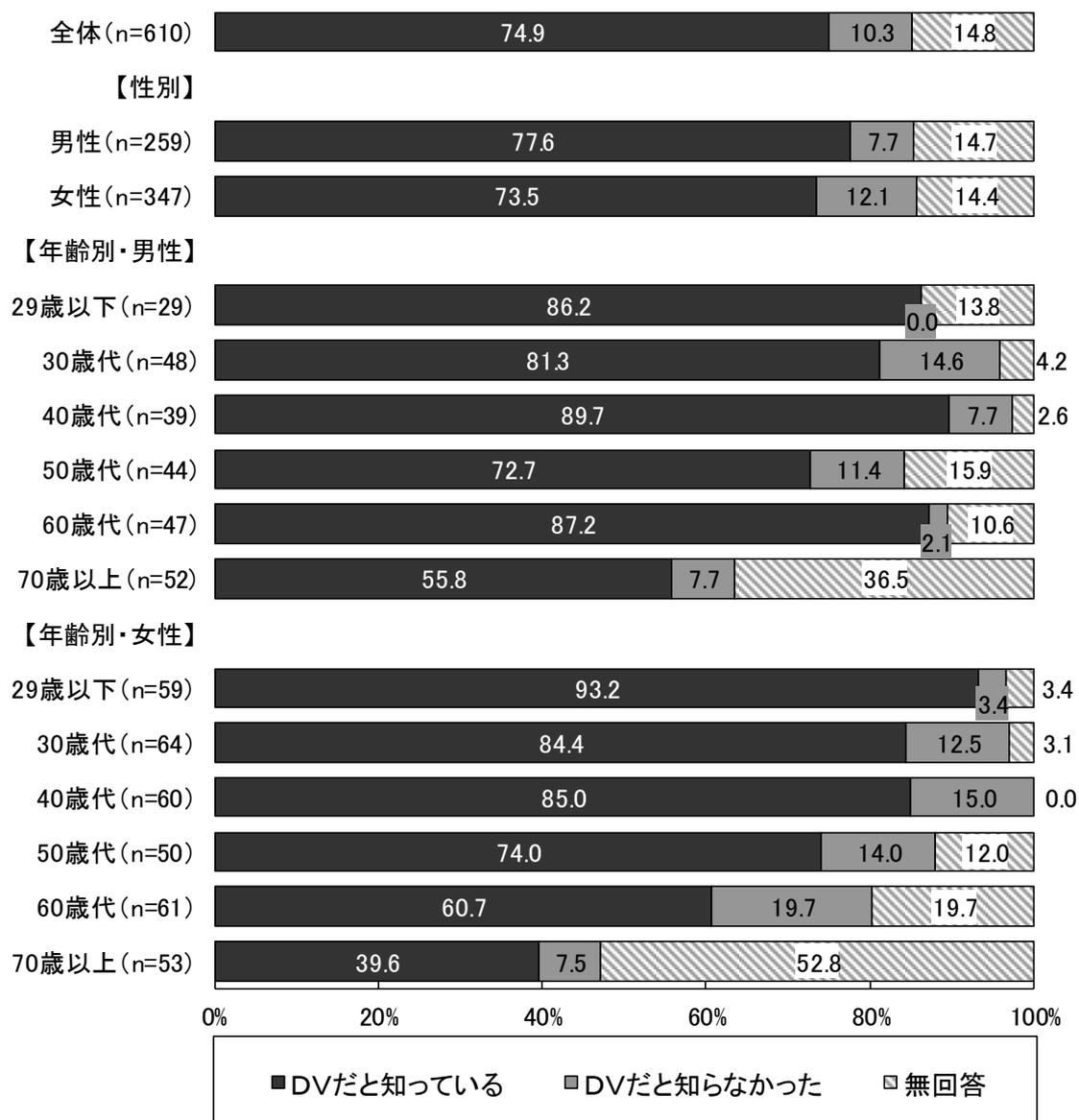
年齢別にみると、男女ともに70歳以上で「DVだと知っている」が、他の年代に比べて割合が低くなっています。



【(イ) 殴るそぶりや物を投げるそぶりをして脅す】

殴るそぶりや物を投げるそぶりをして脅すことがDVであると知っているかについては、性別による回答に大きな違いはみられません。

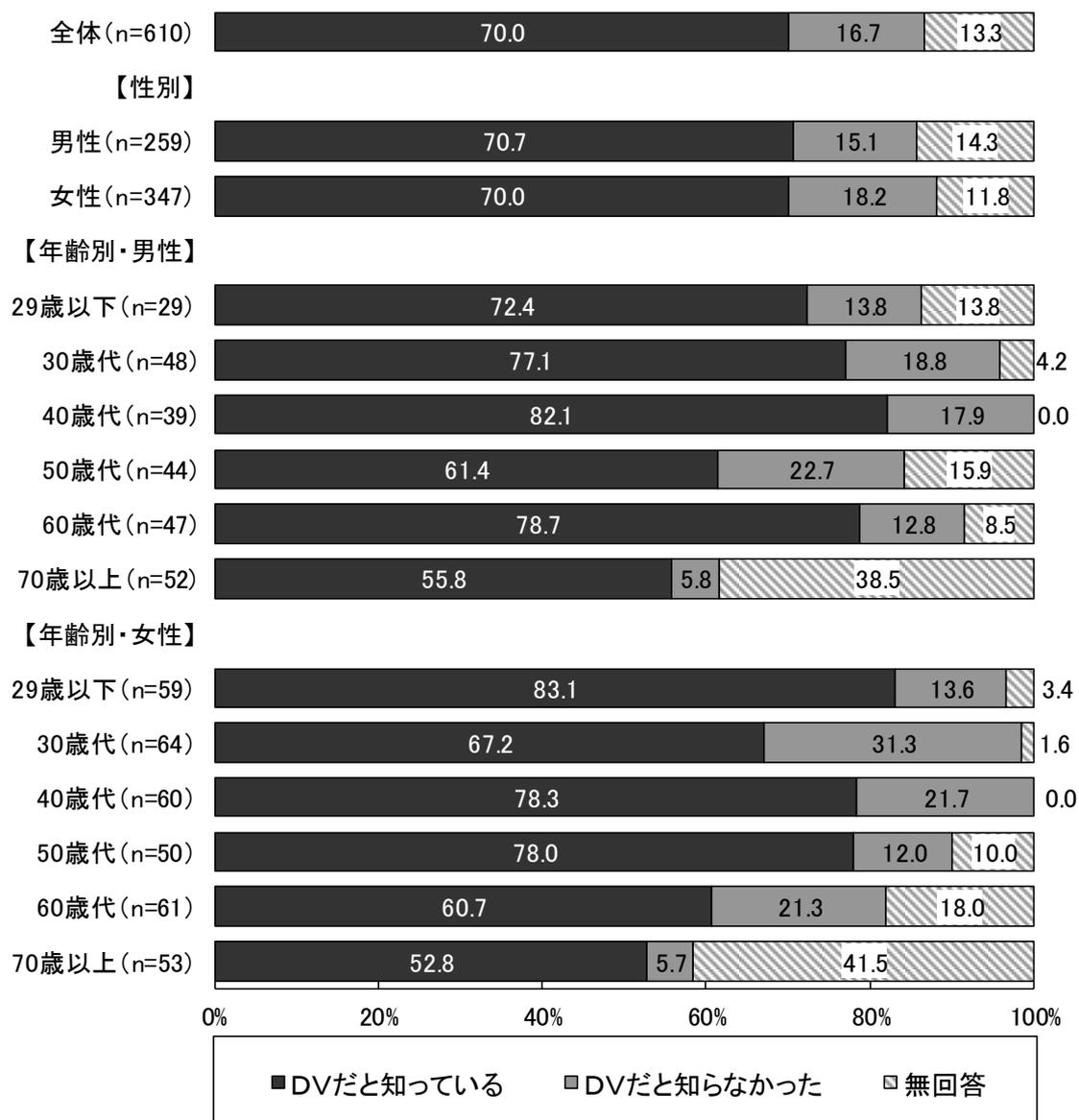
年齢別にみると、男女ともに70歳以上で「DVだと知っている」が、他の年代に比べて割合が低くなっています。また、男性の30・50歳代と女性の30・40・50・60歳代で「DVだと知らなかった」が1割を超え、他の年代に比べて割合がやや高くなっています。



【(ウ)「誰に食わせてもらっているんだ」などと言う】

「誰に食わせてもらっているんだ」などと言うことがDVであると知っているかについては、性別による回答に大きな違いはみられません。

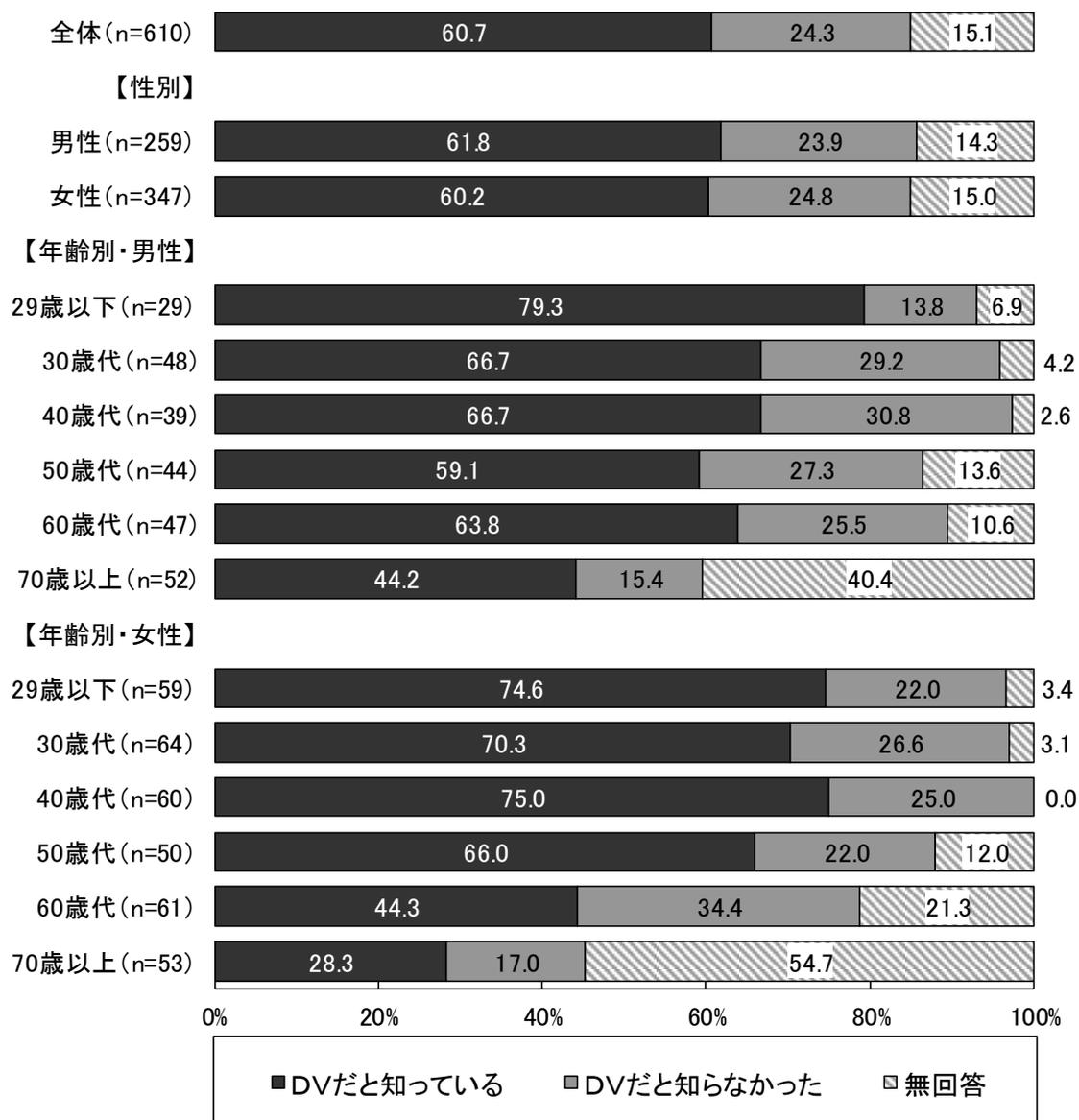
年齢別にみると、男女ともに70歳以上で「DVだと知っている」が5割台と、他の年代に比べて割合が低くなっています。また、男性の50歳代と女性の30・40・60歳代で「DVだと知らなかった」が2割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。



【(エ) 避妊に協力しない】

避妊に協力しないことがDVであると知っているかについては、性別による回答に大きな違いはみられません。

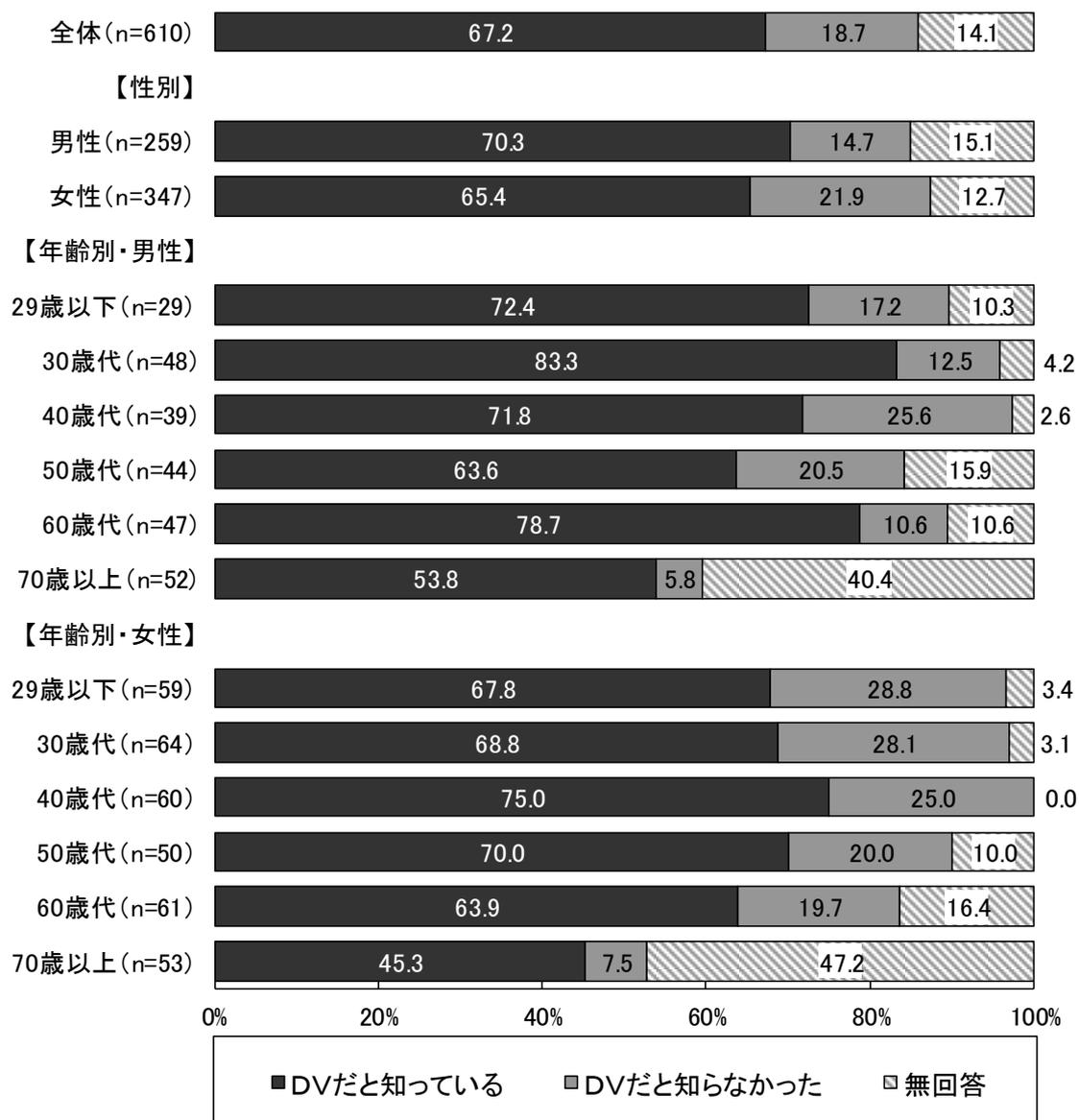
年齢別にみると、男性の70歳以上と女性の60歳代以上で「DVだと知っている」が、他の年代に比べて割合が低くなっています。また、男性の40歳代と女性の60歳代で「DVだと知らなかった」が3割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。



### 【(オ) 生活費を渡さない】

生活費を渡さないことがDVであると知っているかについては、性別による回答に大きな違いはみられません。

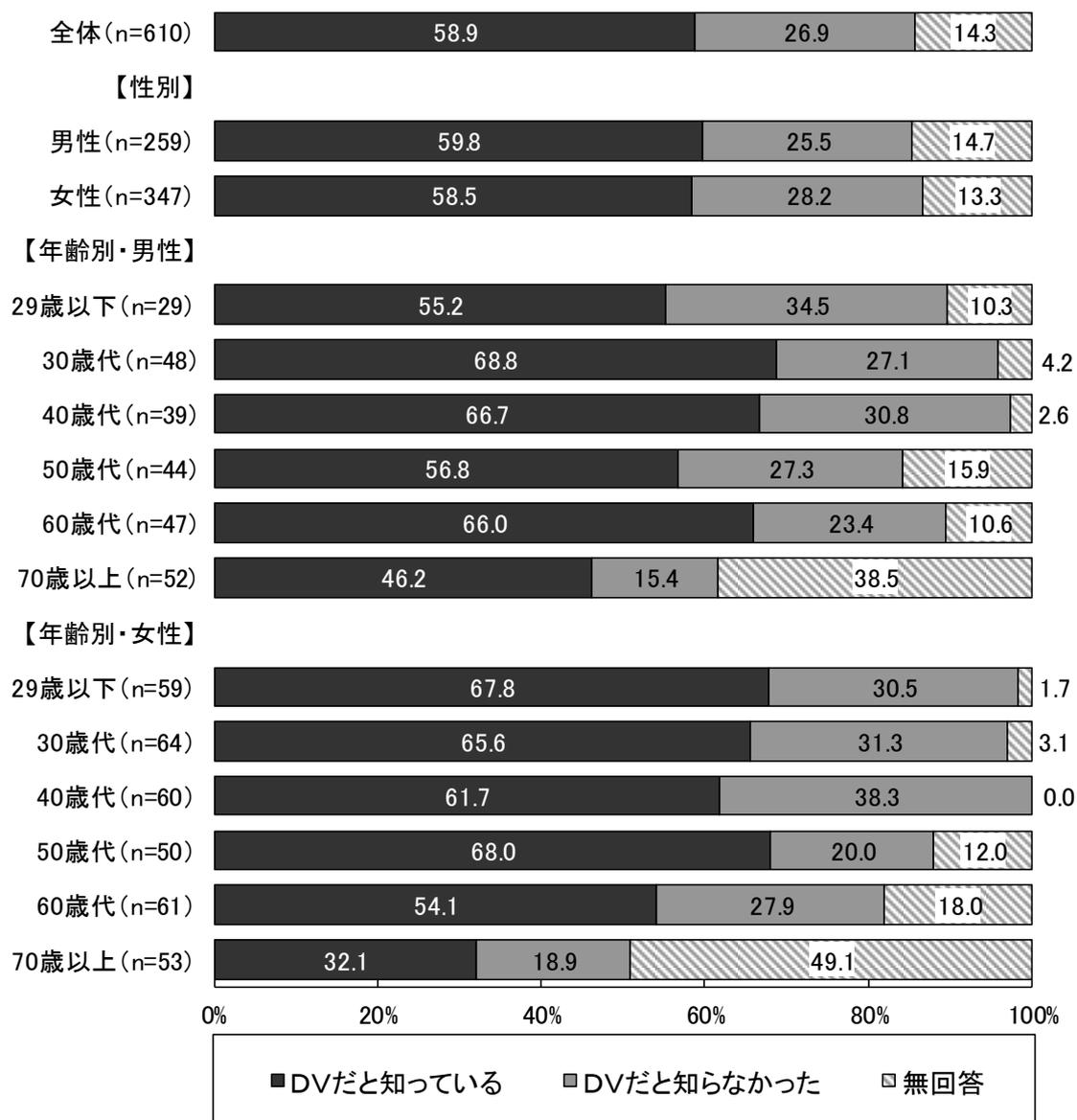
年齢別にみると、男女ともに70歳以上で「DVだと知っている」が、他の年代に比べて割合が低くなっています。また、男性の40・50歳代と女性の50歳代以下で「DVだと知らなかった」が2割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。



【(カ) 働きに行かせない】

働きに行かせないことがDVであると知っているかについては、性別による回答に大きな違いはみられません。

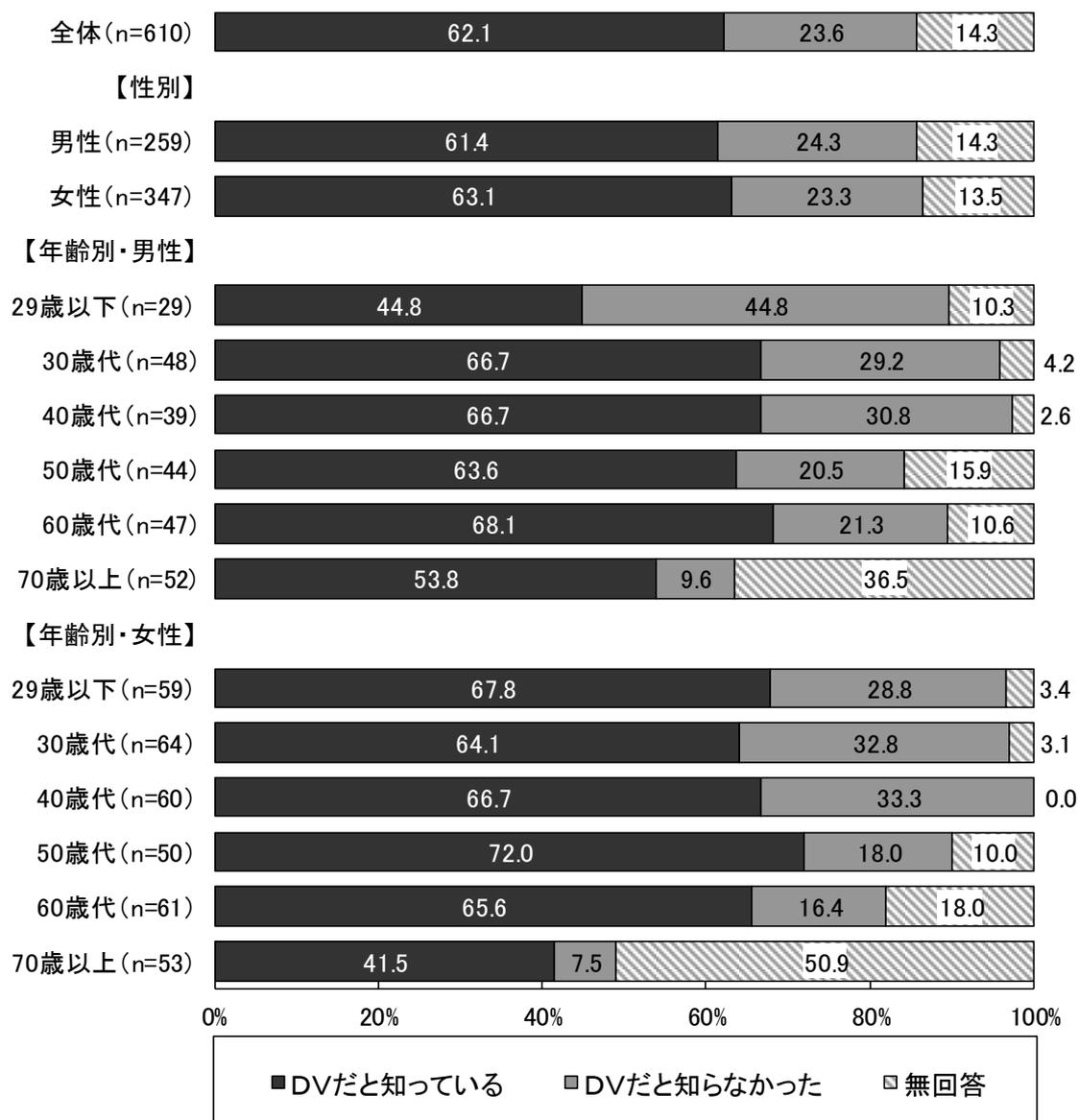
年齢別にみると、男女ともに70歳以上で「DVだと知っている」が、他の年代に比べて割合が低くなっています。また、男性の29歳以下・40歳代と女性の40歳代以下で「DVだと知らなかった」が3割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。



【(キ) 外出や電話・メール・SNS を細かくチェックする】

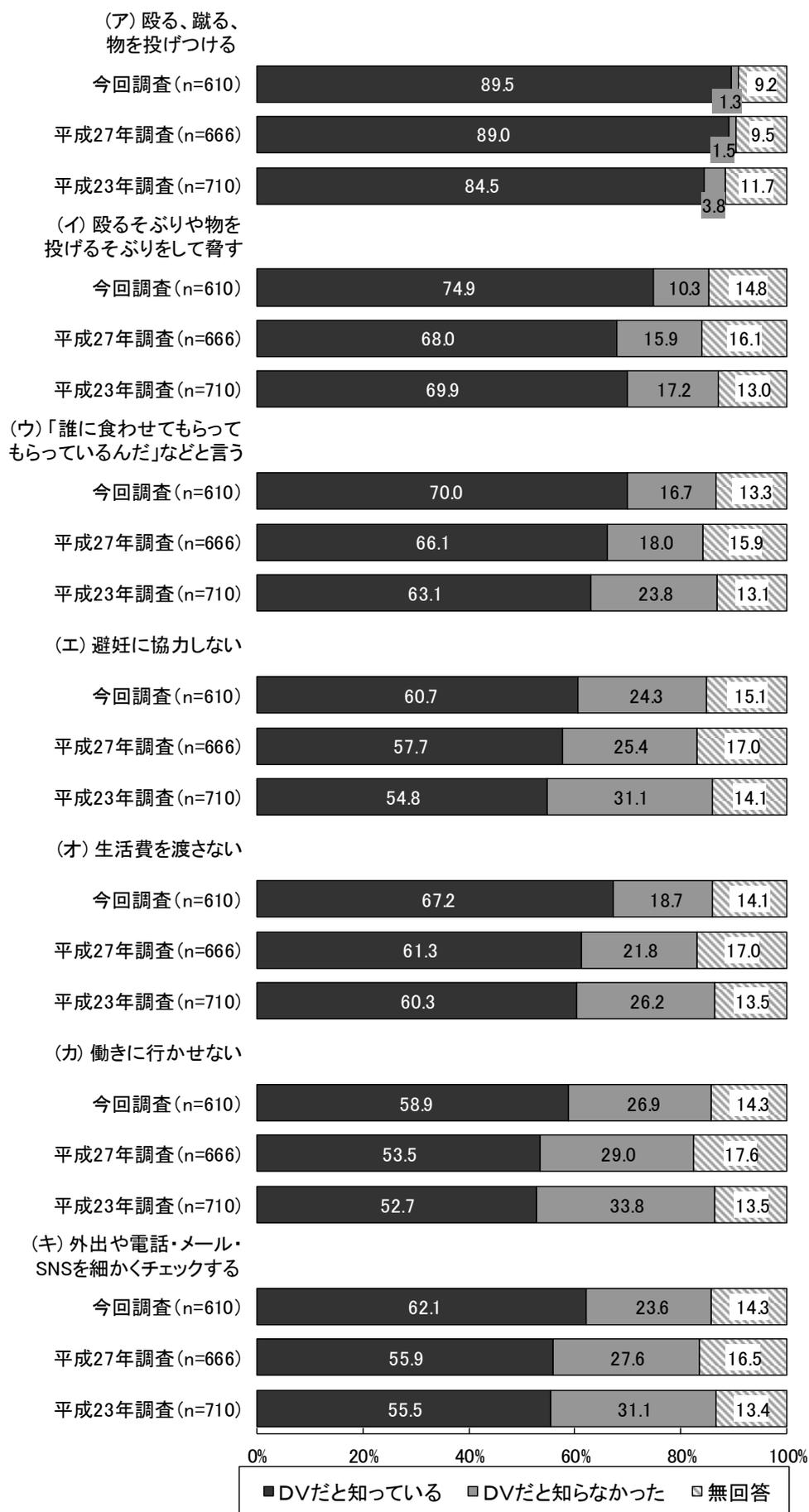
外出や電話・メール・SNS を細かくチェックすることがDVであると知っているかについては、性別による回答に大きな違いはみられません。

年齢別にみると、男性の29歳以下と女性の70歳以上で「DVだと知っている」が4割台と他の年代に比べて割合が低くなっています。また、男性の29歳以下で「DVだと知らなかった」が44.8%と、他の年代に比べて割合が高くなっています。



## ●○経年比較○●

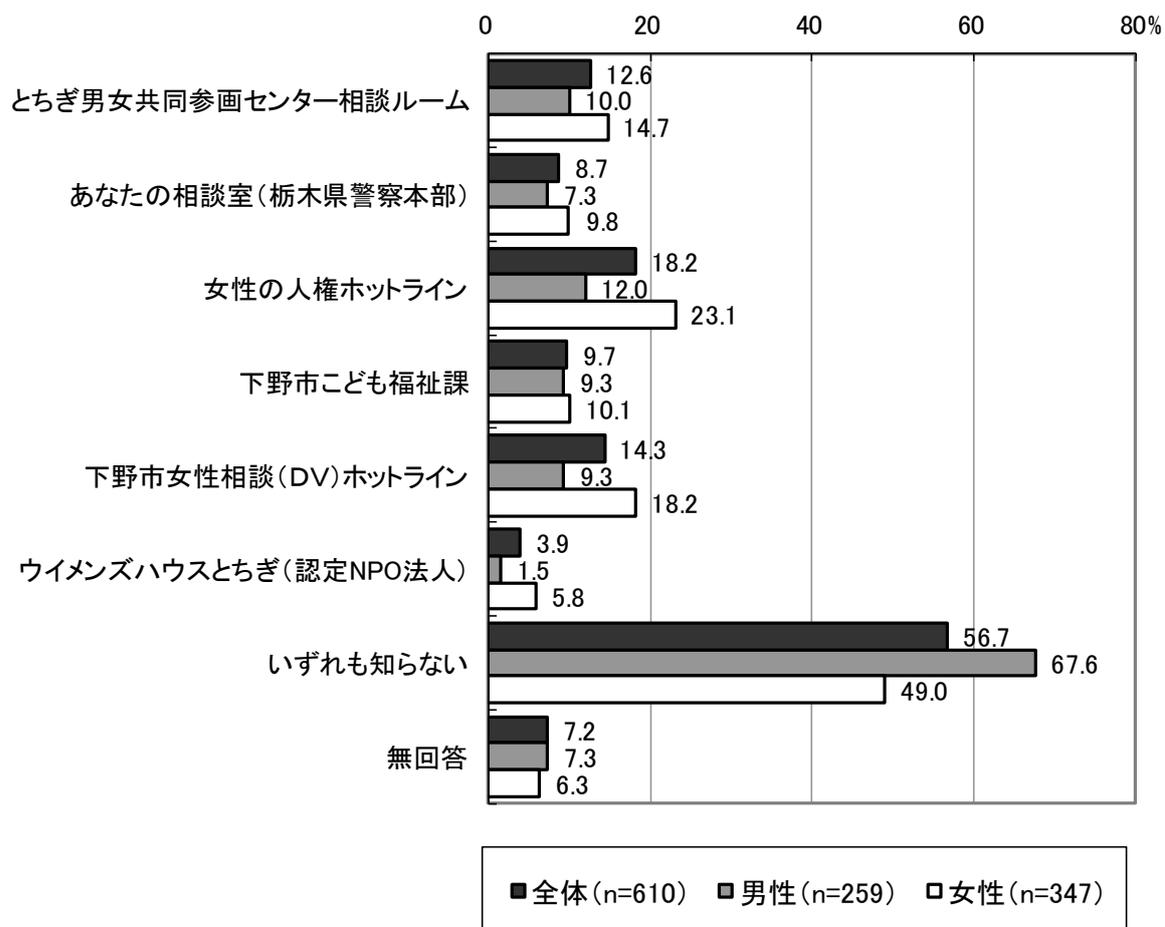
経年比較すると、すべての項目で、「DVだと知っている」が増加しており、「DVだと知らなかった」が減少しています。



問 28 次の 1 から 6 は、ドメスティック・バイオレンスについて無料で相談できる窓口です。あなたの知っているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

DVについて無料で相談できる窓口として知っているものについては「いずれも知らない」が 56.7%と最も多く、次いで「女性の人権ホットライン」が 18.2%、「下野市女性相談 (DV) ホットライン」が 14.3%となっています。

性別にみると、女性で「女性の人権ホットライン」、「下野市女性相談 (DV) ホットライン」が男性に比べて約 10 ポイント、男性で「いずれも知らない」が 67.6%と、女性に比べて 18.6 ポイント高くなっており、女性に比べて男性の認知度が低い結果となっています。



**性・年齢別、婚姻状況別比較**

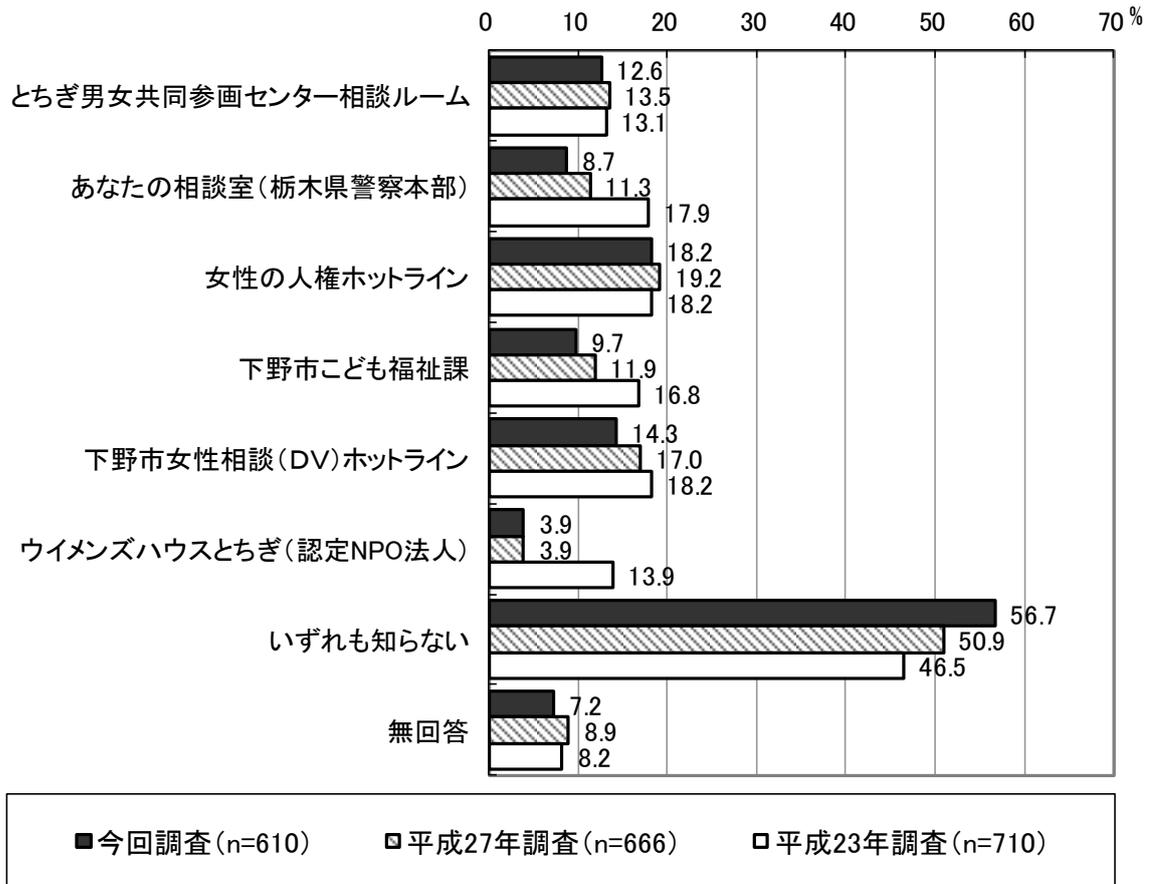
年齢別にみると、すべての年代で「いずれも知らない」が最も多く、特に男性の30歳代以下で7割を超えており、認知度の低さがうかがえます。

婚姻状況別にみると、「結婚していない」と答えた人は「いずれも知らない」が62.0%と、他の状況に比べやや高くなっています。

(%)	合計	とちぎ 相談 ルーム 男女 共同 参画 セン ター	あ な た の 相 談 室 ( 栃 木 県 警 察 本 部 )	女 性 の 人 権 ホ ッ ト ラ イ ン	下 野 市 こ ど も 福 祉 課	ト 下 野 市 女 性 相 談 ( D V ) ホ ッ ト ラ イ ン	ウ イ メ ン ズ ハ ウ ス と ち ぎ ( 認 定 N P O 法 人 )	い ず れ も 知 ら な い	無 回 答
<b>【年齢別・男性】</b>									
29歳以下	29	10.3	6.9	6.9	6.9	10.3	0.0	75.9	6.9
30歳代	48	4.2	0.0	6.3	12.5	8.3	0.0	77.1	2.1
40歳代	39	7.7	5.1	15.4	12.8	5.1	2.6	66.7	5.1
50歳代	44	11.4	6.8	9.1	9.1	11.4	0.0	65.9	6.8
60歳代	47	17.0	19.1	23.4	10.6	14.9	2.1	53.2	10.6
70歳以上	52	9.6	5.8	9.6	3.8	5.8	3.8	69.2	11.5
<b>【年齢別・女性】</b>									
29歳以下	59	10.2	10.2	35.6	16.9	10.2	0.0	45.8	3.4
30歳代	64	10.9	7.8	15.6	7.8	25.0	6.3	54.7	1.6
40歳代	60	20.0	5.0	30.0	5.0	15.0	10.0	50.0	0.0
50歳代	50	18.0	12.0	24.0	14.0	26.0	10.0	46.0	4.0
60歳代	61	13.1	9.8	13.1	6.6	14.8	4.9	54.1	9.8
70歳以上	53	17.0	15.1	20.8	11.3	18.9	3.8	41.5	20.8
<b>【婚姻状況別】</b>									
結婚している	431	13.7	7.7	16.5	10.2	14.8	4.4	56.1	6.7
結婚していたが、 離別・死別した	55	16.4	12.7	23.6	7.3	20.0	7.3	50.9	9.1
結婚していない	121	7.4	10.7	22.3	9.1	9.9	0.8	62.0	6.6

●○経年比較○●

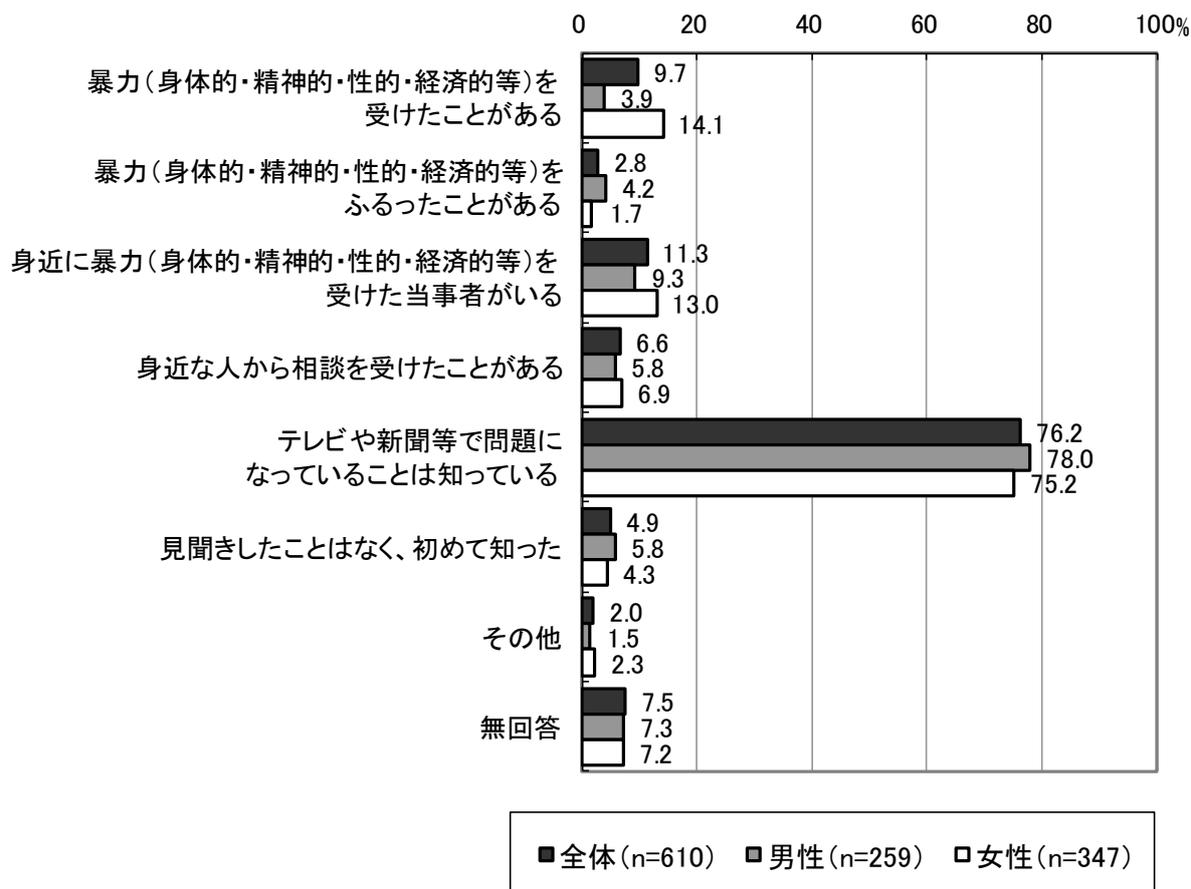
経年比較すると、「いずれも知らない」が56.7%と、5.8ポイント増加しています。



問 29 あなたは、ドメスティック・バイオレンスを経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

DVを経験したり、身近で見聞きしたりしたことがあるかについて、全体では「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が76.2%と最も多く、「身近に暴力(身体的・精神的・性的・経済的等)を受けた当事者がいる」が11.3%、「暴力(身体的・精神的・性的・経済的等)を受けたことがある」が9.7%となっています。

性別にみると、女性で「暴力(身体的・精神的・性的・経済的等)を受けたことがある」が14.1%と、男性に比べて10.2ポイント上回っています。



### 性・年齢別、婚姻状況別、子どもの有無別比較

年齢別にみると、女性の30・40・50・60歳代で「暴力（身体的・精神的・性的・経済的等）を受けたことがある」が、また、男性の30・40歳代と女性の30・40・50・60歳代で「身近に暴力（身体的・精神的・性的・経済的等）を受けた当事者がいる」が1割台半ばを超えており、他の年代に比べて割合がやや高くなっています。

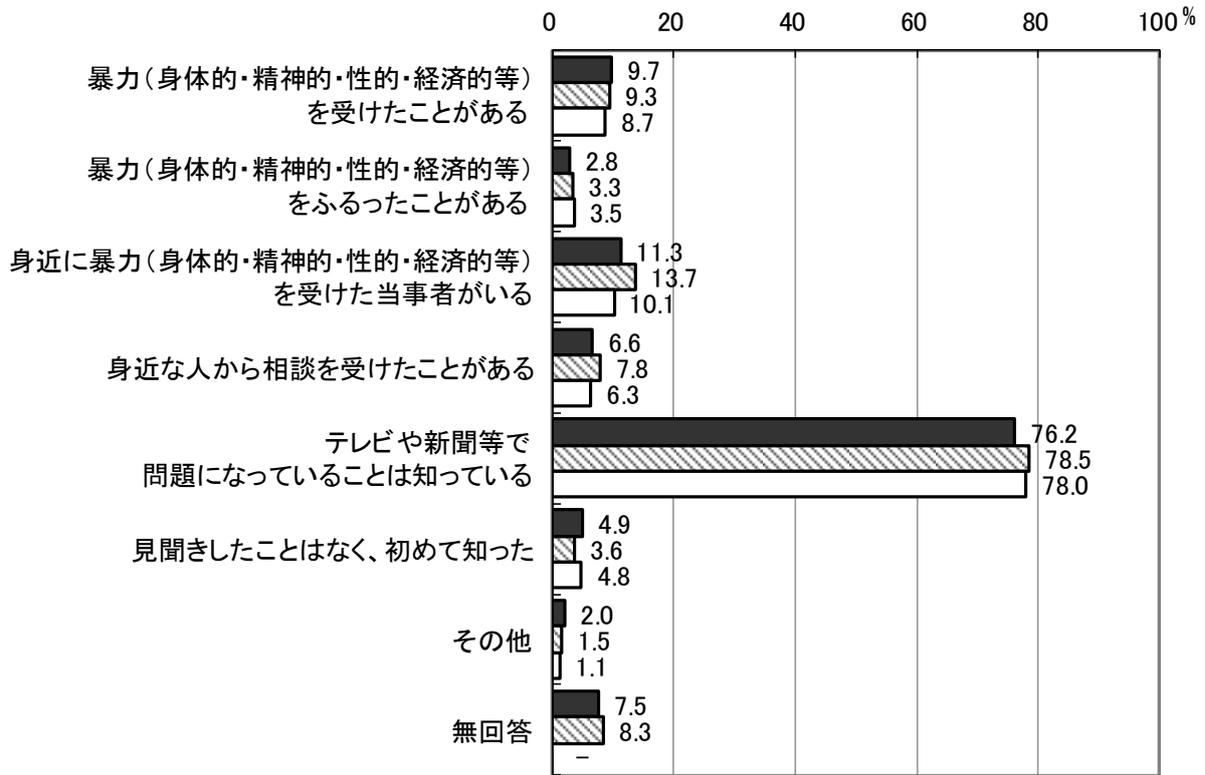
婚姻状況別にみると、「結婚していたが離別・死別した」と答えた人は「暴力（身体的・精神的・性的・経済的等）を受けたことがある」が20.0%と、他の状況に比べ高くなっています。

子どもの有無別による回答に大きな違いはみられません。

(%)	合計	暴力的 がある （経済的・ 身体的等） ・精神的 を受け たこと	暴力的 がある （経済的・ 身体的等） ・精神的 を受け たこと	身近に 暴力（ 経済的・ 身体的等） を受け た当事 者がい る	身近な 人から 相談を 受けた こと	テレビ や新聞 等で知 る問題 になっ て	見聞き したこ とはな く、初 め	その他	無回 答
【年齢別・男性】									
	29	6.9	3.4	6.9	6.9	75.9	10.3	0.0	6.9
29歳以下									
	48	4.2	2.1	14.6	0.0	75.0	10.4	6.3	2.1
30歳代									
	39	7.7	7.7	17.9	12.8	76.9	5.1	0.0	7.7
40歳代									
	44	0.0	4.5	9.1	4.5	77.3	9.1	0.0	6.8
50歳代									
	47	4.3	2.1	6.4	6.4	80.9	0.0	2.1	8.5
60歳代									
	52	1.9	5.8	1.9	5.8	80.8	1.9	0.0	11.5
70歳以上									
【年齢別・女性】									
	59	8.5	3.4	10.2	5.1	76.3	8.5	0.0	3.4
29歳以下									
	64	15.6	1.6	14.1	7.8	70.3	4.7	3.1	4.7
30歳代									
	60	16.7	3.3	16.7	10.0	83.3	1.7	0.0	3.3
40歳代									
	50	18.0	0.0	14.0	2.0	70.0	8.0	2.0	8.0
50歳代									
	61	19.7	1.6	16.4	9.8	78.7	0.0	3.3	8.2
60歳代									
	53	5.7	0.0	5.7	5.7	71.7	3.8	5.7	17.0
70歳以上									
【婚姻状況別】									
	431	8.6	3.5	11.8	6.3	76.3	5.3	2.3	7.7
結婚している									
	55	20.0	0.0	16.4	12.7	72.7	0.0	1.8	5.5
結婚していたが、 離別・死別した									
	121	9.1	1.7	7.4	5.0	78.5	5.8	0.8	6.6
結婚していない									
【子どもの有無別】									
	403	9.9	2.7	12.4	6.9	76.9	4.7	1.7	6.7
子どもがいる									
	55	10.9	1.8	12.7	9.1	70.9	7.3	5.5	9.1
子どもはいない									

●○経年比較○●

経年比較すると、平成27年調査と同様の傾向となっています。



■ 今回調査 (n=610)    ▨ 平成27年調査 (n=666)    □ 平成23年調査 (n=710)

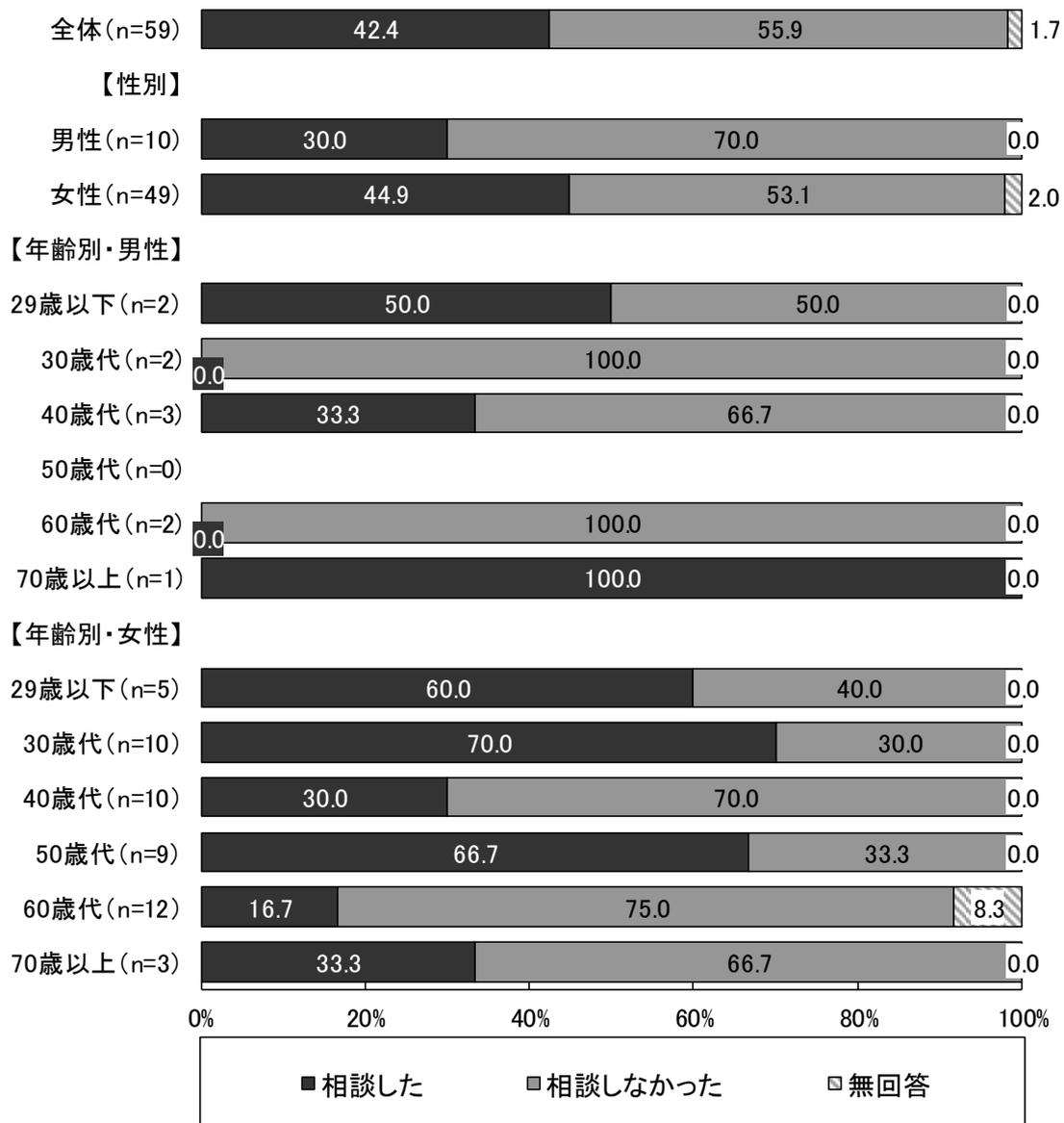
**【問 29 で「1 暴力（身体的・精神的・性的・経済的等）を受けたことがある」を選択した方】**

問 29-1 あなたはドメスティック・バイオレンスを受けたとき、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。（〇は1つ）

DVを受けた際に誰かに打ち明けたり相談したかについては、「相談した」が42.4%、「相談しなかった」が55.9%と、「相談しなかった」が「相談した」を13.5ポイント上回っています。

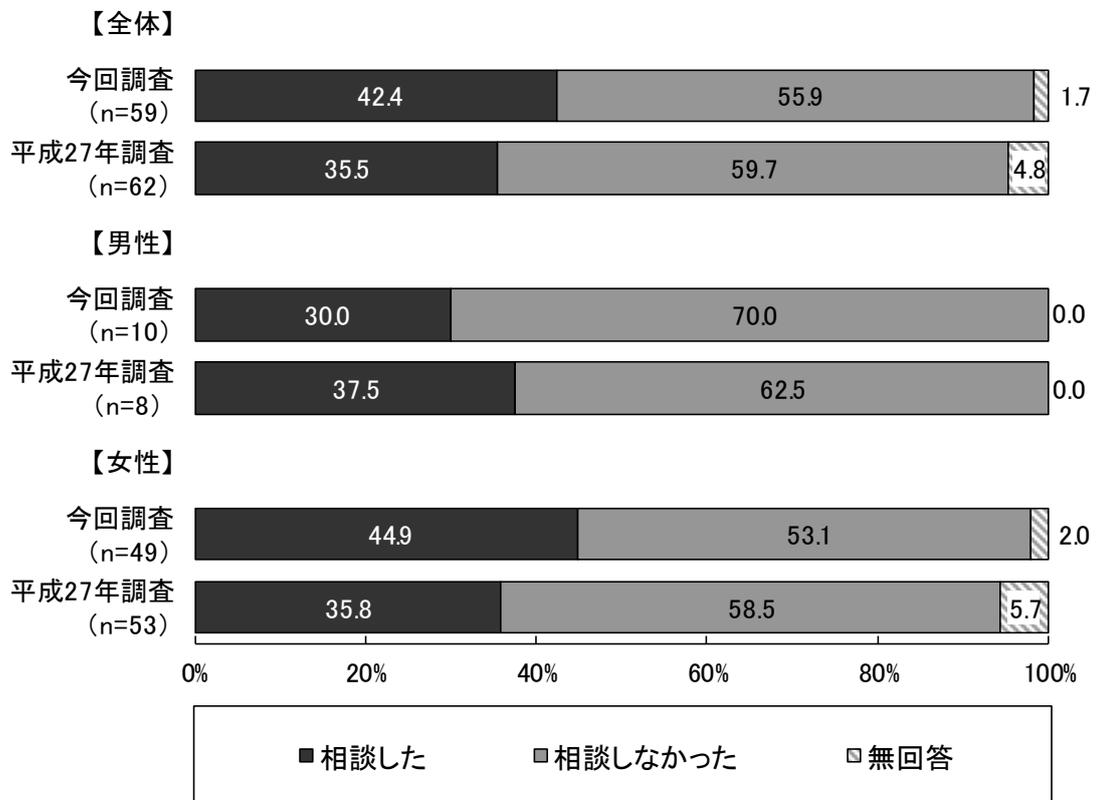
性別にみると、女性で「相談した」が44.9%と、男性に比べて14.9ポイント高くなっています。

年代別にみると、女性の30歳代以下・50歳代と男性の29歳以下・70歳以上で「相談した」の割合が5割台を超え高くなっています。



●○経年比較○●

経年比較すると、男性で「相談した」が7.5ポイント減少、女性で「相談した」が9.1ポイント増加しており、全体でみると6.9ポイントの増加となっています。



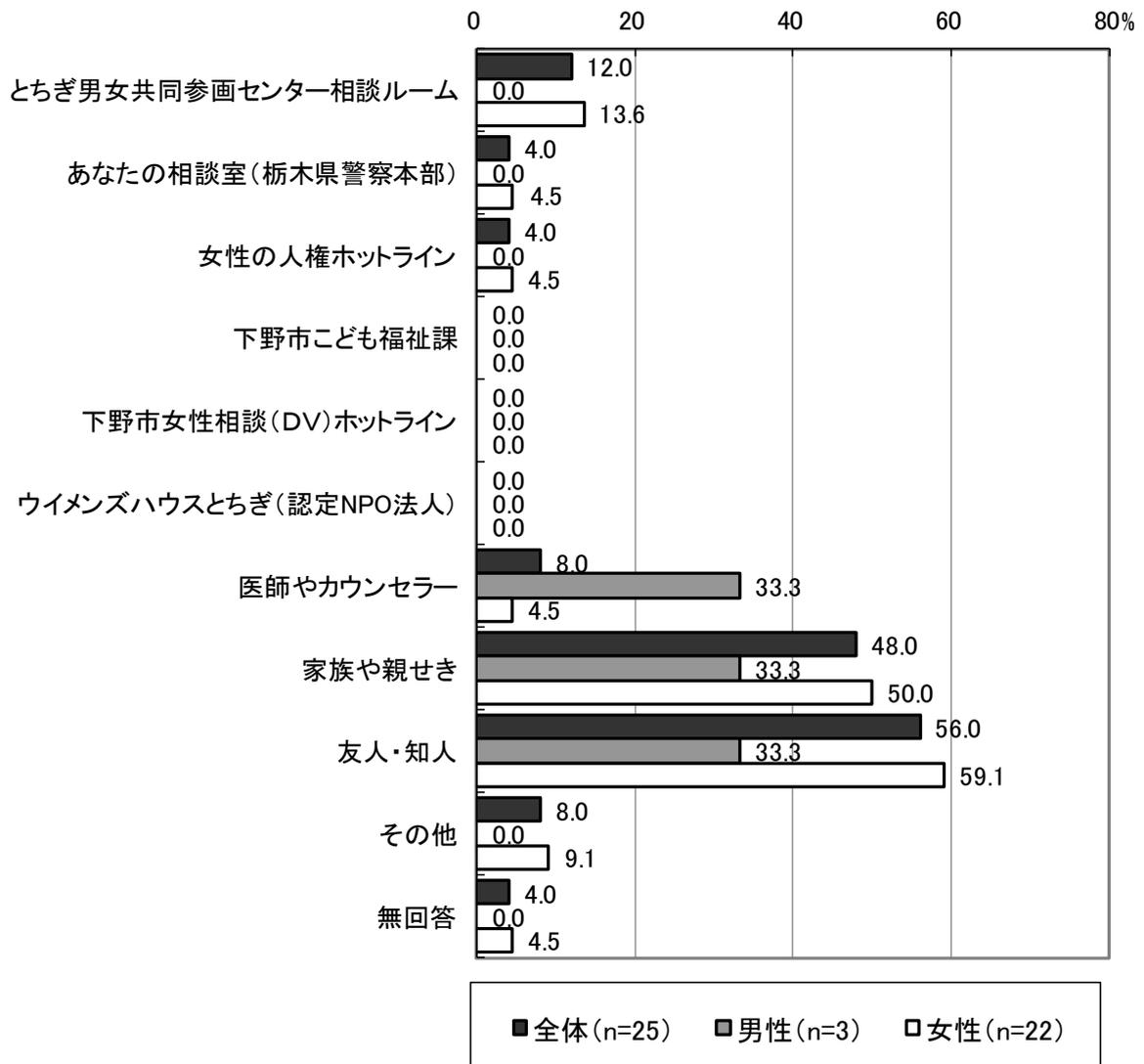
【問 29-1 で「1 相談した」を選択した方】

問 29-2 あなたは、ドメスティック・バイオレンスについて、どこ（だれ）に相談しましたか。

（あてはまるものすべてに○）

相談したと回答した方の相談先については、「友人・知人」が 56.0%と最も多く、次いで「家族や親せき」が 48.0%、「とちぎ男女共同参画センター相談ルーム」が 12.0%となっています。

性別にみると、女性で「家族や親せき」、「友人・知人」、「とちぎ男女共同参画センター相談ルーム」が男性に比べて高くなっているのに対し、男性で「医師やカウンセラー」が 33.3%と、女性に比べて 28.8 ポイント高くなっています。



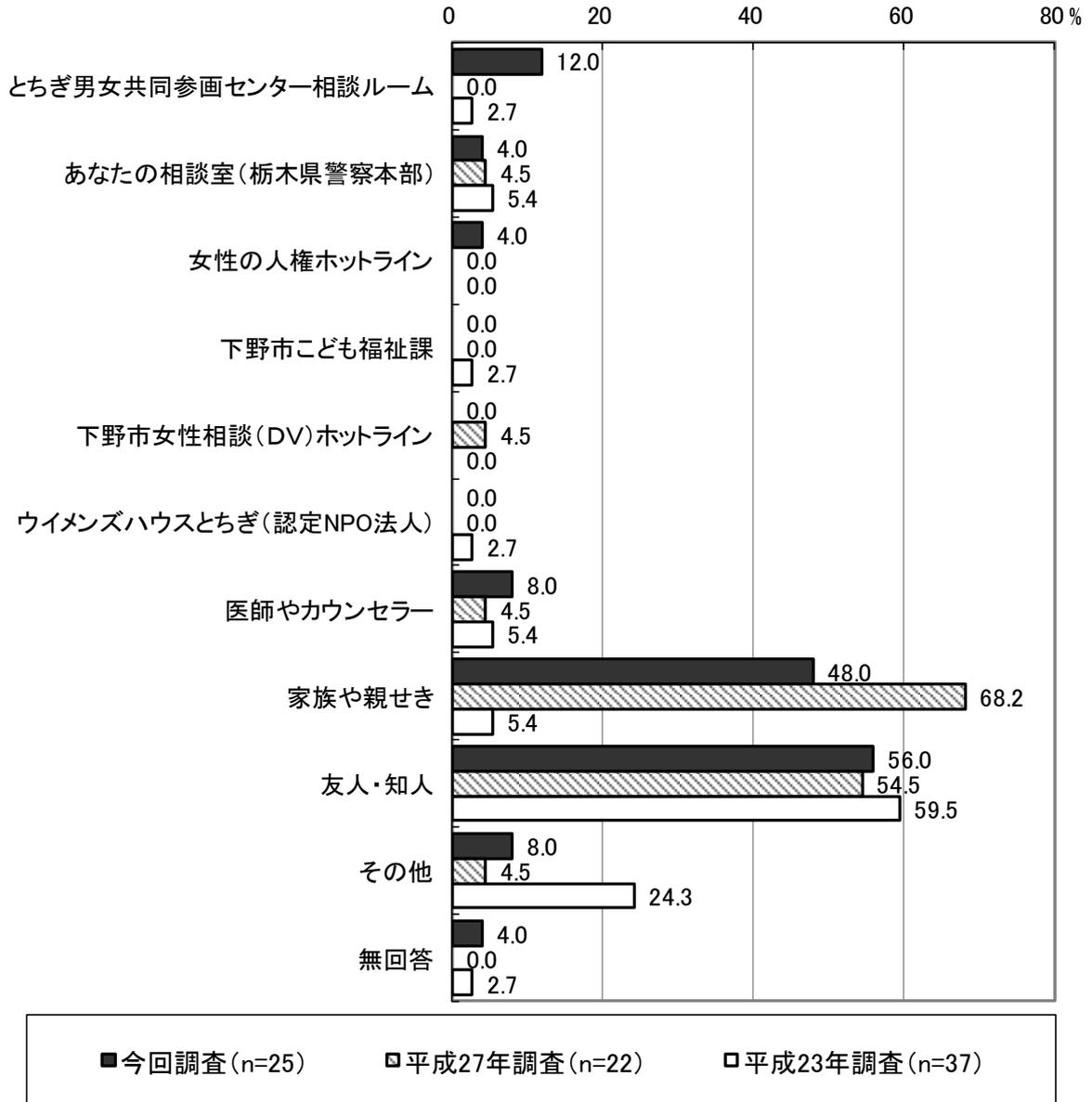
性・年齢別比較

年齢別にみると、いずれも「家族や親せき」、「友人・知人」が多くなっています。

(%)	合計	とちぎ男女共同参画センター相談ルーム	あなたの本相談室（栃木県警察本部）	女性の人権ホットライン	下野市こども福祉課	下野市女性相談（DV）ホットライン	ウイメンズハウスとちぎ（認定NPO法人）	医師やカウンセラー	家族や親せき	友人・知人	その他	無回答
<b>【年齢別・男性】</b>												
29歳以下	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
50歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
<b>【年齢別・女性】</b>												
29歳以下	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	100.0	0.0	0.0
30歳代	7	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	100.0	0.0	0.0
40歳代	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
50歳代	6	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	50.0	0.0	16.7	16.7
60歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0	50.0	0.0
70歳以上	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

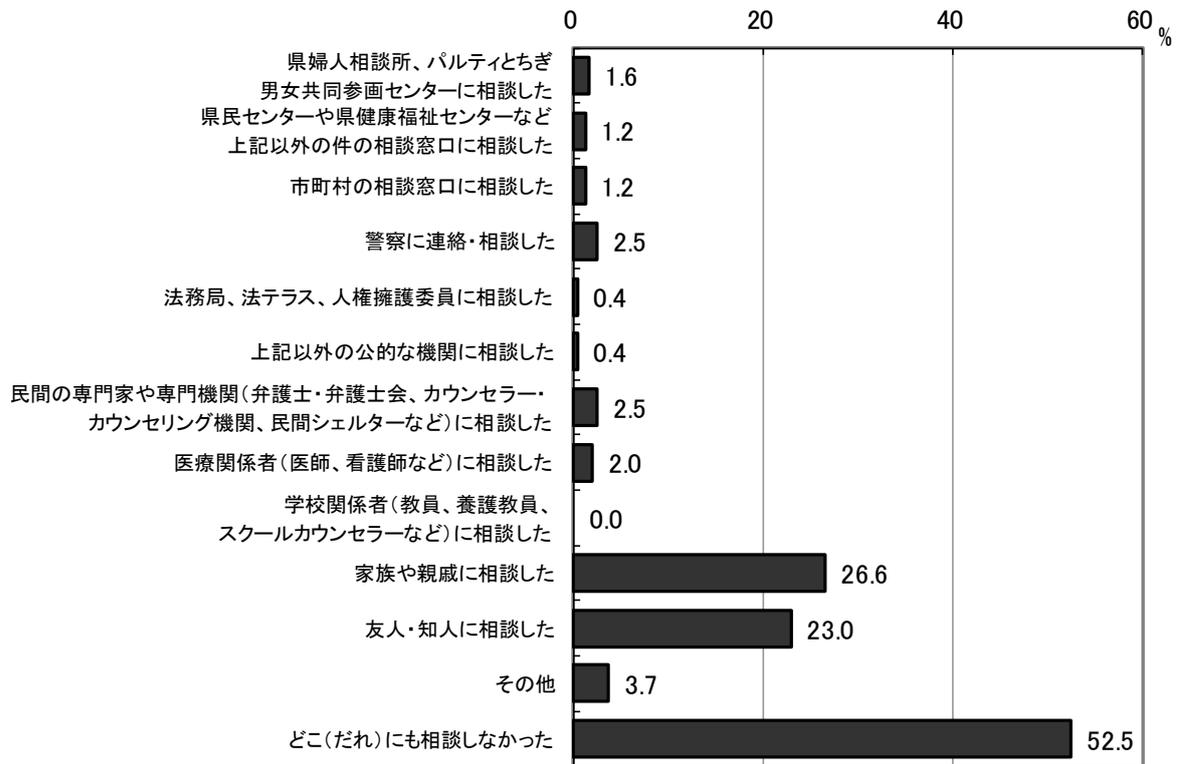
●○経年比較○●

経年比較すると、「とちぎ男女共同参画センター相談ルーム」が12.0ポイント増加、「家族や親せき」が20.2ポイント減少しています。



**県結果（参考）**

県調査と比較すると、県でも「家族や親戚に相談した」が26.6%、「友人・知人に相談した」が23.0%と、高い割合となっています。



■ 県調査<栃木県>(n=244)

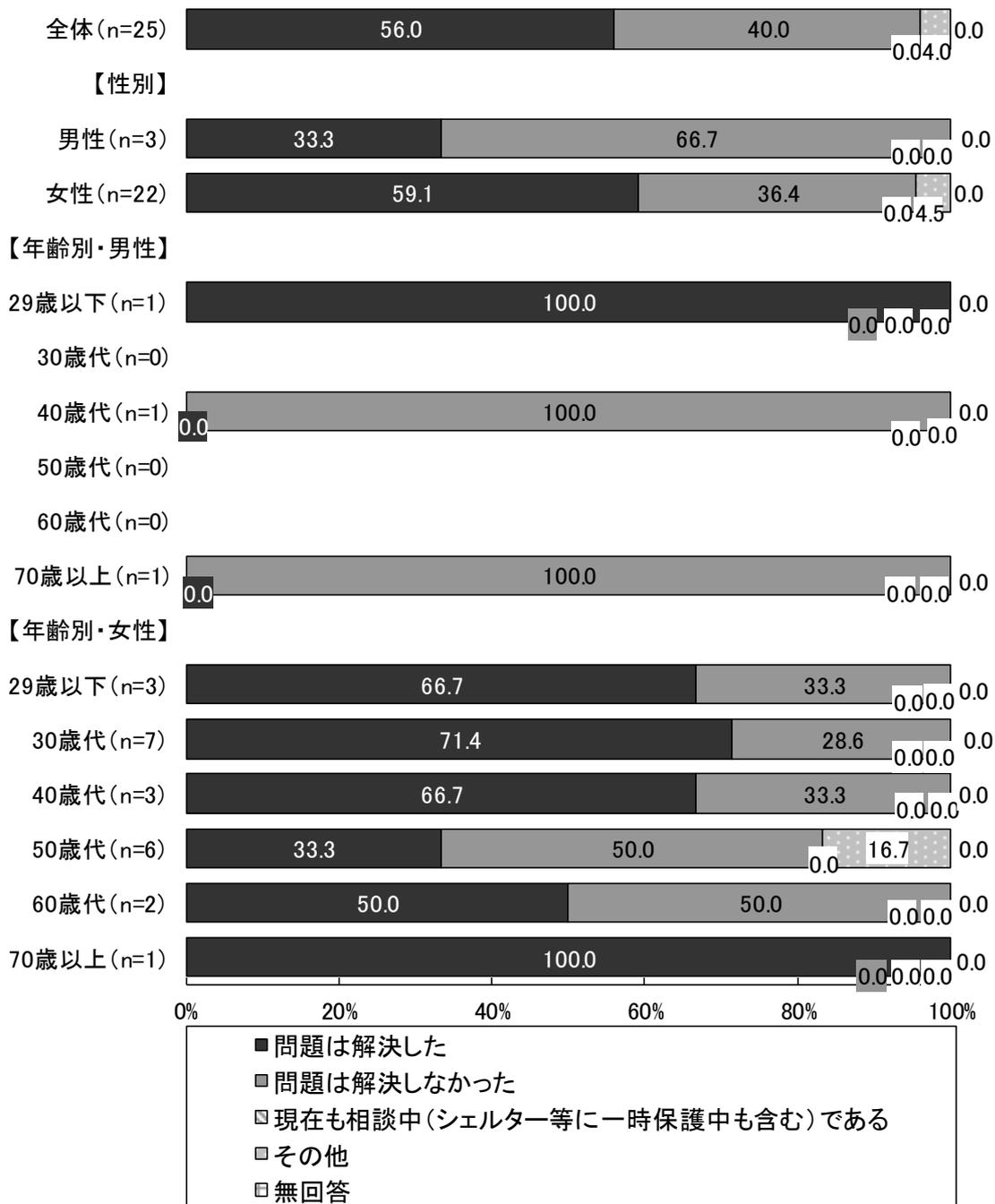
【問 29-1 で「1 相談した」を選択した方】

問 29-3 あなたは、ドメスティック・バイオレンスについて、誰かに打ち明けたり相談したことにより、その問題は解決しましたか。(〇は1つ)

相談したことで問題が解決したかについては、「問題は解決した」が 56.0%、「問題は解決しなかった」が 40.0%となっており、「現在も相談中（シェルター等に一時保護中も含む）である」の回答は見られませんでした。

性別にみると、女性で「問題は解決した」が 59.1%と、男性に比べて 25.8 ポイント高くなっています。

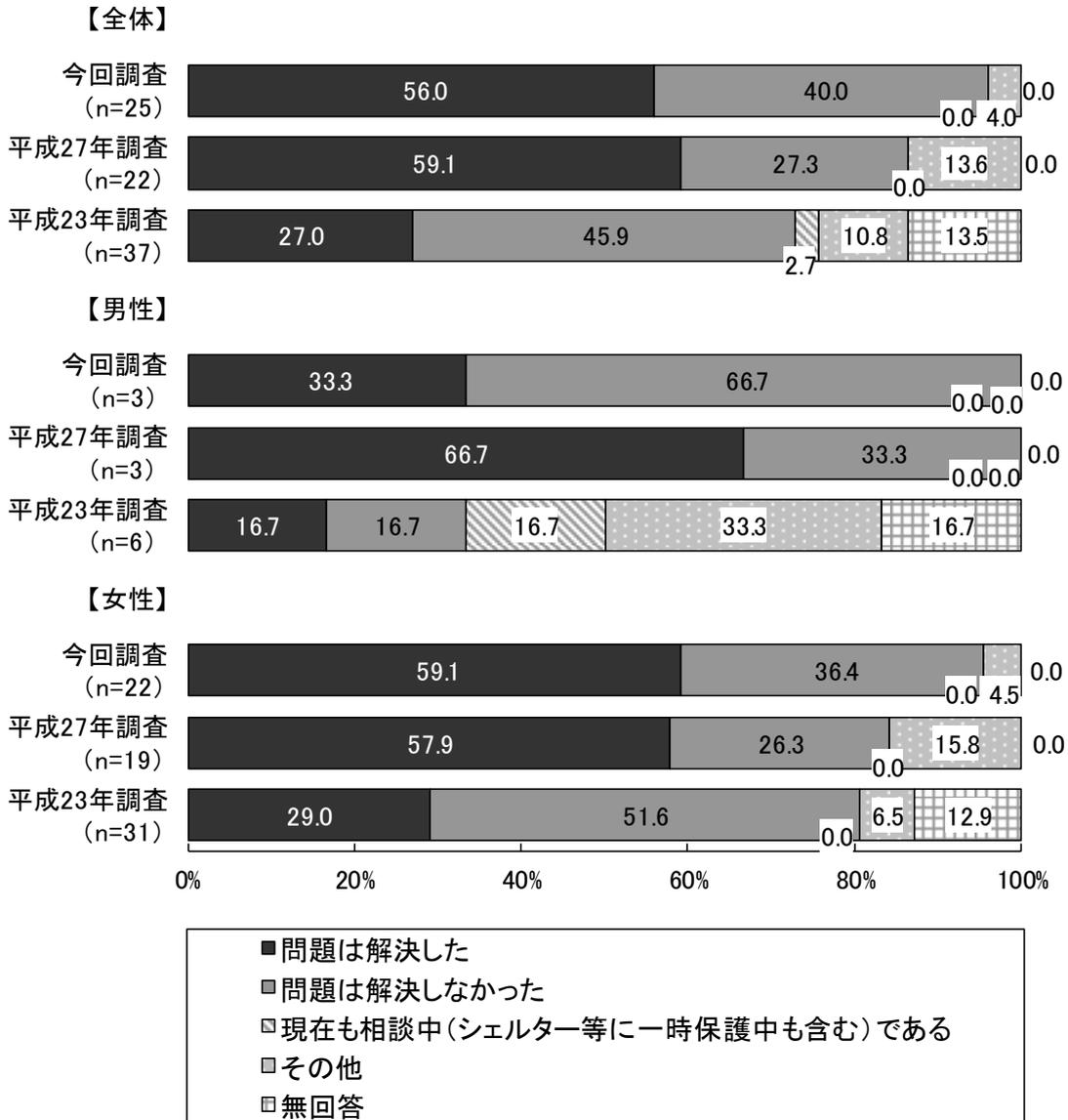
年齢別にみると、女性の 50 歳代で「問題は解決した」が 33.3%と、女性の他の年代に比べて割合が低くなっています。



●○経年比較○●

経年比較すると、「問題は解決しなかった」が40.0%と12.7ポイント増加しています。

性別にみると、男性では「問題は解決した」が33.4ポイント減少しており、女性では「問題は解決しなかった」が10.1ポイント増加しています。

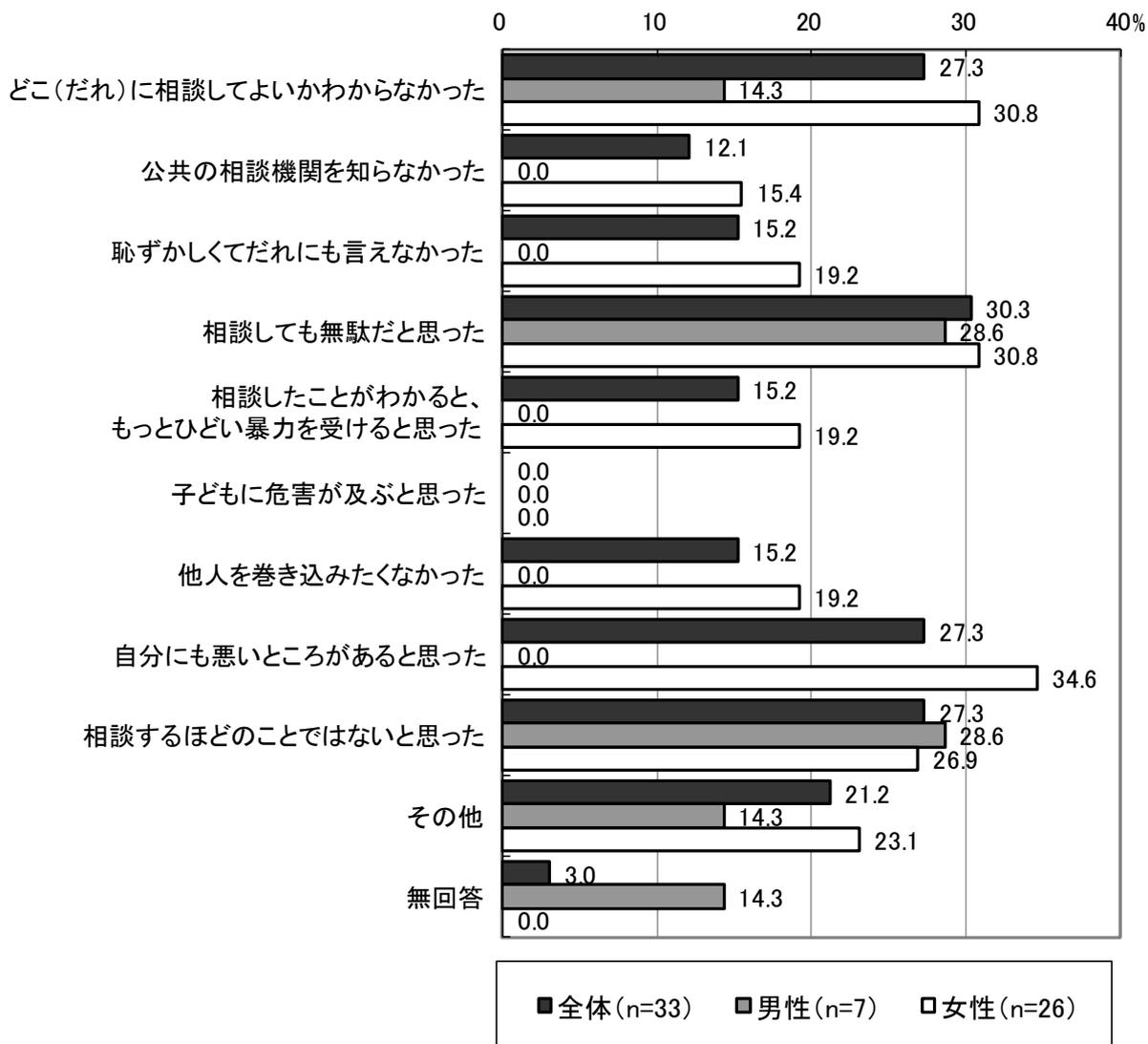


【問 29-1 で「2 相談しなかった」を選択した方】

問 29-4 あなたはドメスティック・バイオレンスを受けたとき、誰かに打ち明けたり相談したりしなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

DVを受けたとき、誰かに打ち明けたり相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思った」が30.3%と最も多く、次いで「どこ(だれ)に相談してよいかわからなかった」、「自分にも悪いところがあると思った」、「相談するほどのことではないと思った」がそれぞれ27.3%となっています。

性別にみると、男性は「相談しても無駄だと思った」、「相談するほどのことではないと思った」が28.6%と最も多く、「相談するほどのことではないと思った」以外の項目すべてで、男性に比べて女性が高い割合となっています。



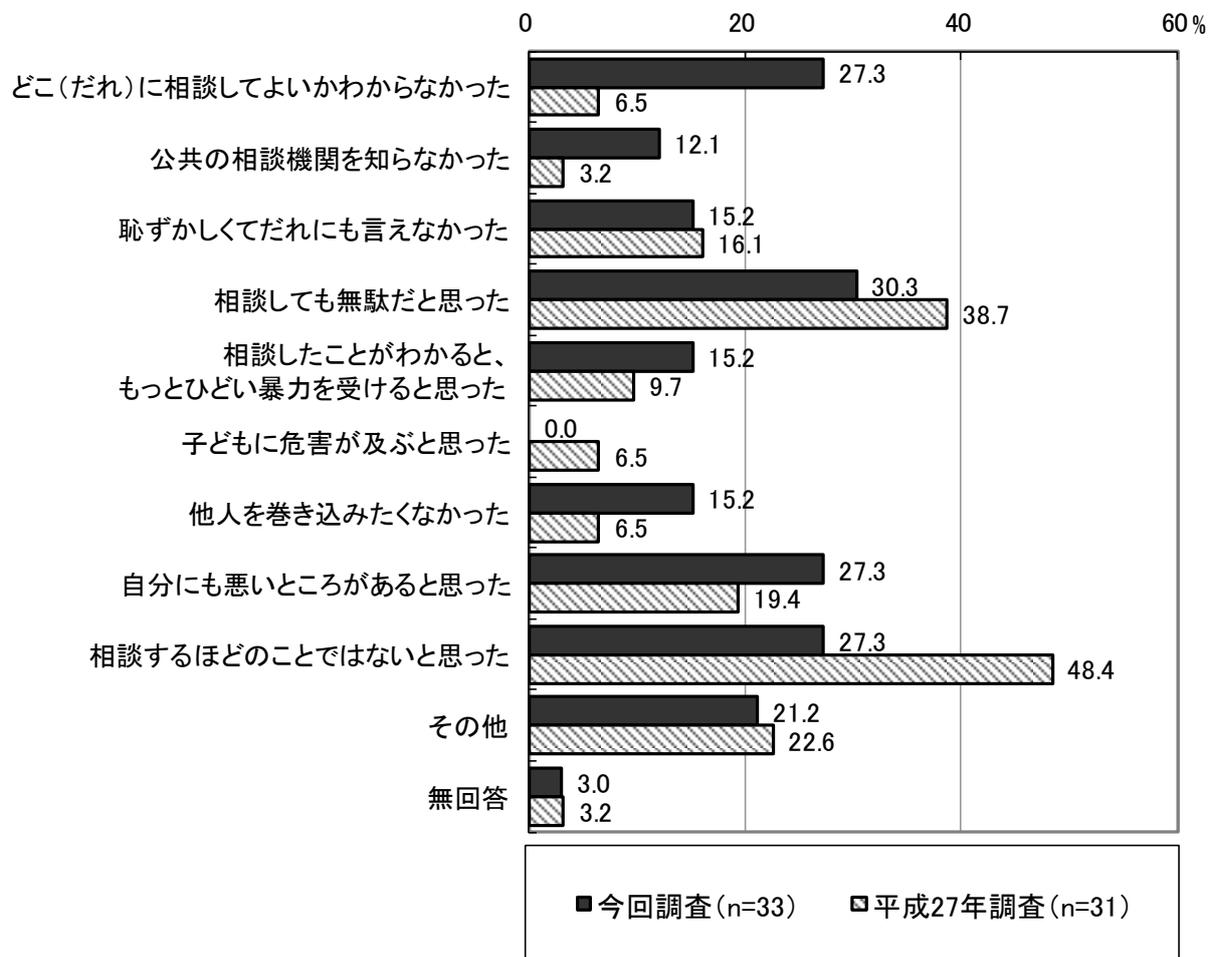
性・年齢別比較

年齢別にみると、女性の50歳代以上で「公共の相談機関を知らなかった」との回答がありました。

(%)	合計	かど かわ から な か つ た	こ な れ に 相 談 し て よ い	公 共 の 相 談 機 関 を 知 ら な か つ た	恥 ず か し く て だ れ に も 言 え な か つ た	相 談 し て も 無 駄 だ と 思 っ た	も っ と と ひ ど い 暴 力 を 受 け る と 思 っ た	相 談 し た こ と が わ か る と 思 っ た	子 ど も に 危 害 が 及 ぶ と 思 っ た	他 人 を 巻 き 込 み た く な か つ た	自 分 に も 悪 い と こ ろ が あ る と 思 っ た	相 談 す る ほ ど の こ と で は な い と 思 っ た	そ の 他	無 回 答	
<b>【年齢別・男性】</b>															
29歳以下	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
30歳代	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	
40歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	
50歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
60歳代	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
70歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
<b>【年齢別・女性】</b>															
29歳以下	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
30歳代	3	100.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	
40歳代	7	14.3	0.0	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	57.1	57.1	28.6	0.0	0.0	
50歳代	3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	
60歳代	9	11.1	22.2	11.1	44.4	11.1	0.0	22.2	11.1	22.2	22.2	22.2	0.0	0.0	
70歳以上	2	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

●○経年比較○●

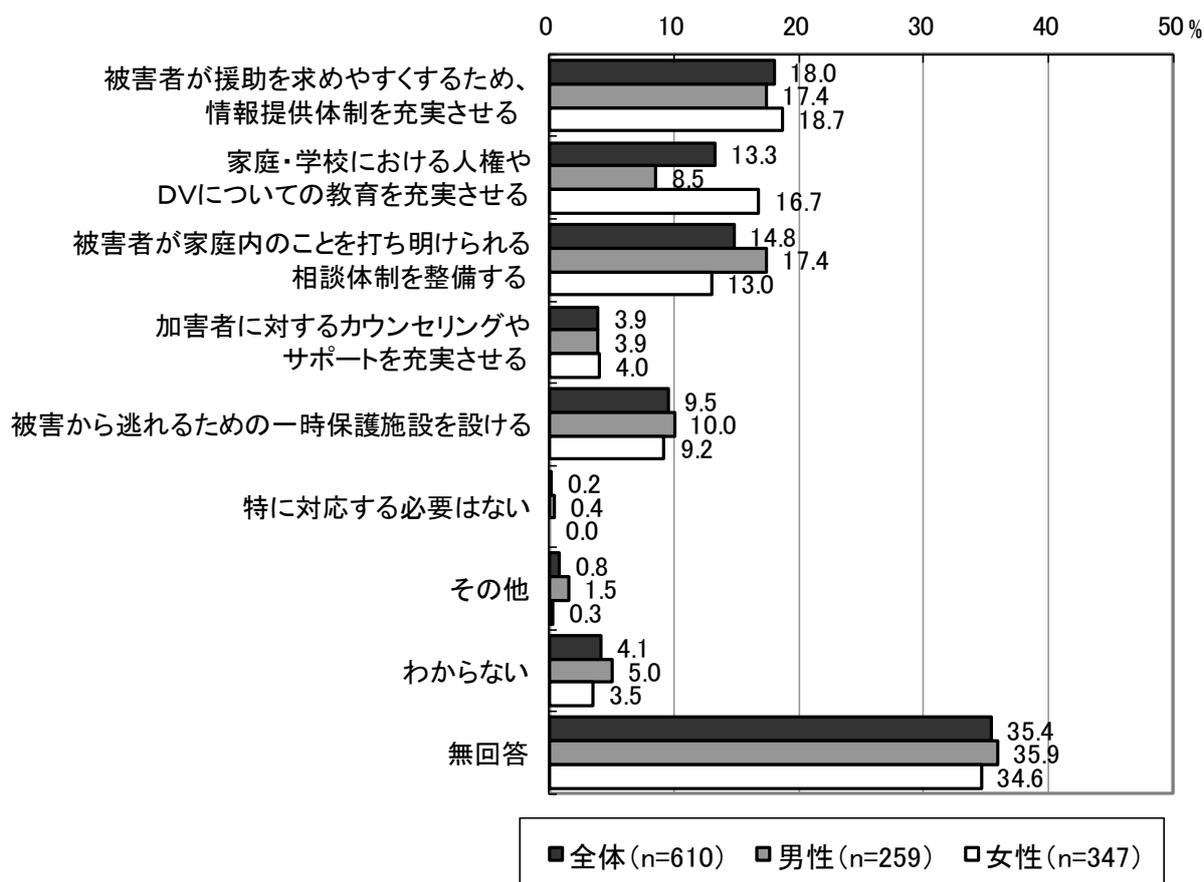
経年比較すると、「どこ（だれ）に相談してよいかわからなかった」が 20.8 ポイント増加、「相談するほどのことではないと思った」が 21.1 ポイント減少しています。



問 30 ドメスティック・バイオレンスを防ぐため、どのような取組がもっとも重要だと思いますか。(〇は1つ)

DVを防ぐために重要だと思う取組については、「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」が18.0%と最も多く、次いで「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」が14.8%、「家庭・学校における人権やDVについての教育を充実させる」が13.3%となっています。

性別にみると、女性で「家庭・学校における人権やDVについての教育を充実させる」が16.7%と、男性に比べて8.2ポイント高くなっています。



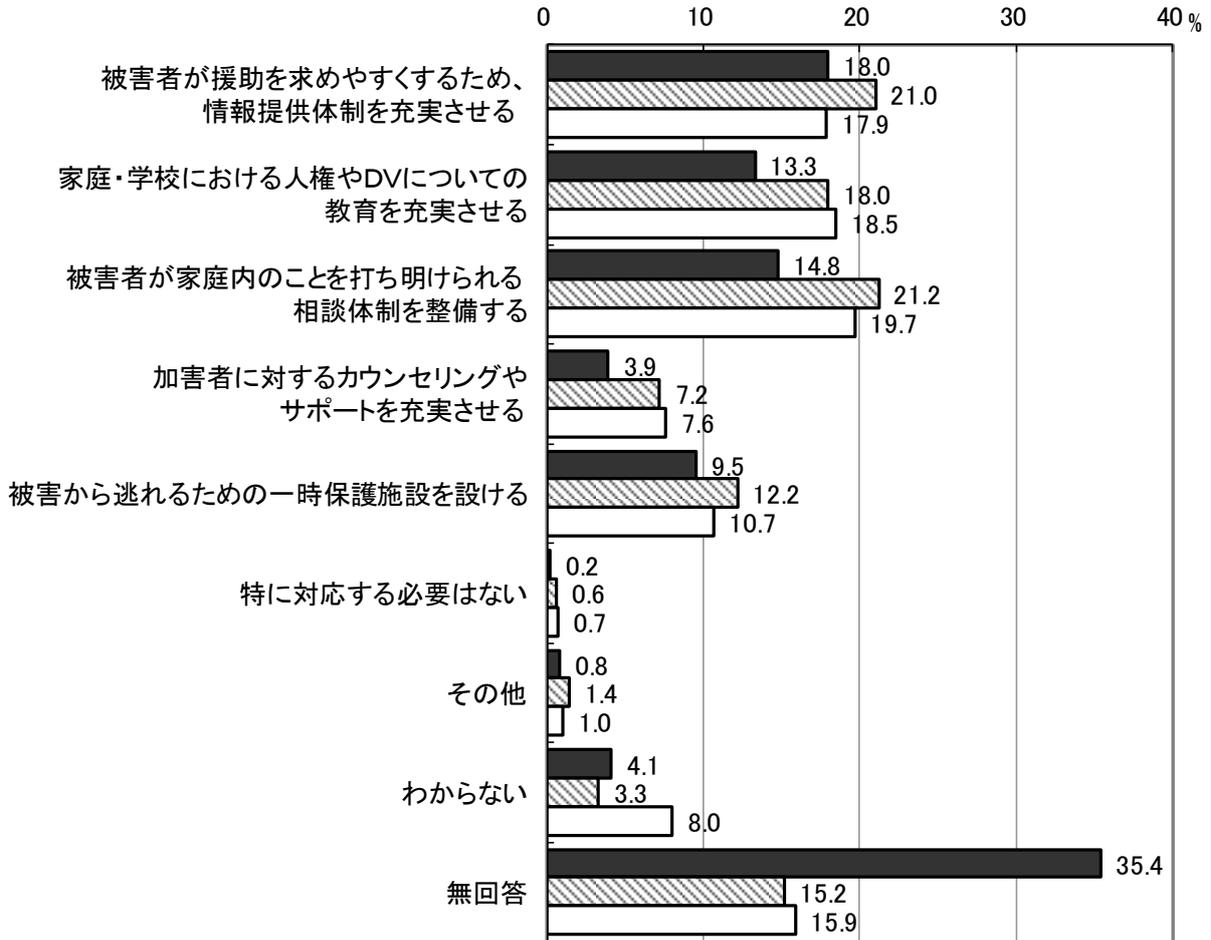
性・年齢別比較

年齢別にみると、女性の40歳代で「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」が33.3%、女性の50歳代で「家庭・学校における人権やDVについての教育を充実させる」が24.0%、男性の29歳以下・60歳代と女性の50歳代で「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」が2割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。

(%)	合計	被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる	家庭・学校における人権やDVについて、教育を充実させる	被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する	加害者に対するカウンセリングやサポートを充実させる	被害者から逃れるための一時保護施設を設ける	特に対応する必要はない	その他	わからない	無回答
【年齢別・男性】										
29歳以下	29	17.2	17.2	20.7	3.4	10.3	0.0	3.4	3.4	24.1
30歳代	48	22.9	10.4	10.4	4.2	10.4	2.1	2.1	6.3	31.3
40歳代	39	20.5	5.1	17.9	2.6	2.6	0.0	2.6	5.1	43.6
50歳代	44	18.2	6.8	13.6	4.5	15.9	0.0	0.0	0.0	40.9
60歳代	47	8.5	8.5	25.5	0.0	14.9	0.0	0.0	6.4	36.2
70歳以上	52	17.3	5.8	17.3	7.7	5.8	0.0	1.9	7.7	36.5
【年齢別・女性】										
29歳以下	59	22.0	13.6	18.6	3.4	13.6	0.0	0.0	0.0	28.8
30歳代	64	12.5	15.6	9.4	6.3	10.9	0.0	0.0	4.7	40.6
40歳代	60	33.3	11.7	3.3	5.0	11.7	0.0	0.0	3.3	31.7
50歳代	50	8.0	24.0	22.0	4.0	2.0	0.0	0.0	6.0	34.0
60歳代	61	23.0	18.0	11.5	1.6	6.6	0.0	1.6	1.6	36.1
70歳以上	53	11.3	18.9	15.1	3.8	9.4	0.0	0.0	5.7	35.8

●○経年比較○●

経年比較すると、ほぼ同様の傾向となっていますが、「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」が6.4ポイント減少しています。



■今回調査 (n=610)    ▨平成27年調査 (n=666)    □平成23年調査 (n=710)

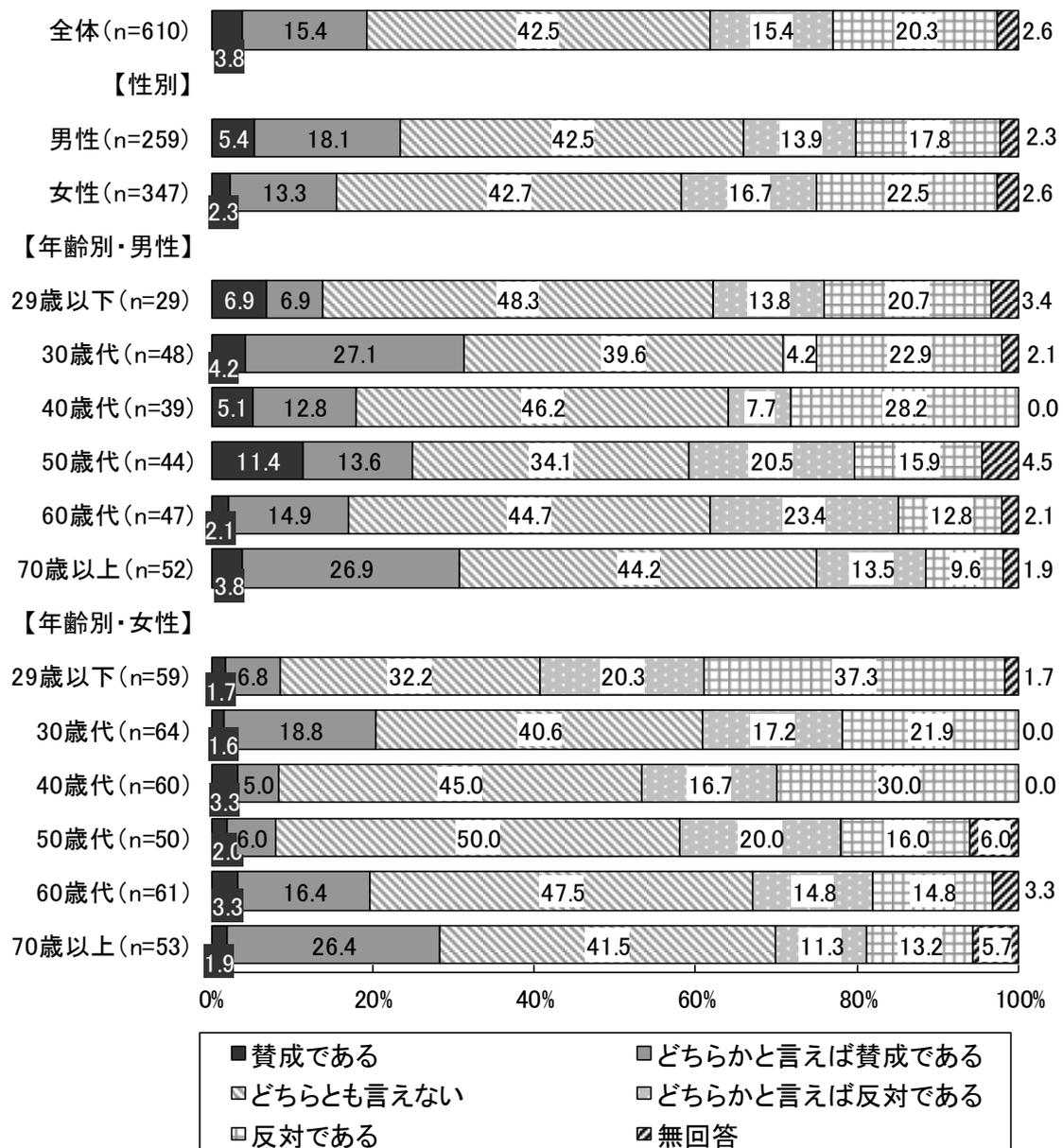
## (9) 男性も女性も共に輝く社会の形成についておたずねします

問 31 あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どうお考えになりますか。(○は1つ)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、「どちらとも言えない」が42.5%と最も多く、「賛成である」と「どちらかと言えば賛成である」を合わせた“賛成”は19.2%、「反対である」と「どちらかと言えば反対である」を合わせた“反対”は35.7%となっており、“反対”が“賛成”を16.5ポイント上回っています。

性別にみると、“賛成”は男性で23.5%、女性は15.6%となっており、男性が女性を7.9ポイント上回っています。

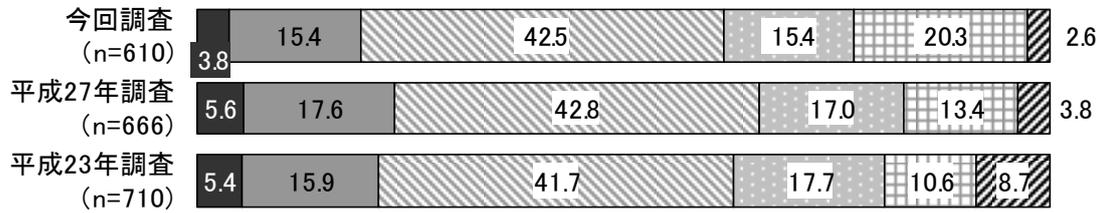
年齢別にみると、女性の29歳以下・40歳代で“反対”の割合が4割台半ばを超えており、他の年代に比べて高くなっています。



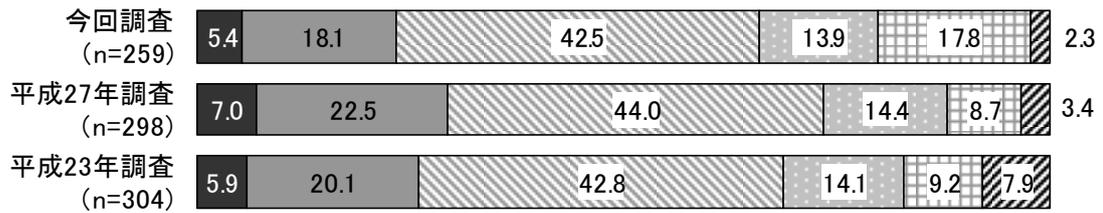
●○経年比較○●

経年比較すると、全体と男性で“反対”がやや増加しています。

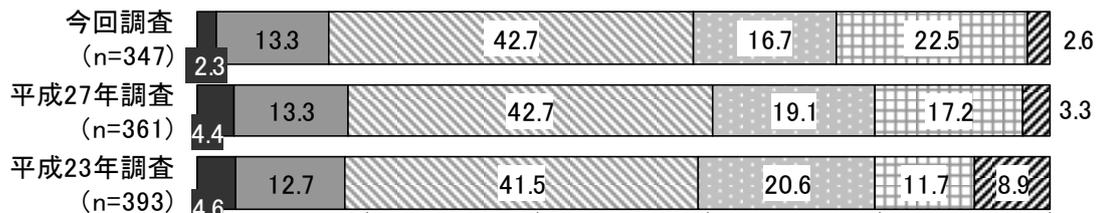
【全体】



【男性】



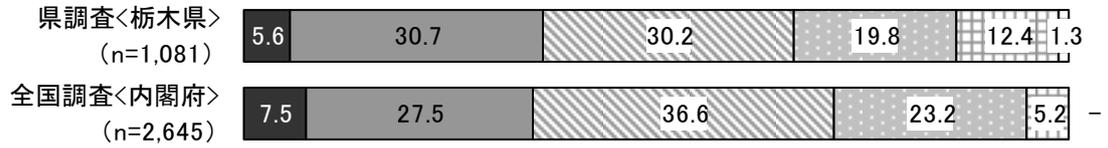
【女性】



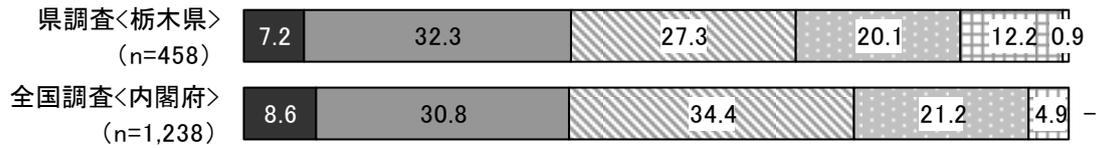
国・県結果（参考）

県調査、全国調査と比較すると、どちらも“反対”が“賛成”を上回っており、下野市と同様の傾向となっています。

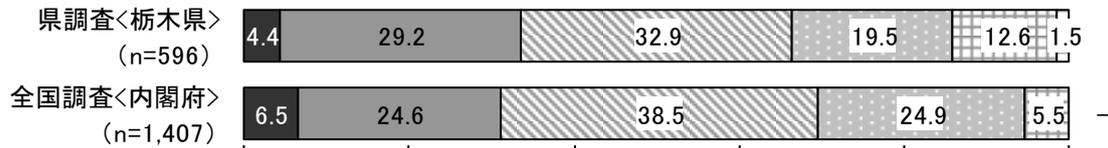
【全体】



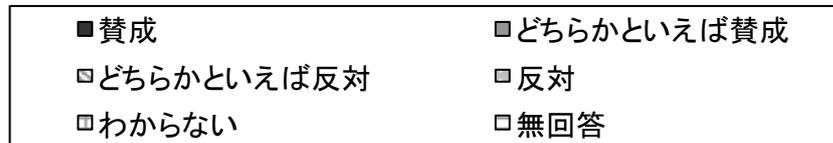
【男性】



【女性】



0% 20% 40% 60% 80% 100%

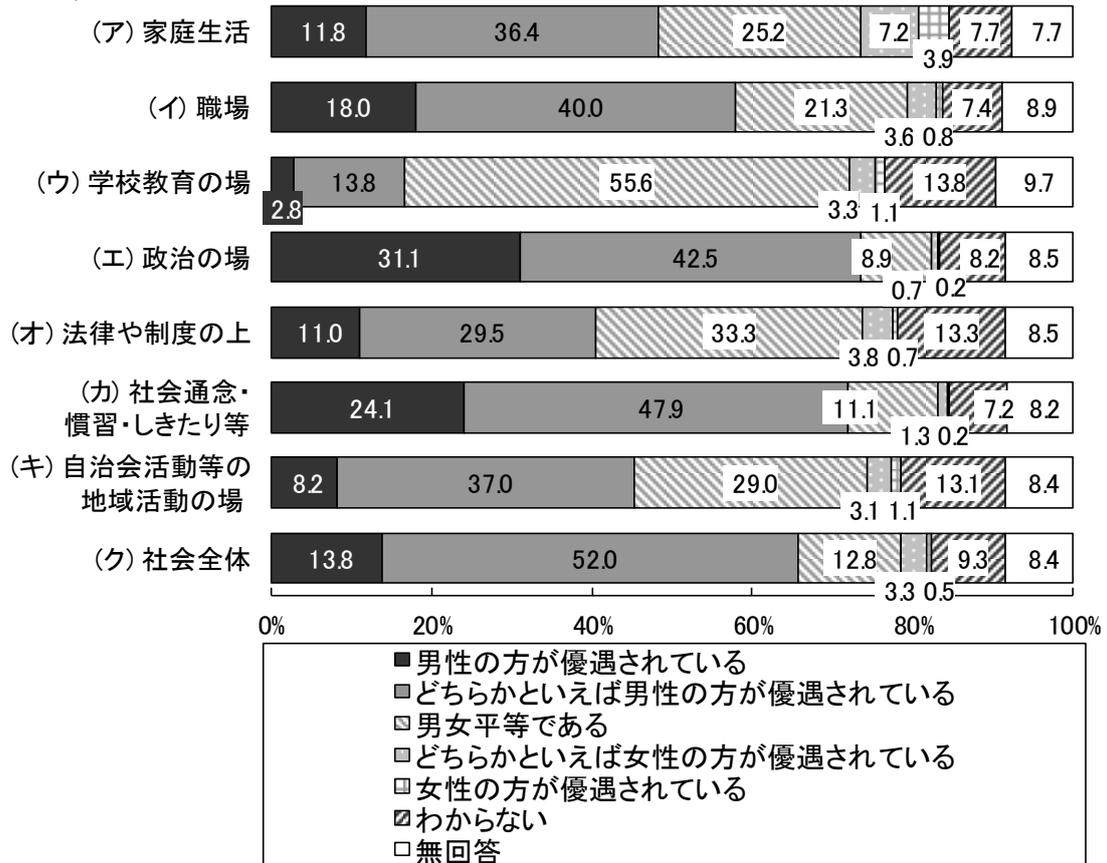


問 32 あなたは、次のような場で男女が平等になっていると思いますか。(ア) から (ク) それぞれ○は1つ)

次のような場における男女の平等の状況について、“男性優遇”、“男女平等”、“女性優遇”に分けてみていくと、“男女平等”が最も多いのは、[(ウ)学校教育の場]で55.6%、次いで[(オ)法律や制度の上]が33.3%、[(キ)自治会活動などの地域活動の場]が29.0%となっています。

“男性優遇”が最も多いのは、[(エ)政治の場]で73.6%、次いで[(カ)社会通念・慣習・しきたりなど]が72.0%、[(ク)社会全体]が65.8%となっています。一方、“女性優遇”は[(ア)家庭生活]で11.1%となっており、それ以外の項目は1割に満たない回答となっています。

(n=610)

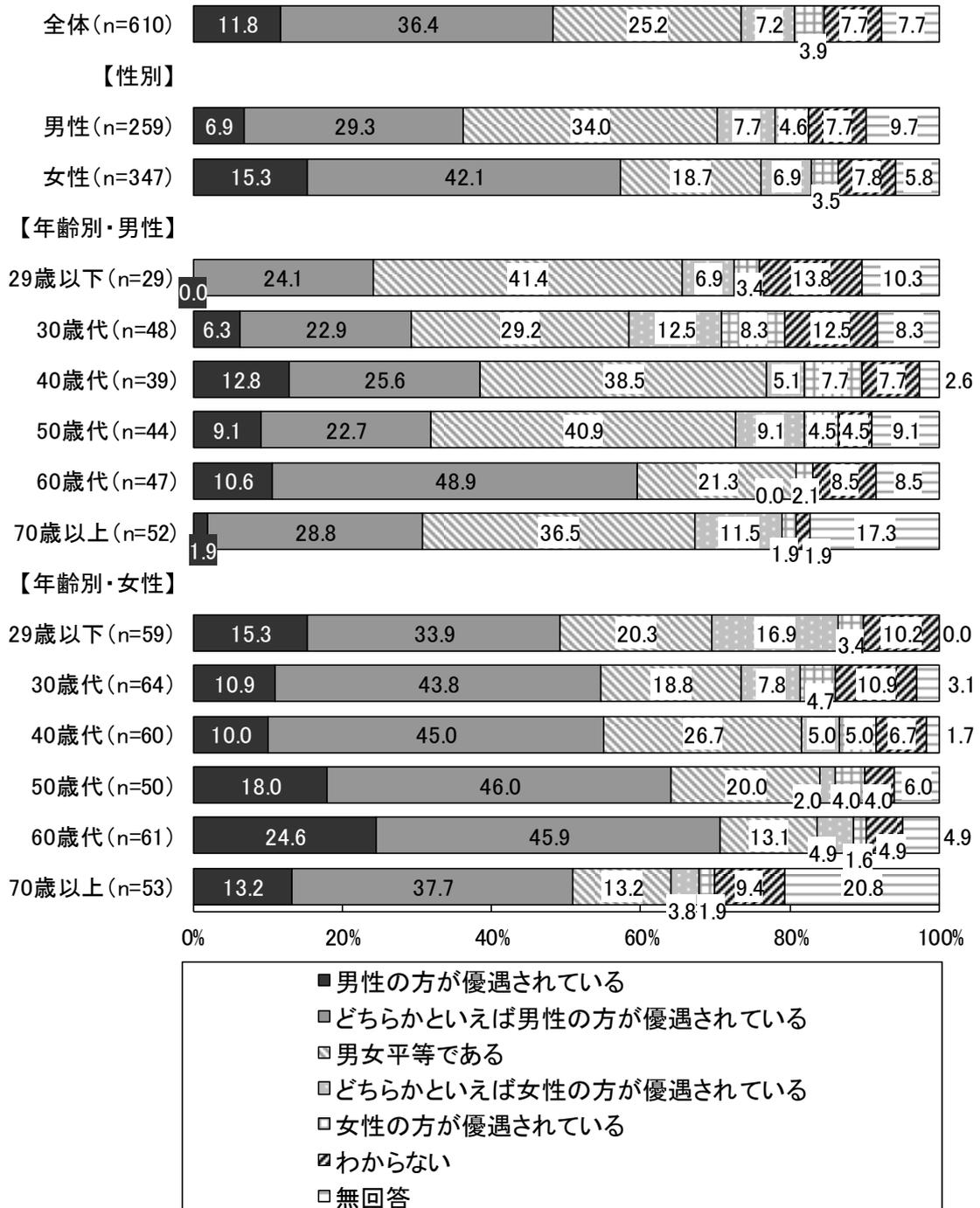


性・年齢別比較

【(ア) 家庭生活】

家庭生活における男女の平等の状況について、性別にみると、女性で“男性優遇”が57.4%と、男性に比べて21.2ポイント上回っています。

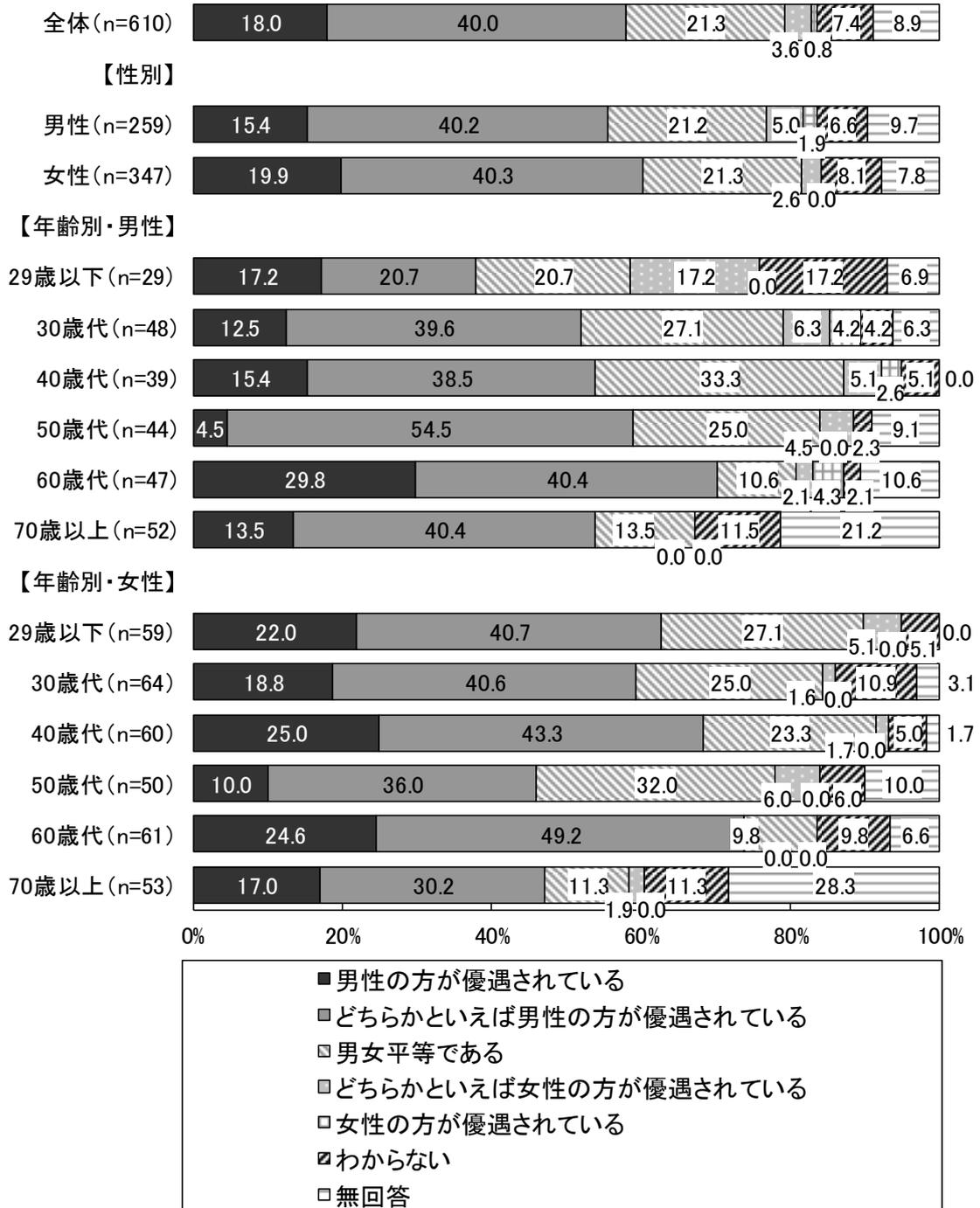
年齢別にみると、男性の60歳代で“男性優遇”が59.5%となっており、他の年代に比べて高い割合となっています。



【(イ) 職場】

職場における男女の平等の状況について、性別による回答に大きな違いはみられません。

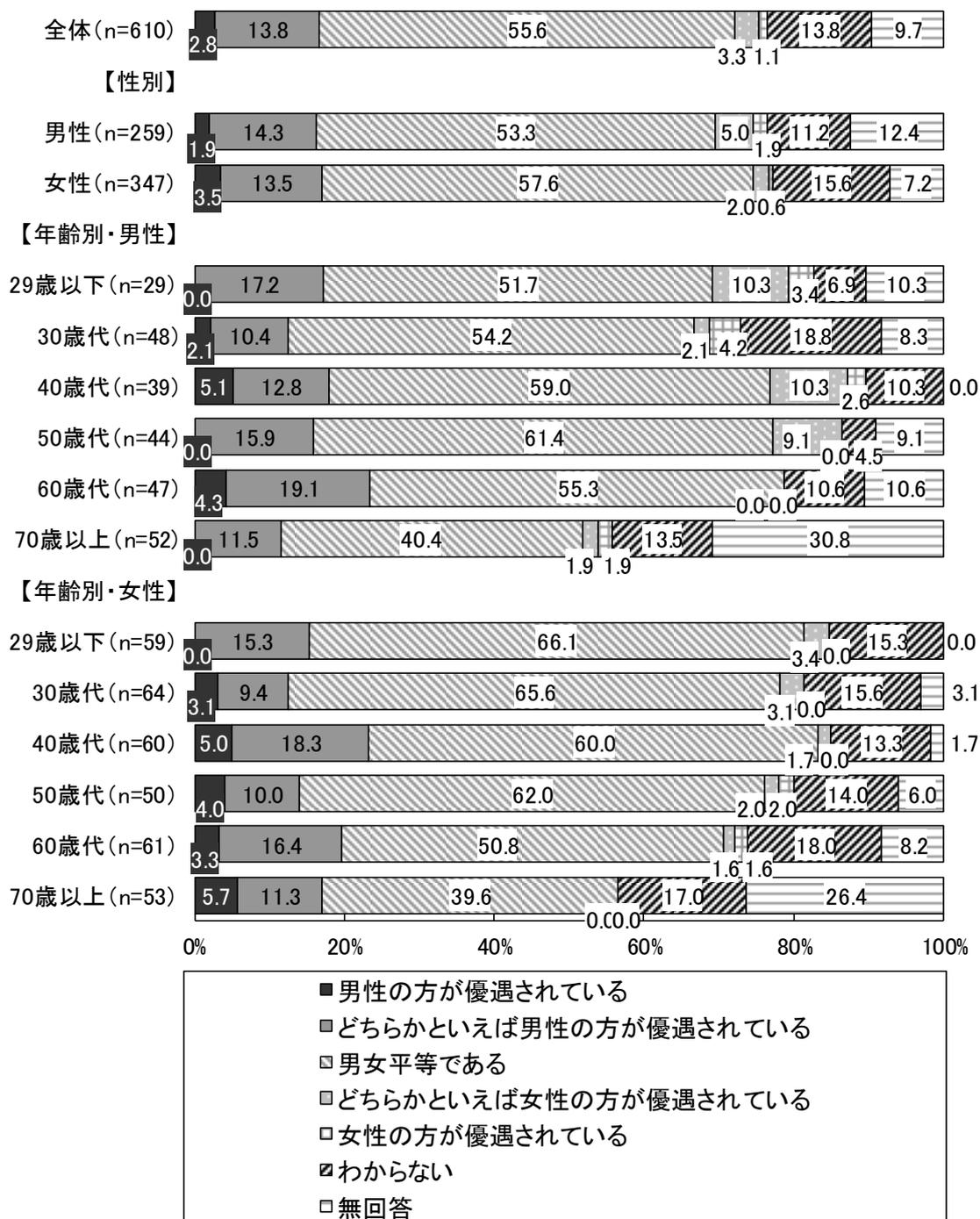
年齢別にみると、男性の29歳以下で“男性優遇”が37.9%となっており、他の年代に比べて低くなっています。



【(ウ) 学校教育の場】

学校教育の場における男女の平等の状況について、性別にみると、男女ともに「男女平等である」が5割台半ばとなっており、大きな違いは見られません。

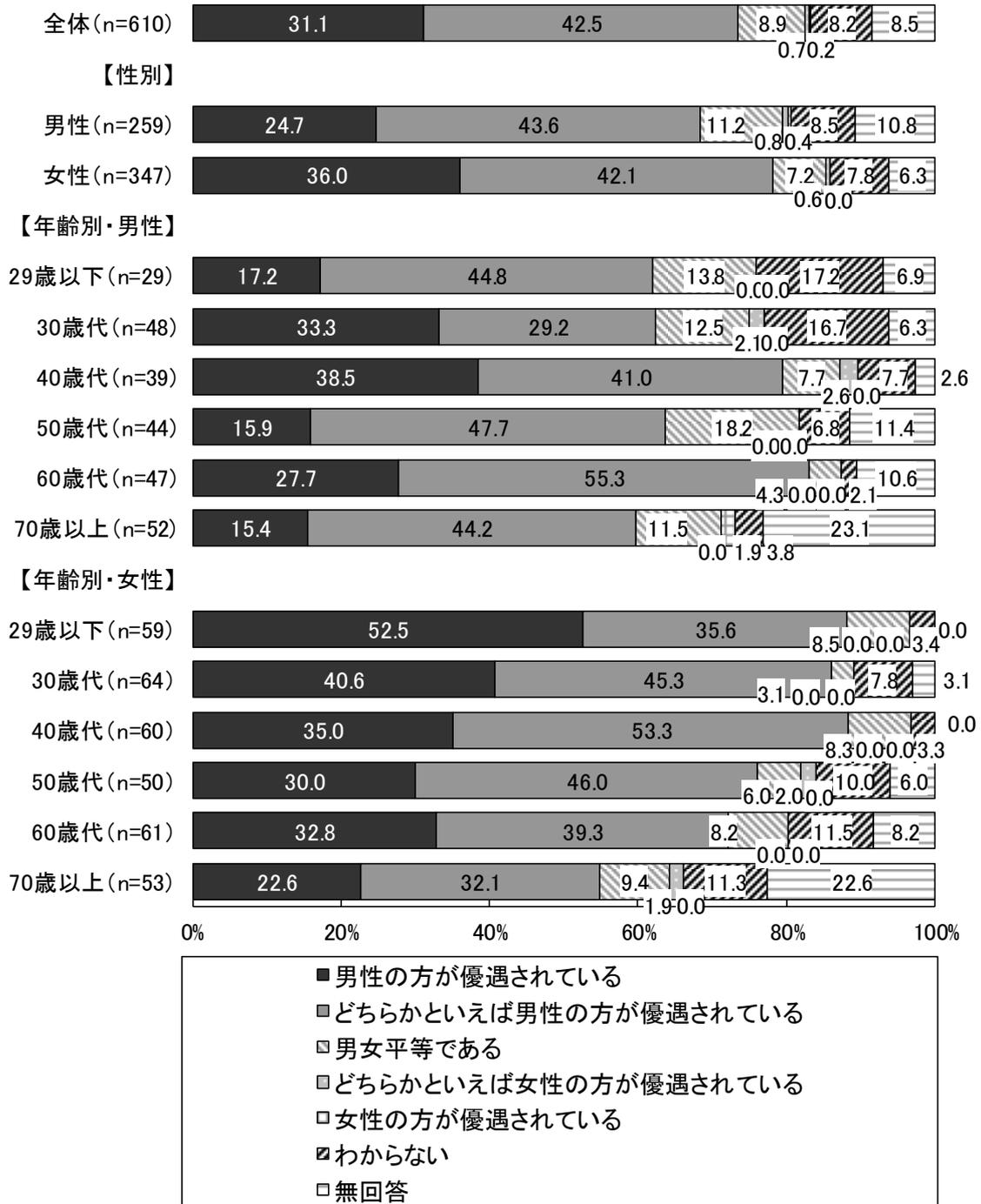
年齢別にみると、男性の60歳代と女性の40歳代で“男性優遇”が2割を超えており、他の年代に比べてやや高くなっています。



【(エ) 政治の場】

政治の場における男女の平等の状況について、性別にみると、女性で“男性優遇”が78.1%と、男性に比べて9.8ポイント上回っています。

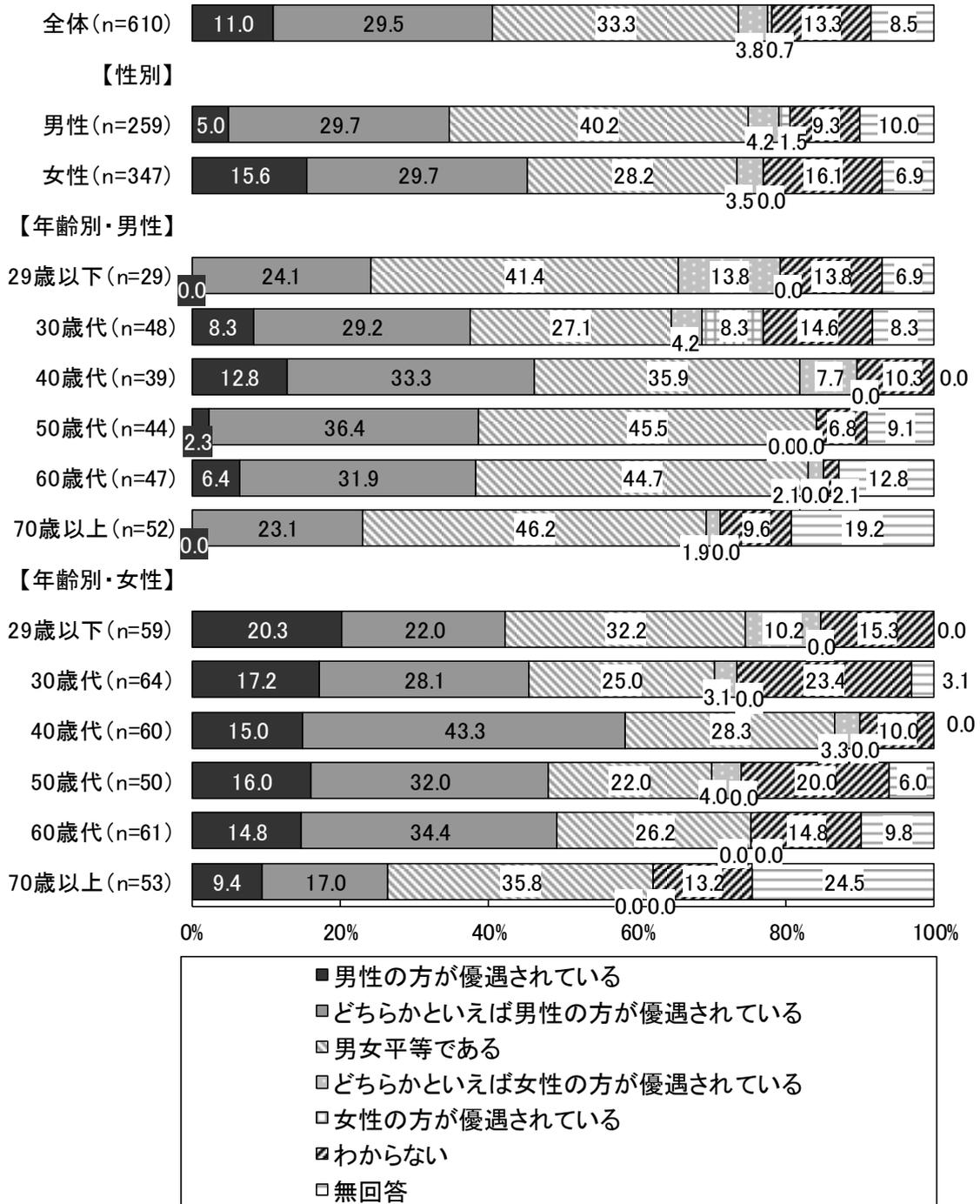
年齢別にみると、男女の70歳以上で“男性優遇”が5割台となっており、他の年代に比べて低くなっています。



【(オ) 法律や制度の上】

法律や制度の上における男女の平等の状況について、性別にみると、女性で“男性優遇”が45.3%と、男性に比べて10.6ポイント上回っています。

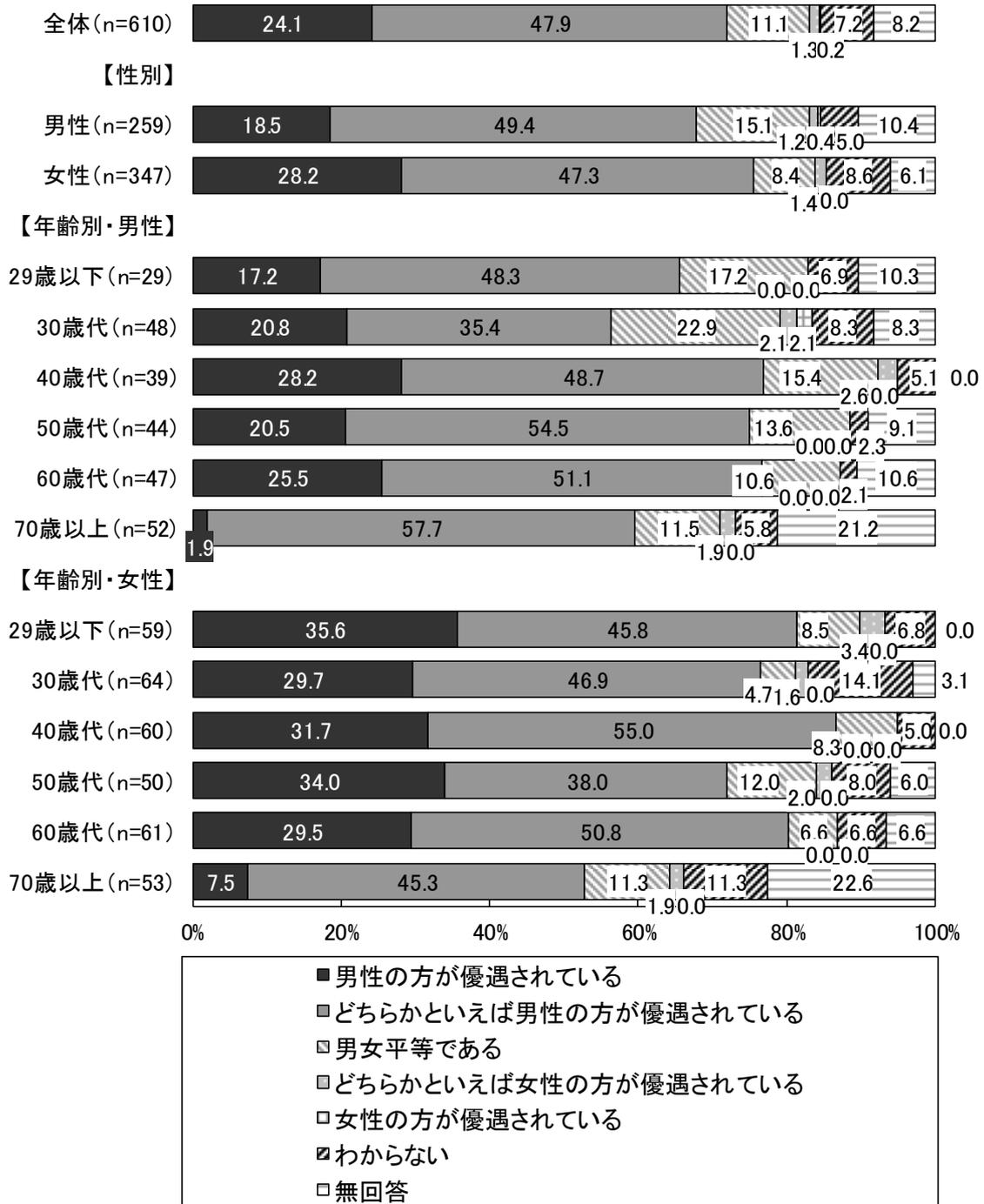
年齢別にみると、男性の29歳以下と男女の70歳以上で“男性優遇”が2割台半ばとなっており、他の年代に比べて低くなっています。



【(カ) 社会通念・慣習・しきたりなど】

社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の平等の状況について、性別にみると、女性で“男性優遇”が75.5%と、男性に比べて7.6ポイント上回っています。

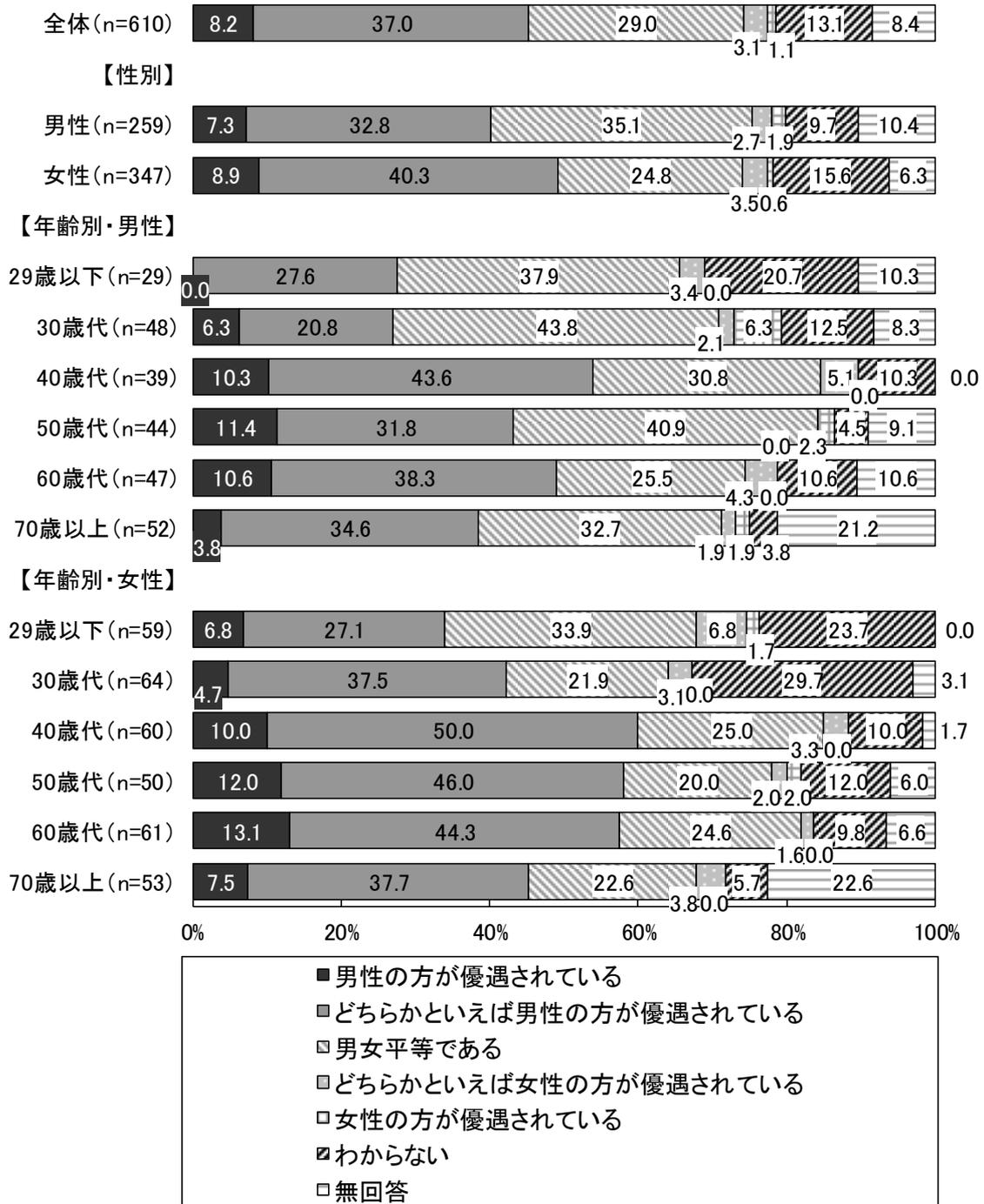
年齢別にみると、男性の30歳代、男女の70歳以上で“男性優遇”が5割台となっており、他の年代に比べて低くなっています。



【(キ) 自治会活動などの地域活動の場】

自治会活動などの地域活動の場における男女の平等の状況について、性別にみると、女性で“男性優遇”が49.2%と、男性に比べて9.1ポイント上回っています。

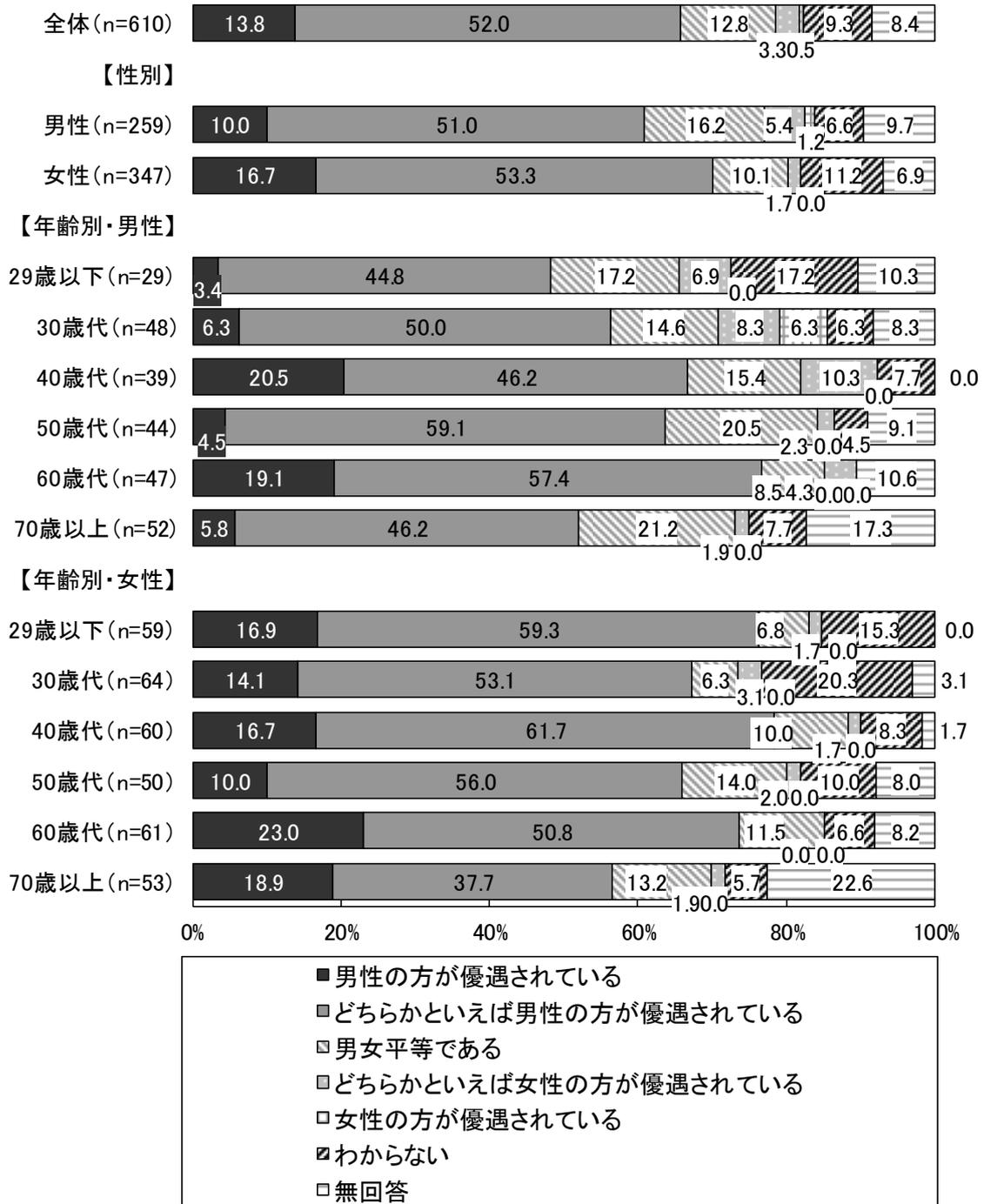
年齢別にみると、男性の30歳代以下で“男性優遇”が2割台となっており、他の年代に比べて低くなっています。



【(ク) 社会全体】

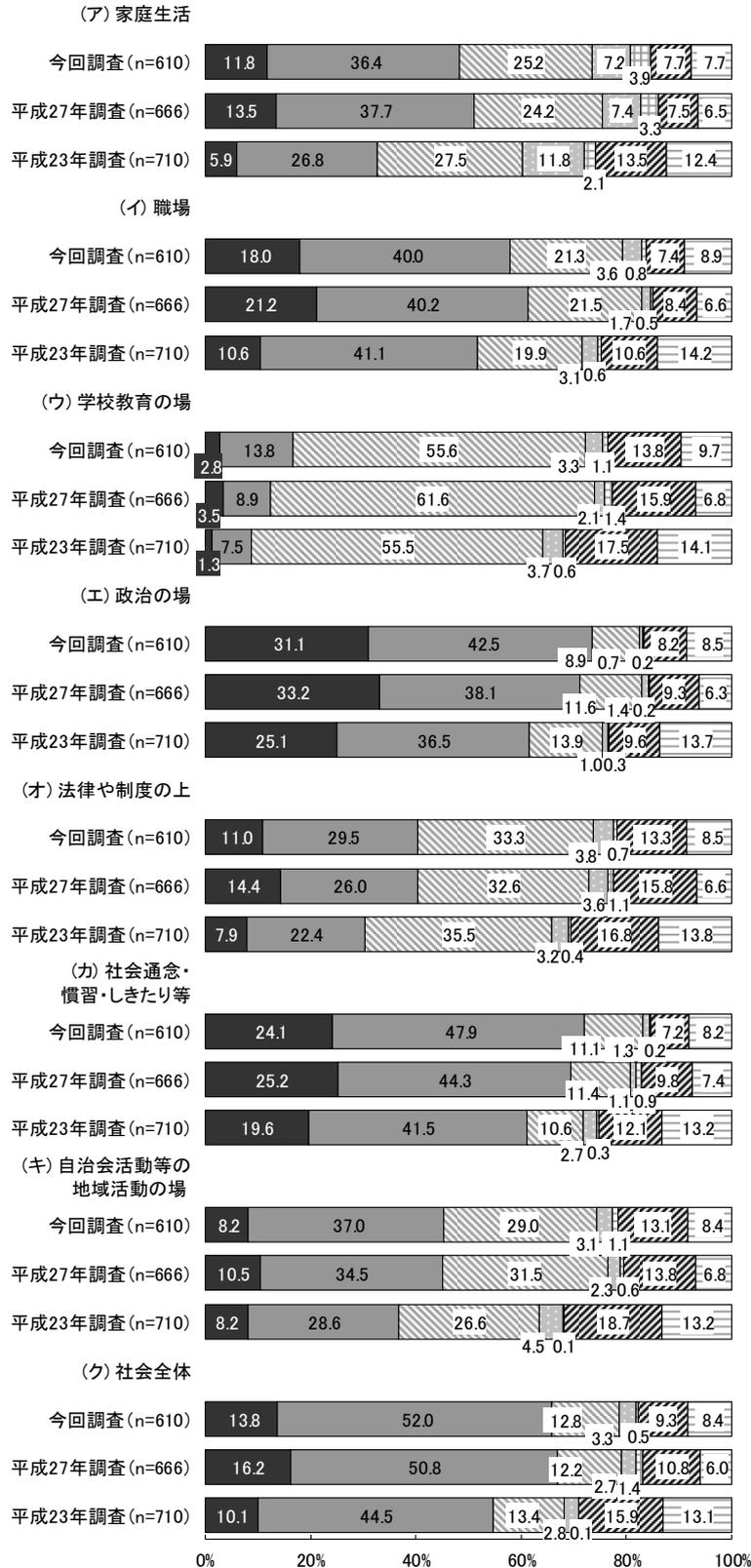
社会全体における男女の平等の状況について、性別にみると、女性で“男性優遇”が70.0%と、男性に比べて9.0ポイント上回っています。

年齢別にみると、男性の29歳以下で“男性優遇”が48.2%となっており、他の年代に比べて低くなっています。



## ●○経年比較○●

平成27年調査調査比較すると、平成27年調査とほぼ同様の傾向となっているものの、〔ウ〕学校教育の場〕で“男女平等”の割合が6.0ポイント減少しています。



- 男性の方が優遇されている
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている
- 平等になっている
- ▨ どちらかと言えば女性の方が優遇されている
- 女性の方が優遇されている
- ▨ わからない
- 無回答

## 国・県との比較

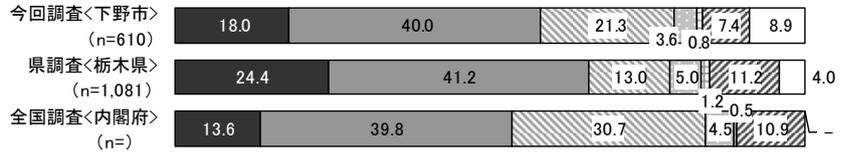
県調査と比較すると、[(エ) 政治の場]、[(カ) 社会通念・慣習・しきたりなど]以外のすべての項目で「平等になっている」の割合が県調査を上回っています。

全国調査と比較すると、すべての項目で「平等になっている」の割合が下野市、県調査を全国調査を上回っています。

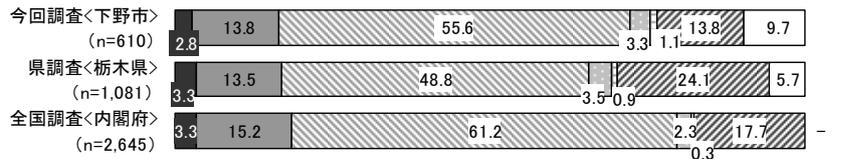
(ア)家庭生活



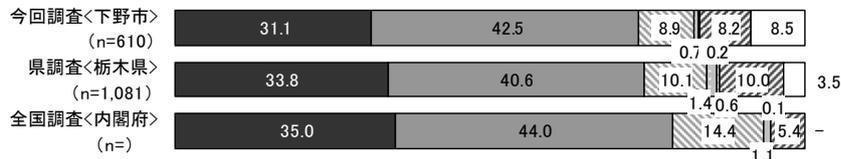
(イ)職場



(ウ)学校教育の場



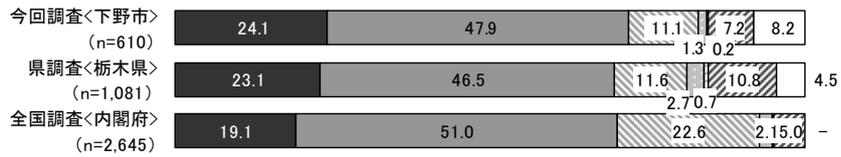
(エ)政治の場



(オ)法律や制度の上



(カ)社会通念・慣習・しきたりなど



(キ)自治会活動などの地域活動の場



(ク)社会全体

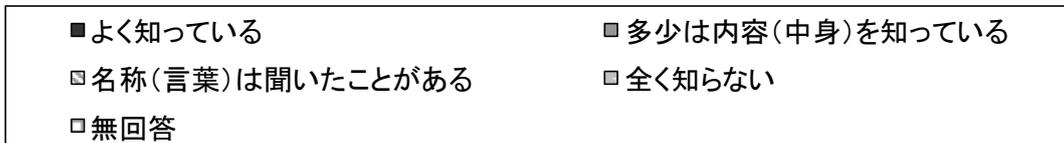
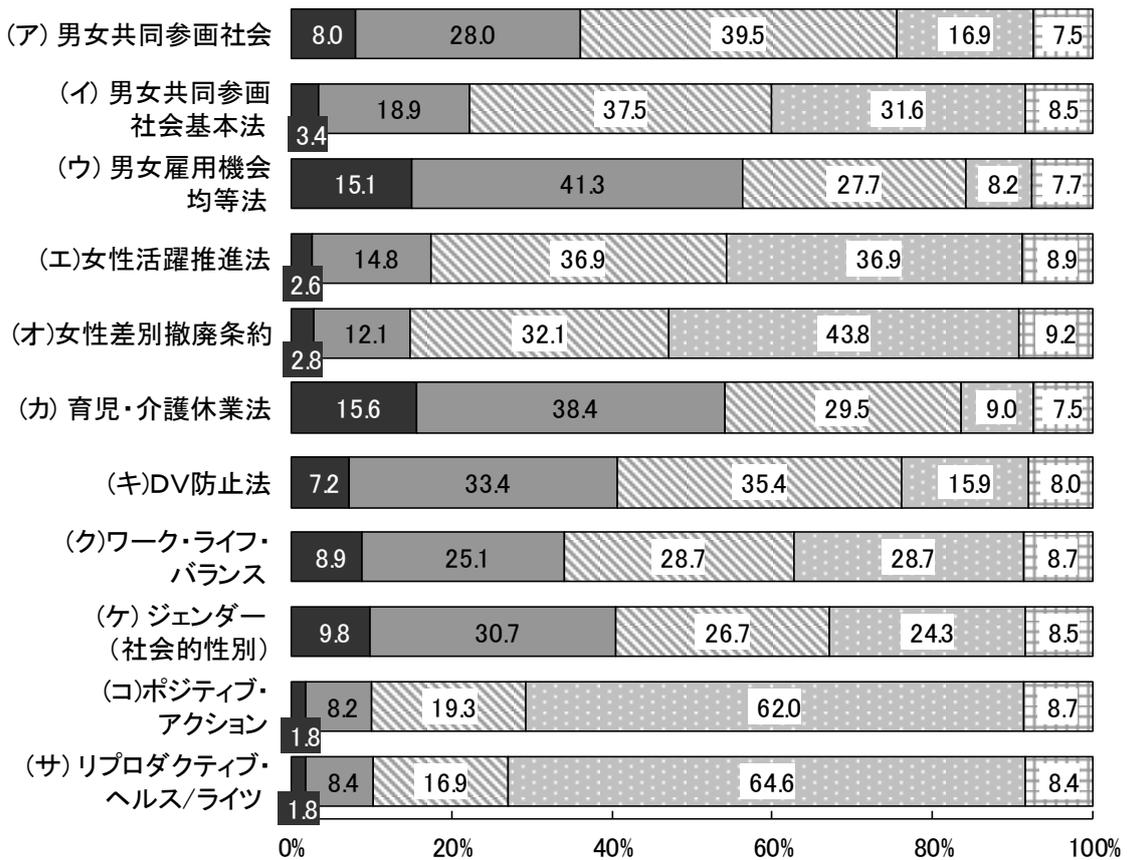


- 男性の方が優遇されている
- 平等になっている
- 女性の方が優遇されている
- 無回答
- どちらかと言えば男性の方が優遇されている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている
- わからない

問 33 あなたは、次の「事柄」や「言葉」を知っていますか。(ア)から(コ)それぞれ〇は1つ

男女共同参画に関係する「事柄」や「言葉」の認知度については、「よく知っている」と「多少は内容(中身)を知っている」を合わせた“知っている”との回答は、[(ウ)男女雇用機会均等法]と[(カ)育児・介護休業法]で5割を超えており、割合が高くなっています。また、「名称(言葉)は聞いたことがある」との回答は、[(ア)男女共同参画社会]、[(イ)男女共同参画社会基本法]、[(エ)女性活躍推進法]、[(オ)女性差別撤廃条約]、[(キ)DV防止法]で3割を超えています。一方、「全く知らない」との回答は、[(コ)ポジティブ・アクション]と[(サ)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康・権利)]で6割を超えています。

(n=610)

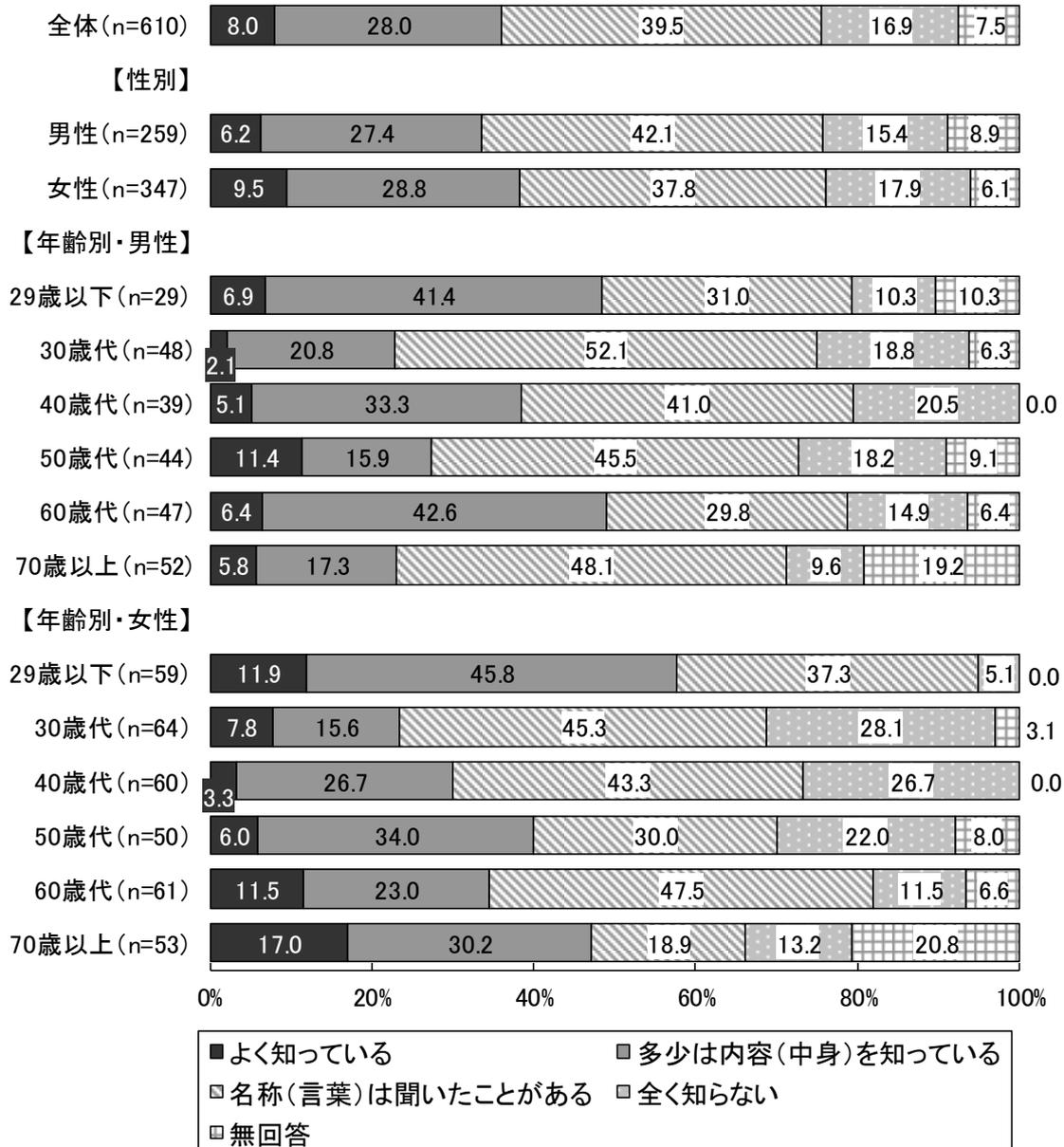


性・年齢別比較

【(ア) 男女共同参画社会】

男女共同参画社会の認知度について、性別にみると、男女ともに“知っている”が3割台と、同様の傾向になっています。

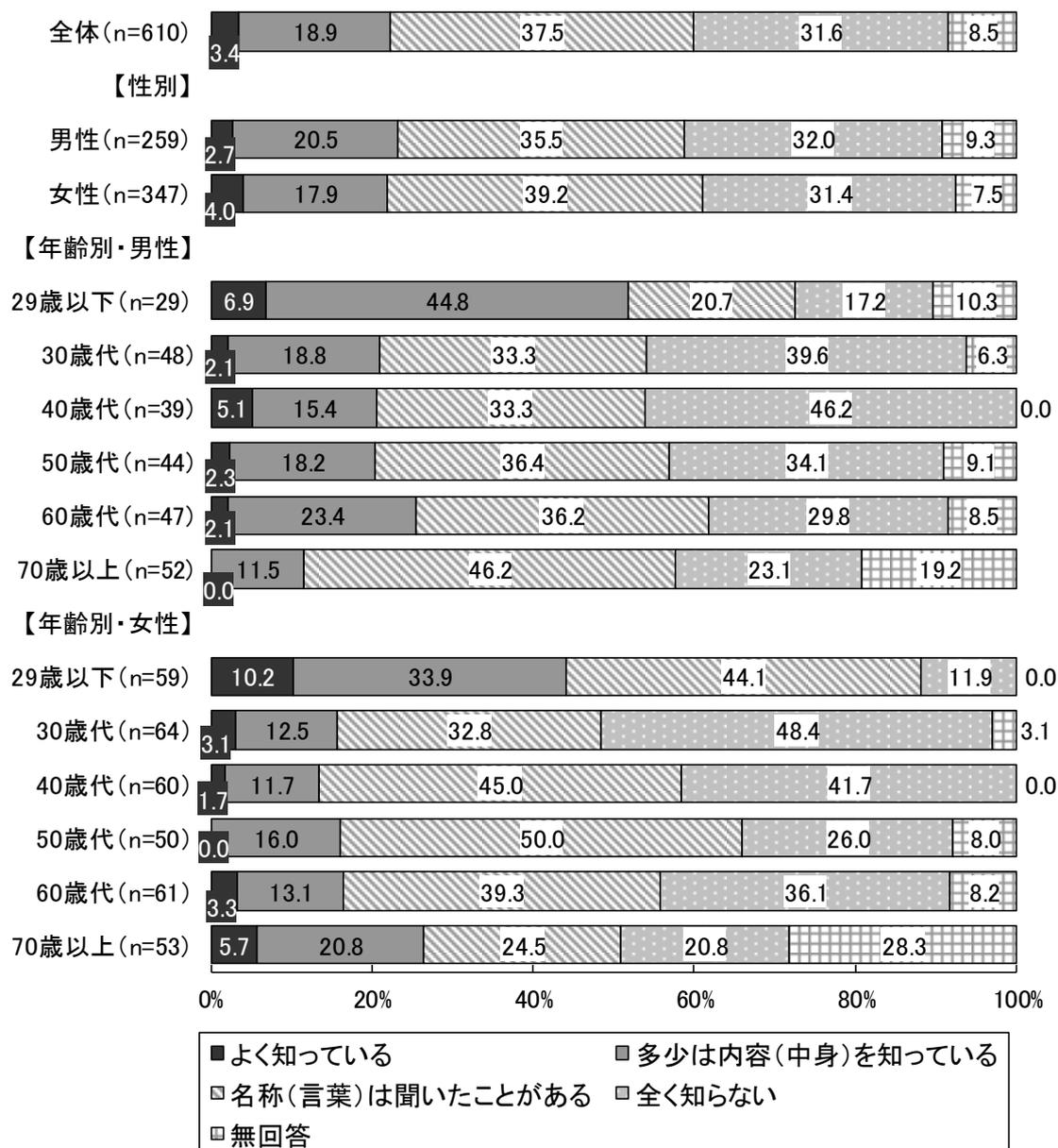
年齢別にみると、男性の29歳以下・60歳代と女性の29歳以下・50歳代・70歳以上で“知っている”が4割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。



【(イ) 男女共同参画社会基本法】

男女共同参画社会基本法の認知度について、性別にみると、男女ともに“知っている”が2割台と、同様の傾向になっています。

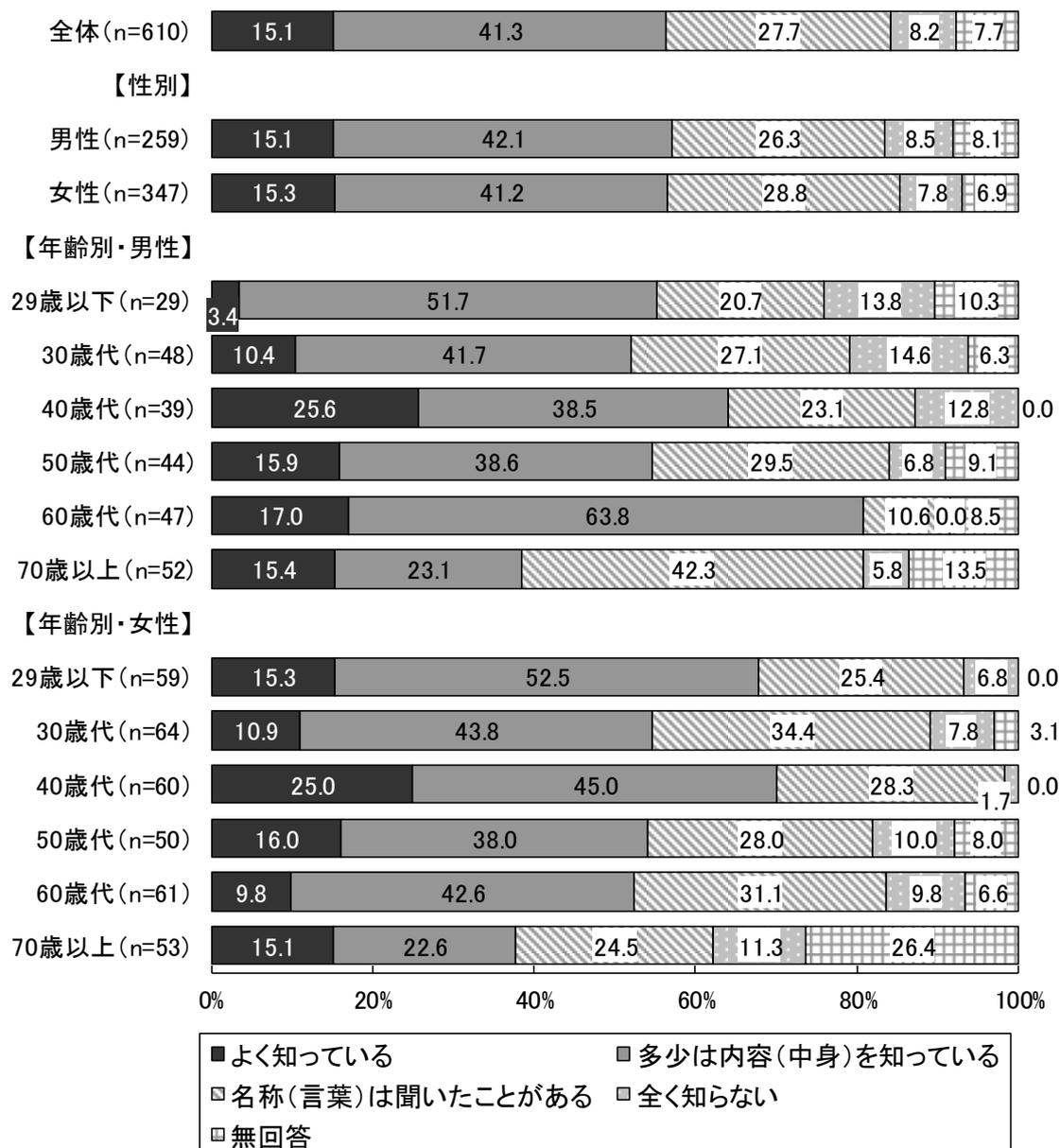
年齢別にみると、男女の29歳以下で“知っている”が4割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。年齢別にみると、男性の40歳代と女性の30・40歳代で「全く知らない」が4割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。



【(ウ) 男女雇用機会均等法】

男女雇用機会均等法の認知度について、性別にみると、男女ともに“知っている”が5割台と、同様の傾向になっています。

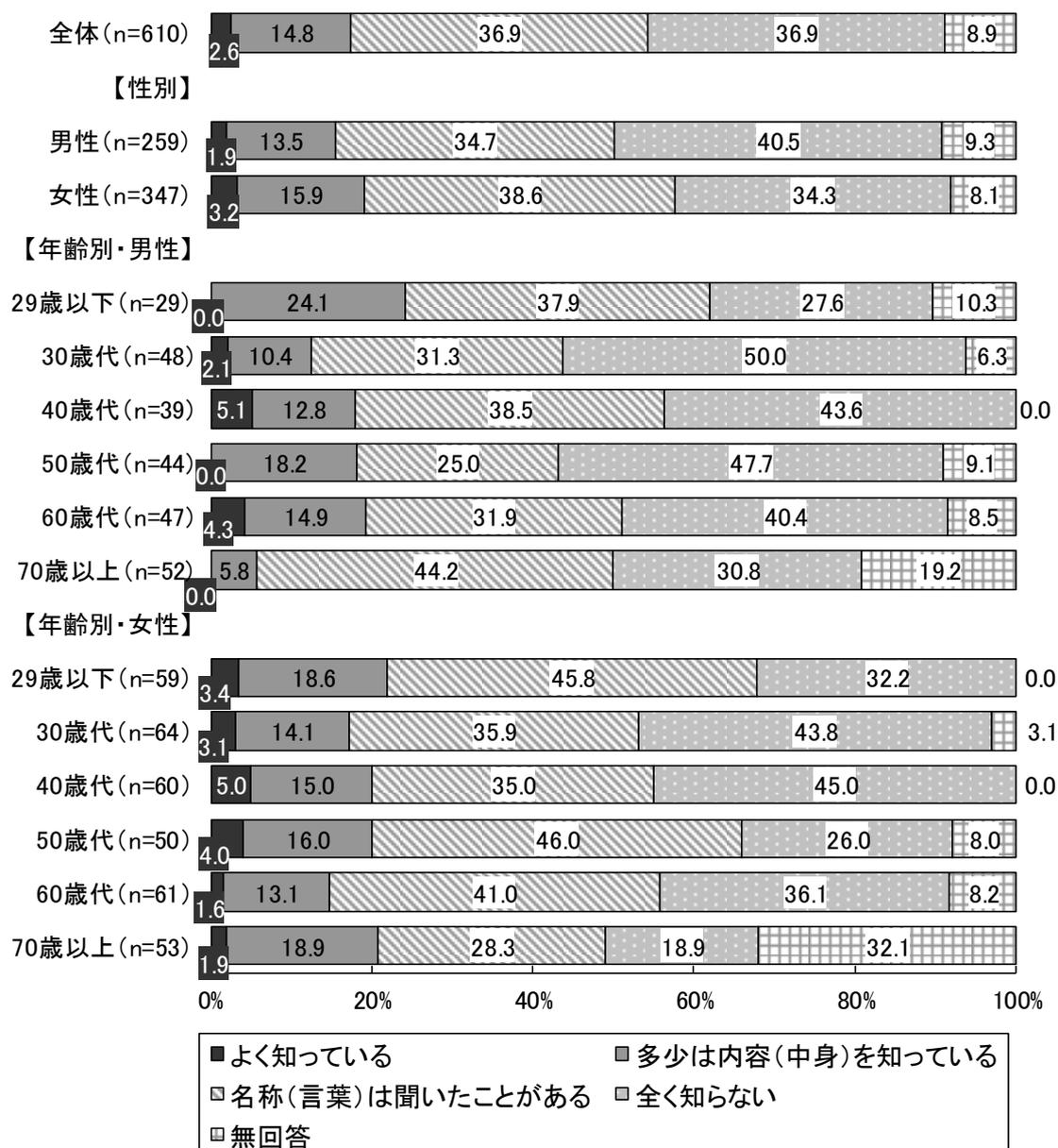
年齢別にみると、男性の40・60歳代と女性の29歳以下・40歳代で“知っている”が6割を超えており、割合が高くなっています。



【(エ) 女性活躍推進法】

女性活躍推進法の認知度について、性別にみると、男性で「全く知らない」が40.5%と、女性に比べて6.2ポイント高くなっています。

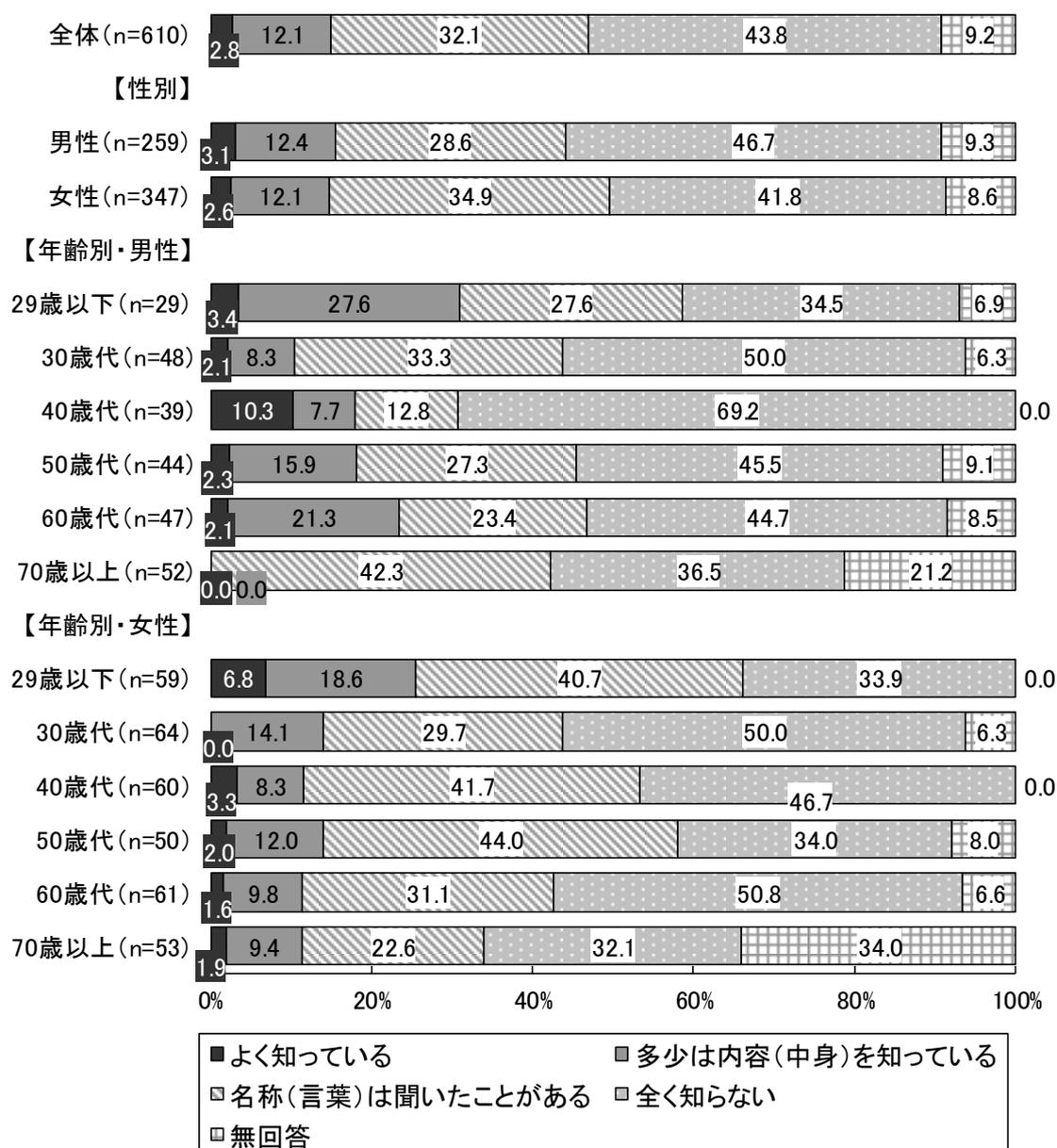
年齢別にみると、男性の29歳以下と女性の50歳代・70歳以上で「全く知らない」が2割以下と、他の年代に比べて割合が低くなっています。



### 【(オ) 女性差別撤廃条約】

女性差別撤廃条約の認知度について、性別にみると、ほぼ同様の傾向となっているものの、女性で「名称(言葉)は聞いたことがある」が34.9%と、男性に比べて6.3ポイント高くなっています。

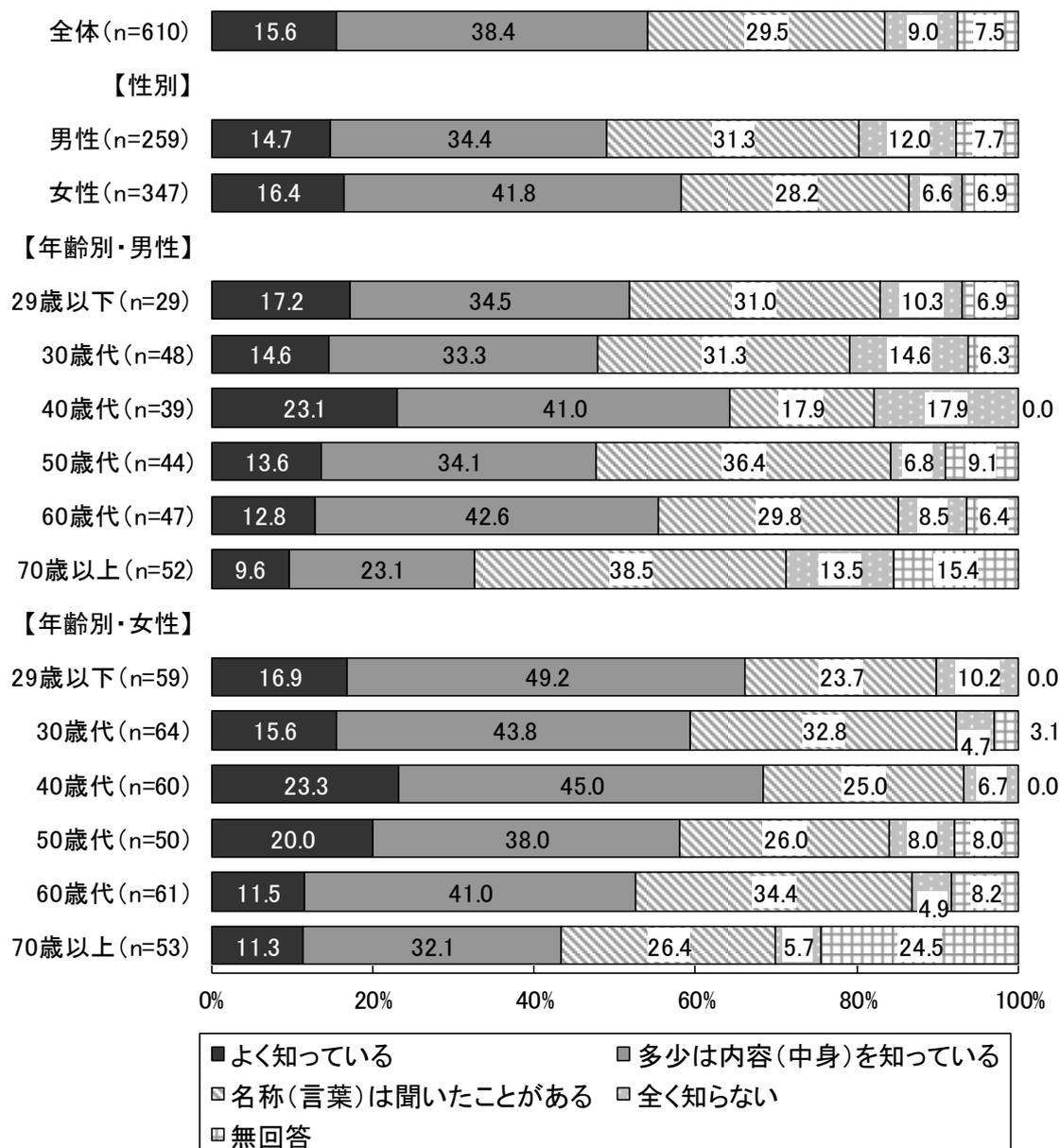
年齢別にみると、男性の29歳以下・60歳代と女性の29歳以下で“知っている”が2割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。また、男性の30・40歳代と女性の30・60歳代で「全く知らない」が5割を超えています。



【(カ) 育児・介護休業法】

育児・介護休業法について、性別にみると、女性で“知っている”が58.2%と、男性に比べて9.1ポイント高くなっています。

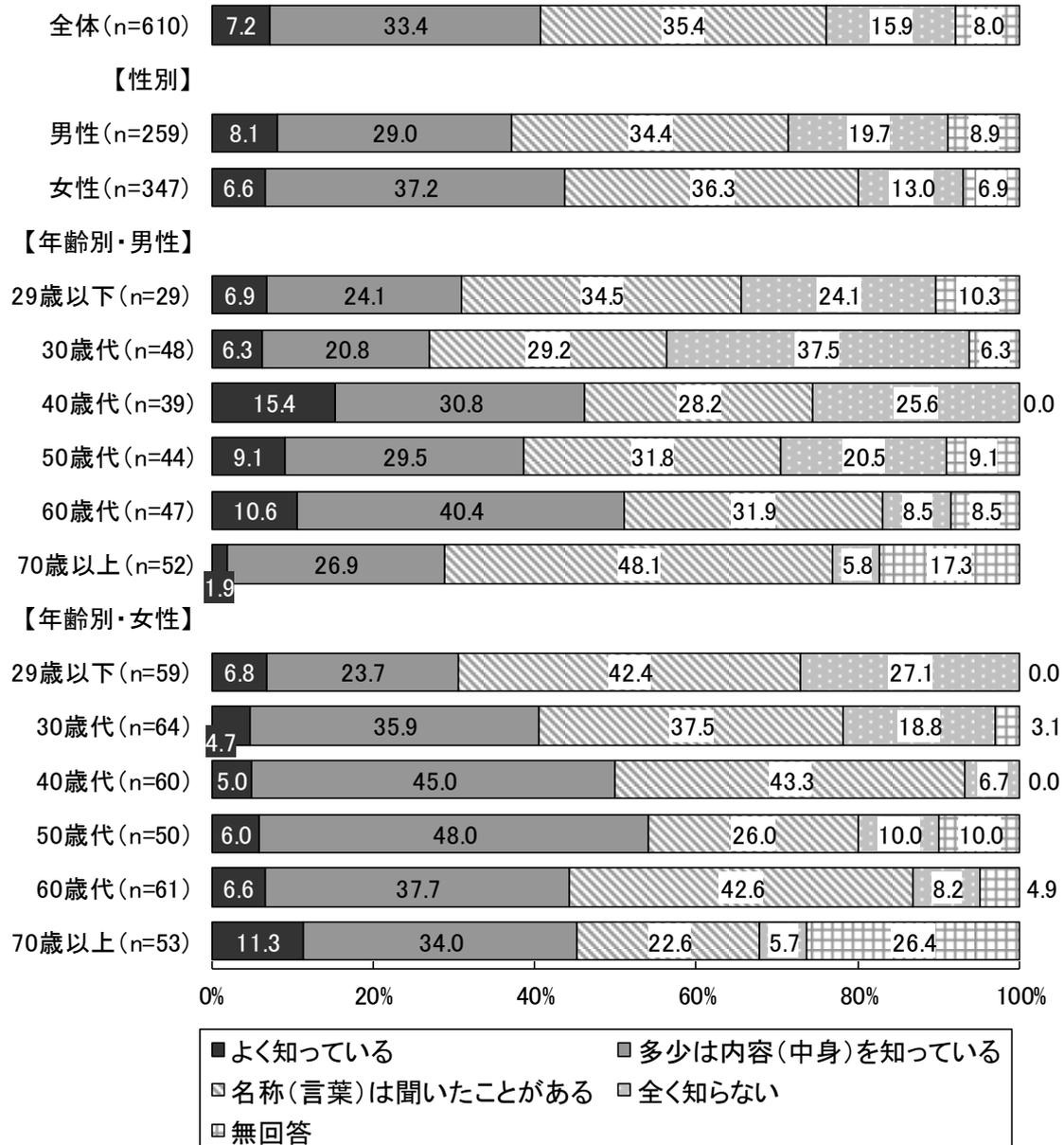
年齢別にみると、男性の40歳代と女性の29歳以下・40歳代で“知っている”が6割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。



【(キ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）】

DV防止法について、性別にみると、女性で“知っている”が43.8%と、男性に比べて6.7ポイント高くなっています。

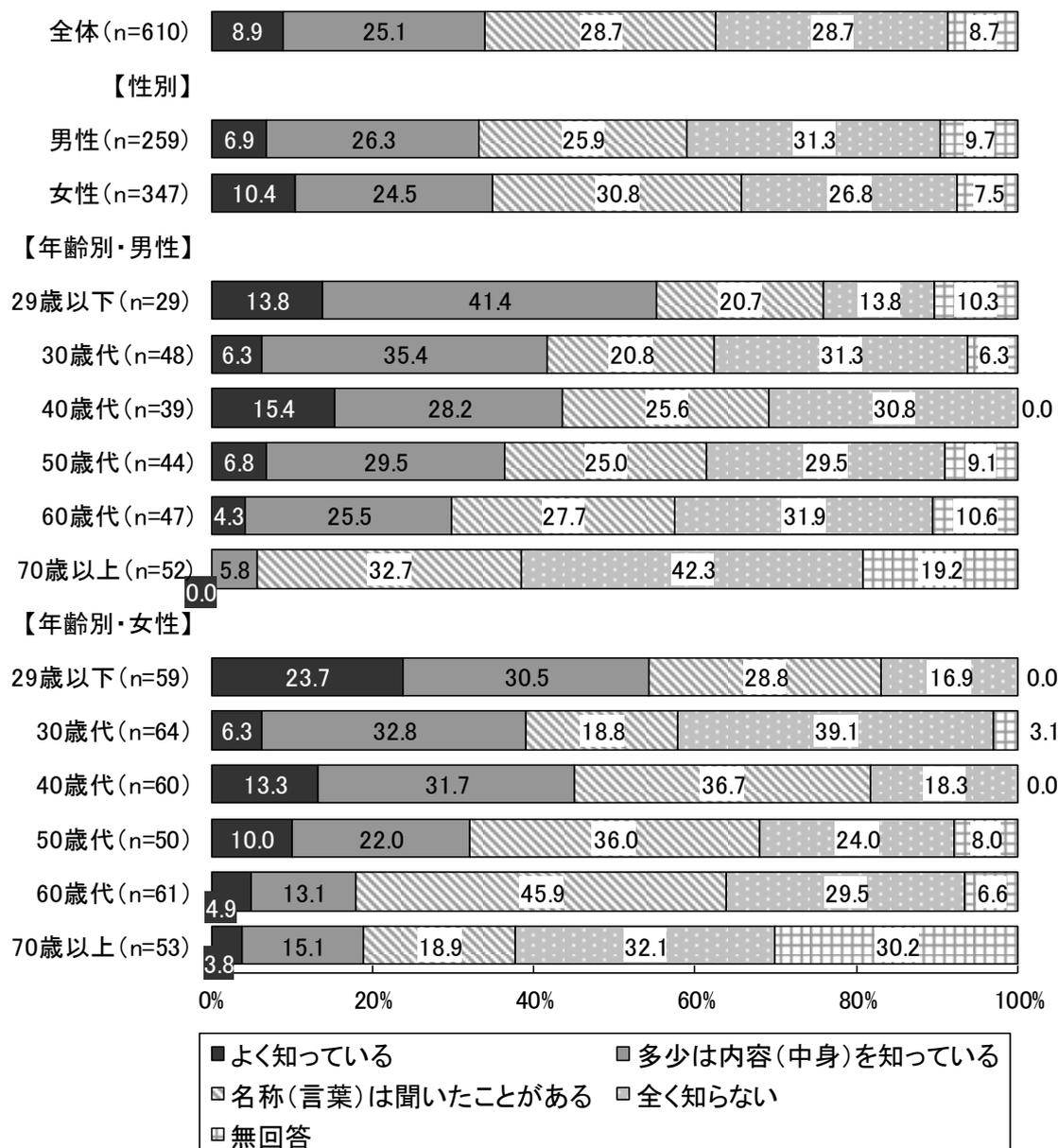
年齢別にみると、男性の60歳代と女性40・50歳代で“知っている”が5割を超えています。また、男性の30歳代で「全く知らない」が37.5%と、他の年代に比べて割合が高くなっています。



【(ク) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】

ワーク・ライフ・バランスについて、性別にみると、男女ともに“知っている”が3割台と、同様の傾向になっています。

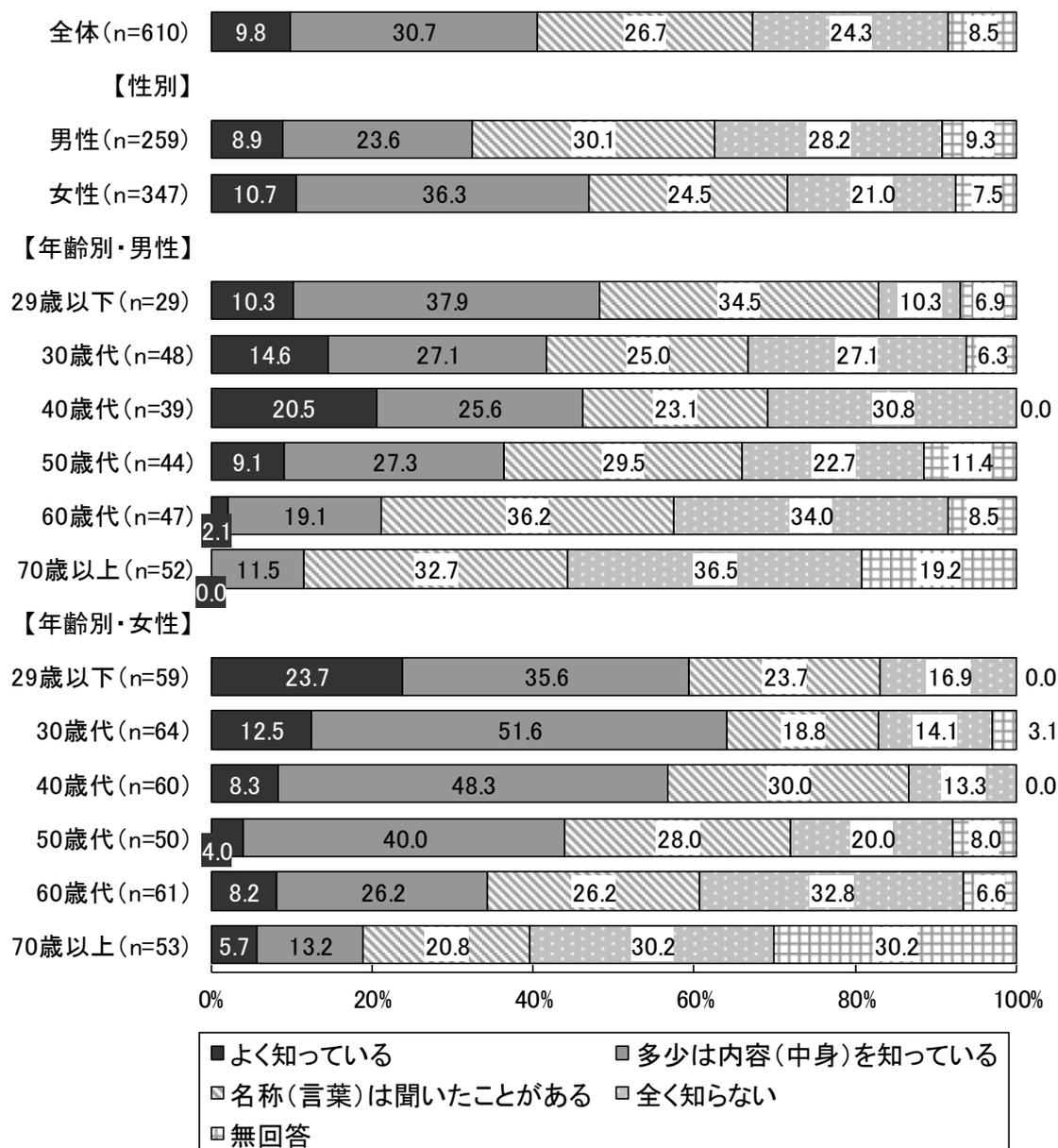
年齢別にみると、男女の29歳以下で“知っている”が5割を超えています。また、男性の70歳以上で「全く知らない」が42.3%と、他の年代に比べて割合が高くなっています。



【(ケ) ジェンダー（社会的性別）】

ジェンダーの認知度について、性別にみると、女性で“知っている”が47.0%と、男性に比べて14.5ポイント高くなっています。

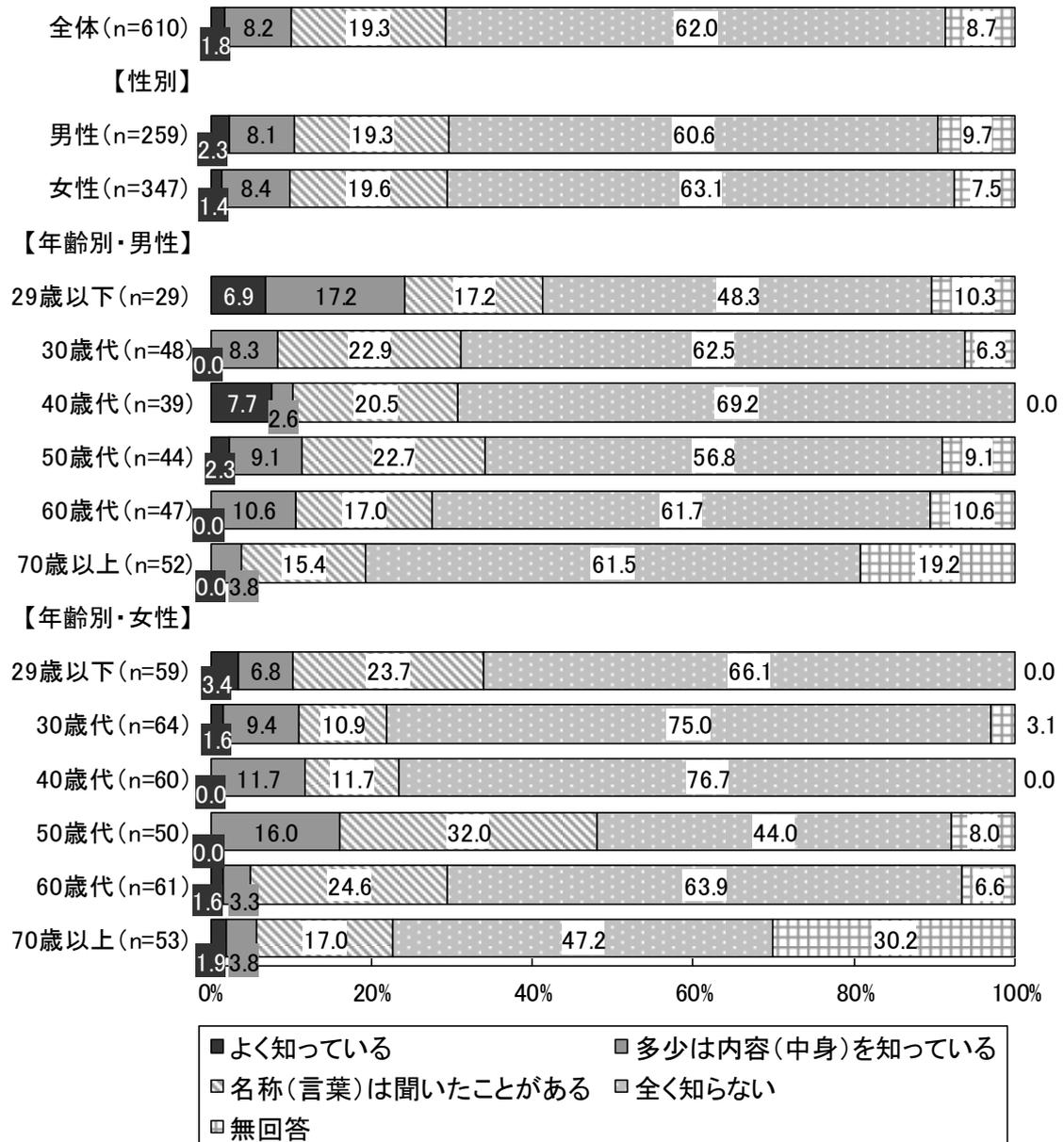
年齢別にみると、女性の40歳代以下で“知っている”が5割を超えています。また、男性の40歳代・60歳代以上と女性の60歳代以上で「全く知らない」が3割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。



【(コ) ポジティブ・アクション（積極的改善措置）】

ポジティブ・アクションの認知度について、性別にみると、男女ともに“知っている”が1割程度と、同様の傾向になっています。

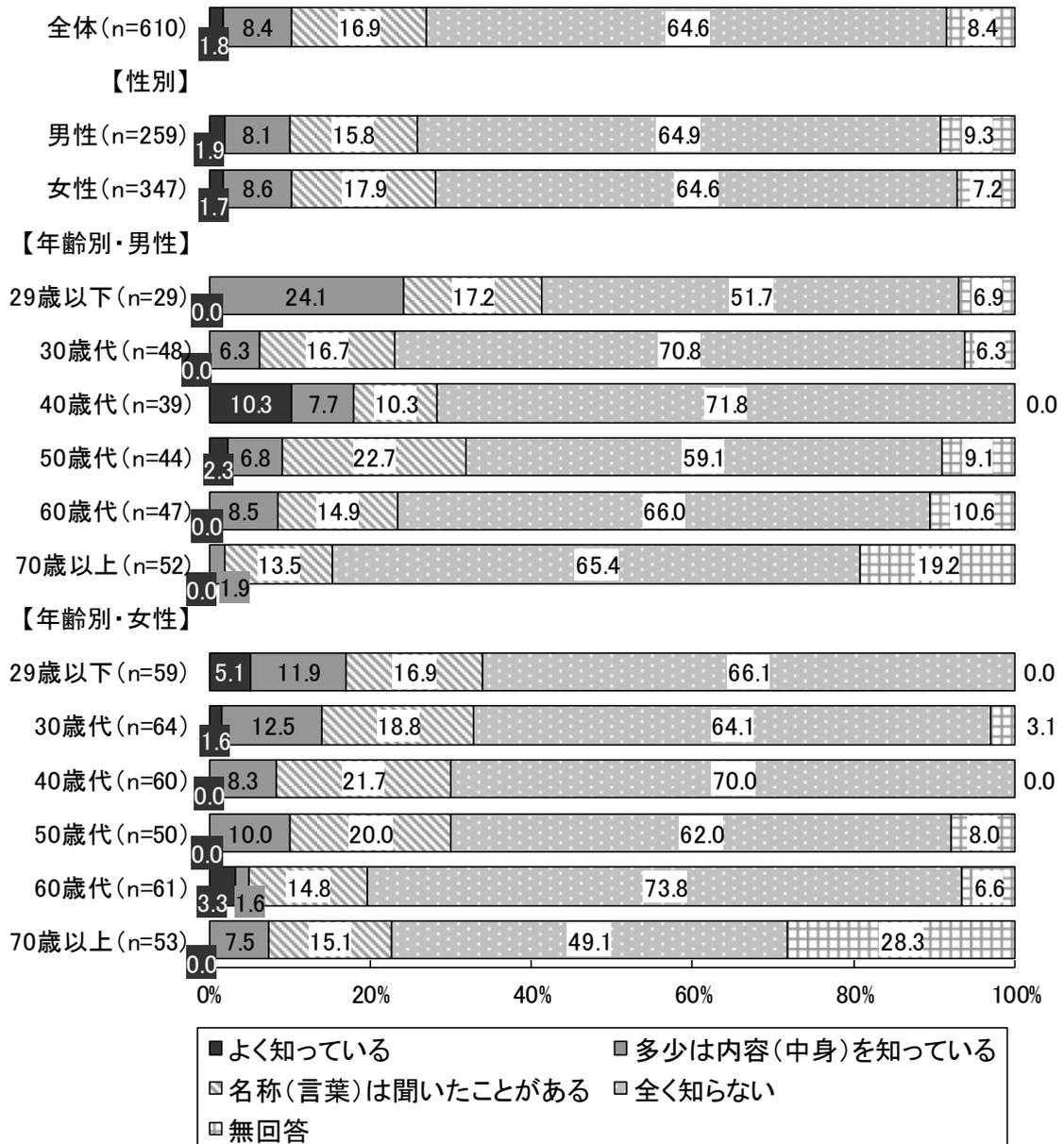
年齢別にみると、男性の29歳以下の“知っている”が24.1%と、他の年代に比べて高くなっています。



【(サ) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康・権利）】

リプロダクティブ・ヘルス/ライツの認知度について、性別にみると、男女ともに“知っている”が1割程度と、同様の傾向になっています。

年齢別にみると、男性の29歳以下の“知っている”が24.1%と、他の年代に比べて高くなっています。

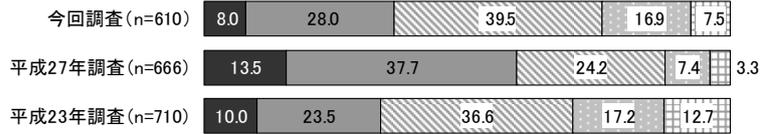


## ●○経年比較○●

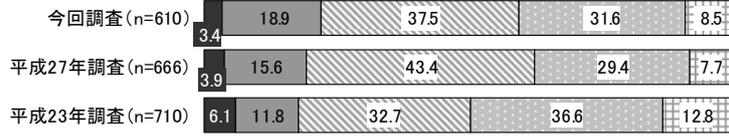
※（エ）女性活躍推進法・（コ）ポジティブ・アクションについては新しい項目のため、（サ）リプロダクティブ・ヘルス/ライツについては、前回の平成 27 年調査からの項目のため、平成 23 年調査の比較はありません。

経年比較すると、[(ア)男女共同参画社会]、[(オ)女性差別撤廃条約]、[(カ) 育児・介護休業法] で“知っている”が平成 27 年調査と比べて減少しています。また、[(ク)ワーク・ライフ・バランス]、[(ケ) ジェンダー] で“知っている”が平成 27 年調査と比べて 10 ポイント以上上回っています。

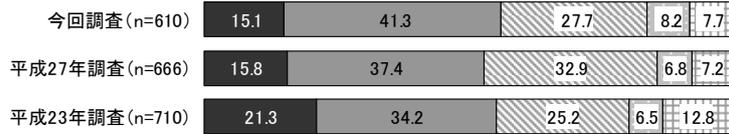
(ア) 男女共同参画社会



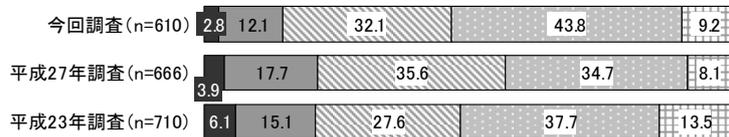
(イ) 男女共同参画社会基本法



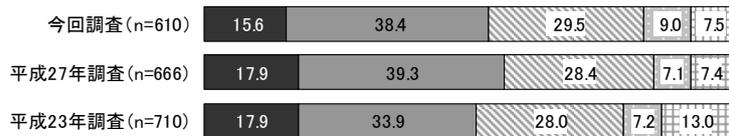
(ウ) 男女雇用機会均等法



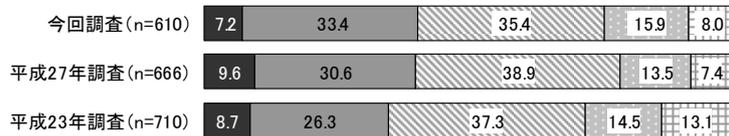
(オ) 女性差別撤廃条約



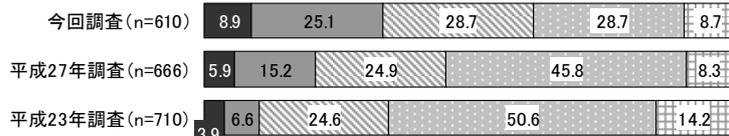
(カ) 育児・介護休業法



(キ) DV防止法



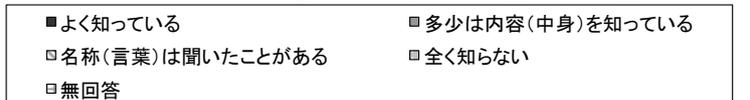
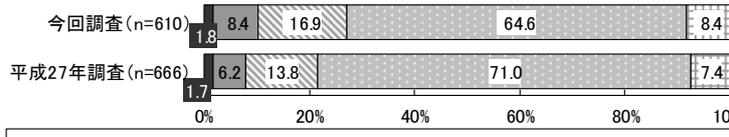
(ク) ワーク・ライフ・バランス



(ケ) ジェンダー (社会的性別)

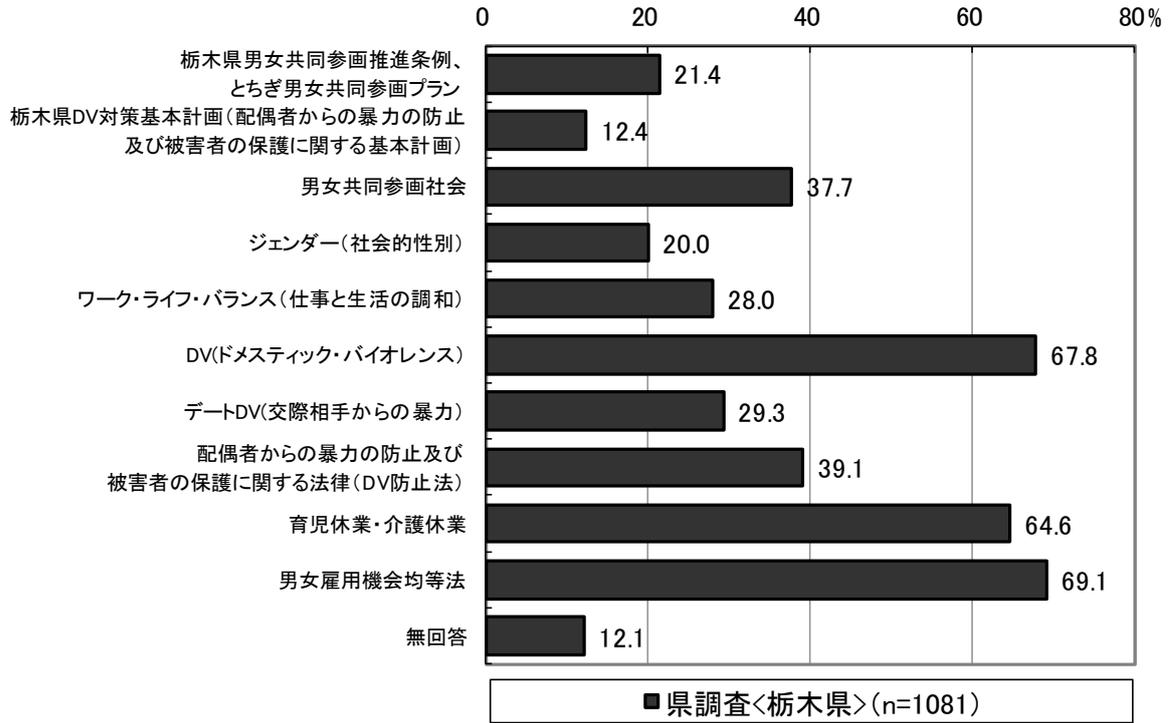


(サ) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ



**県結果（参考）**

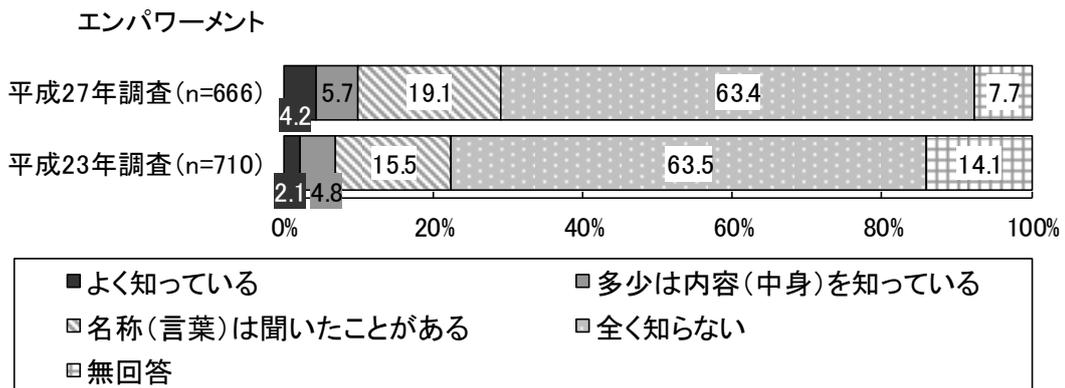
県調査では、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」、「育児休業・介護休業」、「男女雇用機会均等法」が高くなっています。



**平成 23 年・27 年調査のみの項目（参考）**

**【エンパワーメント】**

平成 23 年調査・平成 27 年調査のみの項目であったエンパワーメントについては、いずれの調査でも「全く知らない」が 6 割を超えており、高い割合となっています。また、“知っている”では、1 割未満となっています。

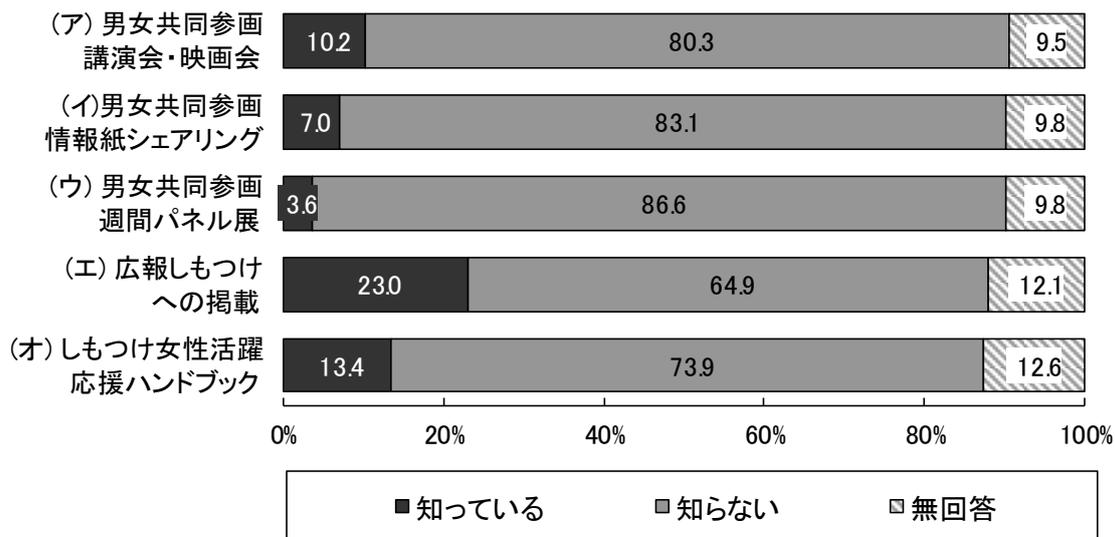


問 34 市では平成 28 年に「だれもが輝く男女共同参画社会づくり条例」を制定し、男性も女性も共に輝く社会の実現を目指す事業の一環として、講演会の開催や情報紙の発行等を実施しています。以下の事業の①認知度と②利用等の状況についてお答えください。(①と②それぞれ〇は1つずつ)

【①認知度】

市で実施している事業の認知度については、[(エ)広報しもつけへの掲載(男女共同参画に関するコーナー)]で「知っている」が23.0%と最も多くなっています。また、それ以外の項目では「知らない」が7割を超えており、割合が高くなっています。

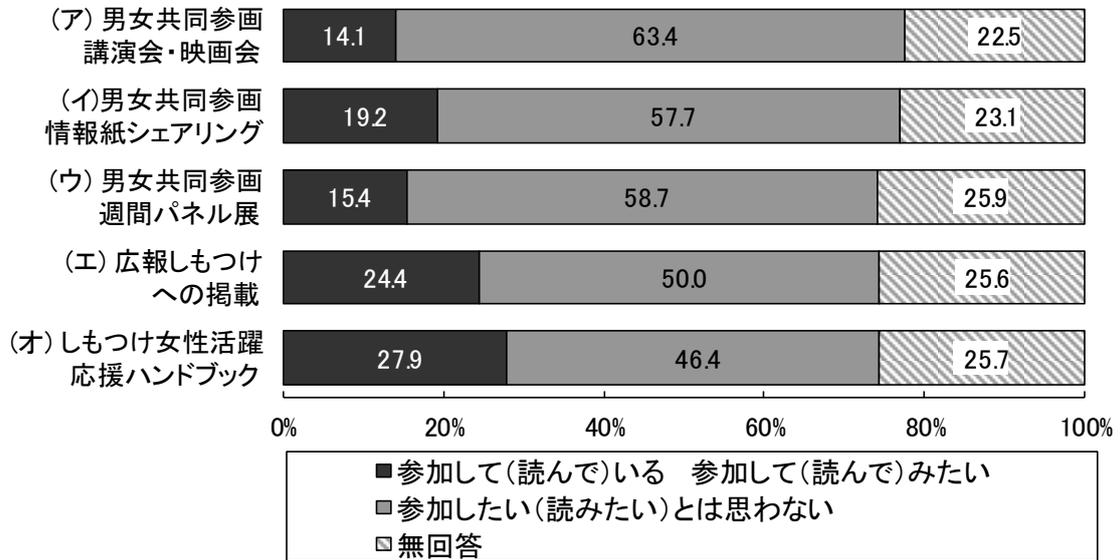
(n=610)



【②利用等の状況】

市で実施している事業利用等の状況については、[(エ)広報しもつけへの掲載(男女共同参画に関するコーナー)]、[(オ)しもつけ女性活躍応援ハンドブック]で「参加して(読んで)いる、参加して(読んで)みたい」が2割を超えています。

(n=610)



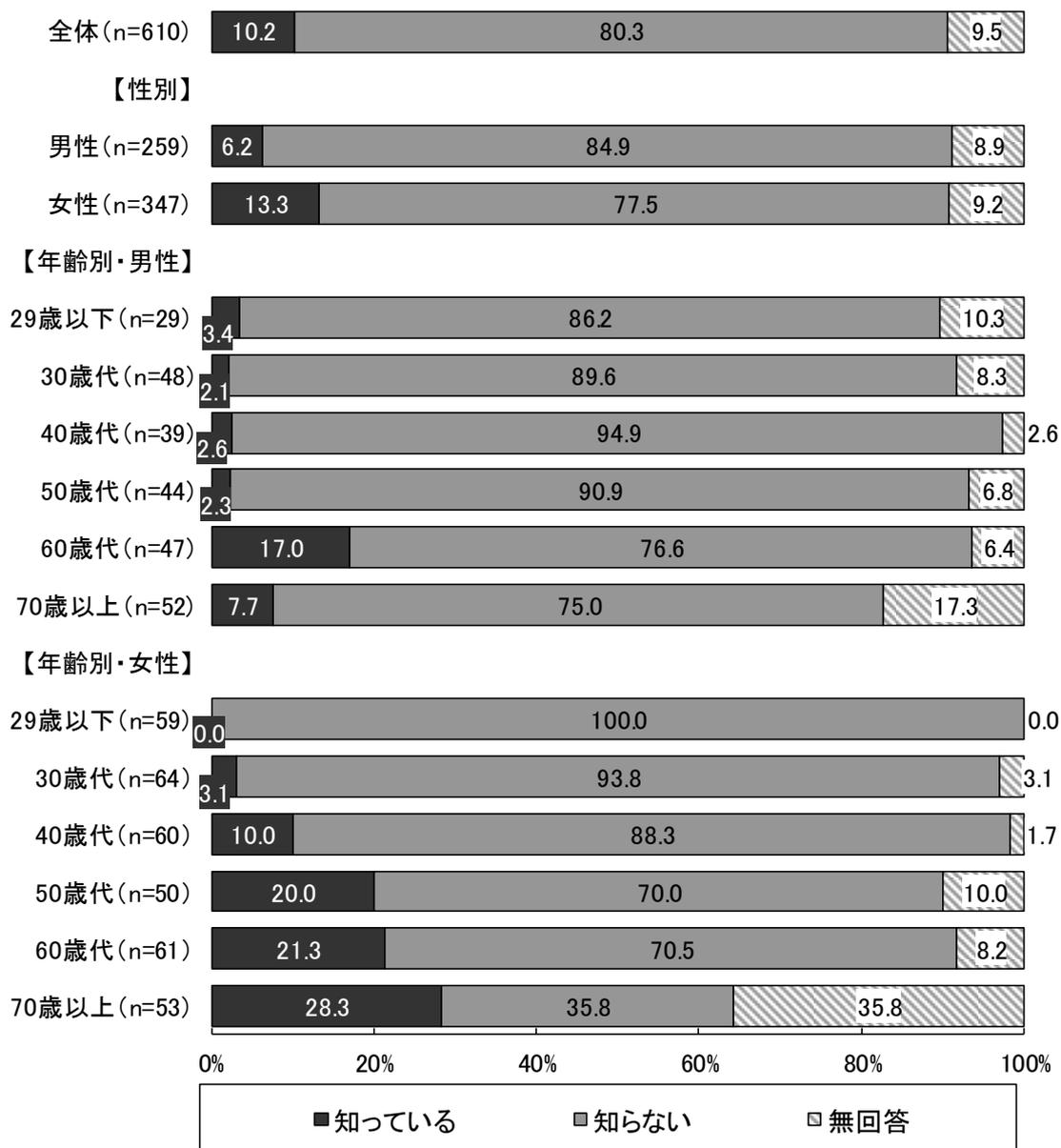
性・年齢別比較

【(ア) 男女共同参画講演会・映画会（年1回開催）】

【①認知度】

男女共同参画講演会・映画会（年1回開催）の認知度について、性別にみると、女性で「知っている」が13.3%と、男性に比べて7.1ポイント高くなっています。

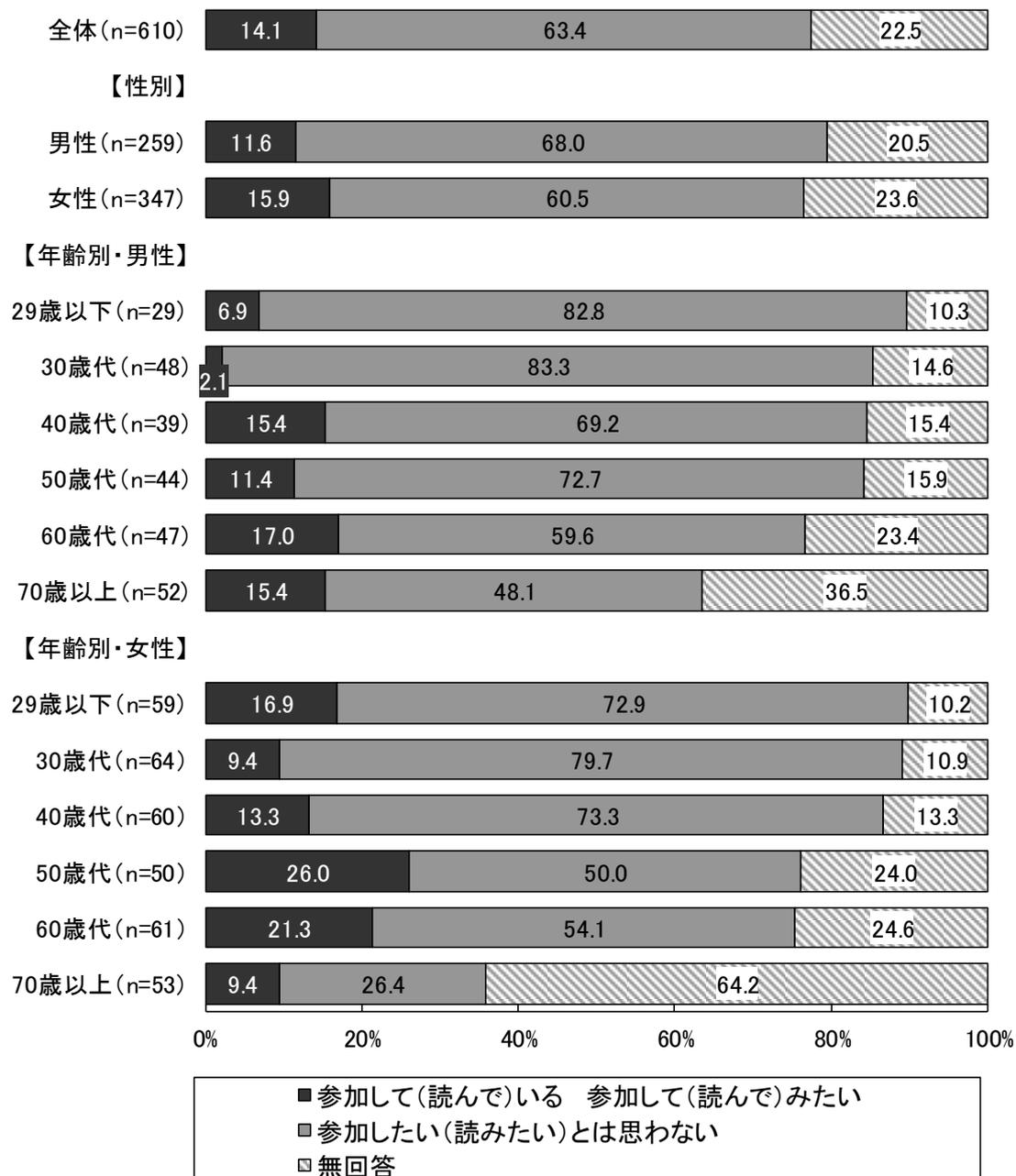
年齢別にみると、男性の60歳代と女性の40歳代以上で「知っている」が1割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。



## 【②利用等の状況】

利用等の状況について、性別にみると、男性で「参加したい（読みたい）とは思わない」が68.0%と、女性に比べて7.5ポイント高くなっています。

年齢別にみると、女性の50・60歳代で「参加して（読んで）いる、参加して（読んで）みたい」が2割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっている一方、男性の30歳代以下で「参加したい（読みたい）とは思わない」が8割を超えて参加意向が低くなっています。

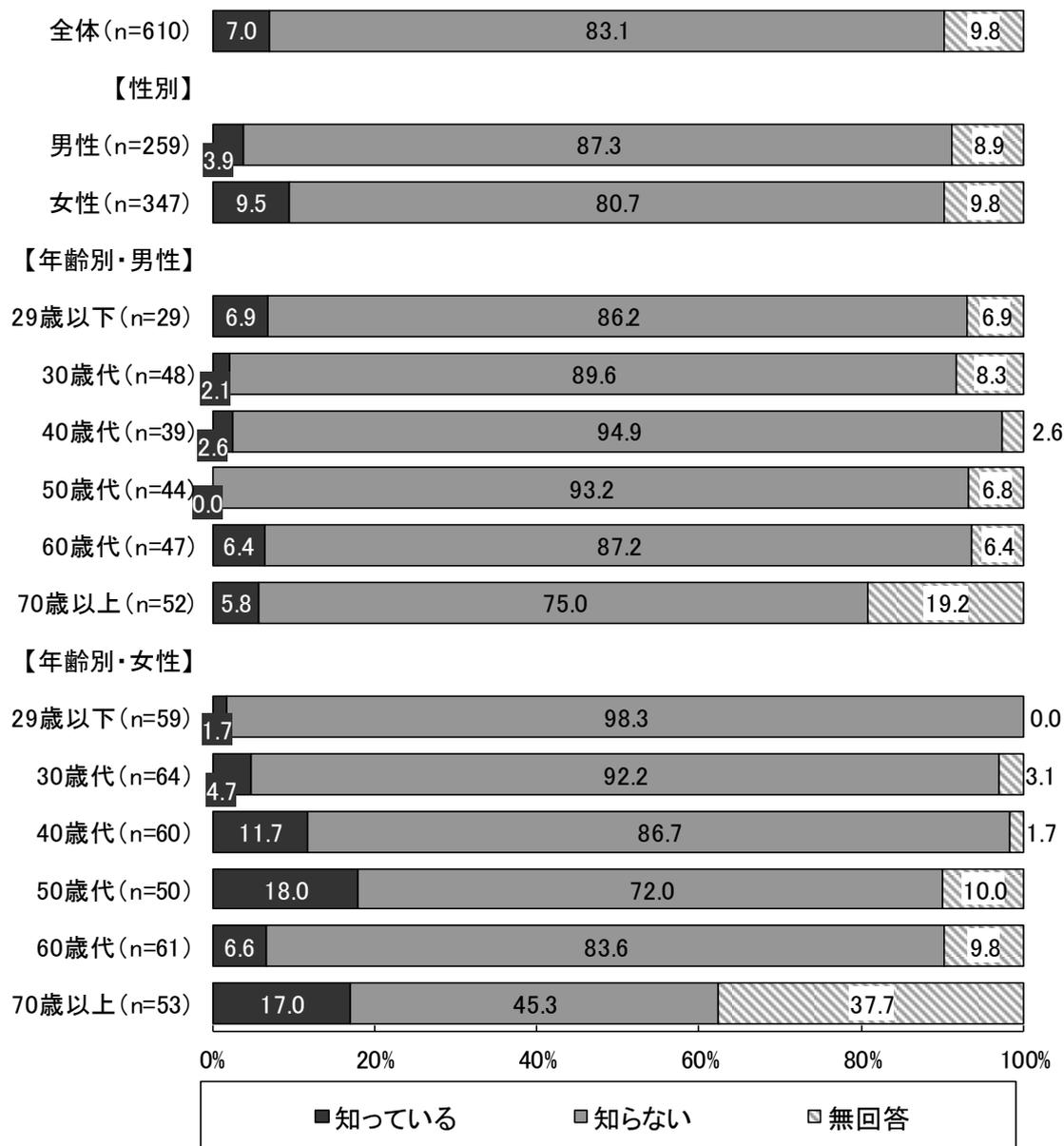


【(イ) 男女共同参画情報紙シェアリング（年2回発行）】

【①認知度】

男女共同参画情報紙シェアリング（年2回発行）の認知度について、性別にみると、女性で「知っている」が9.5%と、男性に比べて5.6ポイント高くなっています。

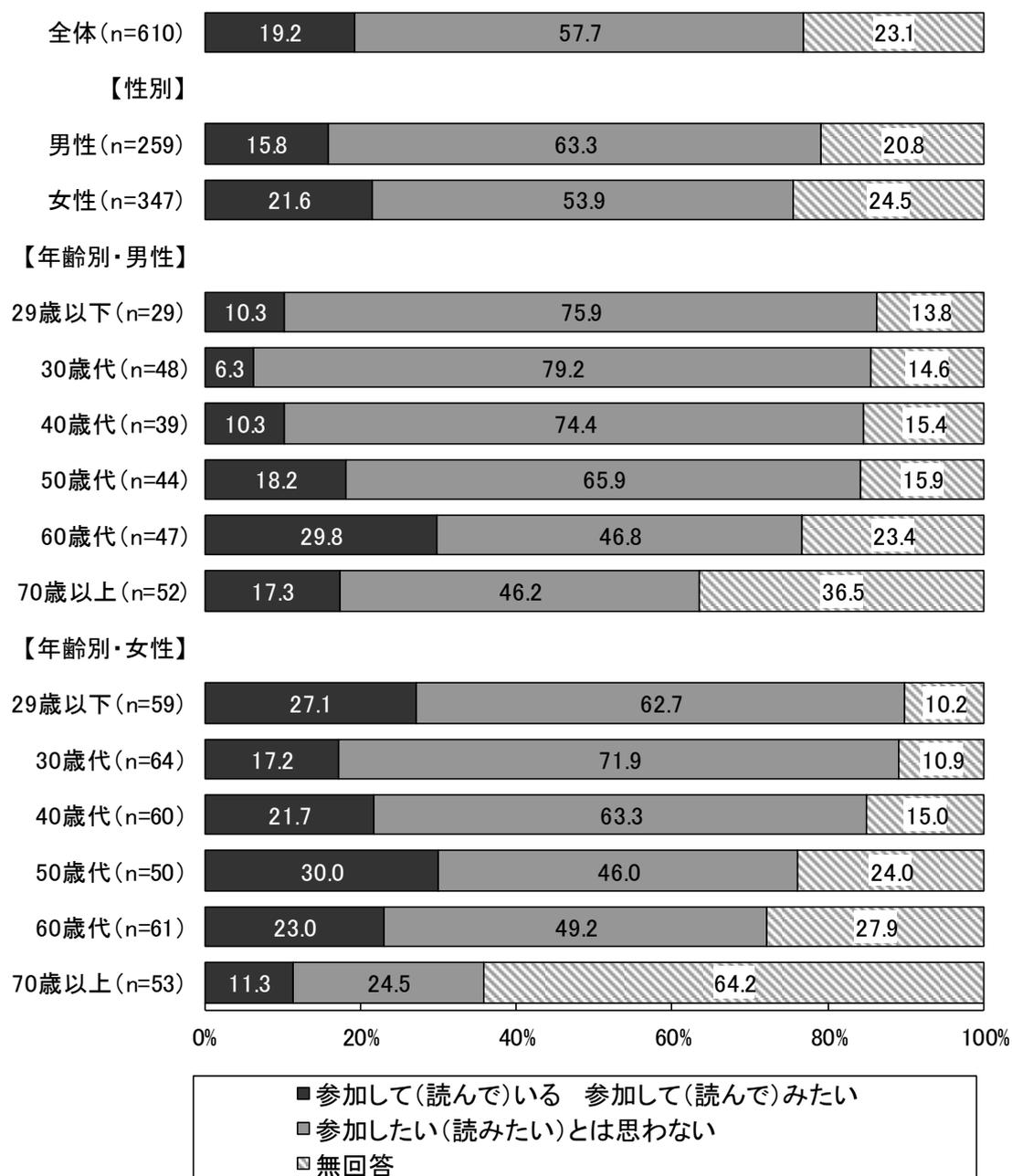
年齢別にみると、女性の40・50歳代・70歳以上で「知っている」が1割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。



## 【②利用等の状況】

利用等の状況について、性別にみると、男性で「参加したい（読みたい）とは思わない」が63.3%と、女性に比べて9.4ポイント高くなっています。

年齢別にみると、男性の60歳代と女性の29歳以下・40・50・60歳代で「参加して（読んで）いる、参加して（読んで）みたい」が2割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっている一方、男性の40歳代以下と女性の30歳代で「参加したい（読みたい）とは思わない」が7割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。

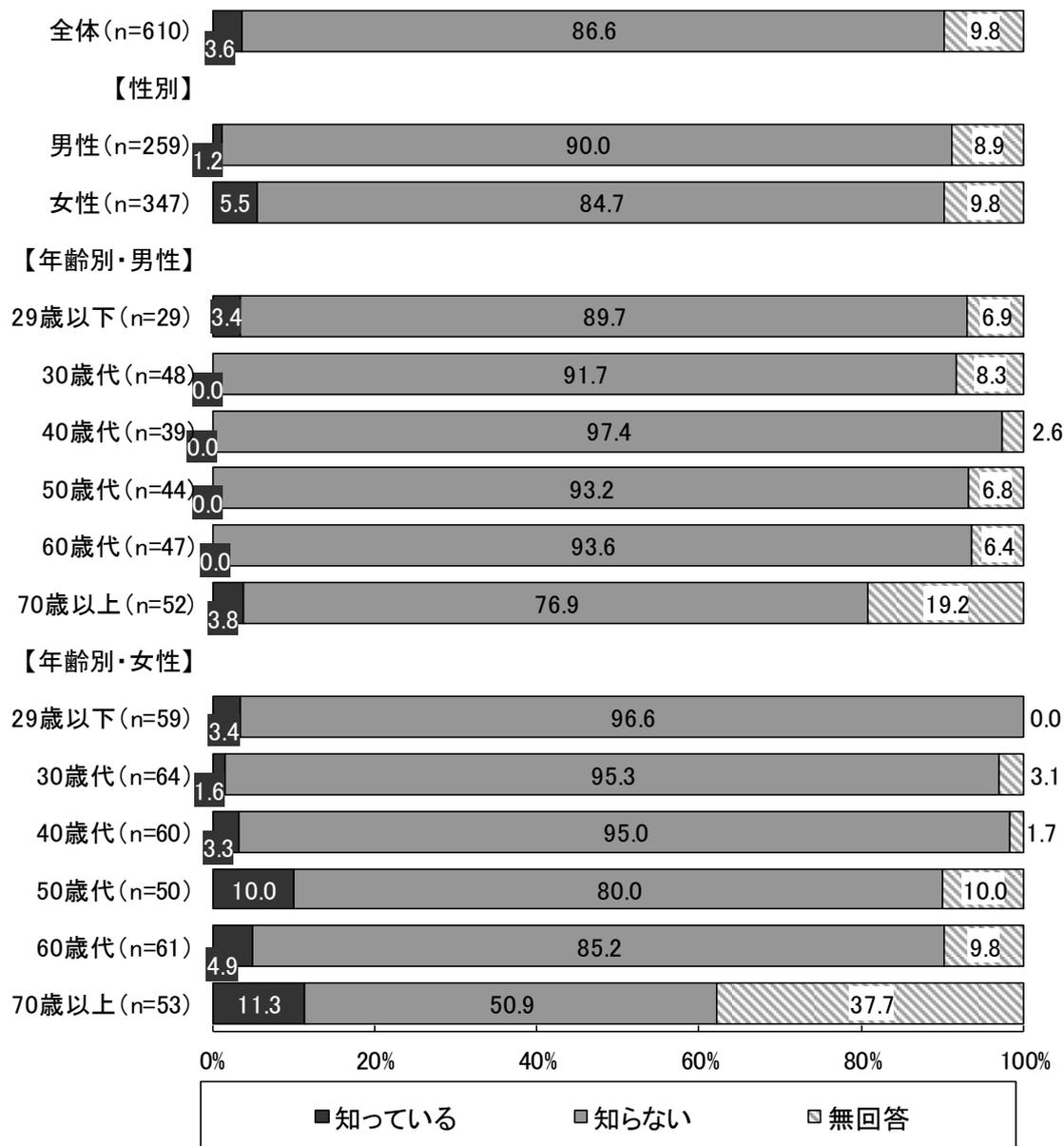


【(ウ) 男女共同参画週間パネル展 (年1回開催)】

【①認知度】

男女共同参画週間パネル展 (年1回開催) の認知度について、性別にみると、ほぼ同様の傾向となっています。

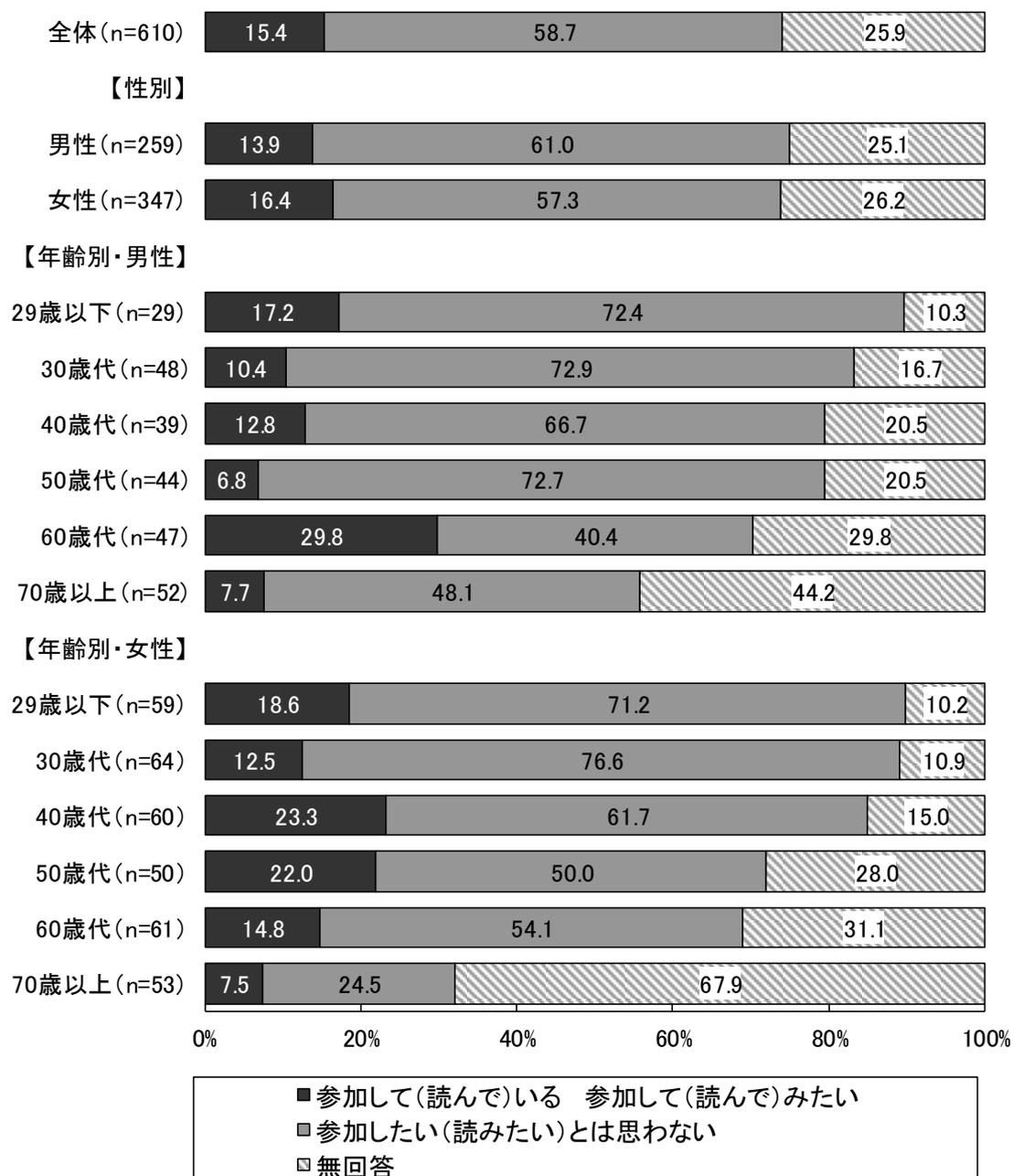
年齢別にみると、女性の50歳代・70歳以上で「知っている」が1割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。



## 【②利用等の状況】

利用等の状況について、性別にみると、同様の傾向となっています。

年齢別にみると、男性の60歳代と女性の40・50歳代で「参加して（読んで）いる、参加して（読んで）みたい」が2割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっています。

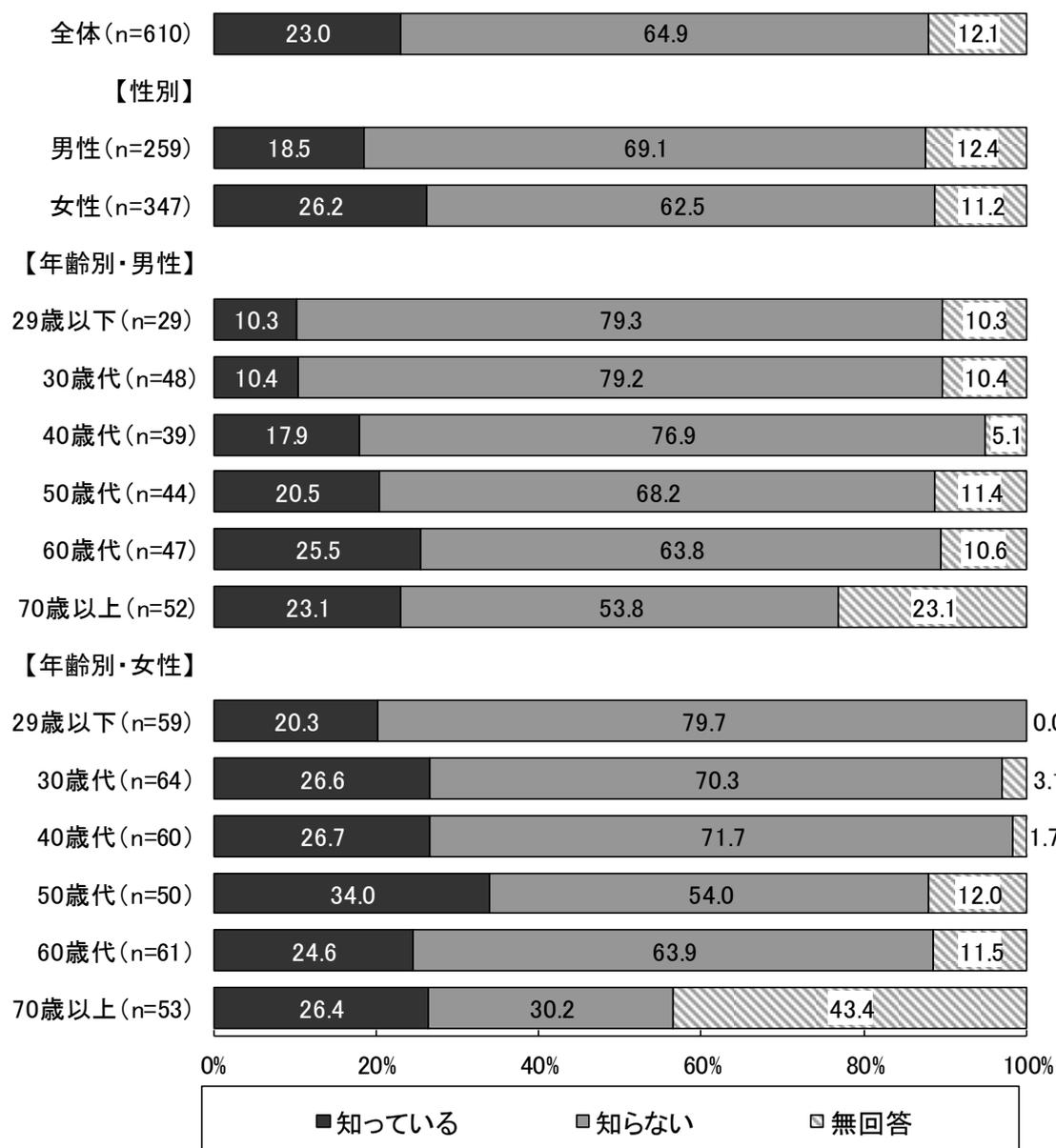


【(エ) 広報しもつけへの掲載（男女共同参画に関するコーナー）】

【①認知度】

広報しもつけへの掲載（男女共同参画に関するコーナー）の認知度について、性別にみると、女性で「知っている」が26.2%と、男性に比べて7.7ポイント高くなっています。

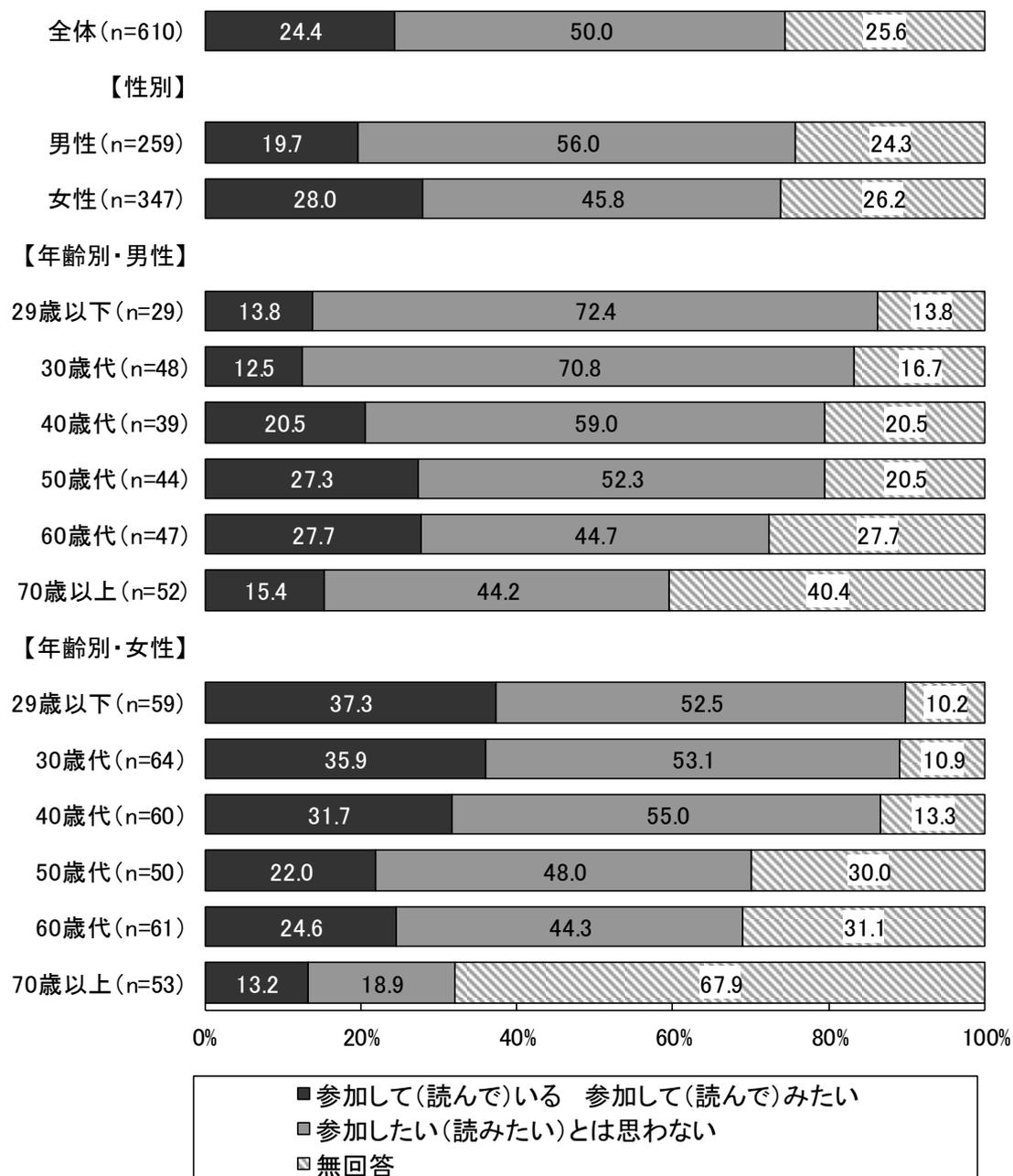
年齢別にみると、男性の30歳代以下で「知っている」が1割程度、男性の50歳以上と女性のすべての年代で「知っている」が2割を超えており、男性の若い世代で認知度が低くなっています。



## 【②利用等の状況】

利用等の状況について、性別にみると、男性で「参加したい（読みたい）とは思わない」が56.0%と、女性に比べて10.2ポイント高くなっています。

年齢別にみると、女性の40歳代以下で「参加して（読んで）いる、参加して（読んで）みたい」が3割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。

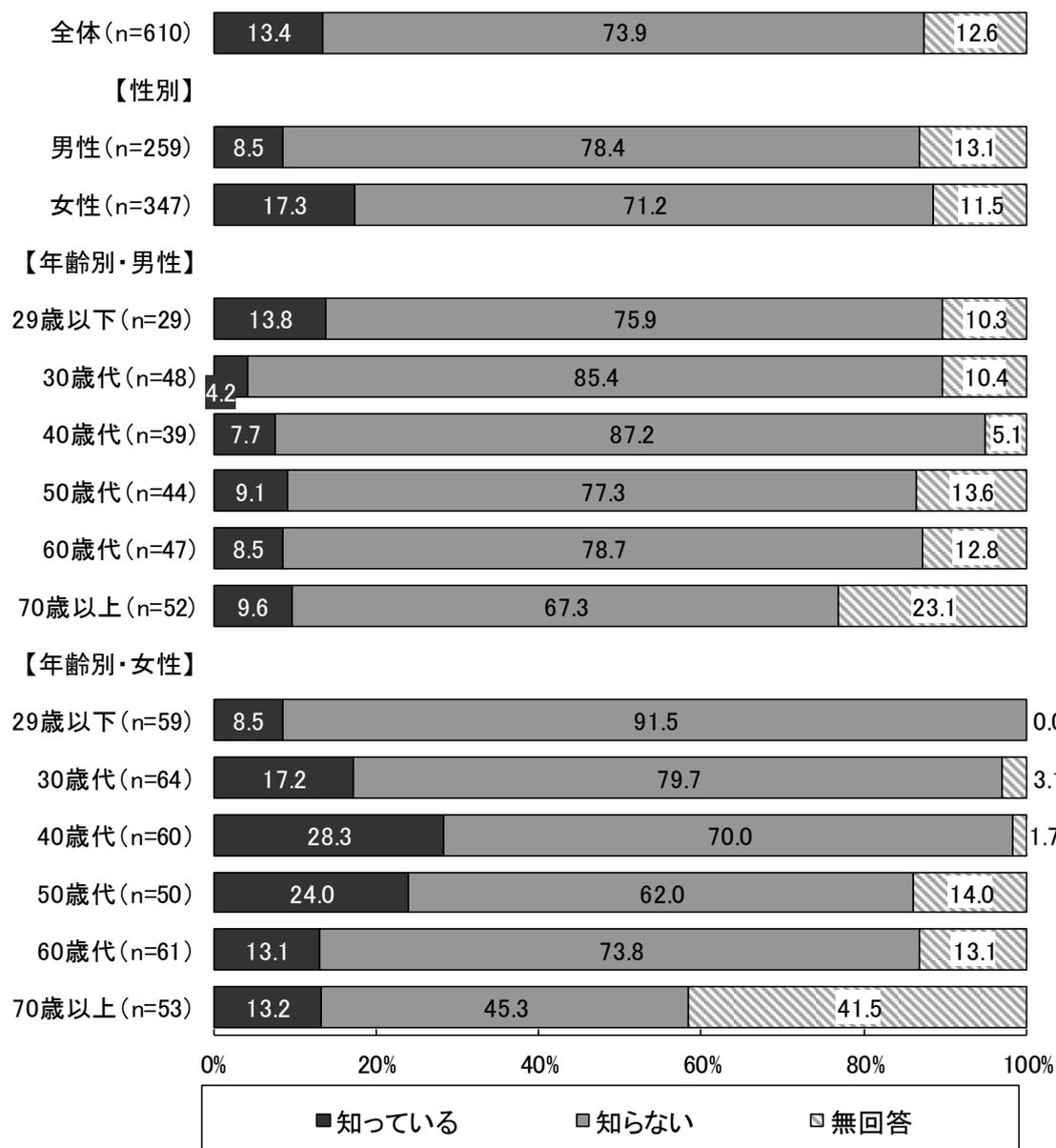


【(オ) しもつけ女性活躍応援ハンドブック】

【①認知度】

しもつけ女性活躍応援ハンドブックの認知度について、性別にみると、女性で「知っている」が17.3%と、男性に比べて8.8ポイント高くなっています。

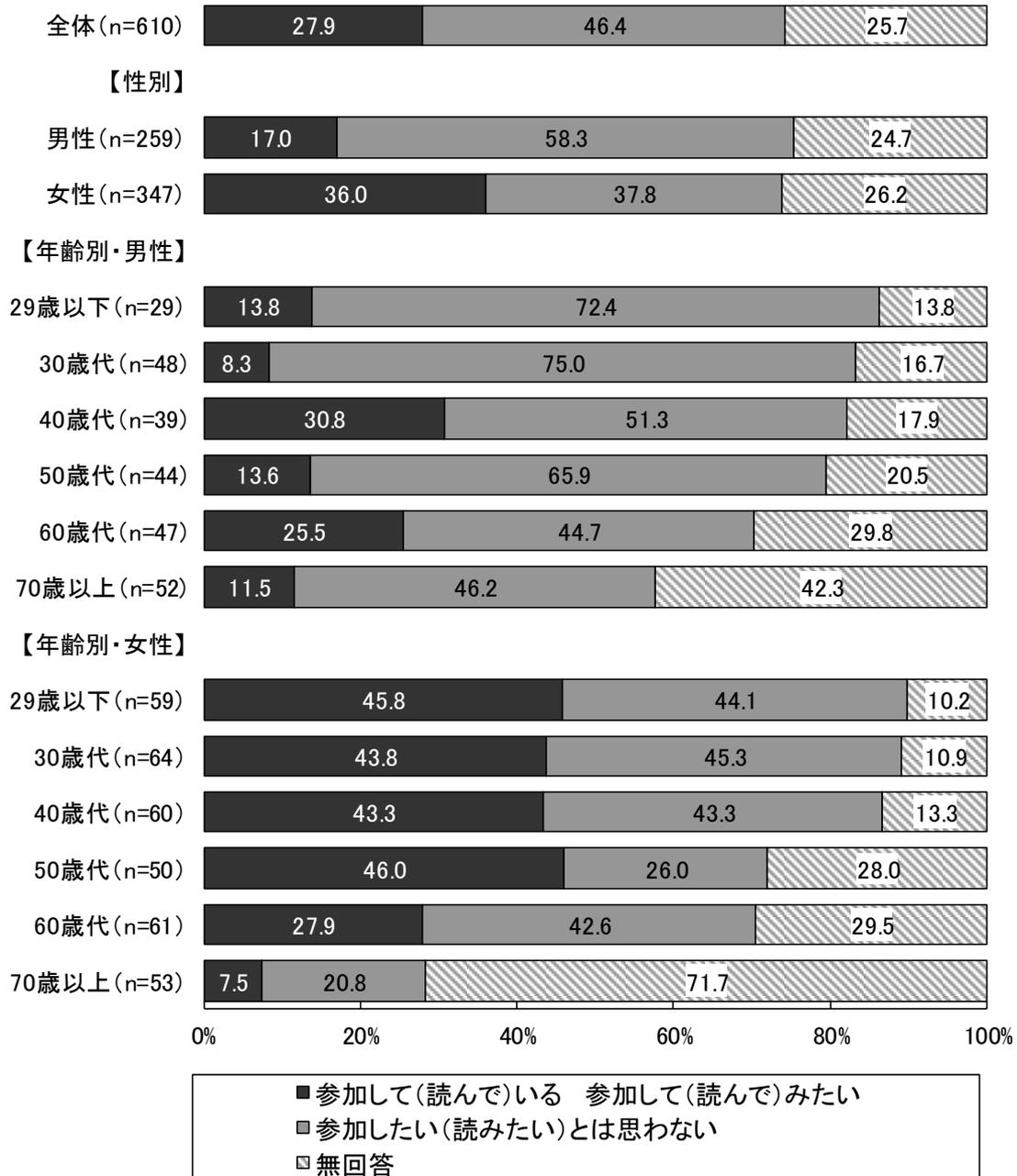
年齢別にみると、女性の40・50歳代で「知っている」が2割を超え、他の年代より高くなっています。



【②利用等の状況】

利用等の状況について、性別にみると、男性で「参加したい（読みたい）とは思わない」が58.3%と、女性に比べて20.5ポイント高くなっています。

年齢別にみると、女性の50歳代以下で「参加して（読んで）いる、参加して（読んで）みたい」が4割を超えており、他の年代に比べて割合が高くなっている一方、男性の30歳代以下で「参加したい（読みたい）とは思わない」が7割を超えており、購読意向が低くなっています。

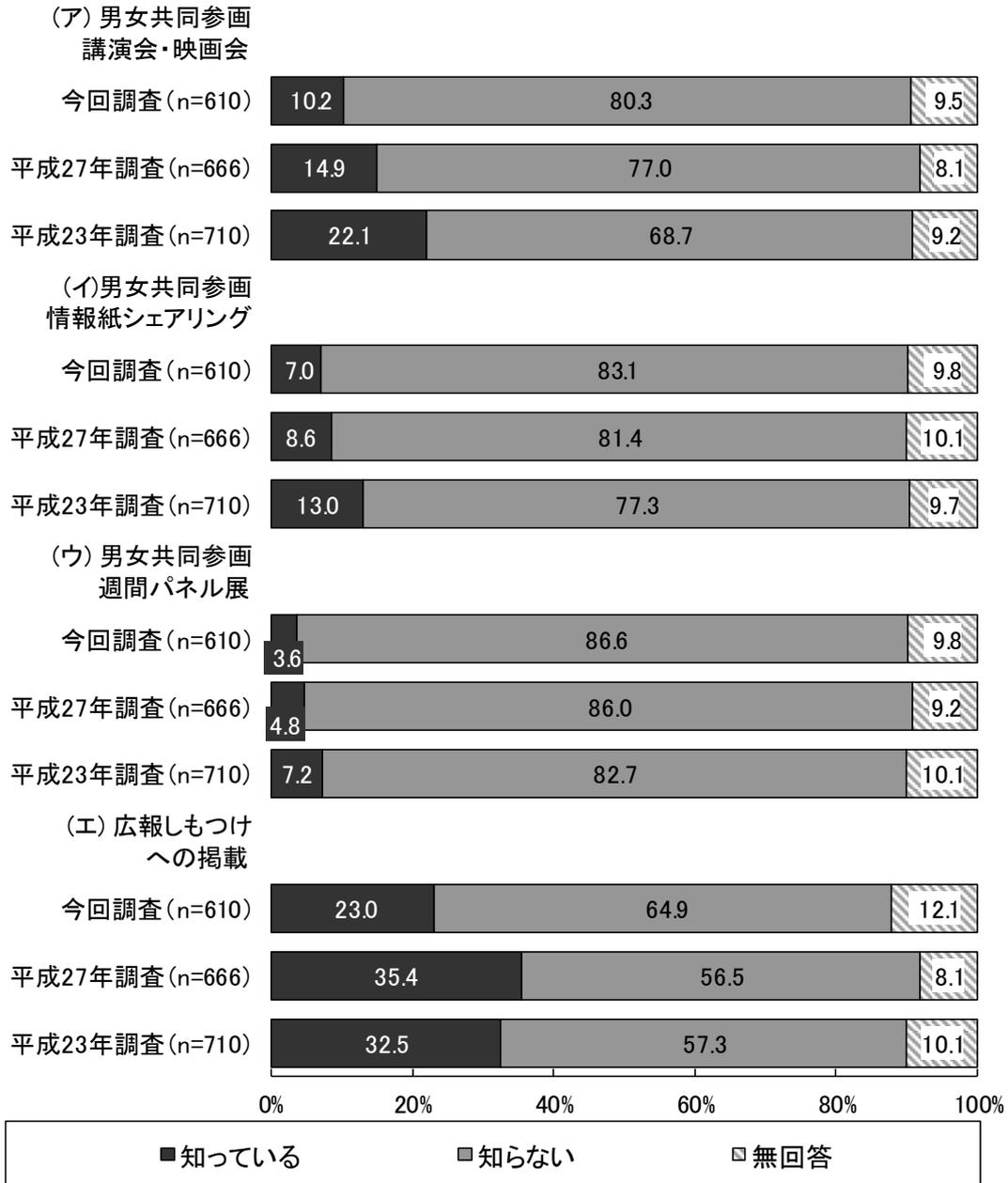


●○経年比較○●

※(オ) しもつけ女性活躍応援ハンドブックについては新しい項目のため比較はありません。

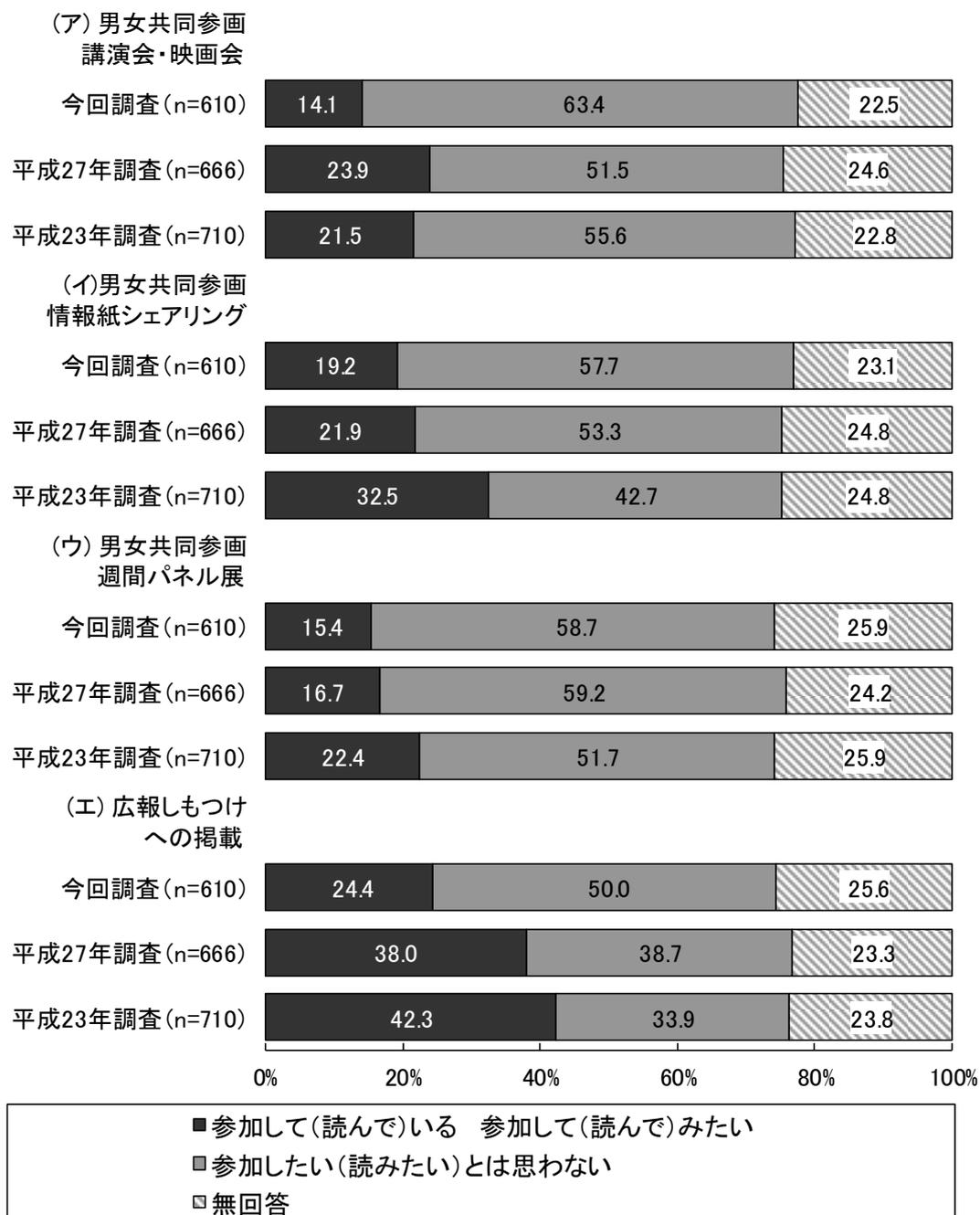
【①認知度】

経年比較すると、市で実施している事業の認知度については、いずれの項目も「知っている」が減少し、「知らない」が増加しています。



## 【②利用等の状況】

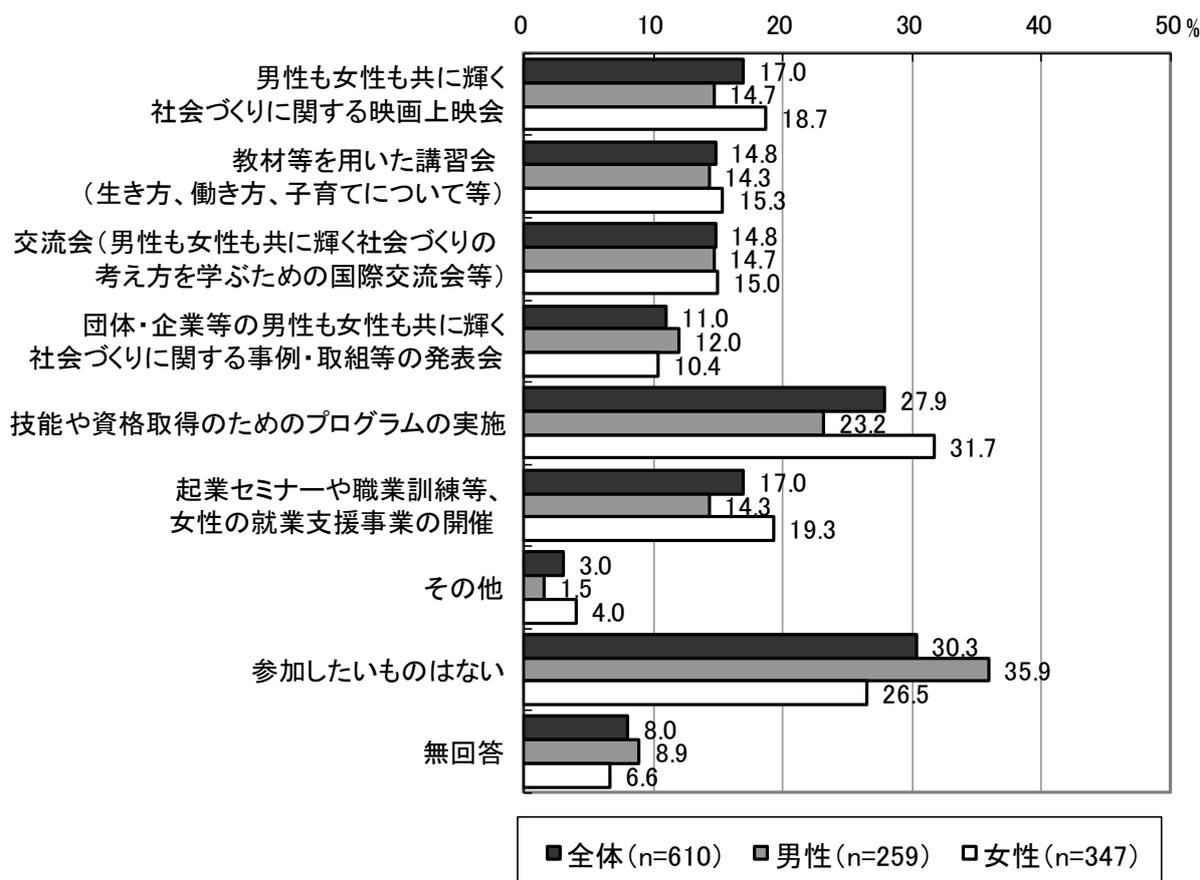
市で実施している事業利用等の状況については、いずれの項目も「参加して（読んで）いる 参加して（読んで）みたい」が減少し、[(ウ) 男女共同参画週刊パネル展] 以外の項目で「参加したい（読みたい）とは思わない」が増加しています。



問 35 市が実施する男性も女性も共に輝く社会づくりに関する事業で、あなたが参加してみたいと思うものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

市が実施する男性も女性も共に輝く社会づくりに関する事業で参加してみたいと思うものについては、「参加したいものはない」が30.3%と最も多く、次いで「技能や資格取得のためのプログラムの実施」が27.9%、「男性も女性も共に輝く社会づくりに関する映画上映会」が17.0%となっています。

性別にみると、男性では「参加したいものはない」が35.9%と最も多く、女性に比べて9.4ポイント上回っています。一方女性では「技能や資格取得のためのプログラムの実施」が31.7%と最も多く、男性に比べて8.5ポイント上回っています。



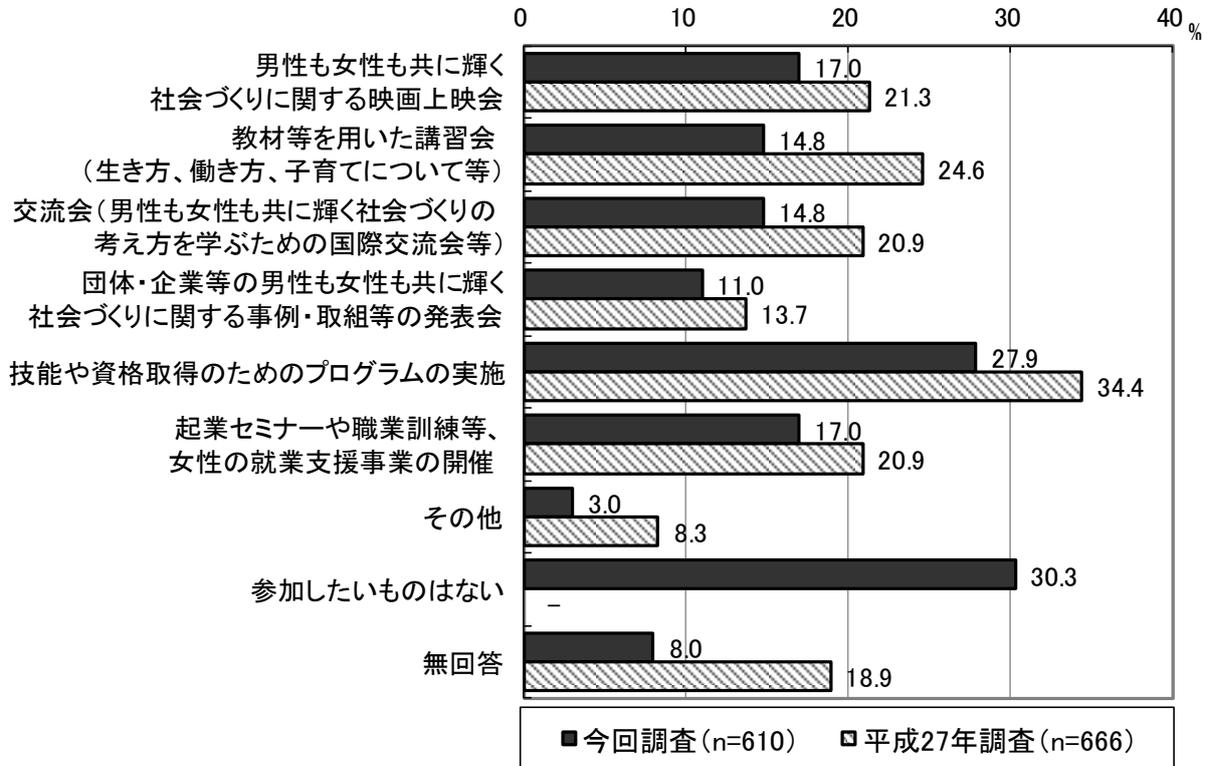
## 性・年齢別比較

年齢別にみると、男性の29歳以下・60歳代と女性の50歳代以下で「技能や資格取得のためのプログラムの実施」、男性の30・40・50歳代・70歳以上と女性の60歳代以上で「参加したいものはない」が3割を超えています。また、女性の40歳代で「起業セミナーや職業訓練等、女性の就業支援事業の開催」が31.7%と、他の年代に比べて割合が高くなっています。

	合計	に男性も女性も共に輝く社会づくり	働き方等、子育てに講習会（生き方、	交流会（男性も女性も共に輝く社会づくりの考え方を学ぶための国際交流会等）	交流会（男性も女性も共に輝く社会づくりの考え方を学ぶための国際交流会等）	グループ・企業等の発表会	技能や資格取得のためのプログラムの実施	の就業セミナーや職業訓練等、女性の就業支援事業の開催	その他	参加したいものはない	無回答
(%)											
【年齢別・男性】											
29歳以下	29	24.1	10.3	24.1	10.3	37.9	20.7	0.0	27.6	6.9	
30歳代	48	14.6	8.3	14.6	12.5	25.0	8.3	2.1	41.7	6.3	
40歳代	39	7.7	20.5	17.9	7.7	17.9	15.4	0.0	46.2	2.6	
50歳代	44	6.8	13.6	13.6	11.4	20.5	20.5	0.0	40.9	4.5	
60歳代	47	12.8	25.5	19.1	14.9	31.9	14.9	4.3	27.7	10.6	
70歳以上	52	23.1	7.7	3.8	13.5	11.5	9.6	1.9	30.8	19.2	
【年齢別・女性】											
29歳以下	59	11.9	20.3	23.7	10.2	44.1	23.7	1.7	15.3	1.7	
30歳代	64	6.3	20.3	21.9	7.8	35.9	26.6	4.7	29.7	3.1	
40歳代	60	23.3	15.0	15.0	15.0	45.0	31.7	1.7	18.3	0.0	
50歳代	50	22.0	8.0	14.0	16.0	32.0	16.0	2.0	28.0	6.0	
60歳代	61	27.9	16.4	8.2	9.8	23.0	11.5	4.9	37.7	4.9	
70歳以上	53	22.6	9.4	5.7	3.8	7.5	3.8	9.4	30.2	26.4	

## ●○経年比較○●

経年比較すると、「教材等を用いた講習会（生き方、働き方、子育てについて等）」が 9.8 ポイント、「交流会（男性も女性も共に輝く社会づくりの考え方を学ぶための国際交流回等）」が 6.1 ポイント、「技能や資格取得のためのプログラムの実施」が 6.5 ポイント、それぞれ減少しています。

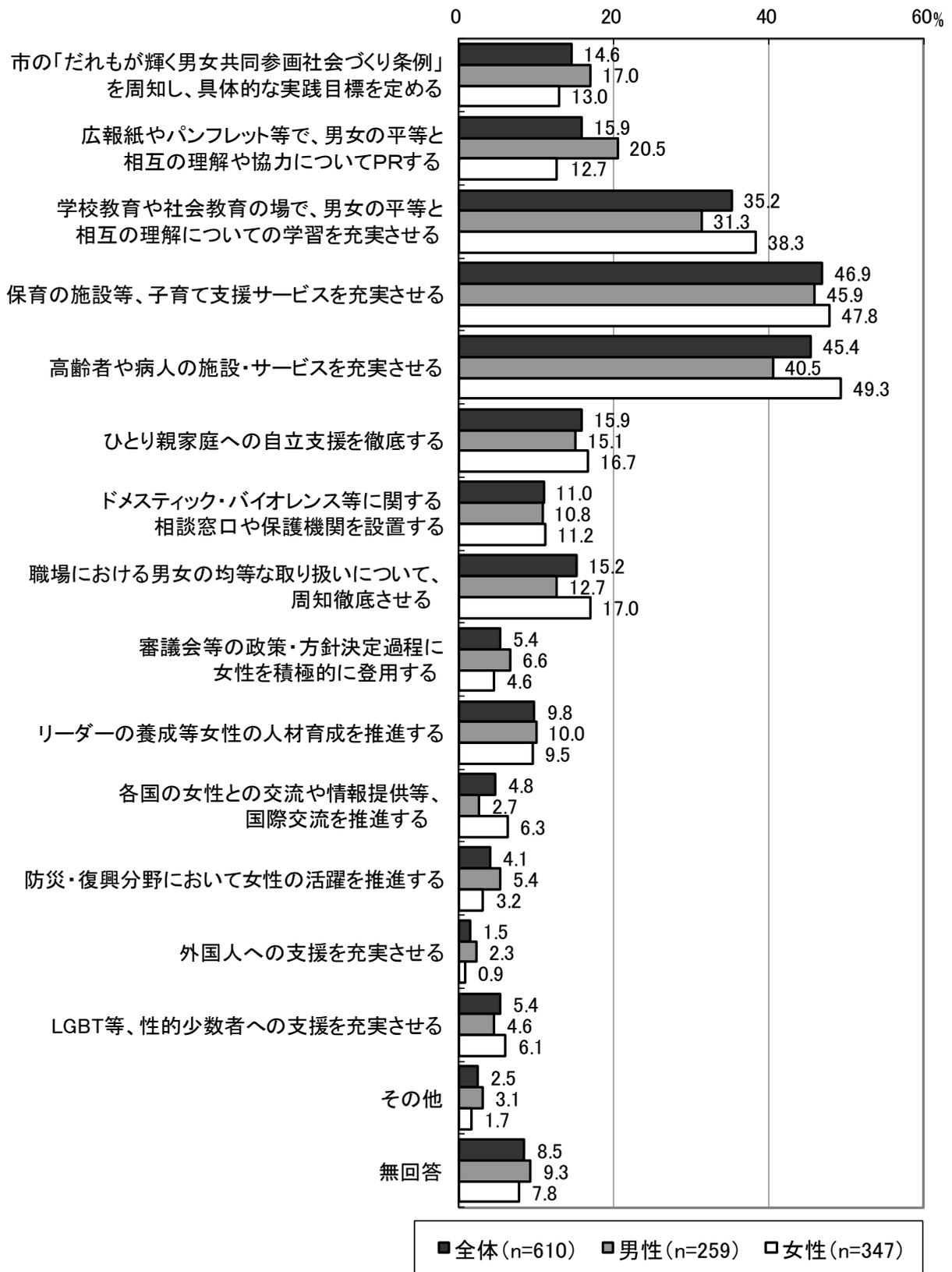


※「参加したいものはない」は今回調査にのみ設けられた選択肢。

問 36 男性も女性も共に輝く社会をつくるため、今後、市（行政）はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（〇は3つまで）

男性も女性も共に輝く社会をつくるため、今後、市が力を入れていくべきことについて、「保育の施設等、子育て支援サービスを充実させる」が46.9%と最も多く、次いで「高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」が45.4%、「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる」が35.2%となっています。

性別にみると、男性で「広報紙やパンフレット等で、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする」が20.5%と、女性に比べて7.8ポイント高く、女性で「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる」、「高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」が男性に比べてやや高くなっています。



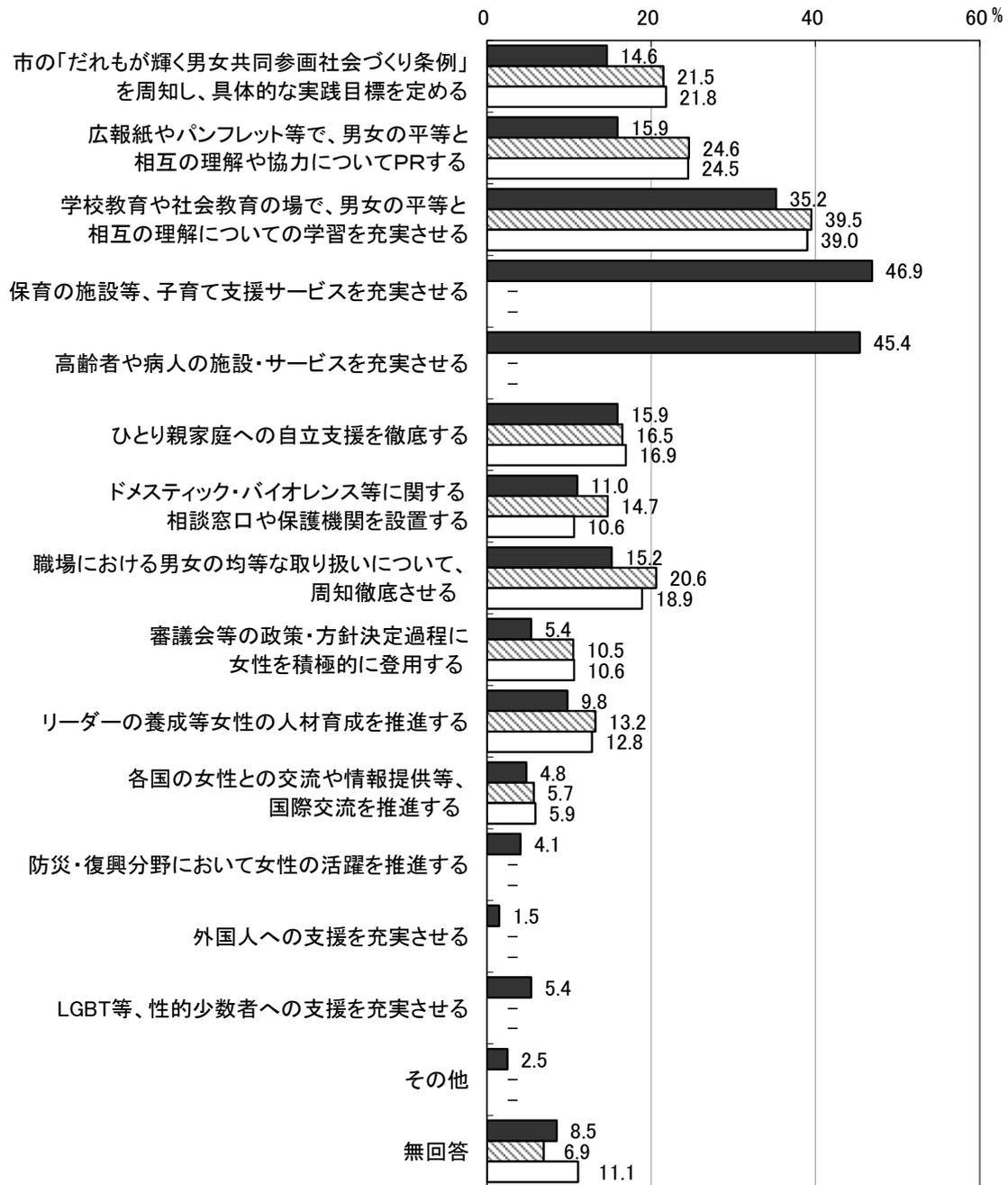
## 性・年齢別比較

年齢別にみると、すべての年代で、「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる」、「保育の施設等、子育て支援サービスを充実させる」が2割を超えており、男性の29歳以下以外のすべての年代で「高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」が3割を超えて高くなっています。また、男性の70歳以上で「市のだれもが輝く男女共同参画社会づくり条例」を周知し、具体的な実践目標を定める」が28.8%と、他の年代に比べて割合が高くなっています。さらに男女共に29歳以下では「LGBT等、性的少数者への支援を充実させる」が2割台と他の年代に比べて割合が高くなっています。

(%)	合計	市の「だれもが輝く男女共同参画社会づくり条例」を周知し、具体的な実践目標を定める	広報紙やパンフレット等で、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる	保育の施設等、子育て支援サービスを充実させる	高齢者や病人の施設・サービスを充実させる	ひとり親家庭への自立支援を徹底する	窓口や保護機関を設置する	ドメスティック・バイオレンス等に関する相談	職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底させる	審議会等の政策・方針決定過程に女性を積極的に登用する	リーダーの養成等女性の人材育成を推進する	各国の女性との交流や情報提供等、国際交流を推進する	防災・復興分野において女性の活躍を推進する	外国人への支援を充実させる	LGBT等、性的少数者への支援を充実させる	その他	無回答
【年齢別・男性】																		
29歳以下	29	17.2	20.7	34.5	48.3	13.8	6.9	13.8	17.2	0.0	13.8	0.0	0.0	0.0	24.1	3.4	13.8	
30歳代	48	10.4	14.6	27.1	60.4	33.3	14.6	10.4	22.9	0.0	4.2	2.1	0.0	2.1	2.1	4.2	10.4	
40歳代	39	17.9	17.9	46.2	46.2	35.9	28.2	15.4	12.8	7.7	17.9	0.0	5.1	5.1	5.1	10.3	2.6	
50歳代	44	11.4	20.5	29.5	59.1	50.0	11.4	11.4	9.1	4.5	9.1	2.3	6.8	2.3	4.5	0.0	9.1	
60歳代	47	14.9	21.3	29.8	44.7	44.7	10.6	8.5	8.5	10.6	8.5	8.5	4.3	4.3	0.0	0.0	8.5	
70歳以上	52	28.8	26.9	25.0	21.2	53.8	17.3	7.7	7.7	13.5	9.6	1.9	13.5	0.0	0.0	1.9	11.5	
【年齢別・女性】																		
29歳以下	59	8.5	6.8	35.6	64.4	30.5	16.9	20.3	22.0	10.2	10.2	5.1	1.7	1.7	22.0	1.7	1.7	
30歳代	64	10.9	7.8	40.6	60.9	39.1	14.1	7.8	23.4	1.6	7.8	7.8	3.1	0.0	4.7	1.6	9.4	
40歳代	60	16.7	8.3	45.0	50.0	55.0	11.7	15.0	20.0	1.7	10.0	11.7	3.3	1.7	6.7	1.7	3.3	
50歳代	50	14.0	14.0	36.0	46.0	52.0	22.0	10.0	14.0	2.0	8.0	6.0	6.0	0.0	2.0	2.0	8.0	
60歳代	61	11.5	19.7	45.9	37.7	63.9	9.8	4.9	16.4	3.3	6.6	0.0	1.6	1.6	0.0	3.3	11.5	
70歳以上	53	17.0	20.8	24.5	24.5	56.6	28.3	9.4	3.8	9.4	15.1	7.5	3.8	0.0	0.0	0.0	13.2	

## ●○経年比較○●

経年比較すると、「市の「誰もが輝く男女共同参画社会づくり条例」を周知し、具体的な実践目標を定める」、「広報誌やパンフレット等で、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする」、「職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底させる」、「審議会等の政策・方針決定過程に女性を積極的に登用する」が5ポイント以上減少しています。



■今回調査 (n=610)    □平成27年調査 (n=666)    □平成23年調査 (n=710)

※「市の「誰もが輝く男女共同参画社会づくり条例」を周知し、具体的な実践目標を定める」は平成27年調査時「市の条例化などを促進し、具体的な実践目標を定める」という選択肢で調査した。

※「防災・復興分野において女性の活躍を推進する」「外国人への支援を充実させる」「LGBT等、性的少数者への支援を充実させる」は今回調査にのみ設けられた選択肢。

### 3 自由回答

#### 男女が共に働き続けられる職場づくりへの支援

ご意見	性別	年齢
育休は女性のイメージが強いが、男性が積極的にもって良いものだと思う。女性はのうち結婚して出産するかもしれない、と考える上司が多い印象。結婚を望まない人も増えている。そういった固定概念にとらわれない人が増えると良い。	女性	20 歳代
家族を大切にするため職場の酒飲み、外部機関との酒飲みを無くし、生活への負担を激減させてほしい。どこの企業でもそのような外部との交流の場は大切だと思うが、生活への負担が多すぎて困っている。また、時間外労働をしても思うような支給がされていない為、労働基準法の件を改めて徹底していてもらいたい。	男性	30 歳代
それぞれの家庭に見合った働き方が職場（会社）で出来たら男性も逆に家庭での活躍場所が出来て、男性が家庭で活躍していたら女性が、職場（会社）で活躍出来て、そのうちに男女平等になるのでは。社会というよりは、働く会社が変わらないと難しいのでは。男女というよりは、1 人の人間として全てを見ていただければ、男女問題がいつか解決するのでは。	女性	30 歳代
長時間労働しないと仕事が評価されないので、子供を持つチャンスが減るし、子がいる同僚は復帰できない。しかし自分が選んだ仕事なので仕方ない。	女性	30 歳代
ワーク・ライフ・バランスとか色々ありますが、働きたい人はどんどん働いた方が良いと思います。頑張る人を応援、フォローする体制が必要です。バランス取れ、そんなにやらなくて良いんだよという社会の風潮はわかるが、このままでは国力が低下して日本が無くなると思う。時間内に良い仕事を、家庭においても良いコミュニケーションをだと思う。	女性	30 歳代
男女より、能力が高い人が活躍できる環境が 1 番だと思います。	女性	30 歳代
働きたいと感じている人が働ける世の中になってほしい。	女性	30 歳代
結局のところ、男女、立場を問わず労働時間を短くすることが重要。女性だけ短くしても、あまり意味がない。（管理職を増やしたいのであればの話。ただ続けて仕事をするだけなら女性の時短勤務にも意味はあると思う。）無理をさせられて体調を崩したり、退職したりする女性を何人も見てきたので、無理やり女性の昇進を推し進めることにはとても違和感を感じている。	女性	30 歳代
働いても働いても残業代は出ず、仕事で輝くために市としても企業の内容確認必要。見て見ぬふりでは、上に立つ人間のみが輝き未来ある人間が育たない。	男性	40 歳代

ご意見	性別	年齢
ワーク・ライフ・バランスをどの企業も実施すれば、時間的制約がなくなると思う。	男性	60歳代
派遣の仕事でスキル不足ではなく、年齢や家族構成を尋ねられて不採用となったことが複数回あった（この質問が無かった所はすべて受け入れしてくれた）。派遣で、未婚で、フルタイム可である事を説明しているにも関わらずこの状況であるということは、既婚の方、子供のいる方、長期（正社員）での就労を希望している人は、もっと差別に遭っているかもしれない。そもそも、2～3ヶ月更新の仕事ですらスキル以外のことで就労できないので、長期の仕事を応募することが怖くなる。就労意欲があるのに年金も払えない。	女性	20歳代
男性にしかできないこと、女性にしかできないことを理解することが重要である。それぞれの性に適した職がある。また、男女ともに能力のある人が管理職になるべきであり、男女割合を半分にする意味が理解できない。	男性	30歳代

#### 意思決定の場への女性の参画拡大

ご意見	性別	年齢
世の中グローバル化が進む時代なので、男性だけではなく、どんどん女性の社会進出の場を広げてほしい。	男性	40歳代
女性の社会進出のために幹部や委員会委員等、積極的な登用が必要なことは理解しているが、それがかえって差別になるのでは、と疑問に思うことがあります（女性を優遇しすぎている感覚）。	女性	20歳代

#### 男女が共に担う地域社会づくりへの支援

ご意見	性別	年齢
職場、家庭、地域に男女が共に参画することで、一人ひとりが生きがいのある生活を歩めると思います。PRしながら活動、活躍、できる環境作りをお願いします。	女性	50歳代
誰もが参画しやすい環境づくり。	男性	70歳以上
「下野市女性防火クラブ」というのは今の時代にそぐわない名称だと思います。実際に自治会で問題になる事がありました（誰がやるかについて）。	女性	40歳代

#### 男女の活躍を支える子育て支援サービスの充実

ご意見	性別	年齢
少子化対策が進まないことについて、子育てしながら働き続ける負担が大き過ぎるからだと思います。育児、子育てについては経済的なものを含めて全て国、自治体がみてあげることが出来れば女性は安心して子供を産めるし子供の数も多くなっていくと思います。又女性の社会進出も大いに進むと思います。	男性	70歳以上
夫婦共働きの場合、どうしても女性の家事負担が多くなります。体力的にも無理があり仕事に差し支えると思います。夫婦で良く話し合い協力出来る家庭が多くなれば良いと思います。	女性	70歳以上

### 困難を抱えた男女が安心して暮らせる環境の整備

ご意見	性別	年齢
保育体制や預かり保育の充実が女性も働きやすい体制に近づけると思っています。TVで、シングルマザーが交際相手と内縁になり子どもを虐待しているケースが増えているので、シングルマザーが男に頼らなくても生きていけるようなサポート、低年齢で子どものまま子どもを産むことがないように性教育等に力を入れてほしいと思います。	女性	30 歳代
高齢者の免許返納が進んでいる今日、介護とまではいかない自分で病院や銀行に行くのに不自由を感じているお年寄りの為に、予約制ではなく町バスを運行するサービスも、家族にとって（特に女性にとって）仕事に力を入れることができる1つの案だと思います。	女性	40 歳代
福祉にもっと力を入れて欲しい。車椅子利用の時スロープなどがそれぞれの施設に少ないように思います。	女性	50 歳代

### 男女間のあらゆる暴力の根絶

ご意見	性別	年齢
男女の人権、特に（DV）に関して、女性がDVを受けている様な書面で感じますが、男性は、世間を気にして何も話さない人が多い。精神的に悩んでいる男性が多い事を知ってもらいたい。	女性	70 歳以上

### 男女共同参画に関する教育・啓発や意識・機運づくり

ご意見	性別	年齢
この取り組みをやっている事自体が違和感を感じる。女性が男性と同じことをすることはなかなか体の仕組み的に無理がある為、男女の持つそれぞれの良い所を認め合って伸ばすことが大切だと思う。	女性	20 歳未満
このようなアンケートやプランの策定にどのような人が関わっているのか知りたいです。仮にプラン策定が男性主導になっているようなことがあれば、全く共同参画はなしえない事と考えます。達成にはやはり、教育や情報に依存するところが大きいでしょう。	男性	20 歳代
お互いの理解を深め、職場でも家庭でも助け合いながら生活できればいいと思います。	女性	20 歳代
現状、保育や介護を行っている女性が多いため多少は仕方ないとは思いますが、このアンケートの選択肢が既に「保育・介護は女性が行っていて当然だ」と言っているように感じました。保育・介護や家事をしている女性を社会で活躍させようとするより、男女区別せずに社会で活躍する人を増やそうとする活動をするとういのかないかと思いましたが。	女性	20 歳代
講習会開催やパンフレットを作成してもあまり意味がないと思います。それよりも各企業、会社に働きかけ、男性が家族のために休む事にもっと協力的になって欲しい。私の職場でも、子供の事や親の事で休む人に対して、上の人達は必ずと言っていいほど「奥さんは何やってんの」と言います。家の事は女性がやるのがあたりまえだ、と言う意識を変える事が必要だと思う。	女性	40 歳代

ご意見	性別	年齢
男性と女性のあるべき姿についての昔からの固定概念は、時代の変化と共に変わるべきではあるが、大きな意識の変化が発生するには、長い時間が必要になると感じる。しかしながら、この様な前進させる努力が行われている事を評価します。	男性	30 歳代
「男性も女性も共に輝く社会」は、男女が社会進出する（女性が外で働く）ではなく、男性も女性も自分の望むライフスタイルを叶えられる社会だと思う。重要なことは年配者や、そこから教えられた中年層（30 才以上くらい）の固定観念を払拭し、働きたい人が家庭とのバランスを自分で考えて選択できる環境や仕組みをつくることだと思う。家庭に入りたい人がパートナーの収入（生活費）を心配することなく生活していけるように会社が賃金を払ってくれること。それができるような社会の仕組みや政府の取り組みが必要だと思う。	女性	30 歳代
共に輝く社会づくりの具体的内容が想像出来ませんでした。今の時代、若者、高齢者間での思考が違い過ぎるように思います。子供がいる女性従業員に対しての理解、配慮が大してなされていないのに、果たして男女が共に輝ける未来はあるのでしょうか。社会環境が子を持つ母親の働く居場所を失くしているように思います。	女性	30 歳代
身体的特性があるため、すべてにおいて平等というのは不可能だと思う。年代により考え方に差があることは、その人が生きてきた時代背景があるため、急に考え方を変えろといっても難しいと思うので、急がず、長い時間をかけていく課題と考える。	男性	40 歳代
環境の整備等を進めた方が男性も女性も働きやすくなると思う。しかし夫婦間、親子間でもっと感謝する気持ちを持って生活することが何より大切だと思う。他人を責める事が簡単に出来る様になり、今の様な状況ではいくら環境を整えても問題解決は出来ないと感じる。	女性	40 歳代
「男性も女性も」「男女共同参画」等の言葉が無くなり、人として認めあえる時代が来ることを望みます。そのために相手を尊重することの大切さを、教育（家庭でも、学校でも）を充実させることが必要だと思います。	男性	50 歳代
成人の固定概念は変わらないので、小さいうちから男女共同参加についての意義、意謝を教育していった方が良い、と感じる。人の考え方は急には変わらない。	女性	50 歳代
男性だから、女性だからという見方をせず、それぞれの得意分野を生かし、男女が個人として尊重され、その能力を発揮できることが重要。みんな同じではない、違って当たり前、各々の価値観を認め合うことが大事。	女性	50 歳代
男女の差が無く仕事が出来ることが理想とするならば、男女の差関係なく育児、家事をするのが当然だという意識改革が必須だと考えます。夫が仕事、妻が家事はOKなのにその逆だと奇怪な目で見られる現実があります。男性の性差で役割を決めてきた長い時代があり、世代間の意識の差も大きいと思います。仕事をする以上、企業の取り組みが重要だと思います。制度（育児休業制や短時間制度等）を利用しやすい環境にする等、行政として企業を支援出来る事は無いのか、ヒアリング等で実情の把握も大切だと考えます。	女性	50 歳代

ご意見	性別	年齢
男性も女性も、旧来の地位・役割のイメージを捨てて、全く同じ社会的立場にあるのだと言う認識を高めることが重要と思います。私のイメージでは、女性がより、社会の構成員であり、社会を変えていく責任があるという認識を高めていただきたいと思います。	男性	60歳代
より広報などPRが必要。講演会の実施。	女性	60歳代
ある程度のお年の方には、新しい考え方を受け入れられない方が多いでしょう。だから、子供達の教育に力を入れて、若い世代から男性も女性もそれぞれ性は尊重しながらも、平等に暮らしていける社会を作りたい。	女性	60歳代
男女平等の社会を作るとしたら、いまの子供達から学校教育で学ぶ事だと思う。学校教育の場では、幸い男女平等であると感じている。	女性	60歳代
男性には男性にしかできないこと、女性には女性にしかできないことが有り、家庭で小さい時からの教えがいちばん良いことだと思うのですが、親もひとりの人間で有り、時々親の自覚がなくなった人の多いことかと思うと、悲しい近頃です。	女性	60歳代
男女共同参画を男女平等と何もかも平等と勘違いしている人が多く感じるのですが、生まれながらの性的違いは有り、その特性の違いを認め互いに生かしながら共同参画していくべきと考えています。私は男らしさ、女らしさという言葉は大好きですし、互いがそのらしさを十分知り、上手に取り入れ、共に活躍の場が増えて欲しいです。	女性	60歳代
男性であれ女性であれ、人としての生き方の根底に、相手を思いやり立場を尊重する姿勢があれば豊かな社会になると思います。幼少期から自然に親しみ、大小様々な社会（グループ）の中で多くの人と交流する中で、相手を思いやる心が育まれていく事を願います。便利になり過ぎた社会の中で心ばかりが貧しくなる現在に不安がつのります。下野市全体が輝く社会となるよう、皆様のご活躍を応援しています。	女性	60歳代

ご意見	性別	年齢
<p>男性も女性も共に隔たり無く働ける事は良い事でしょう。しかし、この世に生を受け生まれてきたからには結婚し、子供をもうけて家庭を築くことの大切さを男女共に当たり前の事、必須（人生の目標）と思うようになって欲しいです。そしてまた女性が働く上で、子供がいるかないのかでは大きな差があると思います。家事そして育児はどうしても女性が多くを負担することになります。朝、食事の支度をし、食べさせ、着替えさせ、夫を仕事に、子供を学校に送り出し、或いは幼稚園、保育園に送り、自分も仕事場に。勤務先では担当する仕事に責任を持ち、全うして帰宅。その間子供達は保育園や幼稚園、学童で親の迎えを待つ。家に帰るなり掃除、夕飯の支度、お風呂、そして洗濯。その上子供の宿題を見たり、やるべき事は山ほどあります。それらの事を踏まえた上で、夫の理解、協力が必須と考えます。また子供達にも自分の出来る家事の手伝いを見つけ、率先してやって欲しいです。お母さんがやるのは当たり前、お父さんがやるのが当たり前では無く、これは自分がやるのが当たり前だという事を見つけて欲しいです。そしてそれぞれに対して感謝の思いを持って欲しいと思っています。これらの事は各家庭内の事ですが、学校の教育の中でそれを見つけさせるようなご指導もして頂きたいです。国、自治体では子育ての支援として医療費助成、児童手当、教育費無償などの支援をした上で、男女参画を推進していますが、どこか矛盾しているように思います。お金では解決できない事が沢山あるからです。女性が働くためには保育園、幼稚園の保育士さんや、教師や学童の先生方の存在が有るの事と思います。子供の命を守る大切なお仕事です。先生方に負担を課していることも忘れてはいけません。また職場の理解と協力なしには女性の家庭と仕事の両立は成り立ちません。現在それらが以前に比べて浸透しつつあることは喜ばしく感じておりますが、まだまだ社会全体に行き渡っていないのが現状だとも感じています。この先の男女共同参画の推進を求めるのであれば、未来を担う子供達の教育を充実させる事が必要です。そのためには教育の現場において、心豊かな子供を育てる学校、幼稚園、保育園、学童作りが急務だと考えます。これからの明るい社会づくりの為に子供達はまず「心」を学ぶことが必要なのではないのでしょうか。1人1人の豊かな人生という目標に向かって社会全体が輝いている下野市の明るい未来を願ってやみません。乱筆、乱文にて失礼致します。</p>	女性	60歳代
<p>学校教育場での働く先生達も含めて平等性、差別のない社会を教える。青少年に期待。</p>	男性	70歳以上
<p>女のクセに男のクセになどと言う偏見をなくせば、男女共同での行動はもっともっと増えると思う。</p>	男性	70歳以上
<p>広報誌、パンフレット等でPRするより、実践している県や、国との交流を持ち、広い視野からの情報を得ると良いと思います。</p>	女性	70歳以上

## 国際的な視点からの男女共同参画の推進

ご意見	性別	年齢
以前よりは男女共同参画に対して行政の積極的介入が行われていると思う。女性側としては男女共同参画には賛成であるが、そのことで男性はどのように考えているのか知りたい。歴史上、女性がバリバリ働いていた時期も短く、ワーク・ライフ・バランス的にも多少の不安が生じるので、海外の事例などを参考にしつつ日本人の習慣、風潮に合わせた男女共同な社会を作り上げていきたい。家庭に入りたい（仕事を辞めて家で過ごしたい）男性の支援を行う事も男女共同参画の一環として取り組んでも良いかと思う。	女性	20歳未満
若い世代の人より高齢の人の方が男性優位と考えている人が多いように感じます。問36の11、各国との交流（男性、女性を交えた、女性だけでなく男性も一緒に）や情報提供等…。言葉の問題があるので難しいかと思いますが。	女性	70歳以上

## アンケートについて

ご意見	性別	年齢
男女に関わらず、市民1人1人が充実した暮らしをするための市政をして欲しい。このアンケートも、そこまで必要なのかよく分からず、途中から答えたくなくなった。	男性	30歳代
アンケート内容が男、女にこだわり不自然に古い感想を持った。それ自体が共同参画を阻む要因ではないでしょうか。	男性	40歳代
問33「事柄」や「言葉」について知らない事があり、ネットで検索致しました。このアンケートによって検索して知る機会を得ることが出来良かったです。今まで以上に社会ニュースや新聞を注意深く見ようと思いました。	女性	40歳代
こういうアンケートはあまり意味がないように思います。男女共同参画より、人間一人ひとりの立場を考えた方が良いのではないのでしょうか。	女性	60歳代
アンケートを通じて、子供が自立し両親を見送った今の私は、自治会の班長さんの役割がまわってくる時以外、社会との関わりもない専業主婦。輝きとはほど遠いところにいることを自覚させられてしまいました。かと言って今さら輝こうとも思いませんし、輝きたい人だけ自ら光れば良いと思いますが、これからの若い方々の未来のためには必要なことなのでしょうね。このアンケートがくるまでそういう活動があることさえ知りませんでした。すみません。これは、アンケートを通じての啓蒙活動であると受け止めました。	女性	60歳代
男女共同参画との事ですが、男女としかせず、性的マイノリティへの理解が市には全く無いのだな、と分かりました。残念でなりません。考えが古いです。バカバカしいとしか言えません。	女性	30歳代

## 行政について

ご意見	性別	年齢
市内の年代別認知度は。モデルになりやすい市役所の男女参画の内容は。市のテーマとして成功させたいのであれば、税金の使い方を考えてみては。これまでの活動実績は。市として強調できる成功例、変更点は。男女共に輝く社会づくりの前に若い世代が市に残る、市に移住しやすいまちづくりをしてからの話じゃないんですか。男尊女卑が残る古い世代の多いまちを若返りして、次世代の人たちを中心にまちを変えないといつまでも実現ではなく目標で終わりますよ。	男性	20 歳代
各世代の意見を聞く。地域の状況、実態を把握し、それらを行政に反映させてほしい。	男性	60 歳代
男、女と考えることが古いのではないですか。このアンケートを記入するにあたり、男女不平等な環境がまだあることに驚いています。行政が取り組むにあたって、今、この問題ではなく、子どもがよい環境で育つとか、高齢化社会に向けた取り組みが主でなくてはいけません。これからも行政の活動に期待します。	女性	50 歳代
公的なセーフティネットを充実させ、個人が社会との関係性を現状よりも自由に選べるのが、不自然な強制や支援を伴わずに、女性も男性も共に輝く社会を実現するには必要だと考えます。	男性	40 歳代
男女の共同参画など行政がどうしろこうしろ無駄。パンフレットなどPRしても興味の無い人は見ない。男女は仲良くしているのではないか。DVとか警察に任せましょう。輝ける人は輝いています。	女性	20 歳未満

その他

ご意見	性別	年齢
平等と公平、公正を食い違わない。	男性	20歳未満
離婚後、再就職した女性が将来もらえる年金が低い。	女性	20歳代
保育面や障がい者の支援サービスを充実させることもとても大切な事だけど、その、支援をする人々のハードなスケジュールや精神面、給料等も見直してほしい。縁の下の力持ちの人達にも目を向けてほしい。	女性	20歳代
平等な男女の関係を求める声の多くは、実際には女性に対するひいきを求めている印象があります。	男性	30歳代
「輝く」って何だろう、と考えるきっかけになりました。毎日心豊かにすごせることは大切だと感じました。	女性	30歳代
夫婦別姓はいつになったら実現するのだろうか。	女性	30歳代
みんなが働かなくても許される社会を望んでもいいと思います。	男性	40歳代
仕事にて推進に力を注いでいる。	男性	50歳代
皆が協力し合えること。	女性	50歳代
男性も女性も性別に関係なく能力のある者がやる。人それぞれタイプがあるから上に立って皆をまとめる能力がある人はそれで。その指示の下で働く人もいるので、バランスが取れていれば良いのではないのでしょうか。ただ、人間は妬み、嫉みを持つ生き物だから、面倒くさいね。	女性	50歳代
特に行政が進めようとしてもやりたい人だけが集まるだけでどちらでもと思う人達はめんどろと思いやらないのが普通で、どんなに進めようとしても中々変えられないのがあたりまえと思うのは自分だけだろうけれど。	男性	60歳代
子育て世代のせめて（小学校卒業まで）の支援、核家族の老後の支援（自己責任はあると思う）。学校の授業もゆとりではなく、世間の常識ぐらいの道徳を身に着けて欲しい。	女性	60歳代
男女平等を唱えながら、男子大学は存在しない。昔は工学部は女子禁止もあったが、いまだに女子大学は存在していて、問題にもなっていない。大学でジェンダー論を講義している先生にも質問したが回答はなく「そう言えばなぜかしらねー」とごまかされた。何かの時にご解答下さい。	男性	70歳以上
私が嫁いで来た時代より少しは変化している気がします。近くに住んでいる息子の家族を見ていると奥さんと協力していることが多く微笑ましく思います。これからの男性が変わって協力的になってほしいです。	女性	70歳以上
自由に意見が言える雰囲気が欲しい。	女性	70歳以上
男性も女性も共に輝く社会づくり。これに気を取られて、大事な命の存在である子どもをないがしろにはいけない。ほとんどの犯罪者は幼少期に虐待（放置も含め）を受けている。大人の親の温かいまなざしが無いまま次世代の命を粗末に扱うことは許されない。子どもを他人に預けて仕事をするにどれだけの価値があるのか、私には分からない。1番大事なものは人間で、命で、その命を大切に育むこと以上に我々の存在意義はない。他人の子どもにも関心を持って、市全体で子どもを育ててゆくプランにシフトしてください。	無回答	無回答

※男女共同参画や女性を取り巻く問題とは関連のない記述は、一部省略しています。